3 巡目国スポ在り方に関するアンケート調査報告書

公益財団法人日本スポーツ協会



1	. 調査概要	3
2	. 調査結果	4
	設問1−①∶現状の国体の成果。また、特に大きな成果と考える上位3項目とその理由	4
	設問1−②:現状の国体の課題。また、特に大きな課題と考える上位3項目とその理由	5
	設問 2:3 巡目国スポの果たすべき役割、目指す方向、位置付け	
	設問 3:毎年開催の継続	
	設問 4:都道府県対抗戦の継続	6
	設問 5:開催地フルエントリー制の継続	7
	設問 6-①: 大会規模の見直し	
	設問 6-②:規模について(上記 6-①について「賛成」「どちらかといえば賛成」と回答したもの	
	象)	7
	設問7:各競技会の参加人員の適正化	11
	設問8:開催地選択競技の導入	12
	設問 9:競技の固定地(定点)開催	12
	設問 10:一部競技の県外開催	13
	設問 11−①:現行の実施競技選定	13
	設問 11-②:具体的な変更案	13
	設問 12:隔年実施競技の選定	18
	設問 13:規模を維持または縮小するために隔年実施競技を増やす	18
	設問 14-①: 大会会期の見直し	19
	設問 14-②:具体的な見直し案	19
	設問 15-①: 一定の範囲内で開催地が柔軟に設定できる対応	20
	設問 15-②:具体的な会期期間	20
	設問 16:各競技会の分散(グループ)開催(国スポの通年開催)	21
	設問 17-①:施設(競技会場)の弾力的運用を促進するための方策の策定	21
	設問 17-②:具体的な方策に関するアイデアや意見	21
	設問 18-①:総合成績決定方法の変更	31
	設問 18-②:具体的なアイデアや意見	31
	設問 19-①:競技間得点差の是正検討	37
	設問 19-②: 具体的なアイデアや意見	37
	設問 20:順位の速報性の担保	42
	設問 21:冬季大会と本大会の成績をこれまで通り取扱う	42
	設問 22:式典の簡素化	43
	設問 23: 式典の屋内開催	43
	設問 24:入場料金の設定	44

設問 25-①:各大会を評価する指標の作成	44
設問 25-②:現時点で評価すべき指標等	44
設問 26-①:新たな立候補制(完全立候補制)の導入	49
設問 26-②:新たな立候補制(完全立候補制)を導入するうえでの条件	49
設問 26-③:新たな立候補制(完全立候補制)を導入する場合に考えられる課題	52
設問 27:現行の持ち回り開催	53
設問 28−①:複数都道府県合同開催	54
設問 28−②:ブロック開催	54
設問 29-①:大会参加選手の下限年齢の変更	55
設問 29-②:具体的な下限年齢(参考値)	55
設問 30-①:外国籍選手の参加機会の拡大	56
設問 30-②:具体的な拡大条件	56
設問 31-①:国内移動制限の見直し	57
設問 31-②:妥当と考える具体的な制限大会数	57
設問 32-①:新たな参加区分の検討	58
設問 32-②:具体的な参加区分条件	58
設問 33-①: ふるさと選手制度の拡大(利用推進方策)の検討	59
設問 33-②:成年選手におけるふるさと選手制度の義務化	60
設問 33-③: ふるさと選手制度の少年種別年齢域への導入	60
設問 33-④:②・③以外で示された方策以外に具体的な方策等	60
設問 34: 3 巡目国スポの検討に向けての要望	62
設問 35:全体を通しての意見	62
3. 自由記述	63
設問 2: 3 巡目国スポの果たすべき役割、目指す方向、位置付け	63
設問 34: 3 巡目国スポの検討に向けての要望	89
設問 35:全体を通しての意見	105
資 料 編	123
1. 調査用紙	124
2.3巡目国民スポーツ大会在り方事前検討 WG におけるこれまでの検討内容	141

1. 調査概要

(1)調査の目的

これまで3巡目国スポ在り方事前検討ワーキンググループ(以下、WG)では、約10回にわたり、3巡目国スポのあり方(果たすべき役割、目指す方向性、位置付け)や今後検討すべき事項の整理を行ってきたが、検討を進めていくにあたり、WGにおいてこれまで検討してきた各種事項に対する意見や、WGでは捉え切れていないその他課題を明らかにすることを目的に本調査を実施した。

(2) 調査対象 2,109件

都道府県体育・スポーツ協会 47件

都道府県国体担当部局 47件

中央競技団体(NF) ※競技団体は国体実施正式競技 41 件

都道府県競技団体(PF) 1.974件(特別競技の高校野球含む)

(3) 調査期間

令和 3(2021) 年 12 月 20 日~令和 4(2022) 年 2 月 8 日

(4)回答方法

Web 回答または郵送による調査用紙の回答

(5)回答数

596 回答(回収率: 28.3%)

【内訳】

- ・都道府県体育・スポーツ協会(46回答)
- ·都道府県国体部局(40回答)
- ·中央競技団体(39回答)
- ·都道府県競技団体(470回答)

2. 調査結果

設問 1-①:現状の国体の成果。また、特に大きな成果と考える上位 3 項目とその理由 (まったく当てはまらない:1 当てはまらない:2 どちらとも言えない:3 当てはまる:4 大いに当てはまる:5 として平均値を算出)

P.44	A. スポーツ施設	B. 選手の育成	C. 選手の強化	D. 指導者の養成	E. スポーツ組織
属性	整備の充実				の強化(運営面)
全体	3. 916	4. 228	4. 317	3. 866	3. 779
スポーツ協会	4. 435	4. 565	4. 674	4. 283	3. 913
国体部局	4. 385	4 . 564	4. 667	4. 205	3. 895
NF	4. 220	4. 317	4. 341	3. 951	3. 951
PF	3. 798	4. 158	4. 251	3. 788	3. 740
属性	F. 地方スポーツ	G. 競技スポーツ	H. 開催地の PR	I. 開催による	J. 地域振興•
周 注	の振興	の普及		経済波及効果	活性化
全体	3. 779	3. 794	3. 828	3. 744	3. 605
スポーツ協会	3. 870	4. 065	3. 978	4. 043	<mark>3. 717</mark>
国体部局	3. 923	4. 103	3. 923	4. 128	<mark>3. 821</mark>
NF	4. 268	4. 146	4. 098	4. 073	4. 024
PF	3. 714	3. 709	3. 781	3. 653	3. 538
	K. 地域住民の	L. 郷土意識の	M. 強化費の確保	N. スポーツ関係	0. スポーツ
属性	スポーツへの	高揚		者のネットワー	実施率の向上
	関心向上			ク強化	
全体	3. 634	<mark>3. 557</mark>	4. 128	<mark>3. 599</mark>	<mark>3. 278</mark>
スポーツ協会	<mark>3. 783</mark>	3. 804	4. 500	3. 804	<mark>3. 022</mark>
国体部局	3. 82 <mark>1</mark>	<mark>3. 795</mark>	4. 410	3. 921	<mark>3. 128</mark>
NF	4. 073	3. 829	4. 366	<mark>3. 780</mark>	3. 561
PF	3. 564	<mark>3. 488</mark>	4. 046	<mark>3. 536</mark>	3. 291

[※]各属性平均上位3回答(成果だと考えるもの)を<mark>縁、下位3回答を</mark>黄色で示している。

設問 1-①: 特に大きな成果と考える上位 3 項目 (1 位の回答を 3 点、2 位を 2 点、3 位を 1 点とし、合計を算出) 選択理由については後述

	第1位	第 2 位	第 3 位
△ #	C. 選手の強化	A. スポーツ施設整備の充実	B. 選手の育成
全体 	(797 点)	(698 点)	(671 点)
スポーツ協会	C. 選手の強化	A. スポーツ施設整備の充実	M. 強化費の確保
スパーク励云	(87 点)	(50 点)	(49 点)
同体如日	C. 選手の強化	A. スポーツ施設整備の充実	B. 選手の育成
国体部局 	(61 点)	(52 点)	(40 点)
NF	A. スポーツ施設整備の充実	B. 選手の育成	C. 選手の強化
INF	(58 点)	(47 点)	(36 点)
DE	C. 選手の強化	B. 選手の育成	A. スポーツ施設整備の充実
PF	(613 点)	(543 点)	(538 点)

設問 1-②:現状の国体の課題。また、特に大きな課題と考える上位3項目とその理由 (まったく当てはまらない:1 当てはまらない:2 どちらとも言えない:3 当てはまる:4 大いに当てはまる:5 として平均値を算出)

	A. 選手の確保	B. 監督の確保	C. 実施競技の	D. 実施競技の	E. 参加人数の
			多さ	少なさ	多さ
全体	3. 936	3. 573	2. 950	2. 579	2. 845
スポーツ協会	3. 761	3. 522	3. 133	2. 333	2. 955
国体部局	3. 692	3. 410	3. 077	2. 359	3. 077
NF	3. 366	3. 200	2. 550	2. 800	2. 500
PF	4. 024	3. 625	2. 956	2. 603	2. 845
	F. 参加人数の少	G. 競技施設整備	H. 宿泊施設の	1. 開催地の経費	J. みるスポーツ
	なさ	(大会施設基準)	確保	負担	としての魅力
全体	2. 852	3.826	3. 849	4. 134	3. 360
スポーツ協会	2. 422	3. 957	4. 304	4. 565	3. 478
国体部局	2. 436	4. 000	4. 179	4. 769	3. 308
NF	3. 200	3. 525	3. 950	3. 925	3. 650
PF	2. 899	3. 824	3. 766	4. 055	3. 328
	K. トップアス	L. スポンサー	M. 大会の	N. 参加資格	0. 地域振興・
	リートの参加	確保	レガシー		活性化
全体	3. 433	3. 666	3. 301	3. 199	3. 260
スポーツ協会	3. 783	3. 761	3. 565	3. 174	3. 000
国体部局	3. 897	3. 923	3. 436	3. 103	3. 077
NF	3. 375	3. 756	3. 275	3. 100	3. 128
PF	3. 363	3. 626	3. 264	3. 218	3. 314
	P. 選手の育成・	Q. 持ち回り開催	R. 開催地選定	S. 総合成績決定	T. 開催時期 · 期間
	強化			方法	
全体	3. 667	3. 295	3. 291	3. 226	3. 159
スポーツ協会	3. 500	3. 304	3. 348	3. 587	3. 196
国体部局	3. 410	3. 564	3. 579	3. 447	3. 128
NF	3. 200	3. 100	3. 250	2. 750	3. 025
PF	3. 746	3. 288	3. 265	3. 213	3. 170
	U. ブロック割	V. 開催頻度	W. 冬季大会の	X. 大会の魅力度	Y. 開催地の PR
			在り方		
全体	3. 147	2. 766	3. 263	3. 523	3. 228
スポーツ協会	3. 087	2. 565	4. 174	4. 000	3. 109
国体部局	2. 895	2. 795	4. 333	4. 000	3. 282
NF	3. 051	2. 525	3. 158	3. 500	3. 103
PF	3. 182	2. 804	3. 085	3. 436	3. 246

[※]各属性平均上位3回答(課題だと考えるもの)を稼で示している。

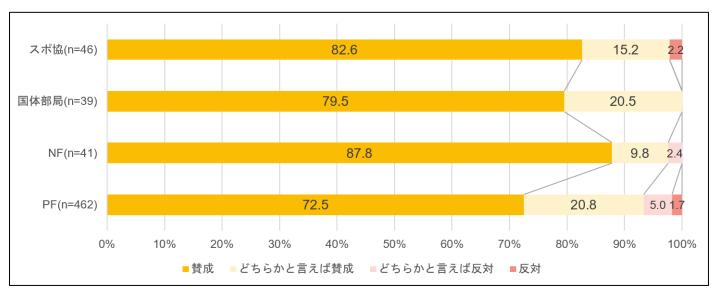
設問 1-②:特に大きな課題考える上位 3 項目 (1 位の回答を 3 点、2 位を 2 点、3 位を 1 点とし、合計を算出)

	第1位	第 2 位	第3位	
全体	A. 選手の確保	I. 開催地の経費負担	G. 競技施設整備	
土14	(567 点)	(515 点)	(大会施設基準)(414点)	
スポーツ協会	I. 開催地の経費負担	H. 宿泊施設の確保(30 点)	(第2位が同点)	
スポープ励去	(69 点)	W. 冬季大会の在り方(30 点)	(第2世が问点)	
国体部已	1. 開催地の経費負担	W. 冬季大会の在り方	G. 競技施設整備	
国体部局 	(71 点)	(29 点)	(大会施設基準)(26点)	
NF	1. 開催地の経費負担	G. 競技施設整備	H. 宿泊施設の確保	
I NF	(40 点)	(大会施設基準)(31点)	(28 点)	
PF	A. 選手の確保	G. 競技施設整備	1. 開催地の経費負担	
П	(516 点)	(大会施設基準)(342点)	(335 点)	

設問2:3巡目国スポの果たすべき役割、目指す方向、位置付け

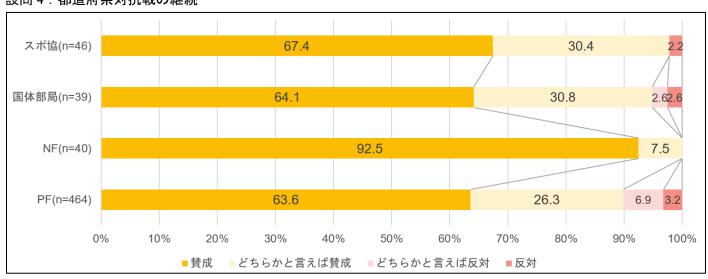
回答後述

設問3:毎年開催の継続



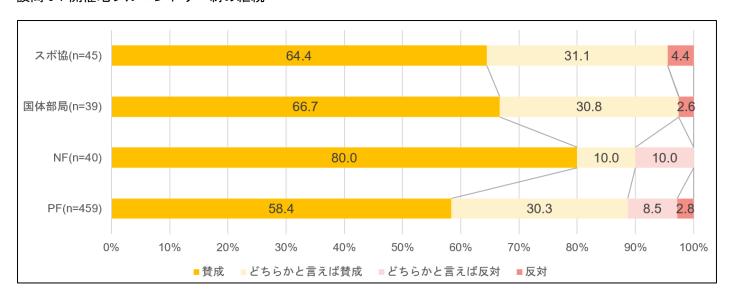
グラフ:毎年開催の継続

設問4:都道府県対抗戦の継続



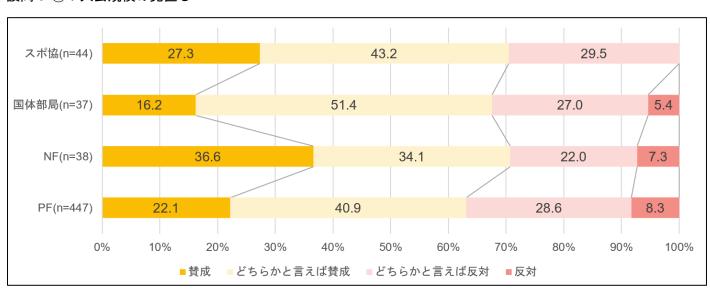
グラフ:都道府県対抗戦の継続

設問 5: 開催地フルエントリー制の継続



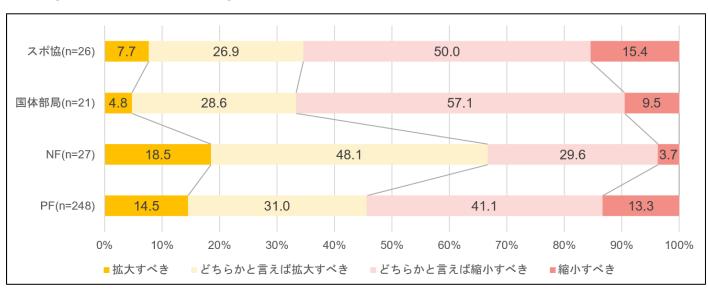
グラフ:開催地フルエントリー制の継続

設問 6-(1): 大会規模の見直し



グラフ:大会規模の見直し

設問 6-②:規模について(上記 6-①について「賛成」「どちらかといえば賛成」と回答したものを対象)



グラフ:大会規模について

●適正と考える競技数・人数、その理由

【縮小すべき】

NF	35	20,000	受け入れ開催地の規模にもよるが、妥当な数値と思います。
PF	20	10,000	競技種目に優劣をつけるのは難しいが、競技者数でしぼる必要があると考える。また、カテ
			ゴリーの撤廃もありうる。
PF	20	17, 500	規模を半分にする
PF	30	10,000	時代とともに流行も変わるので見直しは必要。縮小はスポーツ競技人口減少しているのでそ
			れにあわせて縮小するのが妥当
PF	30	15,000	現在の競技人口等の実態を調査し、オリンピックと同様に実施競技の見直しを行うべき
PF	30	20,000	円滑な大会運営のため
PF	30	20,000	全競技・種目の参加数をブロック 1 代表ずつにすれば良い

【どちらかといえば縮小すべき】

スポ協	35	23, 000	冬季と秋季の総合成績を切り離す。複数競技の時代や競技人口に合致しない
			競技もあるため
スポ協	41	22, 500	競技数や参加者は増えてきたと認識しているが、現在の隔年開催競技はなく
			し、開催地の宿泊施設や負担を減らすために、1割程度の参加者減を考えては
			どうか。
国体部局	20~30	15, 000	開催地のスポーツ施設や宿泊施設数、また開催県にスポーツ施設がない場合
			の隣県との連携状況等を考慮する必要があり、開催県の経費負担等含め、運営
			負担を軽減する必要があると考えられることから、大会規模の見直しの協議
			は必要である。
PF	20	12, 500	現行の 40 競技を半分にすることは極端すぎるかもしれませんが、毎年開催で
			充実して活性化できる競技とそれ以外の競技については、隔年開催とする考
			え方を議論してはどうか。
PF	20~30	15, 000~	開催地のキャパシティーに格差があるのが現状なので適性の判断は難しいで
		20, 000	すが一律内容での開催では無理のある都道府県もあると感じる
PF	20	現在の半分	宿泊施設がまかなえない
PF	30	10, 000	希望の宿泊施設が取れない。
PF	30	15, 000	競技人口を積算した上でその地区にあった競技を分散開催するべき。
PF	30	20, 000	2 巡目終了によって、競技施設の充実、スポーツの価値を高める等の当初の役
			割は果たせたと思います。特に成年種目に関しては企業スポーツから社会ス
			ポーツに移行していかなくてはいけない時期だと思います。そうした観点か
			らも成年種目の見直しをした方がいいと考えるからです。
PF	30	20, 000	開催地負担の軽減
PF	30	20, 000	どの程度の競技種目・競技人数が適正規模なのかは、開催県の施設や宿泊施設
			によっても変化する。上記の競技数と参加人数程度で実施してはどうか。
PF	30	20, 000	開催地への負担を軽減すべく縮小することも検討する
PF	30	25, 000	競技数は減らすが人数は同じにすれば登録数が少なすぎる問題も解決できる
			のでは。
PF	33	20, 000	種目毎に詳細に精査しないと、競技数・選手監督数は出しにくいが概算です。
			 現在の、40 競技 25,000 人は感覚的に少し多いと感じます、縮小するには競
L	1	1	

			技数を減らすことになりますので、そこの部分をしっかりと検討することに
			なります。
PF	35	20, 000	選手数、競技種目減少は、今後発生する。
PF	35	20, 000	大会経費も競技数、参加人数により増えるため。
PF	36	20, 000	36 競技の根拠は、高等学校体育連盟に加盟している専門部数より算出した。
			規模縮小に関し 5000 人の減を案として出した。
PF	36	22, 500	少子化に対応するため
PF	40	20, 000	宿泊施設への負担を減らす
PF	40	20, 000	経費削減につながり、宿泊施設等の少ない県の様々な負担や選手間の移動手
			段等の不公平感が少しでも削減される。
PF	40	20, 000	各競技の競技特性に合わせて、省略できることは減らす
PF	40	20, 000	競技を実施するための開催地負担が大きすぎる。

【どちらかといえば拡大すべき】

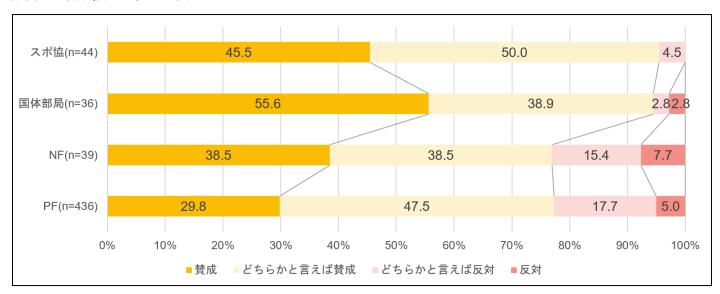
			<u> </u>
スポ協	40	32, 000	現競技数をベースとし、競技毎の人数は NF に定める人数に戻す。そのうえで、実
			施競技や活性化へ向け、定期的に検討する。
国体部局	41	25, 250	隔年開催競技の廃止。
国体部局	50	30, 000	国体の目的として、「広く国民の間にスポーツを普及し、アマチュアリズムとスポ
			ーツ精神を高揚して国民の健康増進と体力の向上を図り、併せて地方スポーツの
			振興と地方文化の発展に寄与するとともに、国民生活を明るく豊かにしようとす
			るものである。」とあり、国民全体へ振興を図るのであれば規模拡大を目指すべき。
			また、競技スポーツの性格を薄め、地域住民参加や交流に力を入れるべきと考え
			る。一方,人数が増えれば開催地の負担も増えるので,規模を拡大するなら期間の
			分散やブロック開催と併せて検討すべき。
NF	40	25, 000	見直しする場合は現行規模を基本に拡充を図ることから着手する方が全国各地で
			国体に関わる人材の生きがいを損なわないまま、よりスムーズに改善できるので
			はないかと思います。
NF	40	25, 000	適正規模は現状をベースでよいと思うが、会期の分散、開催地域の分散などを組み
			合わせることで様々な問題点が解決できるのではないかと考える。
PF	40	25, 000	縮小している最中だと感じるが、進み過ぎれば大会がなくなると感じる。
PF	40	26, 000	競技人口の少ない競技を削減。
PF	40	28, 000	各競技によるかもしれないが、人数の関係で、監督兼任をしている競技もあるた
			め、適正に判断するべきでは。
PF	40~	25, 000~	開催地によって宿泊施設が限られるので会期や開催地域の分散できれば拡大して
	50	28, 000	も良いと思う。
PF	40	30, 000	競技数は現状でよいが参加チームもしくは選手を増やしてもよいのではないか。
PF	40	35, 000	都道府県対抗である以上、全都道府県から全競技出場することが公平だと考える
PF	42	27, 000	日本スポーツ協会に加盟している競技で、開催地が開催を望む競技については採
			用した方が地方のスポーツの振興になるから。また参加人数は、正式なルールに沿
			った人数の方が競技の質の確保や安全が担保できるから。
PF	45	26, 000	希望する競技があれば追加する。競技人口が多いところは増員。モチベーションが
			上がる。
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			

PF	45	28, 000	オリンピック同様新競技の取り入れをした方がよい
PF	45	30, 000	新しいスポーツ種目が増加している現状を見て拡大すべき。
PF	45	30, 000	人数を増やすことが可能であれば開催地のこともあり適正化が条件

【拡大すべき】

43	27, 000	競技数:隔年競技の廃止と高校野球競技の追加・公開競技から1競技の追加。
		参加人数:競技数増に伴う増加分と女子種別の導入に伴う増加。
40	35, 000	前項の理由のとおり、組合せ抽選の結果の運で入賞チームが左右されるため、最低でも半数
		の都道府県の参加が欲しい。また、強化費を含め、計画的な選手強化に影響があるため、正
		式種目はすべて毎年実施としてほしい。
40	30, 000	出場する機会を増やすことで、スポーツをより身近なものにし、意欲の向上に寄与する。
40	25, 000	競技種別や参加人数を増やすことでスポーツの活性化や競技人口の増加につながる。
45	30, 000	新しいスポーツもある。ブロック開催で会期を広げる。予算もあるが多くの方々にスポーツ
		の機会を広げてほしい。
46	35, 000	競技数については、JOCと JSPO の両方に加盟している競技団体を対象に考えました。参加人
		数については、各競技 20%増で計算してあります。国体改革によって、参加人数の削減が行
		なわれましたが、それにより弱小県の参加数が激減しております。20%の増加分としては、
		主に弱小地域の参加枠を拡大する方向で検討していただきたいと考えております。
50	30, 000	新たなオリンピック競技や世界大会開催競技等の知名度アップや競技人口等の拡大に寄与
		できると共に、今後、スポーツを目指す選手の選択肢が広がる。
50	40, 000	ニーズに合った種目を参入させることと、夏季大会・秋季大会の開催バランスを見直すこと
		で、規模拡大を図る。
	40 40 45 46	40 35,000 40 30,000 40 25,000 45 30,000 46 35,000 50 30,000

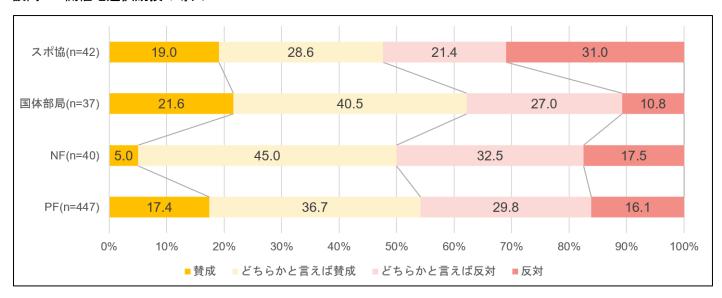
設問 7: 各競技会の参加人員の適正化



グラフ: 各競技会の参加人員の適正化

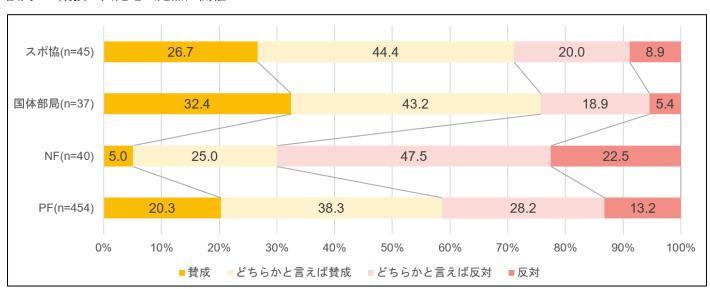
<実施競技>

設問8:開催地選択競技の導入



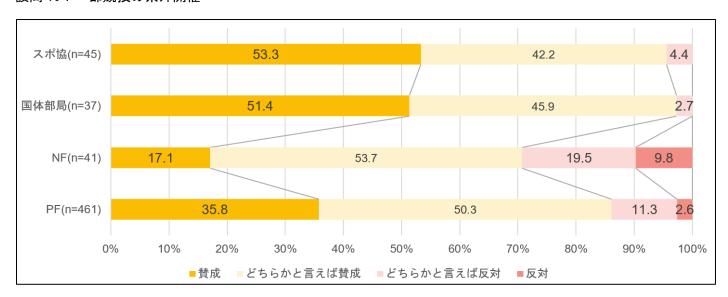
グラフ:開催地選択競技の導入

設問9:競技の固定地(定点)開催



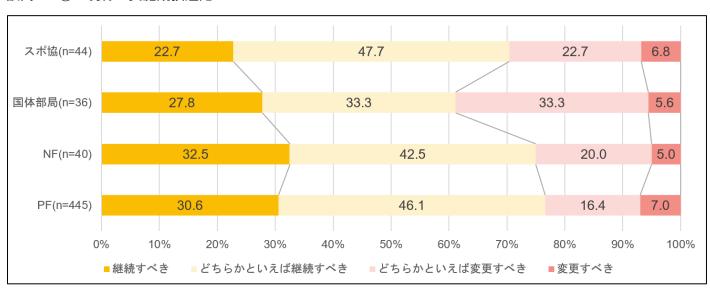
グラフ:競技の固定地(定点)開催

設問 10: 一部競技の県外開催



グラフ: 一部競技の県外開催

設問 11-(1): 現行の実施競技選定



グラフ:現行の実施競技選定

設問 11-2: 具体的な変更案

(①で「変更すべき」または「どちらかと言えば変更すべき」と回答の方を対象)

●スポ協

設問 11-①の回答と関連しますが、開催県の施設整備状況や県競技団体の体制を考慮した競技の選定に変更できればと思います。また、会場地や開催県の負担をなくした運営方法での定点開催を検討することで、特殊競技についても実施が可能になると思います。

少年の育成を考えると少年種別の毎年開催は確保してほしい。成年については、隔年でも開催可能。全都道府 県が参加できる競技であるかなどの調査が必要。ただし、国スポに採用されるからこそ普及できる競技もある。

正式競技41競技を毎年実施競技とする。

大会の位置付けや目的や会期などから影響する事項のため回答できません。

多様なニーズや価値観に合わせて検討する必要があると思う。

国内での普及割合や国際競技会での活躍等を踏まえ、実施固定種目と輪番開催(隔年・3年に1度等)を調整 して、より新競技種目や競技者が少ない競技への対応は柔軟にすべきだと考える。 アーバンスポーツの中で、特に普及しているものから取り入れるとよいのではないか。その際、銃剣道を外す ことを検討すべきと考える。銃剣道は、楽しむスポーツにそぐわないのではないか。

隔年開催の廃止。

隔年競技を増やして、本大会で実施する競技数を減らして、開催地の負担軽減につながると考えるため。

全競技、毎年実施すべきである。

競技人口が少なく国際的にも実施状況が低い競技は正式競技から除外されることもやむを得ない。

上記のとおり、ニーズを拾い切ることは今後大会を続けていくうえでも非常に重要なので、先ずはどんなニーズが世に内在するのかを洗い出し、それによって選定方法にはどのような変更が必要なのかが具体的になるものとイメージする。

●国体部局

スケートボード等のアーバンスポーツを取り入れては。「東京 2020 オリンピック」から人気が上昇している。 クライミングもオリンピックを契機に始めたジュニアが多い。逆に銃剣道等は必要ないと思う。"

隔年開催の競技を毎年開催できる競技としてはどうか。

(継続するのであれば、)競技人口の少ない競技、経費負担が過大な競技については、スポーツ庁、日本スポーツ協会、中央競技団体が経費負担しないのであれば、正式競技から除外することも検討すべき。

開催都道府県や近隣都道府県の既存施設の状況を踏まえた上で、運営面に負担にならないようにし、 開催都 道府県の意志を最大限尊重した実施競技選定とすべきである。

正式競技、公開競技の実施競技数等、全体の開催規模を踏まえた議論が必要。

国民体育大会開催基準要項 7 (3) 2) により、「大会の実施競技及び参加人員等は、本要項第 10 項にもとづき、 開催県の諸条件も考慮の上、主催者間の協議で開催県内定時に決定する。」とあるが、具体的に開催県の諸条 件や意向が競技選定に反映できる仕組みが必要。

国内での普及割合、国際大会での活躍状況を踏まえ、隔年開催を実施していく等の柔軟な対応を考える必要があると考えます。

アーバンスポーツの中で、特に普及しているものから取り入れるとよいのではないか。その際、銃剣道を外す ことを検討すべきと考える。銃剣道は、楽しむスポーツにそぐわないのではないか。

未実施競技は、可能な限り成年種別の競技にしてほしい。参加者数を減らす必要があるなら、サッカー競技のように成年種別を隔年開催にするなどで調整し、少年種別の参加機会は減らさないでほしい。またブロック大会にエントリーできないような種目を調査して検討すべき。

隔年競技を増やして、本大会で実施する競技数を減らして、開催地の負担軽減につながると考えるため。

当県では財政状況が厳しく、国体に係る予算確保に苦慮している状況であることから、都道府県の負担軽減を 前提とした上で、競技団体による全国大会の開催状況などを踏まえ、実施競技の縮小、新たな競技・種目の選 定などを行ってはどうか。

全競技、毎年実施すべきである。

東京オリンピックにおけるスケートボードなど時代に合ったスポーツを取り入れるべき

実施競技選定の基準をもう少し明確、かつ変わらない基準で定めてほしい。また、可能であればなるべく多くの競技を毎年開催できるような予算確保、計画を行って頂きたい。

JOC や日スポに加盟している競技団体の競技は全て行うべき。

隔年開催競技を増やすことで、大会経費縮小にも結び付くと考える。

国際的組織や大会に係る部分の判断基準を検討する。

競技人口や普及率で変更する

隔年開催競技となった場合、公開競技としての実施を認めてもらいたい。

クレー射撃は、当然ながら競技用具として散弾銃を使い火薬を含んだ装弾で標的を破砕する競技です。従って、 都道府県公安委員会の発行する許可を必要とする許可制スポーツであり、且つ、関係法令に従い下限年齢(20 歳以下)を制限されています。何ら制限の無い競技と比較されることに疑問を感じます。

すべての競技をできるようにしてもらいたい。

●PF

特別競技としている高校野球が国スポの意義と結びついているのか疑問

競技人口の多い競技種別(バレーボール9人制)を復活すべき

競技人口の少ない競技は国体から外すのもやむを得ないのではないか。また最近の新競技新種目等に目を向け 若い方の注目度を上げるのも検討するべきと思う

世界の動向に合わせて、検討し変更していくことが必要である

実施競技数の増加。

今の時点で「全国大会として開催が難しい」競技を残す方向で「レクリエーション」的な意義を高めるのか、「開催方法を変更したい」競技の意見を多く取り入れ「育成強化」的な意義を高めるのか、両方のバランスをとるのかを協議し、スピード感をもって5年に1度は大きく変えていくように取り組んだ方がよい。

普及状況、競技人口を考慮し、実施競技を変更する。

実施競技(種目)数の削減

オリンピック等でも新競技を導入してきている。

国体を開催する目的や競技人口に応じて

1都道府県で開催する競技数が多いと考えるため

東京オリンピック種目で行った新しい種目もいいのでは

・メジャーな競技種目の開催のみとする。・今後、持続可能な競技を聖地と呼べる場所で行うようにすると、 開催地の検討や開催種目の選定をしなくて済む。"

選手派遣選考にあたり、予選会、選考会など準備が大きく負担となる。

開催地の負担にならないように、実施競技を減らす。

競技人口、競技チーム数、国際競技大会での成績、プロ選手の除外など選定方法に加味する

特殊な競技を別期日や開催地を固定することで分散開催すれば可能と考える。

「国民」の視点だけは忘れないでほしい。 $^{''}$

アーバンスポーツや新しい競技を認知させる働きかけが必要

オリンピックやパラリンピックに採用された競技やレクリエーション競技などを視野に入れて実施競技を選 定するべきである。

肥大化した国体を整理し、基本的な大会に回避させるべき(経費・宿泊場所の施設、動員県民等)

競技人口の多寡・組織の実態等を調査し全国規模かつある程度競技人口がある種目に限定した選定を行うべき 都道府県対抗の総合成績を前提とした大会区分の廃止。※上記4の通り、オリンピックに準じて競技別の評価 のみとする。

各競技団体と協議し、国スポ開催を希望する種目を選定してはどうか。

隔年開催でも良いので、新競技を取り入れる。

国民スポーツの原点に力点

高校、大学で行っていないスポーツは除外する。

バレーボール競技において、6 人制の場合トップチームが出れば地方としては勝つのが非常に困難である。9 人制の場合は、地元選手で作り上げることが出来る。9 人制の全国大会が少ないのでバレーボール競技の普及する意味がある。

大会種目から削減すべきである。

・オリンピック実施種目を実施するか、しないか。という方針が必要。・4年に1回しか、注目されない競技もあれば、1年に1回国体で実施しても、魅力、注目度が低い競技の評価はどうするのか。・2巡開催(90年)して、種目整理をしていくのが当然。オリンピックは毎回検討し、導入する、しない種目を決めている・国技のような種目(なぎなた、銃剣道、剣道、弓道)と、オリンピック実施種目と整理していくべきではないか。国民競技とオリンピック競技のように。

オリンピックの競技でないものや国際大会がない競技については必要性や将来性等をよく検討すべきと思う。 新しいスポーツも増えている。国スポの目的に応じて、正式種目に新スポーツを入れたり生涯スポーツを入れ たりすることも考えるべきかと思う。

プロ競技がある種目は、少年年代のみ。または、参加資格を県対抗に相応しいルールに統一する。

オリンピックなどでも新しい競技が行われており、検討する必要がある。

時代に合った新しい競技も検討すべき。

競技によっては、特定の職業のみが参加しているような競技がある。国民に親しまれ、広まっていない競技を 無くす様な変更

スポーツのような文化イベントはその時代に応じて変化していきます。その変化の中で幅広く協議に参加できる環境があればと考えます。

オリンピックでの新競技のとりいれ

開催地の固定化と簡素化

観て面白い競技種目を導入し新規参加者(競技人口)を増加させていくことも必要

変更にあたっては例外なく全競技を対象にするべき。

競技人口や、競技実績、知名度、計画的な事業運営、組織体制、選手強化の取組など、総合的に審査して、その審査結果を納得いくよう開示してほしい。また、改善のためにも、問題点や改善点を指摘してほしい。

各県からエントリーできるのか、特定の県だけのエントリーなのか検討することは必要と思われる。

各競技団体が辞退する場合のみ隔年とする等の柔軟な姿勢があってもいいと思う。

あらゆる競技の、競技人口や認知度等を常にマーケティングし、適当なものを選別して実施競技に選定する。

他の大会(オリンピックや世界選手権等)の実施状況を踏まえて見直すべきと考えます。

新しい競技も増えていることから、見直しを諮るべきである。既存の開催競技の既得権は解消すべきである。

実施を希望しない競技はやめる。

e スポーツは各種大会において施設設備、使用機器、多額の大会賞金等にスポンサーが大きく関与している。 また選手、特に若年層に対して精神的、身体的に被るマイナス部分が大きいと思われる。

参加人口の少ない競技を減らし、国体競技ではないが参加人口が増えてきている競技を加える。

オリパラ種目を優先開催

見るスポーツとして楽しめる競技を多く取り入れる。

現在の「国スポ」競技に無く、「オリンピック」にある競技などは、積極的に公開競技等の名目で試行されてもよい。

新しい競技の導入

高校生の競技を例に挙げると、夏のインターハイが主であるが、冬に開催されて大きな注目を浴びるサッカー、 ラグビー。春と夏の甲子園の野球などは実施競技から外してもよいのでは。 オリンピック種目となっている競技の導入

正式競技となるまでに時間を要したので、人も競技も参加しやすい大会とする

各競技の理念、魅力を存続できるように時代に添った大会を目指すことが望ましい。

オリンピック・パラリンピック大会種目も、開催地の実情に応じて柔軟に対応する。

オリンピックに見られるよう、競技人口等を考慮し、競技種目を変更してもよい。

ジャンプ、コンバインドを外す、またはオープン競技(天皇杯対象外)

隔年開催などは無くすべきである。

開催地が変わることで、その選考基準も変わっている。できれば同一、フォーマットでやれるよう見直してほ しい。

サッカーや野球等、メジャーな団体競技は必要ないのではないか。

トライアスロン競技においては少年枠が設けられていないため

開催地の裁量

フェンシング競技の場合、フルーレ・エペ・サーブルの3種目による紅白戦 (5本先取×3マッチ) により、各県の種目別優勝者が参加することが出来る。各種目の優勝者1人づつを選べば良いので、県代表選考基準が シンプルで明白。

新しい競技の導入を視野に入れた見直しをすべき。

ほぼ単独チームでの参加が多い種目、登録者数が少ない種目は見直してもいいと思います。

開催競技として相応しいか評価すべきが抜けていると考えます。若い世代がどう評価するか。

3 × 3 を追加

デモンストレーション競技を増やしても良いと思う。

開催会場や開催できない競技団体には他県で開催できるようにする。

都道府県スポーツ振興及び競技育成・強化の観点から、オリンピック競技等にこだわらず競技人口等を考慮した大会運営にシフトチャンジを希望する。

国体の意義を見いだせない、運営ができない競技はやめるしかない。一方で、新しいスポーツ競技など新しく加入すればよい。

公開競技ももっと絞り込む必要はないか

武道を重視(武道必修化との一貫性)・人気競技やオリンピック開催競技の隔年開催、または隔年で規模を変 更する

国民スポーツをうたう以上希望団体はできるだけ参加させる。

オリンピック競技に選定される可能性のある競技をあらかじめ選定できるような方法もあってもいいのではないか。時代の変化とともに、オリンピックに採用される競技も幅広くなっている。また、男女混合種目の有無についても盛り込むべきではないか。

①規模縮小を図るなら、「開催地選択競技」は不要、「デモンストレーション競技」は縮小。②競技人口とオリンピック競技を中心に見直すべき。

最近の若者に、人気の競技は、どんどん開催へ向けて取り組んでいくべきだと思う

人数が多いので施設が足りない

大会後の利用人数が見込めない専用または特別な施設を必要とする競技は、見送るか開催地固定にする。

今後人口が少なくなるのだから、将来を見据えた競技数にする。競技人口基準を設ける。

開催地選択競技の導入や競技者数が著しく少ない競技は公開競技に変更するなどの措置は必要。

各競技会場の規模、空調の問題、予算面等、県の希望状況によると思う。

少年の部などでは、競技の主体が校外活動になるなどによって年齢区分が異なっているケースもあり、種別の

削減なども視野に入れても良い

出場人数の制限、種目によっては個人、団体とあるが、団体のみなどとする。また、エントリー数の多い種目は人数減にし、負担の軽減に繋げる。

オリンピック種目は無条件で毎年実施すべき。

オリンピック種目に準じた競技選定。

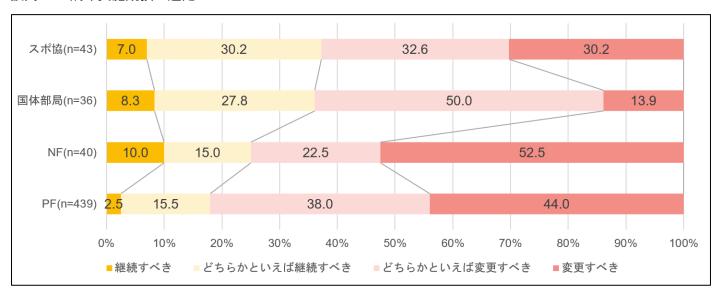
オリンピック種目に準じた競技種目の選択

正式種目以外の公開競技、デモンストレーションスポーツを国体種目より外す。

男女混合、区別しないフリーエントリー競技の大幅導入。障害者競技の別大会建ての廃止、県別に選手選出が難しいマイナー競技の正式競技廃止(または県別得点の廃止)

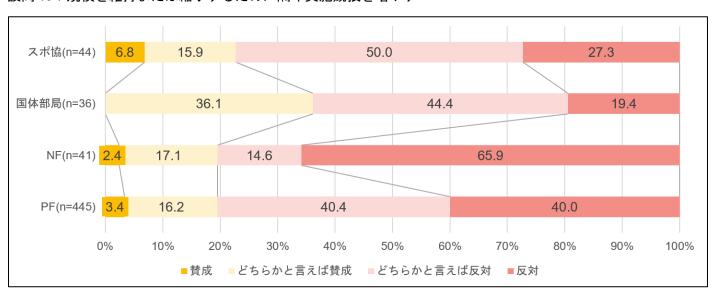
スポーツ庁で専門家委員会等を設置して決定すればいい。

設問 12:隔年実施競技の選定



グラフ:隔年実施競技の選定

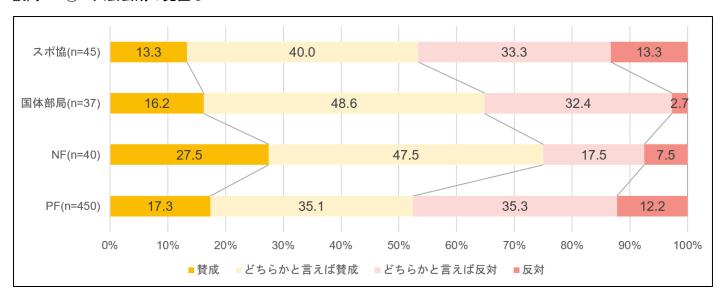
設問 13:規模を維持または縮小するために隔年実施競技を増やす



グラフ:規模を維持または縮小するために隔年実施競技を増やす

<開催時期>

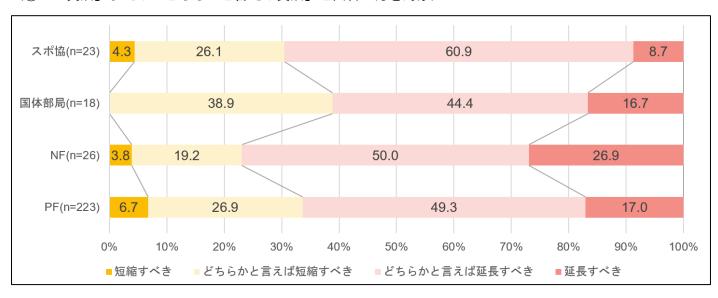
設問 14-①: 大会会期の見直し



グラフ:大会会期の見直し

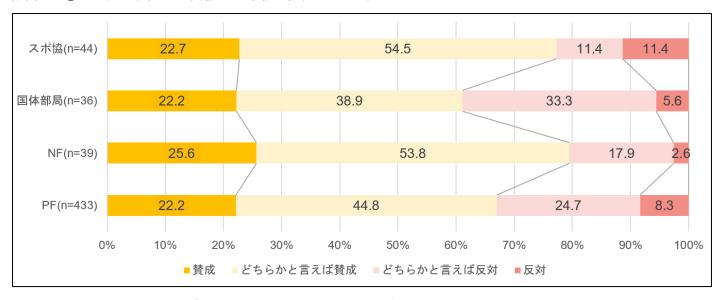
設問 14-②: 具体的な見直し案

(①で「賛成」または「どちらかと言えば賛成」と回答の方を対象)



具体的な見直し案

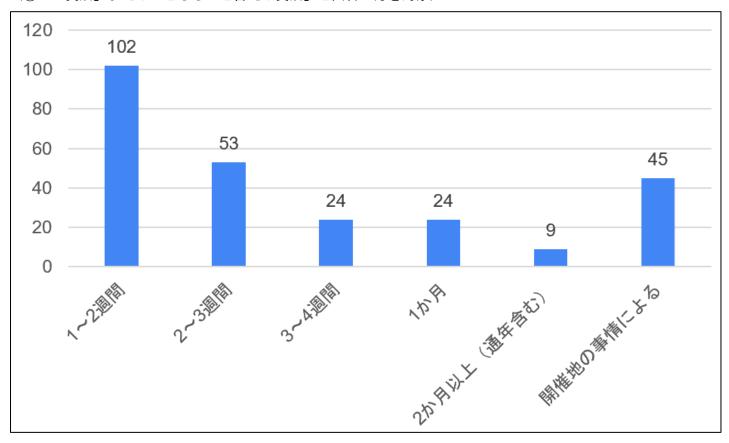
設問 15-①: 一定の範囲内で開催地が柔軟に設定できる対応



グラフ:一定の範囲内で開催地が柔軟に設定できる対応

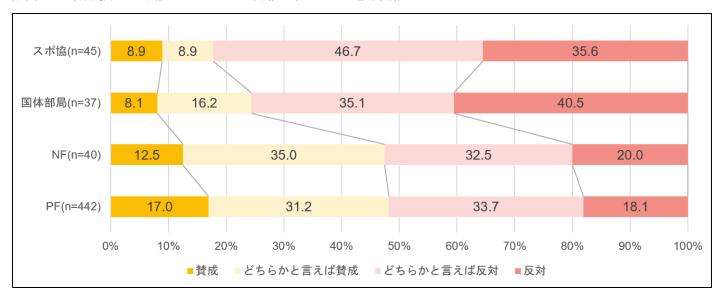
設問 15-②: 具体的な会期期間

(①で「賛成」または「どちらかと言えば賛成」と回答の方を対象)



グラフ: 具体的な会期期間

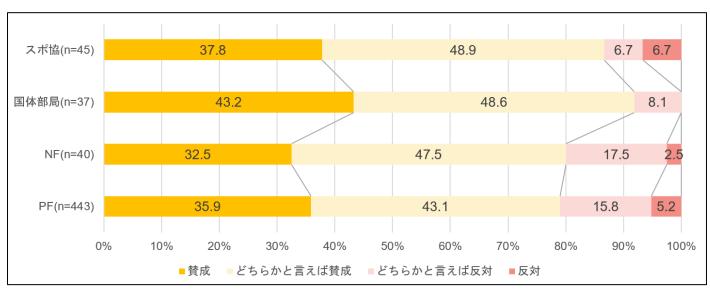
設問 16: 各競技会の分散 (グループ) 開催 (国スポの通年開催)



グラフ:各競技会の分散(グループ)開催(国スポの通年開催)

<競技施設>

設問 17-①:施設 (競技会場) の弾力的運用を促進するための方策の策定



グラフ:施設(競技会場)の弾力的運用を促進するための方策の策定

設問 17-②: 具体的な方策に関するアイデアや意見

(①で「賛成」または「どちらかと言えば賛成」と回答の方を対象)

●スポ協

大会の後利用として施設の立地、規模等により広く活用できるように工夫する (スポーツ大会やイベントだけでなく、文化的なイベント等にも活用できうる施設を新設・整備する。)

中央競技団体正規視察の際に指摘事項として挙げられる項目の精査が必要だと思います。安全面への配慮に関する 整備は必要ですが、それ以外の観客席の増設や後利用が見込まれないほどの会場整備は、大きな負担であると思い ます。

既存の施設で、できる限りの方策を講じればいい(無駄な装飾は必要なし)

・開催困難な特殊競技については、その競技団体が主に全国大会で活用している競技会場を活用し、固定地(定点) 開催とする。・オリンピックで整備した施設活用するなど。 施設基準のルールの柔軟な運用。

施設の規模や整備状況により、試合消化に要する日数に影響が生じるのであれば、開催期間の変更など柔軟に対応することは致し方ないと思う。あるいは、国体開催に伴う競技運営に必要な整備であれば、国の補助金(10割補助)などで対応すべきと考える

開催県だけで全競技の施設(仮設を含む。)を整備するのではなく、たとえブロックを越えることとなっても、他県で良い施設があるのならば当該施設を積極的に使用するべきである。

県ごとの事情・状況や背景があると思いますので、原則としての方策の策定でよいのではないでしょうか。

開催地が保有しない施設等については、近県の施設を使用するなど弾力的に運用していけば良い。

開催地で実施できない競技は一部開催地以外で実施するなどの方法を検討する。

施設の弾力的運用の促進については、検討中の競技の固定地開催や、一部競技の県外開催も、解決策の一つとなると考える。また、施設ではないが、付随する備品の整備について、基準を満たしていれば競技に支障はないと思うので、メーカー指定の撤廃を検討して頂きたい。

- ・開催地に隣接する開催可能な都道府県での開催。
- ・競技団体にヒアリングを行い、管理体制や大会終了後の施設の活用について検討する。

競技特性に応じた施設を有する都道府県で開催地を固定し、聖地化を図る。強化施設としてだけではなく世代・競技間を超えた交流大会を育む大会や地域課題解決のきっかけとして利用していく必要がある。特殊競技については近県又はブロック内の既存施設を活用するなど開催地を固定し、聖地化を図ることも良いのではないか。

開催前の国体予定地域、施設の利用状況を数年にわたり調査し、開催後の利用者数徴収可能利用料金を算出し、負のレガシーにならないための事前調査が国スポ開催候補地には必要で、場合によっては都道府県単独開催ではなく 複数拠点指定開催の提案に切り替える。

弾力的な運用ができないのであれば、同ブロックの他県の協力も仰ぐべきである。

競技施設基準の見直しを図り、NFに開催県の既存施設の有効活用に応じた柔軟な対応を周知することが必要である。

固定地開催の種目を設定。

多くの県で施設の充実は図られていると思いますが、施設の新設、改修、その後の維持管理に莫大な費用が考えられる場合は、一部競技を近県で開催することは必要であると考えます。また、全国大会を実施するにふさわしい施設で実施することも重要な視点であると思います。

開催地によって方策は異なると考える。

仮設で開催できるよう柔軟なルール・基準変更の検討をお願いしたい。

各ブロック内での施設を有効活用する。和歌山県の場合、兵庫県の馬術施設を利用した例があるため。

JSPOとNF、各都道府県において、前向きに進めていただきたい。

・極力既存の施設で実施できるように運用するべき。・ボート、カヌー等、貸与艇にて実施される競技は同一会場で 実施する。

施設には維持管理費が生ずる。各都道府県のニーズ等を尊重すべき。

既存施設でも実施可能な弾力的運用ができる目安となるガイドラインを示す。

NFの知恵・工夫・努力に期待したい。

●国体部局

競技実施規模の見直しのほか、9に記載の一部競技における定点開催が考えられる。

開催地の既存施設で実施できる大会規模にする。(開催地による競技選択)

隣接県や近県・ブロック開催を進める。

開催都道府県の事例共有

- ・施設の規模等が、基準に合致していなくても、安全性・公平性に問題なければ使用可能にすべき。
- ・一例だが、サッカー場のフィールドの長さ、人工芝、野球場の両翼の長さ、カヌーの水深等が足りなくても使用 可能とすべき。ボートの配艇制度は廃止すべき。

既存施設の有効活用を第一と考え、耐震対策、改築、修繕を優先的に実施する。施設の新設等を行う場合は、その 理由を明確にし、大会開催後の有効活用や維持管理費等を開催地で十分に協議し、考慮した上で、必要最小限の経 費等でとどめることが大切であり、その規則等を明確に示すことが必要であるから。

水球と AS、テニスとソフトテニス、サッカーとラグビー等、同じ会場で実施できる競技の会期をずらして競技を実施する。屋内競技もできるだけ、使用する施設を少なくする。

競技施設基準の見直しを図り、NFに開催県の既存施設の有効活用に応じた柔軟な対応を周知することが必要である。 現存の施設を活用できるように柔軟な対応ができれば良い。

競技特性を踏まえ、検討いただくのが望ましいと考えるが、各競技を開催するために必要以上の(過剰な)スペックでの競技備品や競技場仕様を求めないことが望ましい。

- ・中央競技団体正規視察における「指摘事項」「要望事項」の根拠及び対応義務について、貴協会において明確化していただきたい。(今は先催県の取扱を慣例化。)
- ・競技団体側にもコスト感覚を持っていただくため、貴協会又は中央競技団体において、施設基準やよくある指摘 事項などに係る整備費の上限額又は参考価格を設定していただきたい。
- ・施設基準について、国際基準は国際基準として保持しつつ、国民スポーツ大会を開催するために必要な基準(弾力的運用)について、予め例示したもの(先催県で認めてきた弾力的運用)を、貴協会又中央競技団体において明文化していただきたい。

「国体」からの流れを止めることになるが、競技特性に応じた施設を有する都道府県で開催地を固定し、国スポの 聖地化を図る。そうなれば有効な施設整備ができる。

一部競技の県外開催。加えて既存の施設で対応できるよう、施設の開催条件に係る規則の緩和を行う

すでに存在するかもしれないが、年によって大きく変わることのない開催基準を明示する。

各県等の実情を踏まえ、国体を契機に競技会場を新設し、スポーツの活性化につなげていければと考えます。

開催都道府県に施設がない場合は、近県の既存施設を活用する。

固定地開催の種目を設定。

一競技しか使用できない競技特有の構造が必要な施設については、聖地化し負担軽減化を図れないかと考えるため。 各ブロック内での施設を有効活用する。和歌山県の場合、兵庫県の馬術施設を利用した例があるため。

開催県に一律に施設基準をクリアする施設を求めるのではなく、競技によっては固定開催(又は主要施設のある都道府県での持ち回り開催)を進めることが有効だと考えます。例として、特殊競技のうち、各都道府県の施設規模の差異が大きいもの(セーリング、馬術、スポーツ・クライミング、ライフル射撃、クレー射撃等)は固定開催により各都道府県の負担が大きく減少すると思われます。また、既に高校生等の大会で固定開催を行っている競技(サッカー、バレーボール、バスケットボール、柔道、ラグビーフットボール等)については、中央競技団体のノウハウがあり、固定開催への移行がしやすいと考えます。競技者としてもより良い環境で実施することができるため、国体(国スポ)参加へのモチベーションが高まると思われます。

既存のスポーツ施設を使用できるよう、実施競技の開催可否における規制緩和。

近県又はブロック内の既存施設の活用や固定開催等、既存施設の活用を中心に検討いただきたい。仮設施設整備による対応については、開催県の負担増につながることから反対

国体独自の一定の施設基準を設ける。

国際レベルのジャンプ場は札幌と長野(白馬)のみであり選手育成を考慮した場合この2施設の利用が大事と思う。

一つの競技会場で、色々な競技、イベントを行えるように今後していく。

仮説や仮設増設などの利用。

公平性を前提に、長期的な観点で、安心安全な環境を整え、第三者による定期的な確認を行う、「当協会公認コース」 を活用していくことが肝要です。

施設を作る場合は大会終了後の有効活用は元よりスポーツ施設に偏らない活用方法を見据えて行うべきと考える。

既存施設の利用を原則とし、競技施設がない場合には、大会後の利用が見込める施設に限り整備し、それ以外は仮設でもよい。競技の適地がない場合や近隣県に競技施設がある場合には県外開催を可とする。

大会期間中・日程をずらして、一会場での複数種目の開催

大会後・中高の土日活動会場 ・地域小学生全員が一度は施設を活用することで施設を知り愛着度を高める ・スポーツ活動と他のイベントとの共同開催 ・地元 TV] 局による施設からの情報発信 ・スポーツイベント以外の活用 ・可能であればトップ選手によるイベント(大会、プロを含む) ・スポーツ活動以外の活用研究

◎大会後の活用を提案することで、自治体の協力も得やすくなるため

使用競技施設機能の平等化を図る。

開催地に既存施設がない特殊競技(種目)で他県の既存施設を活用する。例えば、スキーでいえば、ジャンプ、コンバインドをアルペン、クロスカントリーとは別の会場、会期で開催できれば、開催可能になる県が増加する。

開催地への事前調査、調整により、都道府県との検証が必要。会期を延長して使用できる体育館にて開催、近隣の 施設も検討する。

・SC 競技は、仮設設置が多く解体経費に多くを費やし国体が終われば、何も残らない。・施設の常設化は、PF 組織の活動拠点に有用で、地域スポーツの拠点化が図られる。・世界大会などの誘致もされ、継続的にスポーツの拠点化が図られている。

多目的な利用が出来る施設。

その場限りの手直しで国民スポーツ大会を開催するより、隣接県やブロック内で開催し、その分を県内施設の充実 に資することを考えていただきたい。

開催県や開催市町村によっては、利用制限の厳しい武道場やスポーツセンターなども多目的に貸し出すように緩和 してくれれば有効利用ができるのではないか。

現行施設に競技で必要な設備を加えて実施する。

既存施設で開催可能な形を大会ごとに検討すればよいと思う。

先催県からの備品(仮設)等の借用により経費負担を軽減する。行政間の連携強化。

特別な施設が必要な競技で、既存施設がない地での開催の場合は、開催地が実施可否を判断でき、実施不可能の場合は、開催県以外(同ブロックなどの近隣地区に係わらず)での開催を認め、いくつかの既存施設で開催できる都道府県で開催地を回せば、実際開催する都道府県は〇〇競技の地として競技自体が根付くことも考えられる。

地域活性をふまえた準備をすることによる方策の策定

リニューアルに力を注ぐ。新規施設建設よりも芝生やトラック、サニタリー施設など付属施設の充実させることが 大事ではないか。都道府県に広く開放されるプラン。固定の競技団体や競技力向上のみを狙いとした事後運用では なく、多目的であるべき

国体独自の一定の施設基準を設ける。

国際レベルのジャンプ場は札幌と長野(白馬)のみであり選手育成を考慮した場合この2施設の利用が大事と思う。

一つの競技会場で、色々な競技、イベントを行えるように今後していく。

仮説や仮設増設などの利用。

公平性を前提に、長期的な観点で、安心安全な環境を整え、第三者による定期的な確認を行う、「当協会公認コース」 を活用していくことが肝要です。

●PF

① にも書きましたが競技ごとに国スポのルールを作成する。体育館の高さや使用器具、ルールなど国際連盟などの変更に準じない国スポ独自のルール・規則で大会を運営する方法もあるのではないかと考えます。

複数競技の正式大会可能な体育館や 複数競技可能な球技場

競技のルールに満たない施設での開催も許容する。

開催地の状況に合わせて、会場施設を設定できるようにする

既存施設の仮設増設などで対応できるようにする。

多種の競技や活用方法が見いだせないものはつくらないことや既存施設がある固定開催も必要。

既存の施設で対応できるよう施設の基準を低くする。

各県の実情に応じた柔軟対応をできるようにする。

不利益な施設を作らないよう、競技種目別に近隣県での開催等、開催地選定の時から協議する必要がある。

維持管理等、国の定額維持費を検討してほしい。

地方自治体の考え方が大事になってくるのでは

施設の競技基準を緩和する。

開催地によって事情は異なるので、具体的な事は言えない。

突然人口の少ない地域では財政負担になる そこはブロックでの施設それも国体に対応できるもの ブロックでの 管理は仕方がない.方針をしっかり決めていくことだと思います

維持費も大変だから新たに建てず、他県の既存の設備を使えばよい。

弾力的運用が何を意味するのかよくわからないが、競技種目の開催期間や前後種目の大会スケジュール調整によって効率よく運営できるのであれば取り組むべき。ただし普及発展を損なわないように気を付けたい。

国スポ開催にあたり、競技ルールを柔軟にとらえ国スポ独自のルールを導入する。選手が平等の条件のもと競うことができればよい。

賛成の理由として、施設の多目的化を図るという意見があった。

プレ大会など国スポにはない競技とかを開催すればどうか

可能な限り既存施設の改修で済むように施設基準を弾力的にすること。

近隣都道府県での開催(近隣であれば、地元開催として応援にも行きやすく、同ブロックの場合は、日頃より連携が取れているので、連携もスムーズにいく。)

施設確保や開催期間などの問題が有れば、一部競技の県外開催を行うことで、開催県の負担軽減を図る

競技施設がある近隣の県や立候補した県で開催する

新規での建設等は難しい。

近隣都道府県に利用できる施設があれば、そちらを利用して開催する。

同ブロック・隣県での共同開催を取り入れる。

例えば近県やブロックで対応する。あるいは固定会場での開催など。

各地方でのブロック開催とする。

開催エリアを広げるなど

既存施設の改装。開催県に競技会場がない場合は隣県及び近県も含み開催。それでもない場合は開催地として選択 しない

17-①の理由のとおり、わざわざ不利益な施設を造らず、近隣の都道府県に協力してもらい。ブロックで開催して行けば良い。ブロックの中に競技会場が準備できなければ、聖地化した競技場で実施すれば良い。

国内何か所かの定点開催

ブロック開催で関東・東北北海道・東海北信越・近畿・中国四国・九州の6ブロックで大会を実施しブロック内で 開催地を決める。

全国大会等の誘致、教室等の開催、施設を拠点としたクラブチームの創設、施設維持のための補助金の確保

一県での競技施設確保が困難な場合、会場をブロック内まで広げ、施設の確保を行う。

選手の控え場所利用に隣接の体育館等があれば経費はかなり縮小できる。

ここぞと希望の施設をつくると単独になりがちなので、後利用をふまえて推進させるべき。

地方(施設の)は国スポ等大きな大会行事がないと施設は充実しない(全国高校総体等でも無理です)

場所や利便性を考慮して、施設を作って欲しい。

簡素な大会を標榜しているが無駄が多い(選手・関係者への記念品、宣伝フラッグ)見学役員の数本当に必要かを もっと検証すべきと考えます。

総合型地域スポーツクラブとの連携

既存の施設共有を工夫せざるを得ない。

実業団チームが所有している立派な施設も使用させてもらう。

国スポ後の活用など事前に検討する

各都道県によって、特色や独自性があるから、その中で実施競技を選択できるようになれば良い。都道府県持ち回りではなく、ブロック持ち回りであれば、対応可能。

スポーツだけでなく文化的行事にも対応できる総合施設(例)日本武道館

既存の施設を使用し、必要に応じて改修するなどコスト減を図る。隣県に最適の施設があれば、その施設での開催。

持続可能な運営を考えると、必ずしも自県内にこだわらず、他県の既存施設利用も視野に入れる

水泳競技の場合は、学校の体育(水泳授業)を地域の屋内プールで年間を通して計画的に使用することで学校のプール施設の建設、維持・管理を省くことができる。

開催地の実情に合わせることが重要で、開催地に不利益な施設を新設するより、既存の施設がある都道府県で実施 すれば良い。

できるだけ既存の施設を使用するようにして、国体用にお金を使わないようにする。

ブロックなどの分散開催。十分な施設がないのに無理をしない。

仮設施設で対応可能なものは極力仮設で対応する。持回りできる設備・備品は有効活用する

既存施設の有効活用は必要。ただし安全面でのメンテナンス、修繕および公式ルールに則った施設設備は必須。また、国スポ後にどのように活用するのか、開催地域、都道府県、競技団体で検討するルールつくりが必要。

不必要な経費は掛けられないと思います。

- (1)4年に1回東京オリンピック会場(または国内最高施設)で実施する。(陸上競技⇒国立競技場)
- (2) 競技によっては充実した施設を持つ県での固定開催をする。複数県の施設を選定し、持ち回りで開催する。可能な限り開催県の近隣県で参加できるように調整する。

専用施設を建設する必要はない。代替え可能な施設を特設し運営することで、開催地らしい運営が許容されるべき。

前述のとおり、分散開催で施設の有効利用を行う

国スポのための一時的施設、一つの競技だけに特化したものにならないよう、ある程度の競技が便利に利用できるような設備、広さを整えるべき。各競技団体の要望を核にして計画を立ててほしい。

利益・不利益は各県が判断すればいい。なので、競技団体と県が話し合いで決める。できなければその競技は近県 に持っていく。

既存施設を活用する場合、不足する設備等にかかる経費を助成していただきたい。

基本的には現行の競技施設を利用し、国体大会規定に合わない部分は改修する形を建て前としているが、一部の改修では競技施設として規定に適合しない場合や国体開催後の施設利用者による使用頻度(大会利用、競技愛好者利

用)が非常に高いものについては、競技施設新設を行うことも検討。

屋外競技(東北・北陸・北海道)では、大会期間の雨天時対応や国体後の冬季間利用のために屋内競技施設の追加 施設は利用頻度が異常に高い施設になることが、実際にあるのでその点についても検討していただきたい。

施設がなければ、周辺県の施設を利用する。

開催地の固定や一部県外・ブロック開催など

各学校施設に併用できるようにする。このことで新たに学校施設建設しなくてよい

各種イベントへの設備貸出等での収益性の確保

開催地の施設の改修レベルに留めるべき、近隣地域の会場の代用など柔軟に考えるべき

国体後も競技会の誘致

ブロック単位で開催施設を固定化

施設利用にあたり、時間的制約や利用規定に関して柔軟に対応する

同じ会場を有効活用するため、開催時期をずらす。

各都道府県財政予算の歳出関係事情がありますので会場設営の新規建設や増改築には莫大な予算算出になり実施計画は3~5年(各都道府県)の事情によりますが計画的実施になると思います

既存施設がない場合は、近県又はブロック内で活用する。

新設する予算もないため、既存施設で協議の規模に合わせた会場選択ができるとよい。

近隣県やブロック内の既存施設の活用が必要

弓道は弓道場でなければという考え方できたがイベントホール、体育館等の仮設で実施するケースも増えている。 雨、風の影響を受けない体育館などで弓道ができるということは画期的でもあった。そうなれば、大規模弓道場で なく小規模分散で武道振興ができる。

既存の施設(民間)を最大限に利用する

中央競技団体が、柔軟な対応をしてくれればいいと思う。競技開催に伴う仮設物設置等を必要最小限にとどめ負担 経費削減のための見直しが必要ではないか。または、施設補保有している近県開催も検討。

新しく施設を作る必要は、その自治体によるが、老朽化が目立つ施設が多いので改装等手入れは必要。

仮設施設でも良いのではないか

既存の施設がない場合には近隣県との調整による開催をする。

特殊性の強い競技は、固定地開催とする。

競技によってはブロック内で競技を開催でもよいと思います。

17-①と同じ理由 追加として多目的ホール等はイベントの開催や各種サークルや競技団体の活動に利用する。 アリーナはイベントの利用や市民スポーツの利用、コンサート開催などが挙げられる。

各競技の開催期間を考えて同じ会場で賄う方法を考える。

今後の人口減少割合等を考慮し判断する。

・ブロック内の既存施設の活用・その競技施設を使う特典を増やす

近隣の県での開催など事前の調整が必要。

今後を見据えて新設が必要な市町村を優先に会場を決められるようにする。

開催地の意向を十分に理解した上で、施設設備の準備をすべきである。

地域住民等に使用しやすい施設として運用する。

既存施設が大会基準に合致しない時は、隣県に相応な施設あれば、合同開催のオファーをして欲しい。

会期を延長して、複数競技で会場を共有する方がよい。

各ブロックでの開催種目別分散等

県外の施設を利用する。

開催地との綿密な打ち合わせ・調査

国スポ開催県にとっては、施設改修など多大な経費が必要です。他県開催も含め、柔軟な対応が必要と思います。

できるだけ既存の施設を活用して実施すればよい。そのため、開催地に拘らず、分散開催をして他都道府県の施設活用を進めていけばよいと思う。

競技会場を複数競技にて運用する。競技日程の延長にて、競技毎での1日に複数試合が行うことが前提条件。各競 技役員の拘束時間は、短縮する

国体期間を延長し、複数の競技を同一施設で行う。また、国体を複数県で開催し協議を持ちまわる方法が良い。但 し、同一県同一種目ではなく、競技種目も持ち回り開催県のスポーツ振興に努める。

隣県・ブロック開催もあり。

現行を基本。

交通規制を伴う競技を同時開催にする。または共用する。

会期を長くすることで、重複使用可能な施設をふやし大会財務面の自由度を上げる。

最もいいアイデアは浮かばないが、分散した方がボランティア等協力要請をしやすいと思う。

施設のあるところで実施する。

全国規模の大会で実施できる施設での開催により、開催地の負担軽減にもつながる。

既存施設の活用や固定開催もやむを得ない競技種目もあると思う。

・競泳プールは、練習会場を 50M×8レーンの温水プール(通年使用プールとする)・大会用プールは、50M×10レーンで、冬場は仮設の屋内スケートリンクにして使用する。このようにすると、各県に大会用プールとシーズン使用のスケートリンクができ、夏季、冬季競技共に使用でき、併せて普及と競技人口の増加につながる。(効果効率複合的競技施設)

施設を保有する県の施設を活用する

年齢によって使用料金を変える。高齢者でも利用しやすい施設にする。

大会規模に対応できない県については、分散開催又は固定開催地等で補う・

既存施設を活用するための意見を多く募集する。

開催県の同一ブロックの都道府県に協力を求めて実施する。

生涯スポーツや地域住民の健康増進の場として活用できれば、継続的な利用が望めるのではないかと考えます。

建設後も地域で活用できることを計画する

近県の施設

ブロック分散開催で現状の競技場を利用する

各地域の実状に合った施設を確保できる様にしたい

基本的に3週間の土日を中心に競技を分散した運用であれば望ましい。

主開催地に対応できる施設がない場合には近県等の施設を利用する

施設の不足等は他県と相談できる体制づくりを進めてほしい。

施設についてのルールの柔軟化。

現行のように隣県で実施。

会場の広さ等については、競技団体がある程度弾力的に運用するように努めてもよい。

実施した競技専用の施設にして、その後も継続して大会などを行っていく。ただ。他の競技も使用できるような施設であれば、他の競技も含めて使用していって良いと思う。

分散して繰り返し使用することで無駄はなくなるので、現存する施設を有効活用するべきだと思います。

既存施設の活用や県外実施による大会実施

近隣県での施設を活用した分散開催。過去の岐阜県 IH 事例, 北海道(ジャンプコンバインド)との史上初の分散開催。

国体に限り、一日の利用制限の解除。連日使用の許可等。

各ブロックに拠点となる施設があり、利用するかしないかは開催地がきめればよい。

大会後の施設の維持が出来るよう配慮すべき。

数か所の会場を順番に固定開催にする。

既存施設を使用したり改修等すれば、必ずしも新設会場は必要ではないと思う。

近県施設利用

開催県に無い競技施設は建設。

大会期間を少し長くして、同一会場で2種目を開催する。柔道→剣道など、可能となるのでは?

施設がなく作っても無駄になる可能性があるならその施設がある近隣の県に委託したらいいと思います。

・カヌーであれば、500m、200mを行っているが、これまでも距離が取れない会場によっては、400mで行うなどのアレンジをしてきた。競技団体が譲歩して、その場でカヌー競技を見ていただく、知っていただくことが重要であるため、開催地の状況にあわせて少々のルール変更も工夫できるのではないか。

各競技会の主催者と調整の上、施設に見合う競技会を選ぶ事は出来ませんか。

より、スポーツに限らず文化的活動の場としてはどうでしょうか。

競技に特化した環境を整備する。各地域ごとに拠点となる施設を設け、地域密着型で周辺の生活環境を整える。中学校、高校単位の対抗戦を撤廃し、地域対抗もしくはクラブ対抗とする大会を設定する。公立学校の体育館開放。

副業しなくても指導者として働ける報酬

新規建築の場合は多くの競技に転用可能な設計に。ある物を活用する場合は、競技開催の条件の柔軟化が必要。

民間施設の活用。十分な投資採算検討

老朽化、ルール改正等を理由にこの際新設ではなく使える既存施設を利用する施策を行う。

競技人口に見合うことも必要と思うが、マイナー競技は指導者育成を含め、会場施設が残り会期後も継続使用できることが普及振興になる。約50年に1巡とすると50年後には老朽化しているので次の巡番で再建する動きになる。

既存の施設を各競技のルールなどにうまく合わせて利用する、もしくは修繕することで十便に活用できる施設が多数あると思う。

都道府県にとって不利益な施設を作るきっかけを作る大会になってはいけない。

現存の施設の有効活用。

行政区によっては、新施設の必要性を感じながらも踏み切れない場面もあります。将来の有効活用を見据えた計画 を切に願います。「ふくしま国体」同様、既存施設の隣接する複数会場での開催も可能であれば、それで対応するこ とも考えてほしい。

補助の拡大

現状での施設を複合的に活用する方策も必要では会場分散でのやりくりも必要では。

ヨットハーバーはセーリングだけではなく水辺教育には欠かせない施設であり、障がい者セーリング・不登校児教 育等、有効に活用しております。

競技の将来性を考えると小規模でもよいので、改装等施設の充実を図りたい。その時の県の財政・スポーツに対する取り組みにもよるが、地道に成績を上げて、認められるしかない

オリンピックパラリンピック後の施設利用のありか方を参考とする。

仮設の会場の場合、大会が終了し解体されると会場地には何も残らない。施設の常設化を基本としたい。また、大会誘致のためにも国際基準に合わせた施設でありたい。

中央競技団体どうしの連携で、日程調整も検討必要。競争も必要であるが、開催地の実情を考慮することも大切。

無駄な施設を造らないためにも、開催県の計画作成段階での早めの情報開示をお願いしたい。

ブロックごとに代表施設を作る

競技ごとに適正な時期に行う

大会後の利用人数が見込めない特別な施設・専用施設が必要な競技は、見送るか開催地固定にする。インターハイのようにブロック単位で開催し、負荷の分散と既存施設の有効利用を図る。

各競技団体によって開催時期を選択させる。開催大会が多くなってきたので、国体は、必要なくなった。

近県・ブロック内等の既存施設の有効活用に賛同します。

最小限の予算で改修できる設備改修の技実術レベルを上げる

中央競技団体が施設をしっかり選定して、改善ポイント等を各都道府県団体や施設管理者とディスカッションする。

施設整備より仮設のほうが予算は少なくて済む

近県での開催や競技によっては開催地固定でもよいと考える。

簡素化を図る(それによる利点) 1・弓道場の練習仮設の設置の中止。仮設道場を作ると何千万円の費用がかかる。 それをもっとメリットとなる方向で考えていけたら良いと思う。 2・巻き藁のみ練習ができることとする。無制限 に延々と練習をするだけではなく、本番に備えて十分な実力が出せるような、余力を残して大会への気持ちの在り 方を持たせる。 3・選手・監督はこの 1 射にかけるという気持ちを持つ。普段から集中力向上やイメージトレーニ ング・メンタル面の強化にもつながる方法も考えられるよう育成する。 4・大会の在り方を検討する。(コロナ禍で あれば)

各競技会場の規模、空調の問題、予算面等、県の希望状況によると思う。

近隣県での開催など

施設を多目的に使用できるよう、施設構造を検討する。国スポで使用後、簡単な改修により様々なスポーツや文化 的催しで活用可能となる。

開催県が競技施設を作るよりも、近くに施設やノウハウの有る県等に頼むのも賢い方法であると考える。

国体を理由に、新規の施設を作っても負の遺産になるのが目に見えている。ブロック内で対応したほうが良い。ブロックを越える開催は政治的な意図が見え隠れするので反対。

新施設を作ること困難、近隣県等の既存の施設を借用も検討すべき

無駄な新設・改修を避けるために、自治体や競技団体関係者等の複数の関係者で検討する。

現在ある少ない施設(ジャンプ台など)の改修

今ある施設を使用したり、競技によっては施設をすでに持っている隣県で開催するなどして、できるだけ新規に施 設を作らなくて済むようにする。

ブロックごとに基幹となる都道府県(会場)を設定し、当該県の中で交代に開催する。

- ・国体開催基準を緩和する見直し(仮設スタンド設置の見直し、夜間照明基準の見直し)
- ・利用範囲の広い施設の建設(スポーツ大会だけでなく、様々な行事やイベントに対応できるアリーナ等の建設)

競技団体の正式視察を厳密に行い最低限必要な施設の改修及び設備の見直しをして無駄な経費をかけないようにする。競技団体との協議が十分できていない。

近隣の都道府県の施設などを、有効に利用できるようにすれば良い。

本大会に適合した常設施設を有する場所で継続して使用させていただく。

大会で使用した施設を一般市民に開放(貸し出し)して、大会の雰囲気を味わってもらう。

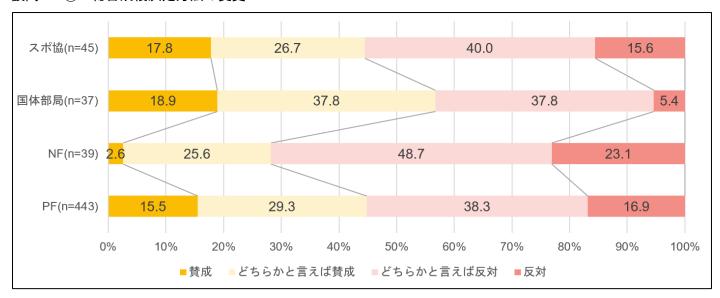
特殊競技の聖地として、固定するか、既存の施設がある県を順番に回って開催してもよいと思う。

近隣県の施設を借用して開催する。

体験競技などのイベント開催

<総合成績>

設問 18-(1):総合成績決定方法の変更



グラフ:総合成績決定方法の変更

設問 18-②: 具体的なアイデアや意見

(①で「賛成」または「どちらかと言えば賛成」と回答の方を対象)

●スポ協

ふるさと制度をうまく利用し、戦力が分散するようにするなど。

総合成績は出さず、競技ごとの成績のみがよいと思います。したがって以下には総合成績を出すことの問題点について記述したいと思います。・出場競技数や冬季大会の参加数にばらつきがあるのは、問題ではないでしょうか。・競技人数による得点算出方法は不条理ではないでしょうか。・成年種別に関しては大都市圏に優秀な選手が集まっている傾向があり、団体種目では、ふるさと選手制度を利用することも難しいのではないでしょうか。

冬季大会を分離して総合成績を出す。

北海道⇒ブロック予選への参加を必須とする。出身都道府県、在学校所在地からの出場を可能にする。

冬季大会の得点(単一都道府県が複数入賞する)の見直し。人口対比ポイントの付与

公平に競うために、都道府県の人口比率に応じて、得点の算定を行う。

各競技の総合順位を得点化し、総合成績合計で順位を決定する方式を検討していただきたい。

・個人競技の複数人が関わる種目(リレー種目)への得点配分は検討する必要がある。

より良い競技環境(施設面や指導者)を求めて県外へ進学する選手が増えてきている。選手ファーストで考えると競技に応じたより良い環境を求め、県外へ流出するのは認めていかなくてはならないと考える。しかし、幼少期から発掘し選手を育てた功績も評価されるべきである。ブロック枠を獲得した(ブロック代表となった)都道府県への加点制を設ける。

競技人口(人口)や強化費などを観点に。加点等の調整をする。

5 倍競技の人数をエントリー数で割り振ってほしい。ハンドボール、バスケットボール、アイスホッケーなどは多人数のため8倍競技に匹敵すると思われるから。

冬季大会の競技は、地域によって競技力の格差があり、冬季大会とのすみわけをする。

個人 (8 点~1 点)・ペア (16 点~2 点)・3~4 人 (24 点~3 点)・5~7 人 (40 点~5 点)・8 人以上 (64 点~8 点)。 現行の競技日程で個人戦が行える競技種目については、個人順位も競技成績へ反映させてはどうか。例:体操(競技)、ゴルフ、クレー射撃等。

現行の総合成績決定方法も残しつつ、別途各都道府県の人口数に応じたグループ分けを行い、順位を争う。

東日本と西日本で冬季大会の成績が大きくかけ離れているので、冬季大会と本大会での成績を分けるべき。

・総合得点を人口割で算出する。・都道府県の競技レベルをより正確に総合成績に反映させるため、現行の競技得点算出方法の対象順位を8位以内からベスト16まで拡大する。また、個人競技と団体競技の得点差(倍数)の見直しも必要ではないかと考える。

決定方法ではないが、データはより細かく全て開示していただきたい。冬季と本大会で開示の仕方が違うことも疑問。自県の競技力を十分に分析出来ない。ふるさと選手の入賞率や得点数なども分析したい。

もっと国体に向けて対策を講じるためには、成績・得点は非常に重要な物差しである。

●国体部局

競技別天皇杯順位、競技別皇后杯順位をそれぞれ合計して、天皇杯順位、皇后杯順位をつける

天皇杯は、開催県と東京都の争い。開催県と東京の獲得得点によって、それ以下の順位が決まる。

個人種目の競技得点増(現行の1.5倍の得点とするなど)

競技ごとの総合順位を得点化して合計得点で総合成績を決定する。

(例)【陸上競技】総合 1 位 A 県 47 点、2 位 B 県 46 点 ・・・ 25 位 C 県 13 点 【サッカー】総合 1 位 C 県 47 点 ・・・ 15 位 A 県 33 点 ・・・ 30 位 B 県 18 点 【カ ヌ ー】総合 1 位 B 県 47 点 ・・・ 8 位 C 県 40 点・・・ 40 位 A 県 8 点※ 1 位 B 県 111 点 2 位 C 県 100 点 3 位 A 県 88 点

競技(種目)間の得点格差(いわゆる○倍点)を廃止したりして、是正する。

競技毎の順位決定を実施。

冬季大会と本大会を個別にすることが望ましい。冬季大会は、地理的・施設面に左右されるため、公平な総合成績 算出の改善を求めたい。

競技ごとの点数はどの競技も同じにし、競技の中で各々に細分化など。

①オリンピック等のようにメダル数のカウント②競技得点を各都道府県の人口で割る

・連続入賞した選手やチームに加点・同選手が少年種別入賞、成年種別入賞を達成したら育成得点として所属都道府県に加点。

北海道も東北ブロック大会に参加すべき。

冬季大会については、地域差が大きいと考えるため、本国体と別大会とし開催していただきたい。例えば、地方を 優遇した得点制度(中学校出身地による加点)仮称:ふるさと得点制度。

冬季大会の競技は、地域によって競技力の格差があり、冬季大会とのすみわけをする。

総合成績を実施するのであれば、人口規模でグループ分けをしてグループごとに成績を決定したり、人口規模の少ない県は加算するなどの得点方法を見直したりすることを検討願います。

人口の多い県が成績上位であり、人口の少ない県が県外選手を確保することで、総合優勝を目指しているのが現状である。そこで出身県などを得点に反映させることにより、県外所属の選手(本県出身者)にも注目が集まり、総合得点への県民の関心が高まるのではないか。

参加点廃止または参加得点の見直し。

- ・出場基準を簡素化する(例えば年齢区分と出生地)ことで、選手の集中化を避ける
- ・国スポ、マスターズ、スポレクも都道府県対抗であり、結び付けて総合成績で順位を決定する。
- ・国スポで総合得点を気にしているのは都道府県内の関係者等一部である。競技関係者が意識するような制度を設ける(参加自治体でも検討すべき)。・総合得点情報を SNS 活用で live で伝えられるようにする

入賞は8位までだが、競技得点の配分を考える.競技得点対象者を上位何名にするか考える。

地元出身の選手の得点比率を上げる。

どの競技であろうが、純粋に順位に対して配点すべき。例えば、1位は80点、2位は70点、…(順次)…、8位は10点のような考え方は、分かり易いのではないか。

WG での主な意見に「中長期的な選手強化を評価するような仕組み」とあるが、もしこれが「競技結果以外」の加点要素を指すのであれば、相当慎重な議論が必要になると思う。対外的な「わかりやすさ」は非常に重要で、「わかりにくい」加点は疑念を生みやすく、大会に対する信頼を失いかねないリスクを内包するように思う。

その他にも「個人の所属歴(育った都道府県)に応じ、得点を配分」とあるが、その都道府県に長く所属していたからといって、その都道府県で競技力が向上したとは言い難い。優れた指導者に出会い、短期間で驚異的な競技力向上を示す選手もいる。これらを勘案して配分できるなら良いが、かなり困難であるように思う。

得点数は全競技共通。参加点は種別ごとに本大会に出場した都道府県に与える方が理解を得やすい。

●PF

個人、団体の得点を同じにする

総合成績の廃止

数年とか、10年単位において、見直しをしたらどうか。

個人の所属歴(育った都道府県)に応じ、得点を配分するという考えに賛成。

競技間の格差是正

それぞれの個人やチームが優勝、入賞した、という事実だけでもよいのではないでしょうか。

思い切って都道府県民一人当たりの得点比にしてみるのはいかがだろう……

賛成の意見もある。種目ごとにしてはどうか。総合ということは必要ない。

冬季のみで総合得点を算出して、天皇杯、皇后杯を与え、夏季秋季大会に持ち越さない。

競技内では、選手が活躍した成績を得点に直結させ、反映させること。団体の得点は、団体を構成する個人の得点を、反映させる方法が良い。5-0で勝った場合と3-2で勝った場合とでは、団体得点が違う様にする。

総合成績をやめ、競技成績のみにしても良いと思う。

開催県や大都市を抱える都道府県が有利になる方法は、改善すべきである。

開催地がフルエントリーであれば他県との点数に差をつける。

各都道府県が中長期的な選手強化を実現させ活用することができるように、ふるさと選手に各都道府県の参加要請した場合、出場条件の最優先となるようにするべきである。

都道府県対抗形式を種目別で終わらせる。総合は辞めるべきと思う。選手の大会であり、行政大会を改めるべき。

人口比でドント配分する(具体的な配分方法のアイデアはありません)

上位15県・中位15県・下位17県にわける方法。グループに分けて1位から47位は付けない。

オリンピック同様、競技別の都道府県対抗成績でよい。併せて賜杯の在り方を検討し、総合成績の賜杯は辞退し返納するか、もしくは新たに競技別賜杯に変更できないか政府及び宮内庁と協議する。

人口規模に応じてAグループ、Bグループに分けたらどうか

参加した選手の順位ごとに全選手に得点が付与されるしくみ

各競技毎での順位付けは競技参加者のモチベーションアップにつながるとは感じるが全競技種目での順位付けなど 廃止の検討も必要ではと考える。

県単位で成績・得点を付けない. 競技別に1-3位に賞(メダル)を送るのみにする。

*各都道府県の中長期的な選手強化を評価するような仕組みは作れないか。*戦力が均衡化される仕組みを作る必要がある。どこが勝つか分からない大会にすることで、メディアも盛り上がり、世の中の関心につながる。

前年の結果をもとにベスト4はシードして抽選・組合せを決定すべきである。

(1) 総合得点を人口割にして算出する。

- (2) 記録を争う競技では「新記録」が出た場合にはボーナス点を与える。
- (3) 個人競技と団体競技の得点に格差がある。個人競技では1位-8点・・・8位-1点を2倍にする。
- ・都道府県によって実業団の有無に代表されるような、選手確保環境の大きな格差がある。だからこそ、「すべての 競技に参加できる体制」において、競技得点で純粋に競技力が争える国スポが最もわかりやすく、スポーツの原理 にかなっていると言える。

都道府県単位ではなくブロック単位にすることにより、相互の連帯感が生まれブロック内の競技力向上につながる のではないか。

成年種目は競技得点に加え、個人の所属歴(育った都道府県)に応じ、得点を配分する。得点の配分は、その県の 競技者登録数の全国登録数との比率割合にて決められた得点とする

配点差を小さくする

各都道府県の総人口に占める各競技団体の登録者数を割合で得点とする。

総合成績で競うのは地域差がある。(特に冬季競技)

個人競技の得点を、もう少し上げるなどの検討も必要ではないか

ボウリングの場合、以前の競技種別(20,30.40.50以上)の4人構成での個人戦、団体戦

年齢別に点数を変化させても良いのではないか

個人戦の成績の得点化。

出身地(県)と出場県の按分率を基本的に決めておく。場合により、選手の申し出により按分率を変更できるようにすることも考えられる。

冬季大会は、冬季大会で総合成績を決め、本大会は本大会での総合成績を決める。

現行の種目ごとの得点は8位までとなっているが、出場チーム数や出場人数により9位以下についても点数化することにより活性化が期待できるのではないか。

個人の所属歴に応じ、得点を配分されると、ベター。

開催地代表が勝ち上がることは現地の盛り上がりに貢献するが、選手が不利な立場に置かれるべきでない。トーナメント抽選も公開して公平に行うほうがよい。

常に上位の県がある一方、常に下位の県があるように思う。その原因がどこにあるのか、検証してみる価値はある。 原因が不公平である点については、見直すべき。

アイスホッケー競技については、大きな大学がある都会の選手は、ほとんどが北海道等の協議が盛んな地区の出身者である。例えば東京対北海道となっても、結局は中身は北海道出身者がほとんどである。現状の参加基準を見直し、純粋に各県の出身者で構成する、もしくは県外出身者の人数制限を設けるなどして地域格差をなくしていく。

成年種目で、選手の所属歴(出身都道府県)に応じ、得点を配分。

団体競技と個人競技の点数配分の差を縮めて欲しい。

本大会と冬季は分ける

種目別の総合成績だけを決めればよいと思う。

多くの競技種目があるので難しいが、検討いただきたい。

オリンピックに準じて、団体、個人の点数制を廃止し、メダル取得数にしてはいかがか。

種目別順位だけでよい

シンプルな得点方式とする。(統一された参加点と競技点など)

総合成績自体を撤廃

競技間の格差の均衡を図る

個人の所属歴を得点化し反映させてはどうか。

開催地がシステムなどを開発しより早く知ることができるように

開催地フリーエントリー方式の廃止による公平な得点方式を採用する。

冬季競技の場合。雪国県が勝つのは当たり前。雪なし県には参加得点増やすべき。現状は開催前からアンフェアな 得点方式です。

リアルタイムの順位の可視化が必要であることから、メディアを利用する。

開催県のフルエントリーを取りやめ、純粋に競技の入賞得点(8位まで)のみで集計する。

算出方法として、現在は競技人数にウエイトをかけているが、地域人口・競技登録者にかける。

WG での意見にもある様に、『競技得点に加え、個人の所属歴(育った都道府県)に応じ、得点を配分する。』ことも良い考えだと思う。

小規模県は、いつも最下位に近い成績であり、あまり総合成績を大きく報道してほしくない。

競技間の不公平感のない得点配分にするべきである。

オリンピックを参考にして

県人口割

種目の成績と所属先を優先的に公開する(学校や企業の名前を宣伝)

獲得得点の区分をもう少し大雑把に分類する。アーチェリーでは、個人入賞しても得点にならないので、個人戦の 結果にも得点を取り入れてほしい。

各競技レベルでは必要だが、都道府県はやめてもよい。

各競技ごと決まる順位に応じ、47都道府県なのでブロック予選会がある競技においても得点を与える。

1位 47点 2位 46点 -----46位 2点 47位 1点

本戦に出場できなかった場合は、ブロックでの順位により下位点数を配分する。

1個人得点割合を上げる。2人口割で得点を換算する。

8位以下にも順位により得点を与える。

- 1. 競技登録者の多寡(底辺の厚い競技と薄い競技)を考慮して、得点にウエイトをつける
- 2. ブロック予選・県内予選大会参加者数も考慮して得点ウエイト配分をつける。
- 3. 決定方法ではないが、総合得点・競技得点の算出方法をもっと広報して欲しい。

開催県に得点配分を増加する

ふるさと選手(小・中・高)の出身地域を考慮し、住民票などを移しても出身都道府県で得点が加算されるなどの システム。

競技登録者数をウエイトにするのはひとつのアイデアだと思う。関係人口が多い方が関心を持ってくれる県民も多いと思われる。

得点が参加点だけでなく1回勝ったところは、点があった方が良いから。

競技人数での得点配分を見直す(年によって競技ごとに得点配分を変動させるなど)。

競技登録者が多い種目は高得点にする。

個人競技で1位が8点→団体競技との点数の差を減らす

賛成ではないが総合成績自体が不要と考えている(上記)

出身高校でふるさと登録している場合は、ふるさと得点(人×何点)等を設け、競技の得点に加算するもしくは減点する。*純粋な地元、就職しているなどは配点が高いなど。

競技人口または、県民人口を考慮した係数を導入。

やはり大都市や競技力の有る県が勝つのは至極当たり前であり。トップ選手を招聘し、就職してもらいその選手が その先地域を活性化してもらいたいから。

競技ごとの順位のみで十分

選手出身地への点数配分等、一部内容変更したらどうか

少年については、中学生までに所属した県にも得点を与える。

・各種目における中長期的な選手の普及、強化など評価点をプラスする。

競技によっては、開催県に関わらず、毎年固定施設で実施する。

国体の順位を気にしている人は一部の人で、ほとんどの県民は身近な人が出場して活躍している姿に感動し勇気を もらっている。

どちらかといえば賛成だが、良い案が思い浮かばない。

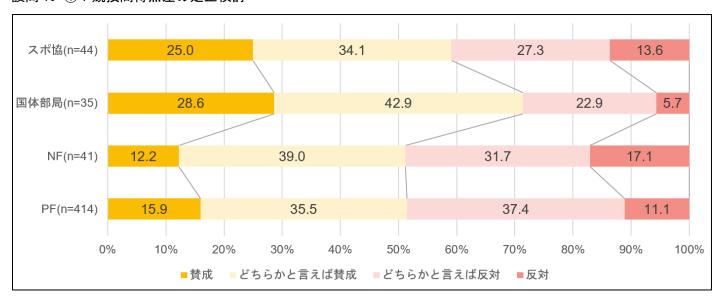
現在の国民体育大会の競技に加えて、既存の都道府県競技大会、例えば駅伝、野球、サッカー等の可能な限りの競技を評価対象とすることで、都道府県対抗の意義があるのではないか。

- 〇人口比に得点を換算して順位を決定する部門。〇少年 B、少年 A、成年部門の得点を評価する順位部門。
- ○陸上でいえば、新記録を出したら+5点とかの得点計算の方法を考える。○健康寿命長寿県の表彰も一緒にする。
- ○スポーツ指導資格所有者総数なども表彰する。○以上の項目の総合でも表彰する。 など
- 参加点は本国体に出場して獲得(現行はブロック予選参加で獲得)
- ・獲得点数を傾斜配分とする(現行では均等配分)

(例:1位15点、2位10点、3位7点、4位5点、5位4点、6位3点、7位2点、8位1点)1~4位には点差を設ける

総合成績は出さない

設問 19-(1): 競技間得点差の是正検討



グラフ:競技間得点差の是正検討

設問 19-②: 具体的なアイデアや意見

(①で「賛成」または「どちらかと言えば賛成」と回答の方を対象)

●スポ協

個人競技または団体競技の得点を見直す。

競技ごとの成績のみがよいと考えています。

上位8位は賞状とポイント。9位からは段階ごとに少量のポイントのみを与えるなど。

得点の是正。参加条件も見直す必要がある。

競技間の得点格差を是正するか各競技の総合順位を得点化し合計で順位を決定する方式を検討してほしい。

個人競技や団体競技に関わらず、1競技あたりの総得点を均一にする。

個人競技、団体競技ごとに、得点の調整をしてはどうか。

実施種目の精査や得点配分の見直し。

現在、3・5・8倍の得点設定となっているが、5人以上も上限5倍得点ということにすれば、多少は改善されるのではないだろうか。

●国体部局

・競技別天皇杯順位、競技別皇后杯順位をそれぞれ合計して、天皇杯順位、皇后杯順位をつける

団体競技では人数により得点が決められているが、団体競技の人数による得点配分を5人以上は8倍得点とするなどの見直しが考えられる。

競技(種目)間の得点格差(いわゆる○倍点)を廃止したりして、是正する。

リレー競技の扱い等

全競技、全種別において、全て同一の点数を設定する。

競技人数により点数が違うが、人数に関係なく順位(1 位~8 位)によって点数を配分する。

競技ごとの点数はどの競技も同じにし、競技の中で各々に細分化など。

オリンピック等のようにメダル数のカウント

個人競技の出場枠を増やし、競技得点も増やす。

選手の数だけでなく、出場枠も加味した点数にしてはどうかと考える。

WG の意見のとおり。極端かもしれないが、団体競技も個人競技も同得点。少年種別の得点配分の増。

団体競技における競技得点(3倍・5倍・8倍)を、緩やかに是正

団体競技を2~4人と5人以上の区分のみとする。※2~4人区分:1位24点(2位以降-3点)

※5人以上区分:1位40点(2位以降-5点)

NF

単独スポーツの優勝数を勘案する。

各競技ごとの総得点を同じにする。

男女混合種目を新規に採用し、得点は男女に案分する。

・原則として、都道府県対抗分の得点はどの種目も配分は同じにする。・一種目内で種別がある場合は、種別ごとの 得点は競技団体で定め、種別得点のトータルで順位を決定して、都道府県対抗分の得点を配分する

国体競技得点が大きいのであれば個人競技得点対象者を12位までにする

団体、個人の得点比率を変える。

成績に対して得点を付与する方式ならば、18-2と同様の考え方でよいではないか。

得点数は全競技共通

団体、個人と2つのみ。全ての競技に例えば100点均一を与え、競技ごとに点数を割り振る。

平等な点数配分、若い世代に受け入れられやすいシステムの導入

● PF

個人の活躍に点数をつける方法団体戦 3対2 3点取った方が勝ちになり10点とかが総合点に入る。そこを3点取った方に 10点÷5人=2点勝ち3点×2点=6点 負け2点×2点=4点。勝ったチームがもらえる点数を参加人数で割り負けたチームにも参加点以外にも点数が入る仕組み。

オリンピックと同じように、個人競技も団体競技も同じ得点とする。

入賞得点は、全て同じ

大会ごとのポイント評価を実施

各競技の総得点を統一し、各競技ごとに種目得点を設定する。

一から見直す(ブロック予選も含めた競技参加人数 優勝と 5 位との差 個人と団体の差など)時期に来ているように感じる

4年ごとに是正したらどうか。

種目に関わらず、1位から8位まで固定得点とする。

5人のチームでの1点と1人での1点の問題チーム1人共に1点ルールーを作りで決めるしかない

それぞれの個人やチームが優勝、入賞した、という事実だけでもよいのではないでしょうか。

競技の総得点を種別数で割り、その値を同じにする。

正選手5人編成の団体競技と、11人編成の団体競技を同じ点数とすべきである。

競技成績のみの制度にする。

点数配分をどうすれば良くなるかをシュミレーションして得点を決定する。

得点差がどの程度あるのか、認識していないので良くわからない。競技種目によっても違いがあると思う。

個人競技と同じように1団体での計算

各競技種目ごとの順位を決め、その順位に従って各競技共通の得点を配分する。

競技単体の総合でいいと思う。

過去の成績データを分析して成績が特定の都道府県に偏重していないか、またその主要要因を開示したうえで判断したい。

総合成績を廃止し、競技別成績のみとする。

前述したように、総合成績に必要性を感じておらず、競技後との成績でよいので、競技の得点格差は必要ない。

団体のみの得点で、例えば陸上競技であれば今までの得点制度で、総合 1 位が 100 点 2 位 90 点 3 位 80 点・・・・、 ソフトボール競技では、全種別での総合得点で 1 位 100 点 2 位 90 点・・・・、レスリング競技でも全種別での総合 得点で 1 位 100 点 2 位 90 点・・・・と単純ですが、今までと変わりがないかもしれませんが・・・

1チームの構成人数は、競技種目の競技規則、競技施設規模、競技時間等により、種目間で大きく異なっている。 例えば、弓道は3人、サッカーは11人であり、同順位であれば、サッカーの得点が多い。この人数を変えることは 不可能であり、団体競技の得点が1チームの構成人数によって異なるのは問題である。

個人種目の配点を上げる。

リレー種目は4人参加しての実施なので得点を倍増や4倍増などできないか。

競技別に1-3位に賞(メダル)を送るのみにする。

総合成績は不要という考え方もある。格差による得点ではなく、順位による得点で統一するのも良い。

団体競技にとっては、どうしようもないことである。

(1) 記録を競う競技では「新記録」が出た場合にはボーナス点を与える。(2)個人競技の 1 位—8 点····8 位—1 点を 2 倍にする。

大きな差が出ないような得点方式の導入.総得点は大きな差が出ないように決め団体種目の得点は競技毎で決める。

「すべての競技に参加できる体制」において、競技得点で純粋に競技力が争える国スポが最もわかりやすく、スポーツの原理にかなっていると言える。これが実現できたい上で、団体競技と個人競技の得点は、同等なもので不都合はない。

団体得点は、一律にする。

総合得点の廃止。

実際に、現行の得点と、1・2・3位を、3・2・1点、又は5・3・1点などとした場合の総合得点、順位は変わるのだろうか。

団体種目がない競技の個人得点は、現行よりも上げる。

団体競技と個人競技の得点差が多きい

各競技で順位をつけ、総合成績にその点数を付けるのではなく、総合成績ポイントに換算し集計すればよいと思う。

競技間の得点差は小さいほうが良いと考える、均衡化を図る

得点の基準を細分化する。個人競技を基準として団体競技に当てはめる。

得点をやめる。(各競技の順位のみでよい)

個人競技の得点を、もう少し上げるなどの検討も必要ではないか

個人競技の入賞者を増やしてはどうか。順位を1位~10位までとし得点も10点~1点にする。

団体競技は、すべて同じ点数にする。

競技ごとの総合成績・順位として、全競技での男女総合成績(天皇杯)を廃止する。

強化費の公平性を考え直す必要があると考える。

総合得点制はなくてもよい。

選手数により平均的に算出

レスリングは国体では団体戦がないため

参加するだけで得点を得ることをやめる。サッカーでも100m走でも同じ点数にする。

得点を NF 団体毎に平準化する。種目得点は NF からの意見を参考にし現在極端な得点差を是正する。

オリンピックに準じて、団体、個人の点数制を廃止し、メダル取得数にしてはいかがか。

種目別順位だけで良い

シンプルな得点方式とする。(統一された参加点+競技点など)

各競技の総得点を等しくすることでバランスは保てないのでしょうか。

全体的な統一感のある配分を検討して頂きたい。

各競技得点の大枠は一律とする

個人種目における在県歴加点で、団体種目との得点差を縮め、不公平感の解消につなげてはどうか。

団体競技・個人競技の得点の差を縮めていく。

団体・個人の垣根を払拭し得点を同数にする。

開催している全ての競技において、団体戦・個人戦問わず、現在のポイントを団体戦は出場正選手分、個人戦なら そのままを与えるように統一してはどうか。

- ・個人競技、団体競技関係なくすべての競技の点数を一律同じにする。
- ・点数に差をつけるならば、どんなに人数に差があっても点数の差を倍以内におさめる。

個人競技種別の得点アップによる競技団体種別の均衡を図る。

地域性を考慮したうえで競技人口が少ない競技、個人競技の取得点数をあげる。

個人競技と団体競技を同列で配分するのは難しい点があるが、不公平感をなくすことは必要だと思う。

上位8位までではなく、上位20位まで付与するなど競技参加に対する実感を持たせた方がいいと感じる。

20位までだとどの県も現実的に狙える順位となり選手のやる気が変わる。

優勝までの対戦数に対応した得点分配

その競技の総合順位を得点化する。

団体競技の得点は一定としてはどうか。

各県全種目参加となれば公平になる。

個人戦成績も得点に加算する

団体戦の獲得得点の区分をもう少し大雑把に分類する。

競技人口や参加人数によって変動させる

総合成績の撤廃。

競技間の得点は競技順位に反映し、総合点へは上記の1位・47点からとする。

競技間の配分得点を均一にしてはどうか。

個人と団体の配点の差が大きすぎる(逆に言えば、団体さえ力を入れればある程度上位に行く)

個人競技・種目は団体の点数と同等程度の割合まで引き上げてもよいのではないか。

個人種目の貢献度が高くなるほうが競技力向上やモチベーションの向上につながるのではないか。

- 1. 競技登録者の多寡(底辺の厚い競技と薄い競技)を考慮して、得点にウエイトをつける
- 2. ブロック予選・県内予選大会参加者数も考慮して得点ウエイト配分をつける。
- 3. 決定方法ではないが、総合得点・競技得点の算出方法をもっと広報して欲しい。

個人を少し増やしてはどうかと思う

- ①競技人数に合わせて指数関数的にウエイトを付ける。
- ②若年で優秀な選手が他県に進学するケースが多い。小中高年代に育成した県に、育成ポイント(ふるさとポイント)を付けて欲しい。(例 25歳以下の選手やその所属チームがポイントを獲った場合、nポイントを小中高年代で育成したそれぞれの県に付ける)育成の活性化につながる。

前記の通り.競技に得点差をつけるのではなく、全ての競技の得点を同じにする。

得点設定が低い競技を2~3倍の得点に設定する。

参考までに、得点の改正案を添付する。相撲競技に関して総得点が変わらなければ異議は出ないのではないか?

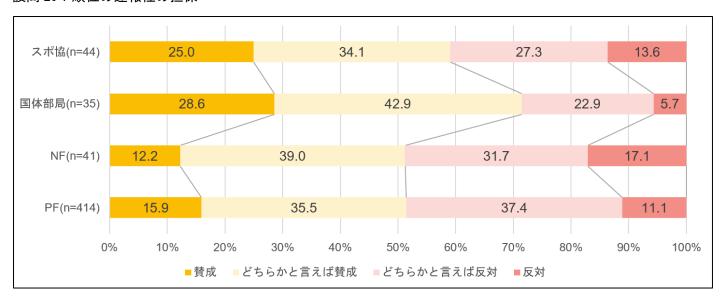
競技内で、個人種目だけでなく団体種目を増やす

団体競技の得点を一律にする。

競技の普及を目指すのであれば、競技人口が少ない競技の総合得点が多くなるようにする。ただし期間を限定する。

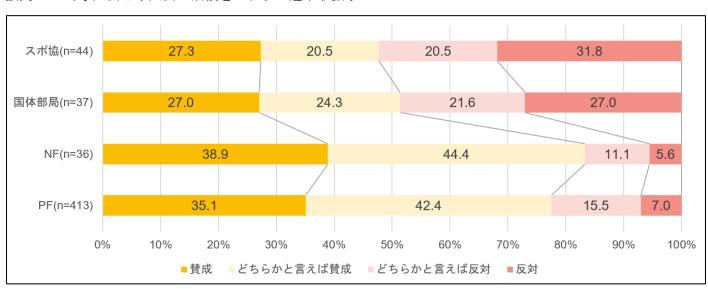
得点配分比率の見直し・1~4人種目1倍、5~9人種目2倍、10人超3倍

設問 20:順位の速報性の担保



グラフ:順位の速報性の担保

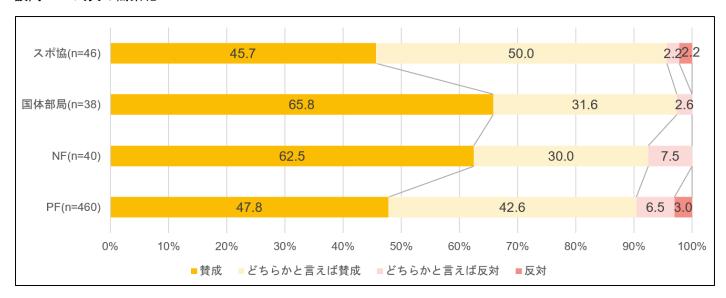
設問21:冬季大会と本大会の成績をこれまで通り取扱う



グラフ: 冬季大会と本大会の成績をこれまで通り取扱う

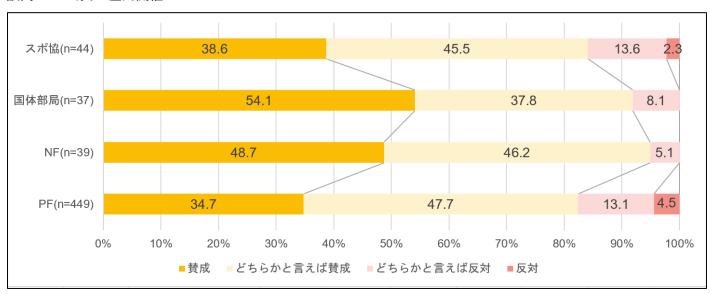
<総合開閉会式>

設問 22: 式典の簡素化



グラフ: 式典の簡素化

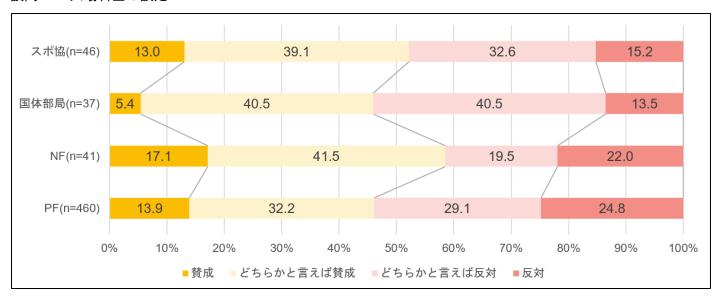
設問23:式典の屋内開催



グラフ: 式典の屋内開催

<大会経費>

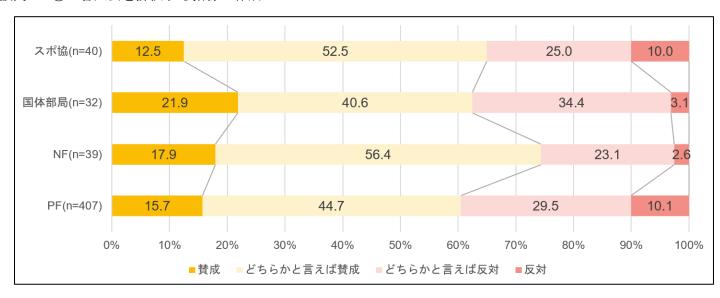
設問24:入場料金の設定



グラフ: 入場料金の設定

<大会評価指標>

設問 25-①: 各大会を評価する指標の作成



グラフ:各大会を評価する指標の作成

設問 25-②: 現時点で評価すべき指標等

(①で「賛成」または「どちらかと言えば賛成」と回答の方を対象)

●スポ協

開催県民の満足度を表す指標が重要であると思います。

特に経済効果と施設整備はスポーツ産業にとって重要だと思う。

これからのスポーツは、ガバナンスコードにも沿って開催するため、評価は必要である。より応援される国スポに するためにも自己評価を含め必要と考える。

・参加者満足度アンケート・選手強化計画(開催県競技団体向け)・観客動員数及び経済指標

選手強化、経済効果算出、施設整備、式典構想、国体レガシーなど

上記の内容を基本に、国体開催後も複数年評価できる指標すればよいと思います。

国体レガシー、開催することによって、地域のスポーツ振興にどうつながるのか。

・観客(家族以外)の入場率・配信の視聴率・開催都道府県民の関心度(人口等との比率)

●国体部局

国民のスポーツに対する関心や実施頻度

- · 経済波及効果 · 施設整備
- ・開催都道府県の運営体制・能力に対し支援が十分か。・レガシーについては、開催〇年後といった長期間で測る必要があるのではないか。

選手強化に関わる指標

①国民のスポーツ参画人口②大会経費と経済効果の比較、開催県の大会前後のスポーツ参画人口の比較

各選手の人流の増減 コロナ関連

経済効果。

県民のスポーツへの関心、競技力向上、経済効果など

ライブ配信、視聴率、検索率

会場の動線等の運営等。

観客数、メディアの視聴数。

大会後の開催県の各種目の競技人口動向競技会で使用した施設の大会後の使用率動向

例えば開催後に、どのような影響(プラス面とマイナス面)を与えたか、フリーアンサーだけではなく、数字による段階評価を記載する、などの指標は必要かと思います。

県民の参加割合、競技参加人数、観戦人数、持続可能な大会内容報告、環境整備など

・国体に対する県民のレガシー及び大会競技運営が良くできたかの評価・各競技の観客動員数可視化・スポーツ少年団等の活用

スムーズな進行で盛り上がる大会。

開催県以外の選手・役員、先催県と後催県の視察員を対象とした満足度調査等。

前項25-①に記載された項目の他に、選手団受入、競技会運営、宿泊・輸送など。

経済効果。これが明確になることにより、後催県の開催意欲が高まるのではないか。逆効果となるリスクも孕む。

選手強化、施設整備、式典構想、国体レガシー、観客数、開催地学校との係わり、開催地とのコミュニティ、開催県 競技団体とのコミュニティ

五輪においても IOC はチケット販売数、WEB 試聴率など分析しています。弱い部分が補完できる材料となれば良いと考えます。

JSPO、自治体、NF、それぞれが異なる評価基準を作るべき

競技の普及度、環境への配慮、人員の削減度国体レガシー 施設・設備のハード面と選手・指導者スキルといった ソフト面

●PF

開催経費、選手強化費

·大会経費 ·参加選手層 ·観客席占有率 ·観客満足度

競技団体としての大会の目的の提示とその自己評価 観客へのサービス 観客数 安心安全を確保した大会運営全般 会場の快適さ 大会価値を高める工夫努力 事前事後も含めた広報活動 地域と連携した地域 PR 活動の設定

競技普及のための取り組み

経費(か何か)の上限を定めること?

大会開催後中長期的な視点での評価も必要だと思う。目的の一つ普及発展については直後の短期的な評価ではなく中長期的視点で、その後の競技種目の継続性や選手・指導者の育成がなされているかどうかなど、多方面からの評価も必要。

競技場、競技運営、観客席数、トップアスリート参加者数

県内競技人数の推移、開催地市町村への来訪者数、経済効果、施設整備・・・など。

経済効果、競技施設の後利用、開会後の開催県の住民・競技団体に対するアンケート結果

国体のレガシーについては、令和7年国体を控えた滋賀県において、国体を契機としたスポーツ振興や地域の活性 化を目的とした全国調査を実施し、『わたしたちのまちのスポーツ調査成果報告書』を作成した。その報告書に、国 体種目が地元地域に定着し、スポーツ振興やまちの活性化につながったと判断される(国体のレガシー形成)特徴 的な5市町が報告されている。その一つに木曽町(旧木曽福島町)の相撲が報告され、現在も町に相撲が根付き、文化となっている。調査に協力したことにより、改めて国体の目的と木曽町が国体を契機とした取組と成果を振り 返ることがでた。そして、報告書は、次代へつなげる貴重な資料となった。国体の目的を評価することは、大会、競技種目、地域の活性化を持続可能なものにすることができると考える。

スポーツ基本法の理念を軸に検討すべきかと考える。

施設整備に対する選手の評価、競技会場の立地や周辺環境に対する評価、配宿に関する評価は項目に反映いただきたい。

各競技力のレベルの高さや素晴らしさ・感動など

施設整備や各競技会など、国ス開催全体で金銭的にいくら掛ったのか。競技内容。参加人員は適正であったか。

以後のスポーツ振興。参加人数等向上したかどうか。

数字はないが各競技団体として施設整備費と数十年後の経済効果、競技力を考えると価値がある(施設が活用されないと価値が下がる)

京都府競技力向上対策本部作成の『京のアスリート育成・強化推進事業』です。

経済効果等、開催地のメリット・デメリットについて。

選手強化、経済効果算出、施設整備、宿泊施設状況

大会費用、施設の持続性、観客数

競技団体としての評価は成績、得点である。

各試合で、参加チームが試合にかける費用(参加費、交通費、宿泊費、食費、保護者の費用、その他費用)を算出し、 その施設が生み出す経済波及効果を調べていくことが大事ではないか。

*地元スホーツ活動の活性化(選手強化)*経済効果算出(補助金申請に必要)

開催競技関係者の地域貢献度(事務局、選手、スタッフなど)大会に関った人材が大会後にどれだけ、地域貢献しているか(具体数値案 模索中)

・選手強化(国際競技力の向上)、経済効果算出(効果だけでなく、かかる経費の負担面の考慮)・施設整備、国体レガシー(国体後の活用の方向性)・実施競技の普及性、スポーツ実施機会の向上性への寄与

獲得得点

観戦者の満足度、競技会場の環境衛生

国体評価の指標(選手強化、経済効果、施設整備、式典内容)

各中央競技団体が評価すべき

国体だけでなく五輪や世界選手権、全日本選手権等での好成績を出すこと

選手の強化、経済的効果等

観客の入りや開催県の参加者の数など。

選手強化及び競技人口の増減

特に経済効果算出、施設整備。

あくまで選手中心の大会、競技の発展に寄与できる大会を目指すため

選手強化、費用対効果、経済効果、安全面、受け入れ態勢、等々。振り返りのないところに発展はないことは明白。

どれだけ盛り上がったかとして、見にきてくれたお客様の人数を指標の一つにして欲しいです。

経済効果算出

どれだけ多くの国民に関心をもたれたかは重要だと思います。観客数や視聴率、ネットのアクセス数などを評価に 盛り込めるといいと思います。

運営・選手のみならず、観客や地域住民に満足度を聞いてみては?

地域の関心、参加者の満足度

ブロック大会成績推移

毎年の結果を比較することができ、今後の強化の施策指標となる。

一般市民向けに考えれば、経済効果算出を実際に出すことが分かりやすくてよいと思う。選手に対しては、実際の 大会の運営や会場の施設に対する評価をアンケートで行うなどの形になると考えられる。

経済効果算出は外すべき。規模縮小と逆行する指標。アスリートの満足度を最大の指標とすべき。

準備期間・予算・結果等を数値化し成果を評価する

大会運営・参加人数

施設整備等の支出に対する経済効果各施設のレガシーと管理費用予測

大規模な大会を開催していただき、出場させていただいているものとしては、しっかり評価を受け、成果と課題を しるべき。

競技団体としては競技成績が第一、競技会運営能力については具体的な指標は無い。

資金面、動員、経済効果、など多岐にわたるため即答できない。

オリンピックでもそうですが、国民全体がみんなで一丸となって参加することへの興味関心を持つことが薄れている現状において、いかに持たせるかが必要だと考えます。

大会運営状況

開始した、年度は強化金がでて、選手強化に役立ったと聞いている。

普及・振興への貢献、選手育成、開催地への経済効果、競技施設の大会後の活用等

経済効果・選手・観客によるアンケート等

経済効果の算出は、肯定的に発表できれば意味があると思う。また、選手のパフォーマンスが最大限に発揮されるために、開催地の準備等がどの程度整っていたのかというような指標であれば、次回以降の開催地にとって参考になるので必要であると考える。

観客動員数や競技人口などを勘案する。また、オリンピック種目か、そうでないかによっても評価は変わってくる。

運営能力(会場・審判・選手の満足度)など

開催後、少なくとも5年間くらいの成績

入場料を取ることになった場合の入場料収益を評価すべき指標と考えます。

経済効果の算出

県の指導により、今大会の分析と次年度国体へ向けた強化ヒアリングを行っている。

大会評価指標とは?わかりません

観客人数、競技選手による評価(アンケート)

開催費用が少ない。事故・犯罪がすくない。

各地域への貢献度(スポーツへの関心度や経済効果)

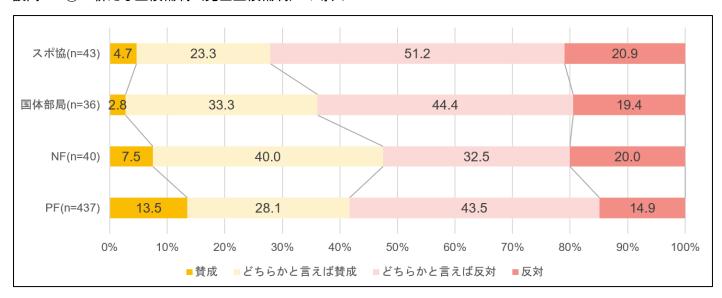
同一都道府県で少年の部、成年の部の両方で代表になった選手の評価。

○人口比に得点を換算して順位を決定する部門。○健康寿命長寿県の表彰も一緒にする。○スポーツ指導資格所有者総数なども表彰する。他に、○子どもの体力テスト○県のスポーツにかける予算額の割合

全体運営、実施・宿泊施設、競技運営、メディア対応、メディカル関係、広報、渉外など

大会ごとに指標等は変えればよい

設問 26-(1): 新たな立候補制 (完全立候補制) の導入



グラフ:新たな立候補制(完全立候補制)の導入

設問 26-②:新たな立候補制(完全立候補制)を導入するうえでの条件

(①で「賛成」または「どちらかと言えば賛成」と回答の方を対象)

●スポ協

運営経費の大部分を補助するようの開催インセンティブが必要だと思います。また、施設整備費の補助があれば、 立候補が増えるのではないでしょうか。

国の予算増額

競技施設、宿泊施設が整っていること。(宿泊施設については、例年の人数を収容可能)施設が整っていなければ事故の元になるため。

・開催エリアやエリア内の輪番を設定する。・持ち回り制に立候補制を加えた形式で、立候補する時期や隣県との合同開催など、開催県の実情に合わせて柔軟に対応できる体制を整えていただきたい。

立候補の目安となる基準(準備期間のプロセス等)を示すことが必要ではないか。

立候補した都道府県に対する、国並びに JSPO の経済的支援が必要。

・施設整備・新設・建設に助成金がある。・例えば toto 等から開催する県に選手強化費が出る。・何かメリットがないとなかなか立候補は難しいのでは?

●国体部局

開催県・市町の経費負担を見直し、国および日本スポーツ協会、中央競技団体の経費負担を検討するとともに、大会全体の簡素化を図ること。

選手の安心・安全を保証できる医療体制や宿泊設備、競技施設、交通手段が確実に確保できること。

立候補を行う上でのインセンティブを確保すること。

競技施設、宿泊施設が整備されていることが必要であると考えます。

連続開催は上限年数を設ける。

国からの財政措置、人的措置など開催地としてのインセンティブを導入すべき。また、運営については開催地の負担を極力減らして、中央競技団体が主体で行う等の仕組みに変更すべきと考えます。

NF

1巡するまでに2回まで開催できるなどの条件をつける

競技を開催出来る条件が揃っていること。

極端な大都市に偏らないかは注意して見ていく必要がある。公平に審査する仕組みが必要

開催の必須条件や選択条件の策定と公開。

・財政的に豊かである。(施設整備などの対応が可能など。)・競技施設が充実している。(整備の必要がない施設が 充実している。)

開催地枠もあるので、順番を担保する仕組みなどが必要と考える

地元の理解が得られる。

競技施設を多数有する都市を中心にその近県の市町村を取り込んで開催すること(立候補)が会って良いと考える。 施設のないところに多額の費用をかけて任せるよりも経済的。

全種目がその都道府県で開催されることが望ましい

宿泊施設数の充実。立候補都道府県競技団体の体制。

すべての競技が期間内にできること。十分な宿泊施設もあることなど。

開催する(立候補する)ことの意義を明確にしていただくこと

財源の確保(スポンサーや国からの援助)。意欲はあるが、財源を確保することによる断念は避けたい。

●PF

順番を担保してほしいのと、やはり前回開催時期からの年数をある程度考慮に入れてほしい

施設と人員

開催後の立候補禁止期間の設定。

立候補地の負担割合

選手が競技に集中できる競技施設、宿泊施設、交通網など。

開催した都道府県が一定期間、立候補できないようにする。若しくは、他の都道府県が立候補した場合は、開催県の順番を定めておくべき。

・競技を無理なく行える施設か。・地元市町村の同意、協力があるか。

今後持続可能に運営できるところ。

ブロック分けを行い、ブロックごとの持ち回りとして、ブロック内での立候補制

競技団体の意見をしっかりと組み入れる姿勢が必要。競技役員や補助員がいない地区で開催しても仕方がない。

開催県や開催県競技団体に対する確実なメリット(補助金その他)をどう提示するか。

立候補する県がない場合。一定地域に偏らない工夫が必要。

ブロック単位かつ複数県で実施。

すべての競技を開催でき、宿泊施設数が多いこと

各都道府県の得意競技の誘致や、充実した競技設備を有する都道府県が競技別に立候補するのも、運営側、参加側 双方にメリットがあると考える。

開催県は、どのような大会にするのか。独自の「特色やテーマ」を決定し、アピールしてもらいたい。

費用・環境・宿泊施設・交通機関の充実等を考慮して導入する

一つの都道府県に負担が集中しないように、北日本・中日本・西日本などの地域や各ブロックの中での立候補制ということにする。立候補がない競技種目も出てくることが考えられるのでその場合は、その地域・ブロックのなかで検討する。地域の特性や施設での立候補については、複数年開催できることも選択肢として入れる。

持ち回り順番を大きく乱さないような立候補制の研究

単県からブロックでの立候補として分散型にして経費を軽減。

ブロック持ち回りとの違いが設問からは理解できないため回答不能。

競技場の設備が整っていること。

競技毎の開催及び開催時期決定

気持ち・施設・人員等、安定的に運営が継続できるところでするのが良い。

競技団体だけでは決定できないので、行政がどのように理解協力していただけるかになる。

大会補助予算

前回開催から何年以上などの間隔を設ける。

立候補制とする場合、連続開催ということにしない事

広域開催であれば

競技施設と運営する役員が確保できること。

既存施設によって活用できる条件が良いように思われる。

実際に開催が可能かどうかの計画書、プランを示すなどそうなると選定についても明確な基準が必要になるだろう。

ブロック地区での国体開催を実施して、ブロック地区内で開催県1~2県を候補として挙げて実施すれば良い次に回って開催されるときは前回と違う県で開催するようにすれば良い

競技が開催できる施設、設備や関係者が宿泊できる施設が十分にある。公共交通機関が十分に整備されている。

持ち回り開催は無くさなくても、立候補したい都道府県があれば優先するということでも良いのではないか。

国スポ開催から最低 15 年は立候補できない。単一又は隣県都道府県合同の開催であること。

今までの順番を考慮しながらであれば良いと思う。

公平かつ公正な選定がなされるよう、選定委員と評価基準を設定し、オープンにしてほしい。

開催県の特典(予選会無しの参加や、参加点等)の変更

競技ごとに国際標準の競技場を所有している都道府県を優先的に採用すればよいと思います。

競技関係者への負担が大きくなることは必須であるため、その負担軽減策をこうじて欲しい。

立候補条件の整備。前回開催との期間(近県開催実績)、施設整備状況等。

財源、施設の確保ができるか。宿泊施設の確保。

全国から集まりやすく、負担の少ない場所であれば固定化には賛成できる。

大都市や地域など偏りがないように配慮してほしい。

・基本的にはオリンピック候補地選考方式とする。・一定期間連続開催可能地域。(例えば1~3年)

施設、宿の充実。

持ち回りでの開催が困難な年に立候補制を採用してはどうでしょうか。

ブロック開催にしてほしい。

地域の発展につながるかどうか

立候補しやすい仕組みの構築・競技施設の統一(最低基準)

経済波及効果や財政の問題があるので、経済的効果が上向きの場合は偏って連続開催などは避けるべきではないか。

全競技、しっかりと大会を行えるだけの大会会場と、国体関係者すべての宿泊先を担保できるかどうか。

一度開催した都道府県は、ある一定期間(5年~10年?)は立候補できないようにするなど。

連続開催がないように、次回開催までの期間を定めるべきだと思います。

大会会場・宿泊施設等が充実している

過度な誘致活動につながらない、選考システムが必要かと思います。

競技別立候補制の実施

施設等が整備されていること。

全ての順番を付ける。

全種目開催

各競技団体レベルで回答することではないので理由の記載は控えます。

ある競技のローテーション維持は必要だが、意欲のある県の意向は最大限尊重すべき。

1 交通の便 2 宿泊所の余裕(旅館でもない民間宿泊は不可)

会場施設・宿泊施設・交通アクセス・天候・地域

何らかの圧力によって手を挙げさせる運用にならないこと。

開催の目的と効果をバイアスのかかっていない数値とエビデンスで証明すること。複数の立候補があった時の決定 方法を明文化しておくこと。公明正大に決めること。

宿泊予定の確保が出来るかどうか。

WGでの意見にもあるように順番を担保する仕組み作りが必要と考えます。

会場の確保、宿泊施設の確保、各競技の受け入れ態勢

近隣県を含めたブロック開催(インターハイのように)など

施設面、運営面など

ブロックの順番は崩さない

3年から5年などの複数年連続開催をする。

施設の更新、後生に使用できる物が残る(備品など)等の将来に向けての利点が明確になっていることが必要かと 考える。施設は自分の所でなんとかしてください、では立候補するところもない。

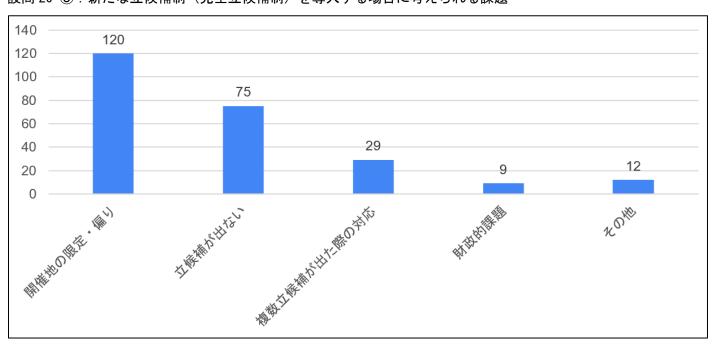
インセンティブは必ず必要だと思う

- ○県民の同意が60%以上必要などの条件。○開催のコンセプトが国スポのものにあっている。○競技規模の条件。
- ○健康寿命平均以上の県。(立候補するために健康寿命をあげる対策を考えるから)○スポーツ指導資格者の割合。
- ○環境に配慮した内容。など

競技設備と予算

連続開催とならないよう一定の開催間隔を設定する。

設問26-③:新たな立候補制(完全立候補制)を導入する場合に考えられる課題



グラフ:新たな立候補制(完全立候補制)を導入する場合に考えられる課題

●その他

手を挙げる期間の設定。(どのくらい前から手を挙げると準備できるのか)

仮設のスタンドや設備を使わないという条件と使用後の利用計画等を考慮すべき。

競技の運営主体は各競技団体であり、立候補について積極的に賛成協力する団体は少なく一体となった推進は困難

地元開催という郷土に対する思いの欠陥が懸念される

複数年開催の場合の最長開催期間や開催規模など、開催都道府県の負担軽減を検討する必要があると思います。

新たに競技施設を新設する場合のバードルが高くなる

経済波及効果や財政の問題があるので、経済的効果が上向きの場合は偏って連続開催などは避けるべきではないか。

立候補がない場合も考え、開催地の選定方法を明確に定めなければならないと思います。

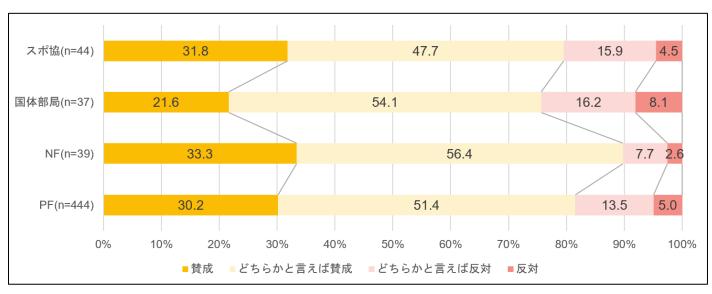
大会会場・宿泊施設等が充実しているか

ローテーション外の立候補県が出た場合、ローテーション維持をどうするか。

連続開催年数の制限

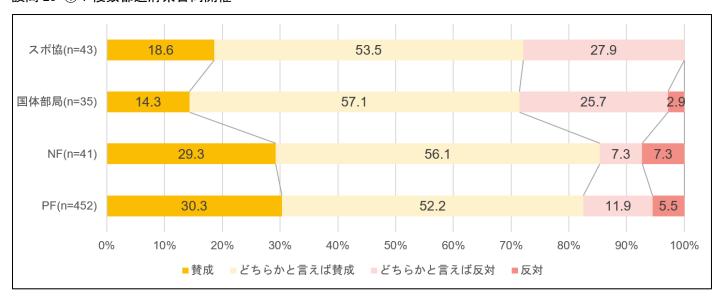
国体開催を検討する時、ブロックを考えないと、全国での開催希望の重複がわからないとか、準備を進める計画が しにくいことが考えられる。

設問 27:現行の持ち回り開催



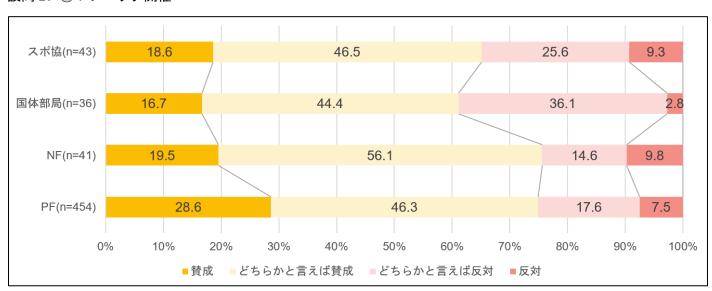
グラフ:現行の持ち回り開催

設問 28-①:複数都道府県合同開催



グラフ:複数都道府県合同開催

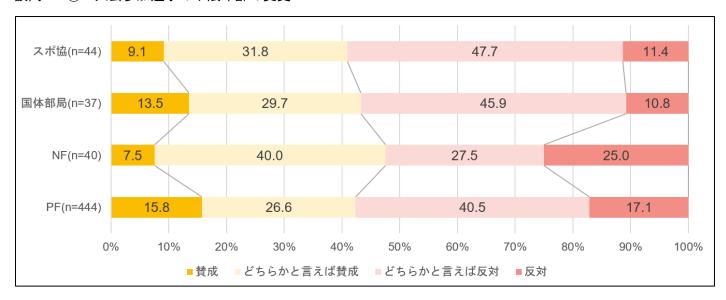
設問 28-②: ブロック開催



グラフ: ブロック開催

<参加資格>

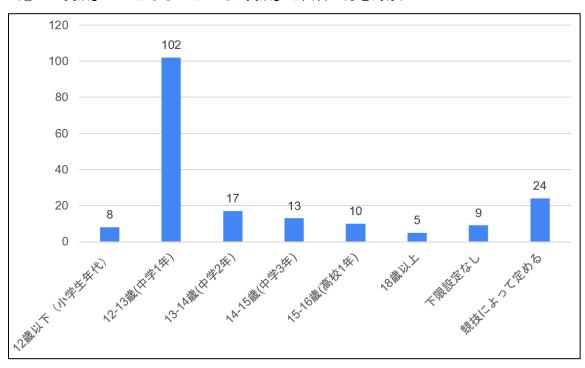
設問 29-(1): 大会参加選手の下限年齢の変更



グラフ:大会参加選手の下限年齢の変更

設問 29-②: 具体的な下限年齢(参考値)

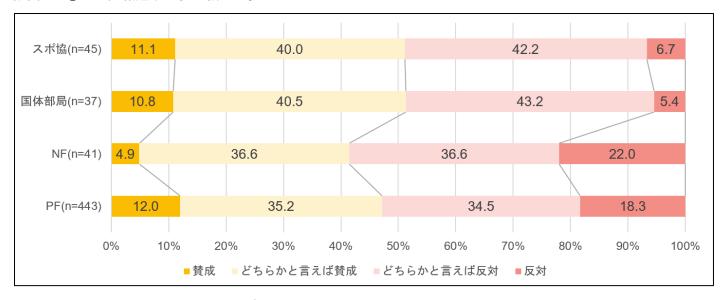
(①で「賛成」~「どちらかといえば賛成」と回答の方を対象)



グラフ: 具体的な下限年齢

※本回答では、少年、成年区分のどちらについての回答か、また特に「12歳」と回答した際の「小学生6年生年代を含む」12歳か、「中学校1年生年代からの」12歳か区別がつかないため、参考値とする。

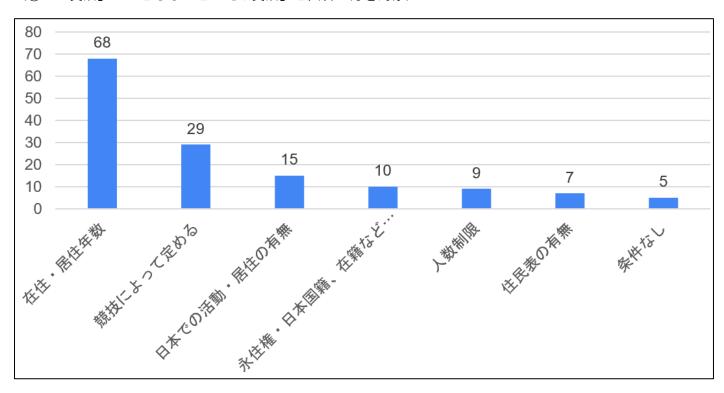
設問 30-①: 外国籍選手の参加機会の拡大



グラフ: 外国籍選手の参加機会の拡大

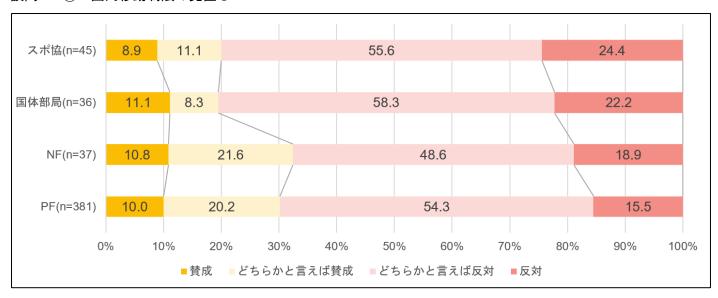
設問 30-②: 具体的な拡大条件

(①で「賛成」~「どちらかといえば賛成」と回答の方を対象)



グラフ: 具体的な拡大条件

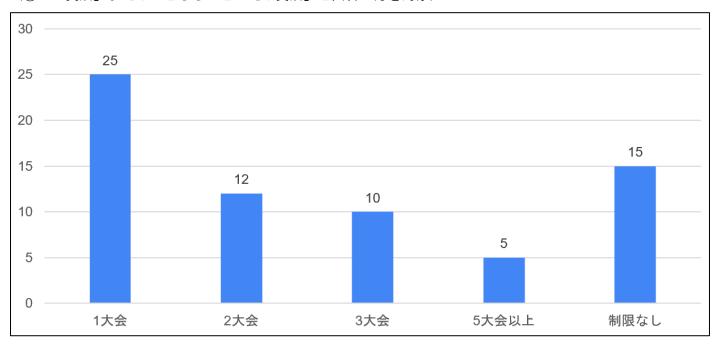
設問 31-①: 国内移動制限の見直し



グラフ: 国内移動制限の見直し

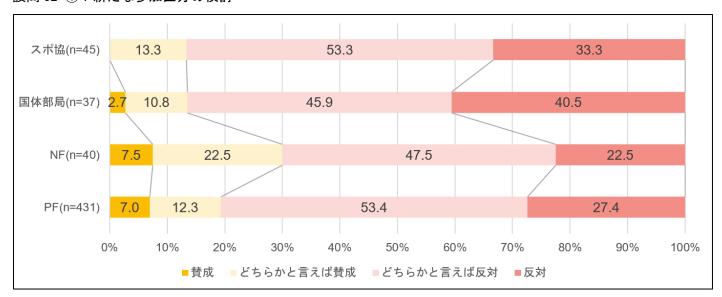
設問 31-②: 妥当と考える具体的な制限大会数

(①で「賛成」または「どちらかといえば賛成」と回答の方を対象)



グラフ: 妥当と考える具体的な制限大会数

設問 32-(1): 新たな参加区分の検討



グラフ:新たな参加区分の検討

設問 32-②: 具体的な参加区分条件

(①で「賛成」~「どちらかといえば賛成」と回答の方を対象)

陸上競技だと、日本陸連の所属都道府県から出場できるようにしてもらえるとスムーズ。

男女ミックス。

32-①で記載した事柄の実現策の一環として、総合型地域スポーツクラブチームの出場が促進できないだろうかと、検討したいと思っています。ボート競技会には「全国ボート場所在地市町村協議会」という連携団体があります。 公認ボートコースを持ち、市町村民によるボート大会を開催し、その優勝者による全国大会を毎年開催しています。 このため当協会では、同協議会を「ボート競技の全国普及の要」と位置づけております。

当協会方針である同協議会への支援の一環として、総合型地域スポーツクラブ内のボートチーム設置・編成の促進 につながる策を検討しておりますが、当然、国スポの歩調に合わせて進捗していく考えでおります。

都道府県代表で全県参加。

40歳以上の参加区分を設けることで生涯スポーツの活性化を図る

大学生は大学所在地でも良い。所属クラブの所在地は、保護者の同意を得た少年のみ認める。

男女混合

大学の所在地。

ふるさと制の緩和

大学の所在地、主な所属チームの所在地

・《小5~中2》男女・《小4以下》男女

所属都道府県の競技団体に登録していること

成年区分が最低年齢を引き揚げれば良い。

現行は、成年と少年だけであるが、小学生や壮年の種目・種別を設定する。スポーツの振興・発展のためにも、これからは幅広い年齢が参加できるようにするべきである。

思い切って全選手ふるさと(中学校または高校卒業の都道府県)での出場とする。

所属クラブから出場できれば、全日本大会と、同じ選手団が作れる。

居住制限の緩和

各都道府県代表は残したい。

成年区分の中に、30歳以上、50歳以上の区分

現状の「成年」「少年」の区分をなくし、競技の特性に合わせた区分にする。全競技の統一した区分は無くす。

複数ノミネートされても最終判断は競技者による。その選択肢が増えることには賛成する。

成年を二つに分けて、成年と壮年との区分に分け、35歳もしくは40歳で区分けしてもいいのではないか。

大学の所在地

大学生は出身県のみで参加する

現在のふるさと登録の一部変更例:高校生等の県外に進学した者の出身地登録など現在は卒業してからでないとふるさと登録できないから

高齢者の参加機会

教員種目の実施。競技選手の受け入れ企業が少ない県については成年選手の参加が厳しい状況になる。また、大学 卒業後に競技を続けるものが減少傾向にある。

大学に在学している留学生

出身県または現在の在学・在勤場所からのエントリーを選択できるようにする。

成年種別はトップチームと地方での活動チームとの差があるため、1部.2部に分ける。

大学・クラブ所在地での参加資格は認めない

大学・所属クラブ・少年種別の「ふるさと登録」小学校・中学校

ジプシー選手には厳しい規制を

プロ・セミプロ / アマチュア

30歳以上~45歳迄の種別

所属チーム

現住所、本籍地、所属チーム所在地。

ミックス種目を導入し、参加も男女を分けず少年、成年のみの区分とする。

大学所在地、所属クラブ所在地

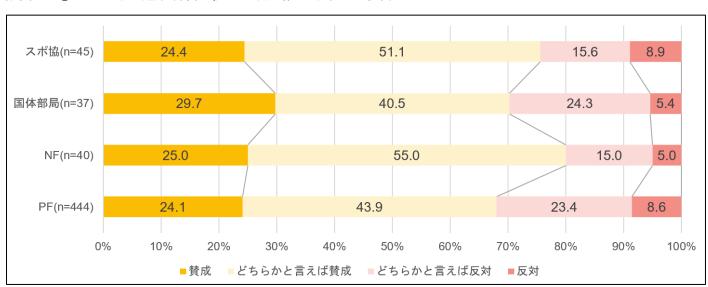
とにかくシンプルに誰でもわかる参加区分としていただきたい。

設問 18①の回答に関連しますが、総合成績をなくすことで、強引な選手獲得等がなくなるのではないでしょうか。

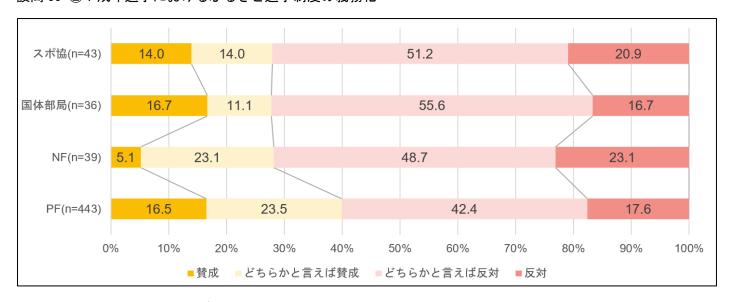
所属クラブの所在地からの出場。

・学校所在地※大学に限らず、専門学校等に所属していても参加できるような区分を希望する。・所属クラブ所在地とにかくシンプルに誰でもわかる参加区分としていただきたい。

設問 33-①: ふるさと選手制度の拡大(利用推進方策)の検討

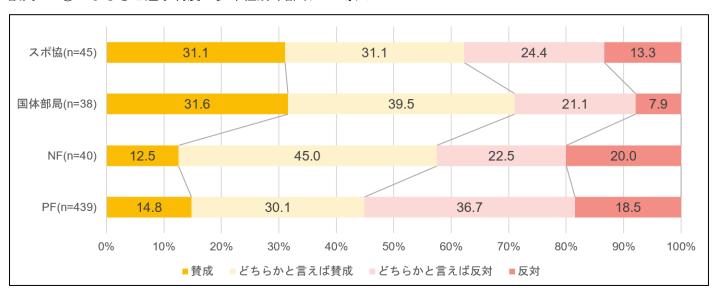


設問33-②:成年選手におけるふるさと選手制度の義務化



グラフ:成年選手におけるふるさと選手制度の義務化

設問 33-③: ふるさと選手制度の少年種別年齢域への導入



グラフ:ふるさと選手制度の少年種別年齢域への導入

設問 33-4 : ②・③以外で示された方策以外に具体的な方策等

(①で「賛成」または「どちらかといえば賛成」と回答の方を対象)

使用制限の解除

ふるさと選手制度の使用回数の制限撤廃。現状の 2 回から無制限に。※ふるさとの活用を促進する狙いとして、アスリートの活動拠点を故郷に置けない事情の選手もいるはずである。ふるさと制度を活用して故郷から参加したくても制限により活用ができず、ふるさと制度が活用できない選手の救済のために。

少年種別において、小中学校で在籍した都道府県を「ふるさと」とすることは、すぐにでも導入できることと思う。

義務化するのであれば、選手に説明できるため進路選択時に十分考えることが出来る。

総合成績の計算にふるさと制度活用点を加える。

ふるさと制度の活用により、成績(=強化費)の分散化が期待できる。

出身地も居住地・勤務地等と同様の資格とし、選手が予選前に選択し、当該都道府県予選に出場すれば良い。居住

地・勤務地に戻るためには国内移動制限に準じる。

高校3年生をふるさと区分とする

回数制限の撤廃。

まず成年種別と同様のやり方

スポーツを通して教育的な指導も大切である。又、県でもその「ふるさと」の魅力作りを考えるべき。

高校から他県へ引っ張られ、地方の選手の確保に格差がおおきい

選手については、小学校から高校生までに居住した県からしか出れないようにした方がふるさと側の県は盛り上がり、都道府県対抗の意味がもっと強くなる。

実現させるためにも、ふるさと選手の出場資格を最優先として欲しい。

ふるさと選手への交通費や消耗品費の助成を増やし参加しやすい環境をつくる。

関係人口やふるさと納税などの概念のように、他地域に在住しながら、該当地域に対して強い思い入れと具体的で継続的な行動関係性がある場合など、実質的な結びつき度合いも「ふるさと」の一つと考えるのも面白いと思う。

県外に転出することを止めることはできないが、成年と同じようにふるさと選手制度を導入して、選択できるようにすべきと考える。

選手の基礎を培ったことを考慮すると、中学校までの在籍も検討しても良いのではないか。

魅力がなく義務にしてしまうと続けるか辞めるかの二択になってしまうため、柔軟に対応してほしい。

現行でいいのではないか、しかし、ふるさととして参加したい意思があるのであれば何か可能な措置を講じてもいいのではないか

陸上の場合、大学生は出身高校所在地への登録という規制がある。それを出身中学所在地を選択できるようにする と良い

ふるさと選手を卒業中学校・卒業高等学校以外にも広げる。制度利用を2回よりも増やす。

小学生の出身地も対象とする。

義務教育課程修了時の都道府県(中学卒業県)

国内移動制限とリンクさせる

住所地である都道府県からの出場義務化。

ふるさと登録の制度が、人生の中で2回しか使えないということになっているが、この回数を撤廃してもらいたい。 留学、病気、介護、様々な要因で競技を離れなければならない事情が現代ではあるが、2回という回数制限の中では それらのことが重なると一生ふるさとで競技に出られなくなってしまう選手も出てくると思う。

基本的にどちらでも参加できるような仕組みを作る

上限廃止し、どの県/何回でも出場できるように変更

国体は都道府県対抗だから出身県で出場すべき(一般、高校も含めて)

地域を代表しているアイデンティティを持ち続けてほしい

中学卒業後に有力選手が他県の強豪校に進学してしまうので、ふるさと選手の活用を高校生からにしてもらいたい。

県外の指導技術等も取り込める

出身小学校もしくは中学校の所在地

年齢を18歳以下とし、新成人として故郷で過ごした地域で参加又は、活躍した地域を基盤として、出場させる。

小学校・中学校卒業 ふるさと少年種別制度を導入

地元に制限をかけることは、いろいろ検討すべき問題が多岐にわたると思うが、選手がオール〇〇県出身であれば 観戦や応援にも地元愛が発揮できるのではないかと考える。現在は具体的な方策等はないが、検討すべき内容であ ると考える。

住民票の都道府県で参加することを条件にする。

少年種別のみ検討する。

思い切って、本籍のある県以外での出場を禁止する等。

オリンピック代表経験のある選手はふるさと出場に限定する。少年の部で出場している選手については成年の部で の出場は同一都道府県のみとする。

登録したふるさとは変更できないという規定となっているが、変更を1度は認める。

・参加資格の所属都道府県のイ 勤務地を削除する。勤務地の項目が入ると選手の意思とは関係なく勤務地 所属 の判断で 出場が可能であるから。

少年にも選択できる権利が生まれることが良いと考える。

ふるさと登録の変更可。回数制限の拡大または撤廃

ふるさと選手の利用率を加点

卒業した小学校または中学校の都道府県から、ふるさと選手として出場することを義務付けしないと、高校内での 選手の立場が悪くなるなどの弊害が発生すると考える。

卒業小学校も追加されたため、ふるさと登録のリセット。

・賛成ではあるが、所属が他県で、また練習場所も他県、少年種別は高校(部活)での活動が多いことを考えると、 選択肢の一つではあるが所属との関係性が心配となってくる。

マイナー競技で指導者がおらず、国体に出場をできないケースが本県では数例ある。指導者においても、指導は奈良で行っているが、居住は結婚等の事情で他府県にある場合、監督におけるふるさと制度を認めてほしい。せっかく少ない競技人口のなかから本県から輩出できる選手が機会を失ってしまうのはもったいない。指導者の数を増やすことには競技団体も全力を注いでくれているが、うまくいっていないのが現状である。ご検討願います。

- ふるさと選手制度のふるさと登録を1県に限らず、複数県選択可能とする。
- →多くの競技で中学生・高校生から他県へ転出する選手が増えているため、複数のふるさと地域を持つ選手は多いと考えられる。複数活用することが可能であれば、競技によっては、活用する機会も増えると思う。ただし、これまで通り1回の活用につき、2回連続使用の条件付きは必須であると考える。

令和5年度からの、学校部活動改革の影響も今後出てくるのではないか思われる。学校部活動が地域スポーツに移 行いた場合の参加資格など。要検証を願います。

ふるさと登録の変更可。回数制限の拡大または撤廃

全ての種別において「ふるさと」義務化。卒業小学校の所在地や出生地のみから出場できる制度としてはどうか。

ふるさと登録の選手は参加料の減額や、通算何回利用で表彰といった特典を与える。

- ・1度登録した都道府県を変更できるようにしてほしい。
- (大学生から社会人になり、郷土に対する思いも変遷してくると考えられるため、変更できるようにしてほしい)
- ・回数制限の撤廃。・登録地の変更を可能にして頂きたい。

設問34:3巡目国スポの検討に向けての要望

回答後述

設問35:全体を通しての意見

回答後述

3. 自由記述

設問 2:3 巡目国スポの果たすべき役割、目指す方向、位置付け

●都道府県体育・スポーツ協会

3巡目国スポ開催については賛成である。

WGの検討内容に賛同する。

WG等で検討し提示された内容で良いと思う。加えて、他の全国大会ではできない「多競技による都道府県対抗戦による国内最大・最高の総合スポーツ大会」という部分を、スポーツ関係者以外の国民に効果的に広報し、国民体育大会の価値をより充実できれば良いと思う。

別紙記載に賛同します。

別紙 WG のこれまでの検討内容に賛同します。

検討の方向性は概ね賛成。3 巡目国スポの果たすべき役割を JSPO から国を含め、全国民で共通理解を得ることが必要。現在の状況では「必要なし」「役割終了」という選択肢もあってもいいのではないかとさえ感じている。

方向性については賛成するが、実現のためには現状の大会を大きく見直す必要があるのではないか。スポーツとの 多様な関りをどう演出していくのか。

これまでのWGの意見に賛成。今後も継続していくならば、国民が国スポに関心を示し、魅力あるものにしなければならない。

2 巡目国体では、京都府で確保した人材が京都府に残り、各地でその競技の根付きに貢献した。施設も充実した。しかし、人材の高齢化、施設の老朽化も課題である。次の国スポでは同じことの繰り返しではなく、サスティナブル、ふるさとスポーツカのコンセプトには賛成する。位置づけについて、③世代・競技間を超えた交流を育む大会、地域課題解決のきっかけとなる大会の位置づけは賛成するが、実現可能か否かの課題でもある。

基本的な考え方については概ねよいと思われる。しかし、新型コロナウイルス感染症の出現によりスポーツを取り 巻く環境が大きく変わった。現状の理念を掲げつつも、コロナ禍でも対応できる国体(国スポ)のあり方について、 十分な検討が必要と考える。

果たすべき役割:国スポそのものの存在意義として定義されることはよいと考える。

目指す方向:持続可能性を目指すこと、ふるさと活性化を重視することは良い。

位置づけ:競技間を超えた交流は難しいと考える。交流の場等を考える必要がある。

[果たすべき役割] 〇スポーツの普及・振興、スポーツの「する・見る・支える」観点の周知、地域の活性化 [目指す方向] 〇トップアスリートの発掘・育成 [位置付け] 〇国民がスポーツ実践への意欲を持つ大会

スポーツが社会生活を豊かにすることに貢献している。また、アスリートの強化・育成における貢献度は高いと考える。

国内最大のスポーツイベントであり、スポーツの魅力を国を挙げて、今まで以上に取組を推進する。

1-①で問われている効果については、本調査の「はじめに」の記載のとおり、目的は様々であるが、2巡目国体がなされるまでに、当初の目的はおおよそ達成され、1-②のような課題が生まれている。 従って、従前の仕組みを前提とした、3巡目国スポについては賛同できない。

WGでの検討内容が提示されているが、記載されている内容からは今後国スポ大会の目指すべき姿が明確に見えてこない。何を通して何を目指すのか具体的に示して欲しい。例えば、社会課題解決への貢献とは、どのような課題に対しどのように解決に貢献するのか等、抽象的な部分が多く、曖昧であるように感じる。

3 巡目とすることで今までのデメリットまで引き継ぐこととなるので 3 巡目という概念を取り払い、新たなスポーツ振興策としてのスポーツ大会を構築していくべきではないでしょうか。2 巡目が終了しようとしている現状で当初の規定等を改定していくことに限界があり、分かりにくさ不合理が顕著化している。実質的に国内最高峰の大会ではないことを認識したうえで、建前ではない役割や位置づけを明確にすることが必要だと考える。社会情勢が大きく変化する中、地域格差も大きくなり、大会の位置づけとしての都道府県対抗は限界が来ている。

ベターでいくとエリア開催になるのか。県本部として、現行の本部役員の動きを考えると、エリア開催となるとかなり厳しい部分もある。

国内最大の大会

国民スポーツの祭典として、スポーツを通じて明るい社会と国民総スポーツ社会の実現に向けた取り組み、スポーツの推進をどのように具体化するか。各種ある競技会の中で、国スポが最上位であり得る大会とするべく、中央競技団体との意見調整が必要ではないか。

・時代に応じた競技の普及、選手・指導者の育成、施設充実などを検討するきっかけとなる大会としていくべきである。正式競技のみ実施するのではなく、公開競技等のような一般都道府県民が参加しやすい大会として整備する必要があると考える。国体は、スポーツを一つの契機とした、地域の経済的、文化的な活性化の起爆剤としての重要な役割があると考える。

主催者の決定事項であると考えるが、選手団を派遣する立場のため参考程度であるが、これまでの感想を基に記載させていただきます。

今後の位置付けとして4点提示されている中、

- 〇国内最大・最高の総合スポーツ大会とするのなら、
- ・トップアスリートが参加し、競技レベルが高く、魅せる大会としなければならない。
- 〇将来性豊かなアスリートの育成・強化を行う大会とするのなら、
- ・国体を通じて、都道府県レベルでの育成や強化の取組に寄与する大会としなければならない。

両方の位置づけを実現するには、例えばトップアスリートが競い合う種別(Aクラス)や育成部門として競い合う種別(Bクラス)など、種別等の整理も必要である。WGの今後の位置付けのうち、②・③・④はこれまでも達成されており継続すべき点であるが、その一方で、①については達成されていない。このことはスポーツ界における国体の役割として、都道府県が国体(国スポ)を通じて、競技力向上の取組を推進している成果として、トップアスリート候補選手をNF強化域へ引き継いでいる構造から、トップアスリートの出場や国内最高の位置付けとすることに齟齬が生じている。トップアスリートが目指す大会となることで、魅せる大会・憧れる大会・誰もが認知する大会となり、名実ともに国内最大・最高のスポーツ大会を目指すことは重要である。その一方で、国体(国スポ)は、国内最大規模の総合スポーツ大会で、国内の競技力向上に大きく寄与している大会である事実も大会の位置付けとするべきと考える。

少子高齢化や学校部活動改革に伴う地域スポーツの振興等の課題がある中、地域と今まで以上に密着した開催準備・ 運営でないと必要な条件(人・金・物)を確保することが難しいのではないかと思われるため、開催地負担の軽減 と、より地域振興や地域の活性化が促進されるイベントとしての魅力が増大して、継続性の高い国体になることを 期待します。

「ふるさとスポーツカ」を競う大会と位置づけるならば、大きく変えることはできないのではないか。

スポーツイベントや国体チャンネル等の充実化(選手・監督の露出を増やす取組等)を図りスポーツの魅力や感動を伝えることに重点を置いた大会運営としていくことが望ましい。

・国体は国内最大の国民スポーツの祭典としてあらゆる効果が期待され、今後も継続的な開催を希望する。しかし、国民が国体に抱く関心は他の大会と大きな差があり、また、競技団体によって国体の位置づけが低いところもある。 双方の課題を解決に向けて国体の魅力をより発信できる体制が必要である。位置付けに競技人口の増加も入れていただきたい。

あらゆる人々のスポーツとの多様な関りを推進し、スポーツの価値を高め広めていくためには、地域でスポーツが根付くことが不可欠である。サステナブル(持続可能)なスポーツ大会を目指すという方向性には大変魅力を感じる。スポーツ環境の醸成が図られるとともにスポーツを通じて地域を元気に、交流を図る活動が継続的に行われていくことが大切である。

・総論としてはいいと思うが、各論が問題だと思う。成年種別は、競技によって差があり「プロ」がある競技では、

トップレベルの選手が出場することがなく、セカンドレベルの選手の大会となっているのが現状である。3 巡目に向けて明確な方向性を決めてほしい。(参加選手の規定や大会の目的等決めて、選手が同じ目標に向かって競い合う大会になるとよい)。観客動員、イベント性の高い競技会を維持する取り組みを目指すべき

これまで果たしてきた役割・方向・位置付けは、変えずに取り組んでいただきたい。年代を超えた総合スポーツ大会は、世界に誇れるイベントであると考える。

あらゆる人々のスポーツのとの多様な関りを推進し、スポーツの価値を高める大会として、存在意義がある。時代の変化とともに、今後も持続可能な開催・運営方法を模索していく必要がある。

全ての都道府県が参加し、それぞれの都道府県が、その目標に向かって施策を立て、「見る、する、支える」スポーツとして、より多くの国民が関心を持ち、携われる国内最大・最高の総合スポーツ大会であるべき。

目指すべき方向としては、魅力ある大会を実現することである。それによって果たせる役割も広がり、おのずと競技スポーツの目指すべき大会の位置づけが確立されると感じている。

国体は、これまで広く国民にスポーツを普及し、スポーツを通じて国民生活を豊かにし、地域の活性化に大きな役割を果たしてきており、時代の経過のなかでスポーツが持つ役割を国スポの中で果たしていくものと考える

国スポが参加者や開催地等のすべての方にとって配慮された持続可能なスポーツ大会となることにより、地域におけるスポーツの役割も明確になる。

果たすべき役割等に意見はない。なお、開催県のフルエントリー制度については見直しが必要ではないか。この制度が「天皇杯は開催地が必ず取る」慣例につながっており、スポーツの純粋な勝負を楽しむことができない。

国内における都道府県対抗の最高峰のスポーツ大会として実施していくべき。(誰もが目指そうとする価値のある大会)

今回、整理していただいた役割等を多くの国民に周知する必要がある。

・目指す方向の①の「サステナブル」は現在の潮流として使われているが、違う言い方がよいのでは。例:将来にわたり保ち続けることが可能な等。国スポを都道府県対抗の国内最大・最高の総合スポーツ大会を目指すようにもっとメディア、マスコミ等にアピールしてほしい。

国体開催の魅力や規模、トップレベルの選手の出場等について考慮すべき。

特に反対するものではないが、このレベルの段階でもっと具体的なものが謳われていないと、言葉の整理をしたと ころで何も変わらず、形骸化するのみではないか。

国内最大のスポーツイベントであり、スポーツの魅力を国を挙げて、今まで以上に取組を推進する。

●都道府県国体部局

開催地の負担や施設等の状況をふまえ、ブロック開催も視野に入れ検討が必要。

理念として妥当なものと考える

「東京2020オリンピック」で使用した各競技施設を会場に、オリンピックでの実施競技を実施して、「国内(版) オリンピック」としての開催。

大会位置付けにある「国内最大・最高の総合スポーツ大会」であることが、開催地を含む各都道府県の負担を大き くしている可能性があることから、目指す方向にある「サステナブルなスポーツ大会」との矛盾を感じる。

各競技団体や都道府県が選手強化に継続して取り組むためには、今後も国スポ開催は必要であり、今回示されている内容に大きな異論はない。

「サステナブル」なスポーツ大会を行うためにも、都道府県への負担を見直していただきたい。国スポの在り方と して、選手育成・世代間交流・社会貢献などのバランスの明確化を希望します。

これまでの国体の在り方を踏まえつつ、さらに魅力ある大会となるよう検討する必要があると感じる。

アマチュアの国内最大のスポーツイベントとして、スポーツの魅力を発信し続けるとともに、日本各地のスポーツ の振興・競技力の向上に寄与し続けること。 本アンケートは、3巡目国スポを継続実施ありきで実施されているが、ゼロベースで議論すべき。

大会の位置づけとして以下の3点と考える。1. 各都道府県の郷土を代表する選手が競う国内最大・最高の総合スポーツ大会2. 国民のスポーツへの関心やスポーツの文化的価値への認識を高める大会3. 将来性豊かなアスリートの発掘・育成・強化を行う大会

大会実施要項の開催趣旨に記載されているスポーツの普及、スポーツ精神の高揚、国民の健康増進と体力の向上、地方スポーツの推進と地方文化の発展に寄与することを大前提とし、近年、スポーツの価値についての捉え方が多様化(生涯スポーツ)していることから、その名称を国民スポーツ大会ではなく、国民スポーツ祭と変更し、その目的は総合順位を争うものではなく、各都道府県の地域特性を活かした競技参加や競技毎の順位を争う国内最大のスポーツイベントとして位置付けることで、持続可能になると考える。

特に、コンセプト①、②についてはとても重要だと考える。

持続可能な地方スポーツの振興・普及、スポーツの価値や文化継承を高める大会としての位置づけ。

スポーツ環境が日々移り変わっている中で、10年後のことを決めること、そしてそのコンセプトで 10年後から次の4巡目まで実施するのは不安である。

ふるさとの発展、スポーツカ(競技力)の向上を目指し、大会を持続可能なものとしていく方針について賛同する。 現在の検討状況については概ね賛同する。さらに、理念等はもとより、国民スポーツ大会が、スポーツを「する」 「観る」「支える」人にとって、これまで以上に価値のある大会となるよう、開催基準要項等の不断の見直しなど具 体的な事項についても、開催県・市町村、競技団体等の声をふまえ、引き続き、取り組んでいただきたい。

サステナブル (持続可能) なスポーツ大会を目指すという方向性には大変魅力を感じる。ただ、サステナブルな「国内最大・最高」の総合スポーツ大会となるとイメージができない。「最大・最高」とうたってしまうと、これまで同様、大会開催事業費等が膨らんでしまうのではないか。

役割やコンセプトについては、提示のものに賛同する。国スポの目的や実施についての方向性を、関係者のみならず世間一般に広く周知することで、大会の意義の理解を促し、協力体制の構築につながると考える。

環境への配慮、地域振興、競技力向上など、様々なニーズに応じた大会の開催が求められる。いずれは単独競技で全てが成立する形を目指すのか、これまで通りスポーツ全体でというスタンスを続けるのか議論が必要。

開催地の負担の軽減と地域の活性化につながる大会となり、国体が国民にとって魅力あるものになるよう様々な方向から検討していく必要があると考えます。

これまでの国体を継承し、さらなる発展を目指すための方針として、妥当であると考える。

WGの検討内容に賛同する。

位置づけについて

- ①国内の人口が地方から都市部へ流出し、都道府県の人口の差が拡がる現状に歯止めが利かない以上、スポーツカ を総合で競い合うのには無理がある。総合得点を競い合う形式は適切ではない。
- ②県内では世代間を超えた交流ができる競技もあるが、競技によっては、県内でも交流ができていないものもある。 本大会では競技が終わったら種目ごとに帰県するので他競技との交流はない。
- ③国体の開催が地域課題(過疎化など)の解決に結びつくとは思えない。

大会を通じて、アスリート・指導者の育成や競技の普及、地域スポーツの振興を担ってきたが、今後もその方向性は変わらないと考える。幅広い年代が集い、トップを目指す国内最大・最高の大会として位置付けるべき。

持続可能なスポーツ大会を目指す上で、最適にして柔軟な大会運営と国スポレガシーの創出とは具体的にどのような形にしてくのか、大会運営と国スポレガシーがどのような関係性があるのか理解しづらい

開催都道府県民が国スポを通じ、子どもたちに「やってみたい」と思ってもらえるような企画が必要と思われる。 例)・「トップ選手」と小・中学生が交流できる機会をつくる・「エキシビジョンマッチ」の導入 など

大会位置づけ。③④について重要課題であり必要ではあるが、この2点を強調しすぎることは実施に向けた高いハードルになる可能性がある。

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会のような、パラスポーツとの交流を含む、同大会扱い等の検討があるのか。

役割や目指す方向及び位置づけについては理解できますが、開催地に過度な負担がかかる現状の方法について人的 にも財政的にも無理が生じています。

3巡目にむけて新たな枠組みとして整理することには賛成。

今回、整理していただいた役割等を多くの国民に周知する必要がある。

・前述のような課題を上げさせていただきました。まずは、3巡目ありきではなく、是非を含めて、根本から議論 していただくことが必要だと思います。・全国の自治体、スポーツ団体が、50年先を見据えて、しっかりと議論し ていく必要があると思います。

NF

コンセプトとしての考え方は良い方向であるが、現状の開催地が優勝しなければならないような使命的な考え方を 見直す必要があると思う

盛り上がるスポーツフェスティバルを目指したい。映像や音楽、スポーツ界で行っているイベントプレゼンテーションを国体統一で一定のコンテンツを導入していきたい。例えば BGM やファンファーレなど音楽コンテンツの提供、芸能人ゲストの競技別の巡回盛り上げ。ライブ配信の充実など

少年組の選手には国体の成績が今後の進路にも影響が有り NC のように国内大会が少ない種目には大事な大会と思われる。

果たすべき役割、目指す方向、位置付けには賛同します。

開催により何かが残る大会になることが望ましい。施設や競技の普及、育成等。

各種競技の普及・発展のきっかけとなるような大会になるべき。施設の整備、年間行事運営を円滑にするために行政予算が投入される窓口としての役割が、国体にはあると考えている。

競技力の向上、競技の付加価値の上昇、エキサイティングなゲームを提供する

生涯スポーツとして国民全体がスポーツを親しみ生活に取り込む時代を目指すとともに、親しむスポーツの国内トップアスリートが一堂に会して競技会を行う意義は大きいと考える。また、都道府県対抗形式の採用で出身県や居住地県への帰属意識の醸成にも繋がると考える。

WG で検討している3巡目国民スポーツ大会の果たすべき役割、目指す方向、位置付けに同意します。国体のスポーツ振興に果たす役割は大きいと思います。学校から社会スポーツへ移行して行く中で総合型地域スポーツクラブの活用促進を当協会は方針として立てています。

貴協会にてご検討された果たすべき役割、目指す方向、位置付けについて、意見はございません。

巨費を投じてスポーツ大会を開催する意義は、国民が豊かな生活を送るために、大切なメッセージになる。目指す方向は、全ての国民が参加(観戦も含め)できるような大会にすべきと思う。国全体でのスポーツ力振興のために 意義があると思う。各県での開催も、それを契機にして地域活性化に繋がると思う。

年に1度の大会で、現状の取り組みでは国民スポーツ振興にはそぐわないと思う。多くの国民の皆さんはマスコミから提供される、我が国トップ選手の活躍をみて自らのスポーツライフを考えるのが定着してきたのではないかと思っている(中高生の部活加入状況等も大きな影響を受けている)。ならば、マスコミ関係者に国体の課題を問い、率直な意見を聞いてそれに対応するのも一つの考え方かとも思われる。国スポ、マスターズ、スポレク等の役割はやはり国民のスポーツ振興、それを通して国民の健康生活構築への寄与である。それぞれの年代に応じたスポーツライフを描けるように、3つの大会の在り方を再度検討して、マスコミの協力を得て、トータル的に事業を推進(将来的には統合して、競い合うのもいいのではないかと思う)する等、今までとは全く異なる事業推進についても検討してほしい。また、検討の際にアスリートの現状や考えを導入する必要もあると思う。

都道府県対抗による国内最大・最高の総合スポーツ大会として、持続可能なスポーツ大会として存続させる必要が

ある。一方で、新たなエンターテイメント要素を取り入れ、開催地の人々や来会した観戦者が国スポ競技に触れ合う場の提供なども行い、将来のアスリートや更なるスポーツ実施人口の拡大を醸成していくことも必要と考える。

果たすべき役割、目指す方向(コンセプト)については、賛同したします。また大会の位置づけも概ね問題はないと思いますが、国内最高の大会である必要があるか?また都道府県対抗ということは大変意義深く、地域の振興や活性化にもつながると思えますが、あまりにも都道府県に人口の差が大きく、競技人口や競技力の差が歴然としており、地域課題の解決にはつながっていないような気がします。

目指す方向、位置付けについて方針がわかりやすい

JSPO が方向性を決定してリーダーシップを発揮することを期待します。NF は各競技を公正・安全に実施すること、地域の運営役員の育成に尽力します。

別紙 WG の検討内容に同意します

もう、順番は不要。

サッカー競技としては、15歳から16歳の強化の役割として大きく捉えているので、現行の参加人数が変わらないのであれば、成年種別を無くして少年種別の参加人数を増やして実施することも視野に入れている。

都道府県のふるさとスポーツ力を競い合う国内最大・最高の総合スポーツ大会。全国各地で開催する都道府県のふるさとスポーツ力を競い合う総合スポーツ大会。3巡目国体に向け各競技団体の適正参加人数、試合方法を検討する必要がある。全国各地を持ちまわる現在の形式で、年に1度の大会開催で良い。

トップ選手確保が難しいところもあることから新たな位置付けが必要と考える。

- ・持続可能なスポーツ大会として、高齢者社会に対応できるシニア枠のカテゴリーを設定してはどうでしょうか。
- ・役割:スポーツを通じて地域の活性化。・目指す方向:各都道府県のアスリート発掘・育成・強化。

国スポを通じて人々のスポーツの多様性を推進し、スポーツの価値を高め裾野を広げる。ふるさとのアスリートの 育成・強化と指導者・競技役員などの養成。

生涯スポーツとしてマスターズ(年齢別) の導入

名称は変わったと言え「National Sports Festival」で日本のスポーツの祭典であり、参加選手団だけでなく、立候補段階から準備に奔走し、開催地の企画運営に携わった方々にとって、価値がある総合スポーツ大会であるべきと考えます。

別紙に記載された「果たすべき役割、目指す方向、位置付け」は明確で尤もである。問題は、国体開催を通じて国民に広く認知させ、注目され、浸透されることが重要であり、そのためにも大々的に情報を流すようマスコミをもっと活用すべきであるし、開催県あるいは各競技会場からどんどん情報を発信し、国民に関心を持たせる工夫も必要と考える。

「1.3巡目国スポの果たすべき役割、目指す方向、位置付け」に賛同します

開催地域における普及・強化及び各都道府県の選手強化に貢献する。

役割、目指す方向、位置付けについて論じる立場にないが、引き続き、日本国内のスポーツ選手にとって最大・最高の目標となる大会であって欲しいと思う。

今までの実績から何が必要と感じたかで述べさせていただきます。

- ・スポーツを通じて、開催都道府県(市町村)の住民に観戦してもらい、スポーツを体験してもらい、健康な生活 (医療費の削減など)をおくってもらえること。
- ・スポーツを通じて、トップアスリートの凄さを目の当たりにすることの大切さ、健康のためにやってみたいと感じることの大切さといったこと。
- ・少子高齢化の時代に入っており、また財政難の自治体もあるため、今までの足跡を良き成果としこれからの国スポは、新しい生活様式とスポーツが共存し受け入れられる仕組・環境を目指すこととする。
- ・それぞれの競技会での競技役員や自治体(ボランティア含む従事者)や作成物などスリム(削減の努力)な大会運営に転換する。

国民が生涯スポーツの 1 つの位置づけとして考える。オリンピックでも「夏・冬」がある通り、日本は春夏秋冬が素晴らしい国であり各種スポーツの在り方も地域で異なるが、冬季スポーツは寒さならではの特異性があり、雪有県では生活の一部スポーツと言っても過言ではなく国体実施の役割は大きいと考えます。

- ・別紙記載の役割、方向性については賛同する。
- ・位置づけについて追加とし、アスリートの将来を見据え、企業 (大中小)、行政の協力 (参加) を得ること必要である (アスナビとの連携企業・行政の拡大・強化)。

ふるさとのアスリートの育成・強化はもちろんであるが、選手と強化や大会運営に係る当事者のみではなく、開催 地の子供たちがどのような形であれ大会に参加したこと、自身の町に国体がやってきたことがレガシーとなり、そ の後の国スポや係った競技に関心と興味を持ってもらえる大会にすることが今後重要であるといえる。

大会の位置付けにおいて、≪競技間を超えた交流を育む大会≫の具体的事例が思い浮かびませんでした。

開催できる都道府県で開催し、競技がしやすい環境を整えてもらい、国内の都道府県の一番を決める大会として開催する。

国内最大・最高の総合スポーツ大会として、する人、見る人、支える人が各役割をはたすための過程を重視し、世代・競技間を超えた交流を育む大会とすべきではないか。

役割、方向性等では、スポーツの価値を高め広めることに貢献し、スポーツ宣言日本の社会像を実現する役割を担い、持続可能なスポーツとしてふるさとスポーツ力の発展を目指すとあるが、一定期間で行われる国スポは、トップアスリートが参加する競技会であって、それに付随する国スポまでの取り組み、国スポ期間中に行われる多様な取り組み、国スポ後の取り組みこそが重要になると考える。これまで、地方では、国体を実施することが目的となってきたかもしれないが、国スポは、契機であり、目的を達成するための手段でもある。近年では、スポーツをまちづくりの取り組みの一環に取り入れ、人口増加や経済的効果のための取り組みとしてリンクした活動も見受けられるようになった。そうした地域の創意工夫こそが重要であり、多様な取り組みをいかに生み出すのかであると考える。そうした多様な取り組みを可能とするには、受け皿となる自治体の体制のあり方も重要な要素である。(まちづくりセクションとスポーツセクションがリンクされた体制など)

2020 東京以降の国体(国スポ)は、競技普及+強化と地方創生・まちづくりが新たな目指す方向であり、競技の内容 (成年・少年)などに多様性を持たせる先進的なスポーツイベントという位置づけになるべき

- ・果たすべき役割 国スポは、あらゆる人々のスポーツとの多様な関りを推進し、スポーツの価値を高め広めることに貢献と謳われているが、勝利至上主義の大会となってきており、如何にトップアスリートを集めるかに特化してきているように思える。セカンドグレードレベルの選手を多く取り入れる大会にすることで、トップアスリート発掘への一役になるのではないか。
- ・目指す方向 スポーツの価値を普及させる大会の位置づけであるならば、アスリートの育成・強化と指導者・競技役員等の養成、スポーツ環境の醸成に重きをおくことだと考えます。
- ・位置付け 世代・競技間を超えた交流を育む大会案に賛成で競技力を競うことよりも普及やスポーツの価値を伝承する大会にしていくことで、競技の裾野が広がっていくと考える。

●PF

3 巡目国スポの果たすべき役割、目指す方向、位置付けについては賛同いたします。ただ、国スポに県代表選手として出場することの意義、素晴らしさが選手、競技選手に伝わっていない傾向がある。県代表や指導者になっても、特に所属先からも褒められるまた練習に対する理解等は変わらないことがあり、"代表選手離れ"、"指導者離れ"が少しずつ進行しているように感じる。勿論、プロ化、実業団、大学生:学連公式戦と国スポについて選手や指導者が、優位性を担保するかが課題かと感じる

国体という大会は地域振興、競技人材育成として非常に有効で、当県福井においても開催までの5年間は資金、人材について莫大な予算をかけてもらえました。ただ今その時の選手、監督はほとんどすべて辞めており、競技団体

に本当に良かったのか?と言われれば疑問です。より長期的な競技振興を考えた国体を考えると、開催場所の各県 の持ち周り開催は辞めるべきかと考えます。

国体の位置づけについては、お祭り大会の様相に代わってきている(特に少年については、インターハイの後の開催であり、モチベーションが維持できない。)。ただ、全県が一同に会して行われる大会も必要だと考える。

新しい形を模索する。

これまでの国体は毎年開催され、実施されるのが慣例となっている。実際、中長期的なアスリートの育成強化が国 民スポーツ大会を通して行われるのかが不透明。

競技志向を高め最高峰の競技会を目指すのか、みんながスポーツを楽しむイベントにするのか明確にする時期

スポーツの持っている力は素晴らしいものがあり、東京オリンピックでも証明されたように、より多くの人たちがスポーツを観たり、親しんだり、触れたり、参加できる国スポは大事である。しかし、トップアスリートやふるさと選手のみが脚光を浴び、一般の人たちは大会が終了すると熱が冷めスポーツに関心を持たないという繰り返しではサステナブルなスポーツ大会となることはできない。国内最高の大会を目指すのであれば、スポーツがもっと身近に感じられるような計画・運営が必要ではないかと考える。

国民とあるので、競技人口の多い競技が第一に優先されるべきである、バレーボール競技の中で競技人口の一番多い 9 人制種別は直ぐに復活させるべきである

財政が逼迫しているなかであっても、レガシーを残せる大会であってほしい

スポーツを通じた人材的・経済的な発展効果が地域に還元されるようなスポーツ文化の醸成が促されることを期待します。

1 県開催が困難になってきていることを考えると開催方法を今後柔軟に変更していくことも考える必要がある

最近は色々な競技の国際大会がメディアによって簡単に見られることから国スポの意義は薄れてきたかもしれないが開催準備した県のそのレガシーは相当なものであるから地方にとって国スポは活性化の意味も含めて存在意義は十分あると思います。またその位置は国際大会のオリンピックと同じで複数競技の国内大会最高峰という位置づけでいいと思います。

「都道府県のふるさとスポーツ力を競い合う国内最大・最高の総合スポーツ大会」という位置づけがふさわしい。

地方のスポーツ振興を図り、スポーツの価値の向上を図る

3巡目国体の果たすべき役割、目指す方向、位置づけはこれでよい。

3順目の国スポは、大きな考え方の返還なしには、実施しなくてもよい。ブロック開催やある程度施設人員の整った地域でするのが良い。スポーツ振興、地域の活性を掲げるなら、施設充実予算を数十年単位で計画的に全国に割り振っていけばよい。「大会するから作る」ではなく、「施設・人員があるから手を挙げる」が良い。固定、あるいはいくつかできるところで回す。なら、持続可能かと思う。

参加選手の経費負担の減少

スポーツ大会を開くメリットの浸透。

果たす役割を存在意義として定義することは賛成であるが、大会の位置づけに優先順位をつけないと目指す方向性(コンセプト)の中の特に「サステナブルなものとする」には相当な経費が必要になると危惧する。

コンセプトや位置づけ②にあるように「育成年代」が集うことを中心としたものに変換していくことが良いのかも しれない。16歳17歳といった年代はチームの代表になることも少なく、自分を発揮する機会が少ないことが多い。 その年代は中学と高校年代の連携が必要となり、様々な効果が期待できるように思う。

基本今までどおりで、その都度気になるところを変更していけばいいように思う。

現状維持で良いと考える。

少子高齢化が進む現状において、スポーツの普及、国民の健康増進と体力の向上を図るためには、中学、高校の若 年層やシニア層が参加できる種目を増やし、トップアスリートの参加は減らす方向に転換するべきでないか。

地域振興やスポーツ振興を目指し、簡素化した大会を目指すべきである。県民が一つになり県民総応援の姿があれ

ば開催権での一体となった盛り上がりを目指すべきである。

オリンピックのように新たな競技を導入するなど時代とともに変化させ国民が魅力ある大会と感じる方向にする。

別紙:「1.3」のとおりだと思います。

スポーツを文化としてとらえ「する」「見る」「支える」「調べる」ことを通して。スポーツ文化の醸成の場としての 役割を担う。

競技普及、競技力向上、地域貢献など地方においてはこれまで通り重要な役割である

各競技は、それぞれ全国大会はあるが、各競技が一同に開催されることは国体以外にない、存続すべき。

競技専門指導者を学校現場で採用させる。

ワーキンググループの考えで良い

- ・ブロックを設定し、開催順をあらかじめ決めたほうがスムーズな開催となると思われる。
- ・日本国最大のスポーツイベントとしての大会内容にすべきである。

ナショナルフェスティバルとして各競技団体よりトップアスリートの大会参加を働きかけ地域の人達に憧れや喜び を与える大会を目指す

選手の育成・強化および指導者・競技役員の養成につながり、今後の競技人口も増加すると考える。

郷土を代表する選手の戦う姿というのは、見ていてとても熱くなります (テレビ放映されている都道府県対抗駅伝然り)。魅せ方次第でもっと盛り上がると思います。

参加人数が多過ぎる事が開催権だけでなく選手を派遣する県の負担として大きいと考える。テニス競技で言えば成年は地域ブロック大会があるにも関わらず少年は全県が本国体に参加出来る。苦労無く全国に出られるので選手によっては、本国体出場が決まった時点でモチベーション低下している事があり、参加する意味に疑問が生じている。

国スポそのものを見直すべきではないか」

47 都道府県が概ね 1 巡目・2 巡目の前回順によるとすれば、前回開催の施設は老朽化が進んでいると考えられる。 3 巡目以後も施設の整備は重要な課題である。一方で大都市を抱えている都道府県とそうではない県との競技力は、偏りが加速しており総合優勝制度の在り方を考えねばならない。全体としてスポーツの普及発展に対しての貢献度は高いとみる。

県ならびに県民の関心が高まり、老朽化した施設の改修工事への予算確保できにくくなっている現状で、地方への 開催順番が決定したことにより施設の充実ができやすくなり、スポーツへの関心と地方 PR の充実など様々な相乗効 果が期待できていくのではないか

県内の競技関係者がまとまる契機とするべき

中長期的な選手の強化育成等

みんなのスポーツにどうせまるか。

- ・国体の果たす役割は十分に果たしたので、現在の規模での開催の必要はないと思う。
- ・各競技団体の日本選手権も持ち回り制になっていることやその映像の配信等を顧慮すると開催の必要について考えるべき時期。
- ・オリンピックでさえその開催意義が問われる時代。一人でも多くの国民がスポーツにふれ楽しむきっかけづくりの在り方を見直し、スポーツイベントの役割分担(意義)を考える時期に来ている。国スポは、選手主体なのか、開催地の住民が主体なのか開催目的があやふやになってきている。
- ・オリンピックと同じで、国スポで何を目指すのか、どうしてやらなければならないのかということが多くの国民 に浸透できていないと考える。国スポをやってもやらなくても今後日本のスポーツ水準のダウンにはつながらない。
- ・3巡も天皇杯・皇后杯勝利のために、他県から選手・コーチを集めるのは本末転倒ではないか。

役割を終えたという考えと発展的に継続していくという二者択一が迫られているということかと思われるが、我が 国全体の競技力・体力の向上につなげたい。また、施設の整備、人材発掘も考慮したい。

地方では中央に追いつけない面があり若者も中央へ出たがる傾向があるので、全国大会を地方で開催していただき、

身近にスポーツを感じて頂きたい、国民みんな楽しめそして地方経済にも役に立つようしていただきたい

現在検討されている内容で良いのではないでしょうか。アスリートのタレント化が進みすぎではないか。プロ化してしまう傾向に注意したい。

・目指す方向の①②とも異論なし、位置づけも同様、他の頂点を目指すだけの大会でないこと総合スポーツ大会ということも、重要な点ではあるが、最高であること、強化という観点からは、地方、地域課題の解決という点からは少し無理がある。現状、得点を競い、人口が多い地域が必ず勝つという構図に意義が薄れている可能性もある。

開催都道府県や地元競技団体の負担軽減を図りながら、提言に沿った改革を期待する。

総合表彰制度を除けば、地方のスポーツの振興にはなっているので、現状でよいが、国内の普及状況が進んでいないのにオリンピック競技というだけで実施競技に採用するのはやめてもらいたい。普及ができていないのには、施設の問題や指導者がいないなど解決が難しい課題がある。

前項目の理由にも記載したが、本県相撲連盟にとって、国体相撲競技は、目標となる最大の大会であり、持続可能なスポーツ大会を目指すことに賛成である。そして、ふるさとのスポーツ力の発展を目指すことが、ふるさとで人を育て、スポーツをはじめとした多様な文化が融合し、スポーツ環境が整えられ、地域が豊かになると考える。大会の位置づけも良い。

3巡目国スポの果たすべき役割、目指す方向、位置付けについてについて記載されている内容に同感です。

考え方に異存はないが、「アスリートの育成・強化」はアスリートあってのことであり、いかにして競技人口を増や していくのかが大きな課題である。

3巡目国スポの果たすべき役割、目指す方向、位置付けの通りで良い。

トップアスリートが参加する大会

必ずしも地域課題のきっかけとはならない。

競技種目が地域スポーツなのか世界レベルを目指す(オリンピック世界選手権等)国スポにするのか?

【目指す方向】

選手の低年齢化が進んでいる現在、育成・強化を掲げるのであれば、成年の部と少年の部に限られている参加区分について、中2以下や小学生が参加できるよう新たな区分を設けるべきではないか。また、年齢が低くても突出した実力の選手については上位区分への出場を認めるべきではないか。

【位置付け】

「世代・競技間を超えた交流」という概念について何を想定しているのか伝わらない。幅広い世代が参加できる競技は少なくて、現実には大学生中心に若者(成年の部)と高校生(少年の部)が参加選手のメインであるし、別競技同士の交流となると選手間であっても運営役員間であっても具体的なイメージがわかない。

中長期的なアスリートの育成・強化と指導者・競技役員の養成。都道府県の故郷とスポーツ力を競う国内最大規模 の総合スポーツ大会。

開催地の勝利至上主義から 競技力の向上に方向を変え、世界に羽ばたく選手の育成を担う為に 種目ごとの成績 を競うシステムとするのが良いと思われる。また、大会開催に係る経費は削減する方向に向かうべきかと思う。

- 1. 最近の国体は、全国民の為のアマチュアスポーツの祭典とは言い難い。
- 2. 費用の掛け過ぎと、根拠不明の参加選手数の削減(選手と監督の兼務)は異常だ。
- 3. アマチュア国民スポーツの視点を見失ってはいけない。
- 4. いわゆるアスリートは、「国民」体育大会ではなく、スペシャリストための大会に特化すべきである。

町おこし、地域経済活性化への寄与

あらゆる人々のスポーツとの多様な関わりを推進し、スポーツの価値を高め広めることに貢献する。多様で豊かなスポーツ享受の促進。国スポの果たすべき役割、目指す方向、位置付けは素晴らしい。都道府県のふるさとスポーツ力を競い合う国内最大・最高の総合スポーツ大会であって欲しい。

賛同できる内容であると思う

選手と開催地住民との交流促進により、心に残る大会とする事。

国スポ開催期間に行われる競技種目は、国スポの開催期間中は注目されるが、大会終了後は元に戻ってしまう。競技人口の少ない競技は、開催地を固定し聖地化することも良いのでないか。

聖地化された開催地では、競技に対する理解が深まり、人気も出るのではないでしょうか。

役割:国民スポーツ大会に向かって選手を育成し、オリンピック選手の育成にもつながり、「スポーツ宣言日本」を 実現することに貢献する。

目指す方向:持続可能なスポーツ大会を目指し、施設は、他県施設も利用し、費用を抑える。

位置付け:国内最大・最高のスポーツ大会、有望な選手の育成及び強化を行える唯一の大会

国体を色々な県で開催する事により新たな施設が建設できる点では現状のブロック開催では目的は満たされない。 施設を有する県が担当する形になってしまう。かと言って競技人口の少ない県での開催は開催地に多大な負担がか かる。迷うところである。ソフトテニスの場合は国体があることによって競技力が向上していることも確かなので 現状を維持することも役割ではないか。

別紙を見てその通りである。理想であるが、大変難しい。「大会の位置付け」①がそうとは言えない。ふるさとのスポーツ力を競い合っているようには思えない部分がある。育成には多大な好影響がある。強化なのか普及なのかとも感じる。競技によって国スポに対する温度差がある。

県・市町村・県競技団体の負担があまりにも大き過ぎて、開催県に負担があまり掛からない大会を目指すべきである。また、国・日本スポーツ協会による財源補助の補償することを求めたい。各県の普及・選手強化を図るのならば、得点を競ってもいいが、ブロックの代表というのではなく、全都道府県が全種目に参加できるようにするべきである。その際、期間の延長・会場・宿泊などが関係してくるが、各地域やブロック、各県に分散して実施することを検討して欲しい。ブロック予選については、実施し、順位を国スの組み合わせに活用する。経費削減のため、総合開会式は行わず。各種目の開始式だけにする。その際、地域住民のスポーツへの関心向上・競技の普及のための選手などとの交流などのイベントを実施する。

都道府県のアスリート育成・強化を行う大会としての位置づけから団体競技については選手選抜方式でのチーム編成を継続させるべき。

市民が多様で豊かなスポーツ享受の促進のため、都道府県のふるさとスポーツ力を競い合う国内最大・最高の総合 スポーツ大会として位置づけ、予算的措置を含め対応していくべきである。

スポーツ振興は十分効果がありいいことだと思うが、目指す方向は純粋な基本的走跳投、泳、球技に種目をしぼる必要がある。何でも国体への動きは開催県の負担は大きすぎる。また、県対抗戦とせずそれぞれの競技種目で総合させる必要はない。しかし、県対抗ということで行政対抗となっていることから、考え方を改める取り組みを希望する。

アスリートにとって、都道府県代表というキャリアが大きな目標となり、モチベーションの維持・高揚に役立っている。競技の運営主体となる競技団体にとって、団体主催ではなく公的大会の1競技として競技団体役員の運営レベルの向上・育成や一体感の醸成に役立っている。

都道府県のアスリート育成と指導者・競技役員等の養成

国民の健康・維持にスポーツは欠かせない。広く国民に個人の体力向上につなげて医療費の消滅になるといい。

県民に夢を与える大会にして欲しい。子供たちが、国体に参加したくなるように工夫して欲しい。

役割・目指す方向・位置付けについて必ず具体化され社会貢献できれば国スポが国民の支持を得られるのではないでしょうか!

1. に記載の通りである。何とぞこのまま実施してほしい。

主旨に賛成です。国家主導の国内最大・最高の総合スポーツ大会だからこそ、都道府県行政も動き出せると思います。地方行政だけでは予算化できないと思う。

別紙記載事項の通りで、賛成です。ただ、目指す方向②にある「ふるさとのアスリート」というのが在住、在職、ふ

るさと(卒業中学または高校所在地)と、選手によっては3つ・4つから選択可能となっているために、何をもって「ふるさとのアスリート」というのかが難しい。

多くの国民に様々な競技を見ていただき関心を持っていただく。

- ・当面は人口減少が続くこれからの 50 年は、47 都道府県を平準化した発想をするのではなく、それぞれの地域が持つ役割や理想とする姿に見合った国体の誘致、実施に向かうべきと考える。
- ※沖縄県を冬季スポーツの聖地にする必要がないことに多くの人は共感できると思うが、すべての都道府県が満遍なく全競技を開催し、地域に根付かせたり、地域振興を図ったりする必要はない。
- ・具体的には総合開会式・閉会式を廃止し、インターハイと同様に地域ブロックの持ち回りとし、ブロック内各県の競技分散方式にすることで、地域の特色や独自性を活かした大会実施につながると思う。これにより各都道府県が力を入れている特定の競技は、50年に1回が9年に1回実施できる可能性も高まり、ノウハウや強化の継続性の担保にもつながると考える。

スポーツの地域への普及・発展を目指し、施設・指導者などを充実させて競技スポーツのみならず健康スポーツの 発展にも寄与する。

これまでの国体の目的である、競技者・指導者の育成、組織や施設の充実を多くの競技団体が達成してきている。 しかしながら、少子化やスポーツ離れ、スポーツの多様化などによって、競技人口が減少するなど、これからのスポーツにおける課題を整理し対策を講じなければならないのも事実である。競技によっては、その競技団体独自の活動による普及・発展が可能なものもあるし、逆にそうでないものもある。国スポを開催し、国や地方自治体の協力を得て、これから競技の強化や普及したい競技を開催すればよいのではないか。

スポーツ施設整備の充実、指導者の養成、スポーツ組織の強化(運営面)が果たす役割として大きいところ。選手強化は、一過性のものと考えられる。

全国でのさまざまなスポーツ振興を目指していくため、ブロック予選を廃止するなど参加人数を増やすべきだと思います。

県レベルの競技者にとって、国スポはまず目指すべき目標であるべきで、国内トップレベルのアスリートになる登 竜門的な存在であってほしい。

WGのまとめに賛同する。

サステナブルなスポーツ大会を目指す事の重要性が課題。競技団体への支援のあり方。

ビジョンを明確にし、目的・目標を定める事で新しい時代・世代の国スポにかえていく時だと感じる。

国スポを通じて社会をより豊かにすること。

果たすべき役割、目指す方向および大会の位置付けについては良いと思います。

別紙の通り国スポを通じて、社会を豊かにすることに貢献することが重要であると考えます。

国民的スポーツの原点に戻るべき

〇地方スポーツの振興と地方文化の発展に寄与することを目的とすることは不変であり、今後も国民スポーツ大会が地域のスポーツ振興に貢献する役割は大きい。スポーツに関わる人的育成もさることながら、地域スポーツ施設を作ることが負の遺産のように捉えられがちであるが、スポーツ文化施設を作ることで地域の経済波及効果がどれだけあるかなどもっとアピールしていくことで国民に理解を深めていくことも大切ではないか。

1, 開催は県単位ではなく、地域(ブロック)単位で行う。2, プロ選手の排除

国スポがあれば、施設は良くなる。これが最大のメリット。

*県民のスポーツ意識の向上。スポーツ施設の充実. 組織の活性化

結果を求めすぎないようにしたいと考えますが、国スポについては県からの補助金をいただいて本番に向けて強化を進めるため選手や監督等にプレッシャーがかかりすぎる。各種別で結果が出せなくても本番までの育成・強化のための取り組みが重要であると考える。

現在は、各競技団体で全国大会が開催されテレビ報道やマスコミも国体より大きく取り扱います。国体は、選手の

育成や強化には、大きな役割を果たすものの、もっと、国民の関心を引き起こすものにする必要があると思います。

【目指す方向】に記載された「ふるさとの活性化」の観点は大切な要素だと思います。

「ふるさとへの愛着」「地域の人々への感謝」「地域でつくり上げた達成感」など国スポを通じて、多様な関係性の中で地域課題解決のきっかけとなる事業となることを願います。

国スポは競技発展のひとつのきっかけであり、国スポを起点に有能な選手や指導者がその府県に留まり、更なる競技発展を目指し地域貢献することが役割であると考える。

スポーツに対する多様なかかわりを作るため存在意義はある大会だと感じます特にアマチュアスポーツは各選手、 指導者の目的が多用であり交流や課題解決を通じて建設的な活動の一助になっています

コンセプトに賛成です。

- ・記述の「果たすべき役割」、「コンセプト」、「大会の位置付け」は全くその通りですが、国民が理解しているか疑問に思う。特に、都市部で開催される国体は、盛り上がりに欠け、開催されている雰囲気もなく、市民の関心もない状況が見受けられる。
- ・国民のための国体でなく、行政、選手、指導者にとっての国体になっている感あり。
- ・開催地は直前の育成強化に注力するが、大会後はトーンダウンが極端。

各競技団体主催の大会など全国規模のイベントが多く開催されている現状を踏まえ国体開催の在り方(競技種目を減らす、期間の短縮)を考えるべきである。コロナ禍もあり、延期や受け入れる側の体制づくり、費用負担など課題も多いのでは。

役割については良い。位置づけについては、一般競技者は日本選手権、大学生は IC, 高校生は IH, 中学生は全中が最大の目標となる。さらには U-16、U-18, U-20 などが次の目標。国体は競技者の狙う順序としては 3 ~ 4 番目となる。しかし、県は国体を最大・最高の大会と位置づけており、競技者とのあいだに大きなギャップがある。このギャップを埋めることが国体ブランドのグレードアップの課題と考える。

- (1)最大・最高の大会にするには、最高の選手が参加できる時期、参加する大きなメリットが必要である。世界大会の代表選考大会、賞金の授与等を考える。
- (2) アスリートの育成強化を図るには、参加年齢等の規定を見直し、ジュニア年代クラスを細かく設定する。(U-16, U-18 などの区分をより細分化して他の全国大会との差別化を図る。)
- (3) 交流を育むには、競技スポーツだけでなく一流競技者と触れ合える場面を作ることが大切。ジュニア競技者だけでなく、ジュニアアスリート、初心者、観客対象のスポーツ体験、クリニックなどを実施することができないか。 観客と一流競技者が触れ合える場面があれば面白い。特別競技、デモンストレーションの内容を柔軟かつ大胆に考えたい。
- ・大会規模、実施種目の検討、競技施設の整備、かかる経費の確保等、における、各自治体の問題や、課題があると思うが、果たすべき役割や、目指す方向、位置づけの具体化が上記問題や課題が解決された上での方針かどうか疑問に思う。・開催地の自治体にとっては、財源、人的資源(財政難、人口減少)においてサステイナブルな内容にあるのか、疑問に思う。・47 都道県で一巡してきた成果はよいとして、課題や問題、反省点は反映されているのか。
- ・日本国内スポーツ大会の最高峰としての権威を維持するものであってほしい。
- ・開催地のその後の地域振興や人材育成に大きな影響を与えるものであるため、開催地の意見が取り入れやすい大会であってほしい。コロナ禍が続き、部活動の社会体育への引継ぎが進んでいくと、スポーツをやる人数が激減していく可能性がある。だからこそ、県を挙げてスポーツのすばらしさを国体を通じて発信していき、スポーツに興味を持つ人数を増やしていくべきであるように感じる。スポーツに関心がなかった人が、やってみたいと思えるような情報発信をして大会を盛り上げ、見る人が楽しいと思える大会、国内スポーツをもっと広めるきっかけとなる大会になって欲しい。

国スポを開催することにより、ふるさと(都道府県)のアスリート育成・強化及び指導者・競技役員等の養成に効果があると思われる。都道府県のふるさとスポーツカを競い合う国内最大・最高の総合スポーツ大会として今後も

継続していくことを望む。

国スポを通じて、スポーツの価値を高めることに貢献する。このために、中長期的なアスリートの育成・強化を目指す。また、本大会は都道府県のスポーツ力を競い合う国内最大の・最高の総合スポーツ大会としての位置づけを確立させる。

開催地に過度の負担はかけず、持続可能な形でふるさとの発展に寄与する大会であったほしい。また、3巡目により、さらに地域のスポーツカ向上につながっていくことが必要と思う。

それぞれのスポーツで全国大会を行っており、そちらに力を入れている選手が多い。国体に参加することの意義や魅力を感じておらず、軽視される傾向にあるのではないかと感じている。国スポが何を目的として行われるものなのか、その意義をこれまでとは変え、開催種目や規模について検討し直す時期だと考える。都道府県のランキングに首長や役員は必死になっているが、選手・指導者はそれほどこだわっていないので、あまり意味を感じない。

国民の祭典でもある国スポの果たすべき目指す方向は全競技にお置いて県民代表とし参加で来るシステムとスポーツの価値を高める祭典にすること

アマチュアリズムからはかけ離れている現状を見直し、少年年代の普及・強化に舵を取るべき。開催県の地域振興に重点を置き、経済的負担を軽減すべき。

競技団体として、県に順位がついていることの意味・国体開催の意義は、それによって得られる県の予算と普及・ 強化、目標の明確化です。よってきれいな言葉で飾っても基本今迄通り開催を望みます。

別紙の検討内容に賛同する。

・国体2巡目開催で、果たすべき役割は達していると思われる。その為、3巡目開催となると、今までとは違い思い切った改革が必要と考えます。目指す方向性としては、県としての競技力とスポーツ環境の向上である。アスリートの育成・強化を行う大会、地域課題を解消のきっかけとなる大会であることはよいと思う。

理念については賛同する。今後も継続してほしいが、中・高校生の負担軽減は図ってほしい。いろいろあって難しいとは思うが、成長期の少年選手が大会の過密日程で消耗していくことが無いよう、そのバランスは取ってほしい。 強化の停滞にもつながるのではないか。

未来にわたって持続可能な運営、選手育成に向けた見直し。

地域の活性化、各競技の強化及び普及、各県民のスポーツへの取り組みの関心度の向上。

ボクシング競技は隔年開催が決定しているため競技人口を増やし毎年開催に早く戻したい

選手の育成及び強化

スポーツの振興・普及、選手育成、開催地への負担減など。

日本のトップ選手の大会というよりは、各都道府県の選手の交流をはかり、スポーツ文化の醸成につなげるものに なればと思う。

大会に対して、地元県民が興味関心がより持て、歓迎してもらえるようなる

国体はプロが出ては開催する意味がない。廃止してもよい。

今まで通りで良いと思う

国民のスポーツ普及のためにぜひ開催してほしい

国体の位置づけの明確化。

スポーツの役割である、青少年の健全育成が役割だと考えます

国内最高峰の大会にして、注目度を上げる。あとは教員の部を復活させることができたら、指導者も増えて、部活動問題解消にもなる

各種スポーツ競技において、全日本選手権は行われていると思います。しかし、オリンピック同様に国体は、ほぼ同じ時期に日本一を決める多種多様なスポーツが開催されます。費用は国と自治体が出していますが、オリンピックとは違いテレビ放映はされていません。今後は、国民イベントとして、オリンピック同様に商業的利用を考える必要があると思います。今までは地域スポーツ施設の整備という公共性が最重要課題だったこともあり、3巡目以

降は国体不要論がでていますが、今後はスポーツの商業的エンターテイメント利用と青少年の育成を考える必要があると思います。

目指す方向(コンセプト)の中に「国スポは、サステナブル(持続可能)なスポーツ大会を目指します」がありその中で「多様で豊かなスポーツ享受の促進」とありますが、当該競技はマイナー競技でありまさに上記の内容に深く影響する競技と考えます。メジャー競技とマイナー競技の国スポおけるバランス等をよく考慮していただきたい

地域スポーツ振興および発展に不可欠と考える。多くの競技を実施しスポーツの普及につながっている。競技力だけでなく精神的な鍛練ともなっている。

国スポは国民のスポーツに対する関心を高め、多くの人がスポーツに取り組むことで人生を充実させ、それが社会を豊かにすることに貢献できる。競い合うだけではなく、選手間の交流を通して様々な刺激を受けモチベーションとなり、それが地元の競技者へも伝わることで、地元の競技力向上や競技人口の増加につながる。

競技の普及・発展 選手の育成強化を継続してできるような環境を構築して頂きたい

競技人口の多い首都圏は別として、地方のブロック大会は「各県代表」の大会ではなく最初からブロックの有力者による選抜大会でもよろしいかとも思います。

戦後全国に国体を通して健康増進や競技施設の拡充をと始まったと思いますが、それが現在のスポーツ事情に当てはまるかは大きな疑問です。

生涯スポーツ 普及・発展(維持)

国スポの果たすべき役割として、各種競技、特にマイナースポーツなど国民や専門競技関係者、国民の老若男女、瀬田にかかわらずスポーツを通して競技の楽しさや観戦の楽しさが共感でき長期的アスリートの育成。教科と指導者や競技に関わる役員(専門審判員】やその他専門役員育成が育つことにより、地域社会への経済効果や競技間を超えた地域交流が育まれると考える。

大会の位置づけとして、①の都道府県のふるさとスポーツ力を競い合う国内最大・最高の総合スポーツ大会となっているが、現状は開催県が最優秀賞を取得する使命があり、これを検討すべきではないか。

どれも大切だと思います。

国民の間に広くスポーツを普及し、国民の体力向上を図るとともに、地方スポーツの振興と地方文化の発展に寄与すること目的として実施されている国体は3巡目ではあるが、当連盟においては実質まだ2巡目にいたらず、現状のままであって欲しい。

毎年、各都道府県を順に開催地とする方法は廃止すべき各ブロックの拠点となる施設で毎年開催すべき

高齢者はねんりんピック、中高年者はマスターズ、高校生はインターハイなど、年代別の競技大会があることも踏まえ、既に国体自体が一定の役割を果たしている現状から見直す時期と考える。

別紙資料のとおり、賛成である。

果たすべき役割の定義を継続させ、目指す方向として特に②育成と強化の為の指導者養成、年代別(小、中,高、一般)に実施願いたい。位置付けについて、地域振興、活性化においてインターハイ・国体を通じて塩竃市がバドミントンの市として地元に認知された時期がありました。

WGの検討内容に異存はありません。小さな話ですが、長野県も2回目の国スポが迫っています。隣市は前回ラグビーでしたが、今回は、ラグビーに手が上がりませんでした。長野県内では、ここはラグビーが盛んな地域ですが、 国体後の地域に根差す活動が一部関係者が中心で、地域全体への波及が少なかったのでは、と反省しています。つまり、国スポを通じ、何を残していくのか、そこのところをしっかりさせておきたいと考えます。

いずれも方向性としては整理されている内容に異議はない。

果たすべき役割、目指す方向、位置付けについては、賛同する

開催県・開催市町村の経費負担の減。競技施設・競技運営の見直し、経費の見直しが必要ではないか。経費負担が 増額になっているが、開催県・開催市町村への費用対効果があまり感じられない。

「果たすべき役割」の中に,「スポーツ文化を促進することで国民の身体的な健康を増進する」というような内容が

加わるべきではないか。「ふるさとスポーツカ」の意味が不明確なので、「目指す方向(コンセプト)」の②については、「国スポは日本のスポーツ(またはスポーツ文化)を発展させます。」などとした方がよいのではないか。「大会の位置づけ」の①については、「都道府県対抗で行う国内最大・最高の総合スポーツ大会」などとした方がシンプルでよいと思う。どうしても「ふるさとスポーツカ」という言葉を使うのならば、その言葉を定義すべき。

県内選手の育成、強化に役立てる。地域の関心を高め、スポーツの理解を深める。

疑義はありません。この方向性に則った国体の開催実施方法を考えればよいと思います。

テニス競技においては、トップを目指す選手は世界 4 大大会出場が究極的な目標であり、現状国体への参加はその 一里塚とはなっておらず、このような観点からの果たすべき役割、目指す方向、位置付けを考えて行く必要もある かと考えます。

地方の強化が行える

各都道府県における各種スポーツの振興促進。スポーツ環境の整備と選手の育成・強化

果たすべき役割、目指す方向、位置付けに関して非常にわかりやすく整理されていると思います。

学校体育が段々と社会体育へと移行を検討している中で3巡目国スポ参加選手確保ができるのか。また開催するための自治体負担も大きくなっている。開催是非について検討してもいいのでは。

SDGsの視点から、何らかのレガシーを創出し、意義のある大会とするべき。サステナブルとあるように、国民に理解されるものにしないといけない。

国スポは、人々のスポーツとの関わりを進め、スポーツへの関心を高めることになります。目指す方向は、故郷スポーツカの発展を目指せる。位置付けは、世代競技間を超えた交流を育む大会とすべきである。

2巡目までで、国スポの役割はおおよそのところ、果たしたのではないかと思う。

別紙記載について同意です

スポーツの価値を高め広める事。

スポーツ選手の育成・役員養成に継続的に協力が欲しい。競技団体の活動強化

地域のスポーツの活性化に与える影響は大きく、継続して開催できることを望むが、参加のために係る作業量の多さが気になる。また、実施することでの交流(コミュニケーションなど)へのいい影響は欠かせない。

3 巡目ということであっても、40 年以上のサイクルで開催地が変わってきており施設の建替えやリニューアル・耐震化など国スポを機にスポーツ施設が整備・予算化されるのは大変良いことである。従来の国スポ同様に各競技の 更なる発展、未普及競技の地域での普及促進に寄与するところは非常に大きい。

最初は技術を磨き、上達する事を目指すが、技術を学ぶだけではなく、自己の人格を磨くことが必要だと気づくようになり、長い人生をより深く豊かにして行くことが必要でと思います。

国スポは、あらゆる人々のスポーツとの多様なかかわりを推進し、スポーツの価値を高め広めることに貢献する。

国スポはふるさとスポーツカの発展を目指し、将来性豊かなアスリートの育成・強化を行う大会である。

国体は開催県の地域振興、経済発展の一部として実施されるべきと考える。国体開催地への地域還元、競技団体の 競技の普及を目的とし、大会後にいかに開催地及び当該競技が発展するか。

持続可能なスポーツ大会にする。アスリートの育成強化。競技施設の整備。

役割・コンセプト・につきましてはテニス協会としても共感致しますが、位置づけにつきましては果たして、時代 に沿った現状況として考えるところです。

マイナーな競技では国体は貴重な全国大会なので是非続けていってほしい。国体開催地では競技が普及しているのでやはり広く普及するためには国体は必要である。

第一回大会が、京都からのスタートと言うことを、アピールするような大会がいいのでは?

各都道府県のチームをつくる事で一体感ができる。

別紙に掲げられた「役割、目指す方向、位置付け」の理念に賛同する。

開催地の地域振興。選手の目標となる大会。

選手の育成と共に、地域とスポーツが共存できる関係となる為の政策。

国体開催の為に開催地の施設等を整備していき、施設の近代化を図る。整備する為の費用は国が負担する。

順調に若者を育てえるための大会として開催すべき

各競技種目において全日本選手権やインカレ、インターハイなどの全国大会があり、それぞれの大会での優勝を目標にトレーニングしている選手が多い中、国スポの果たす役割については戦後の復興を目指して開催していた時期と比較して優位性は少なくなっていると思います。今後は国スポに出場、入賞することのメリットを明確化した上で選手や開催県、開催市町に訴求することが大切だと思います。

・次世代の選手育成を目的の一つにあげているが、現在のようなグローバルな時代に都道府県の枠にはまった選手 育成の考え方が時代遅れだと思う。選手は環境のよい所に若年から移動していく。(海外にも活動の場所を求めてい く時代になっている。) そのことからも、国体の意義はうすれ、国体の役目は終わったように思う。

中長期に計画を作成し、アスリートの育成強化を促進していくことが大事である。

高齢化に伴い、日頃から運動をする習慣を目指すため、若年層からのスポーツ促進を促しその指標にスポーツ国体を挙げる。新たな競技種目ができれば積極的に採用し、多様で豊かなスポーツ享受の促進に繋ぐ。

スポーツは、国民の健康増進と体力向上により溌剌とした国民生活基盤を作り、スポーツ精神を高揚し、国民性を 豊かにし、地域の活性化に影響していると思う。

開催都道府県にあっては、中長期的な選手の育成・強化につながる面は多大にあるが、終わると継続が困難なことがある。また、各競技団体の選手権との関心・レベルの差が大きく、大会規模が大きい割には、選手・国民の関心が薄い。国スポの優勝・入賞者が、オリンピックやトップチームに選ばれることが少ない。

メジャー競技に目が行きがちで、マイナー競技のことが置き去りとされている感が否めない。国スポとしてもっとマイナー競技の普及に貢献していくべきではないか。

トップアスリートが参加できない現状も考えると、総合順位を争うものでなくてもよいのではないか。

スポーツによる地域の活性化が重要である

考え方が多様化しており参加する魅力をあげないと、参加しない人が増える

国スポの社会的地位向上に傾注すべき。スポーツの持つ魅力や我が国に対する役割を明確にし原点回帰を進める。

私共のような弱小競技団体にとっては、国体は選手育成、強化等、強化費補助、競技 PR 等、全てにおいて占める割合が大きくなくてはならないものである。

スポーツの価値を高めるためには必要である。もっと、競技の良さをアピールできる(ICT 活用)。と、同時に選手のケアも必要。

大会の中では総合的な目標であるため、最低限は現状維持してもらいたいが、必ずしもが開催県選手が優勝しなければならないといった風潮はいかがなものかと思う。

3 巡目だからと言って国体に向けて目指す内容は変わらないと思う。これは個人がどう思って参加するか、参加する県の競技団体がどういうことを目指すかによる。

どの競技についても国体以外に魅力のある大会があり、また、競技関係者で大会運営がなされている。しかし、国体は行政が必要以上に関わり、何についても大事となり経済面、ボランティア、その他関係補助員、高校生などへの負担が多すぎる。開催の期間についても長いため負担となる。スポーツの観点から選手の活躍の場所を確保する事、また、観る人が楽しめる大会であることは当然であるが、各開催県、開催市の経済負担の軽減と必要以上の関係者の負担を少なくすることが必要と考えます。位置付けとしては、現在国民体育大会だけがどの競技にとっても別扱いである。県対抗、天皇杯、皇后杯が開催県の負担となっていることも間違いないであろう。

- ・目指す方向の①、の2つ目と3つ目が具体性に欠ける。持続可能な大会のため必要な運営とは何か考えてほしい。
- ・位置付けの③④は実現性が乏しい。また、これを推進することは別の負担をもたらす。過去の実績から③④で成果があった大会はあったのか?

各競技に実施時期や会場を柔軟に決めて、出身都道府県からの出場を原則として実施することができるとそれぞれ

が参加しやすくなると思う。分散で実施すれば、総合成績の順位も決めなくてもよいので開催地の負担も少なくなるのではないかと思う。

公的な機関が主催する大会だけに、スポーツイベントの見本となるような事業を展開して貰いたい。今のスポーツ 界にはマーケティングは欠かせません。スポーツの価値を高めるためにも開催地が活性化し、国スポにより経済が 潤うシステムを構築すべきです。

天皇杯、皇后杯への公式競技に対する注目度が高く、アスリート育成には大きく貢献している。しかし、あらうる 人々へのスポーツ環境の整備及びスポーツ意識高揚に繋がっていない面がある。また、地域活性化についても開催 に対する義務意識が強く、レガシーの創出に至ってはいない。

見るスポーツを醸成する。

国内最大・最高の総合スポーツ大会となるような魅力あるものにするために、各競技団体のトップアスリートが集えるようなシステムと、映像配信等を駆使し、全国民が気軽に観戦・応援できるような工夫が必要と思われる。

国体は、他の大会とは異なり、国家的行事の中の一つと考える。よって、眼前の損益的視野ではなく、競技の普及 や国民の健康増進等の見地に立って、計画実施されるべきである。

全国のスポーツの活性化を図るためにも続けてもらいたい。

都道府県対抗で実施される大会としての魅力向上。国民それぞれがゆかりのある都道府県を応援しようと思える大会づくりが必要。

中・長期的な選手の育成強化

プロ・トップアスリートの参加

「スポーツ宣言日本」にはスポーツは人類共通の文化として定義されている。スポーツは、今や国民に日常生活には不可欠なものとなっている。スポーツの価値を高めると共にスポーツの持っている社会的影響力を念頭に置く必要がある。国を挙げてのスポーツの祭典であるならば、トップアスリートの出場は不可欠である。

国体開催にかかわって各競技施設設備の整備や充実が図られ、地域振興にも大きく寄与しているが、莫大な経費もかかっていることから、既存の施設、可能な施設での競技開催を行い、大会の質素化、シンプル化、どの程度の競技者レベルを主体にしたものなのかを明確にしてはいかがか。

スポーツに関心がある人はもちろん、そうでない人もスポーツへの関心を持たせる大会にしていくことが必要だと 思います。一部の国民だけで盛り上がる大会であってはならないと思います。

各県開催の枠を超えて、競技別固定開催やブロック開催などを行い、開催県負担を減少させると同時に、国体という一つの取り組みを、もっとブランド化し、国民の関心行事(ハロウィンなどのような)にしていくべきと考える。

競技者だけではなく観戦者、地域等がイベントなどを通じてスポーツの魅力について感じられる国体。

スポーツの価値を高め広めること

規模縮小しての開催

都道府県のアスリートの育成・強化と指導者の養成

伝統を引きつぐ大会

果たすべき役割、目指す方向、位置づけの通りでできたらいいなと思います。

- ・役割…国スポは、国民のスポーツに対する意識高揚に貢献する。
- ・方向…ふるさと(都道府県)の選手の育成強化とともに競技人口の増加にも繋がる。
- ・位置付け…都道府県のスポーツ力を競い合う最高のスポーツ大会。

国体の意義等については別紙の通りで同感である。しかし、国体とオリンピックの関係性が分からない。国体はオリンピック選手育成にどのような役割があるのか、どのような位置づけなのかと言う議論が必要ではないか。まったく別物なのか。地方と都会では考え方が違うのも事実であるが、オリンピックは勝利至上主義的なところがあり、国体はあらゆる人々のスポーツとの多様な関りを推進しとある。どのような関係なのか分かりにくい。

若者のスポーツ離れの防止、県の各競技の競技力向上

地方におけるスポーツ施設充実のきっかけとして重要。

国民の最大スポーツレクリエーションとして、国内最高峰の全国大会、選手は県代表として参加する最高の名誉になる大会としての位置づけ。

地方にとっては、「地方スポーツの振興と地方文化の発展に寄与」を念頭に、地元の競技力の向上を目指し、敷いては世界で活躍する選手を排出させることが重要と考える。

地域の活性化に一役かうのが国体だと考える。中央だけ強くなるなら 国内で競う必要はないのでは?

各競技団体の中長期的なアスリートの育成・強化、そして指導者・競技役員等の養成、地域課題の解決、地域を含む国民のスポーツ振興意識に大きく影響しており、今後さらなる発展していくためには必要不可欠の総合体育大会であると考える。時代に合った大会を目指し実施方法を検討しながら、スポーツ振興と社会貢献に繋げたい。

中長期的なアスリートの育成や強化及び指導者の育成の側面から、ふるさとを代表し競技力を競い合う国内最大の スポーツイベントとしての位置づけは大きいと思う。

競技力向上に関して大きな役割を担っている

目指す方向、位置づけを過去の国体より変化あるものにしていくようにすればよい。

現状の目的を継続すべきで、その上でもっと活性化させていくべき。

以前よりも国体を第一番に目指している競技者が増えていると思う。そうした人の競技を続ける励みとして存在意 義は高い。

役割・方向・位置付けは、「3巡目」のものの言う通りだと思います。それまでの国体との役割・方向・位置付けは、 変わってきていると思うが、今はその役割・方向・位置付けで良いと思います。

開催県の経済的負担軽減と、天皇杯・皇后杯獲得に対する考え方を今一度見直す必要があるかも知れません。

別紙:「1.3巡目国スポの果たすべき役割、目指す方向、位置付け」のとおりで良いと考える。

県の選手強化対策事業補助金は国体成績で算出しており、協会としては国体の上位入賞を目指している。そのためには次世代の選手育成と選手強化を実施しなければいけないが、各県の補助金の格差が大きくみられる。

果たすべき役割:WGの定義は望ましいが抽象的でわかりにくい。

目指す方向:国体後のスポーツ意識の継続の為に、特にレガシーの創出が重要と思う。また、「社会課題解決への貢献」はわかりづらい。

大会の位置づけ:①~③は良いと思うが、④「地域課題解決のきっかけとなる大会」はわかりづらい。

従来の国民体育大会から国民スポーツ大会へ移行するにあたっては新しい方法で実施され県民からの支援や賛同が得られる競技会として確立させる必要がある。特に選手育成や強化事業については組織が一本化され地域の活性化を含めた取組みが必要と考える。競技方法についても多角的に検討しより競技特性が発揮できる大会を目指して頂きたい。

国体改革の要として、全ての関係者の負担軽減を第一に考えるべき。

WGの提案に賛同する。

基本的には、大会運営費の確保の問題が一番の課題だと思うので、自治体負担の軽減が図られる方法にしてほしい。 役割や、方向、位置付けについては、現行を維持していけば良いと思う。

国民のスポーツ大会なのでトップアスリートの参加が必ずしも必要では無いと思う。広く国民全体が参加できるようにするべきである。

現在は、スポーツ少年団等の活躍を通じスポーツ人口も増加し、国民の健康も向上してきており、当初の国民体育大会の目的の一部分は達成されていると思う。若年層の競技人口が増加している e スポーツ等新しい競技の採用等時代の変遷に応じた競技種目の柔軟な採用。ふるさとスポーツ力の向上、スポーツ環境の醸成は必要であり、国内最大のスポーツ大会としての位置づけ。

国スポを通して多くの国民にスポーツの普及と施設の充実を図り、生涯スポーツを通して健康増進につなげる。

3巡目に入ると、施設の老朽化はあるにせよ、既存の施設利用は可能と思われる。

よって、国体を機に施設充実ということを考えなくても良いと考える。また、幼年から学生まで、年代ごとの競技会も以前に比べれば増えてきているように思えるので、国スポの位置づけも考えさせられる部分もあります。ただ、社会人やマスターズの方々への機会を増やすことは人生100年時代ということを考えると有意義ではないかと思える。あくまで私見ですが。

3巡目国スポを機会に、選手人口を確保する。大会に向けて、継続的に選手育成プロジェクトを実施していく。

あらゆる人々(都道府県関係者、マイナースポーツ・メジャースポーツ)との多様な関りを推進し、スポーツの価値 を高め広め継続することに貢献する。 中長期的なアスリートの育成・強化。ふるさと(都道府県)のアスリートの 育成・強化と指導者・競技役員等の養成都道府県のふるさとスポーツカを競い合う国内最大・最高の総合スポーツ 大会であり世代・競技間を超えた交流を育む大会でありたい。

「競争」ではなく「共走」を合言葉に~すなわち競い争うのではなく共にスポーツを楽しもう、友情を深めようという方向を目指してはどうか。各競技の順位は仕方ないが、総合成績順位はあまり意味がないように思う。

全ての人々にスポーツの価値を与える意義は深い。

役割、コンセプトは理解できるが、それぞれのスポーツにおいて、プロ化、多様性により、なかなか、意図することを実現しがたい状況にあると思います。一堂に会する大会方式からの変換等が必要と思います。

スポーツ選手の目標となる競技会であり、都道府県対抗の最大の大会で、国民が関心を持てる競技会。地域格差の 少ない競技会。

国スポの役割等については、国民の意識や関心と温度差は大きい。残念ながら、国スポが国民の大きなイベント事になっていないと考えると役割を果たす効果が低い。

なぎなた競技においては、選手強化、指導者育成の面で国スポの果たす役割は重要である。3巡目も時代に即した中で、継続性を望む。

国体開催年だけの盛り上がりにせず、競技スポーツとしてだけでなく、国民の健康のために競技人口が増え、中長期的にアスリートを育成し、地方にスポーツが根付き環境を醸成する役割を期待する。

地方競技団体にとって、選手強化を図るうえで必要な大会である。強化費の補助を受け更なる組織強化するためにも、今後も重要な大会と位置付けと捉えている。

競技やエンターテイメントを含む生涯スポーツとしての浸透は重要だと考える。国民の健康(心身)と共に個々の目的に応じた楽しみ方ができるスポーツの在り方を推進することで活気や成果が生まれてくると考える。スポーツは限られた人が取り組むものではなく、人の生活の一部になるように推進する必要があると考える。

競技によって熱量に違いがある。競技する側にとって、もっと「勝たなければならない」という意識づけが出来る コンセプトが必要。

純粋なスポーツの大会なのか、各県のイベント的な大会七日をはっきりさせるべき

役割について: 異議なし。

目指す方向について: 異議なし。

大会の位置づけについて:修正を求めたい。

①×都道府県のふるさとスポーツカを競い合う国内最大・最高の総合スポーツ大会

○全国各地で開催する都道府県のふるさとスポーツカを競い合う総合スポーツ大会

地方の小規模自治体で最高のレベルのスポーツ大会を行うことは困難であり、最高レベルを求めるなら、大規模都市部の開催地固定で検討を進めていただきたい。よって、全国各地を持ちまわる現在の形式で、複数年に1度の大会されるのが望ましい。

都道府県のふるさとスポーツカを競い合う国内最大・最高の総合スポーツ大会

国内のスポーツイベントで唯一のすべての競技による都道府県対抗である国体をもっと国全体にアピールすることでその存在価値を高める努力が必要である。

国スポを通じて社会をより豊かにすることに貢献する。持続可能なスポーツ大会を目指す。ふるさとスポーツカの

発展を目指す。国内最大の・最高の総合スポーツ大会として位置付けることに大いに賛同します。

レガシィを継承しつつ、時代にあった形での実施が求められていると思います。少年の部は興味関心もあり強化・ 育成の観点からも今まで通り継続した方がいいと思いますが、成年の部は検討の余地があるように思います

・スポーツを国民が好きになること。自分でもできるんじゃないかと思わせる仕組みとトップアスリートのパフォーマンスに触れる貴重な機会とならなければならない。・国体だからこそ良い施設で競技ができることと、新聞等への露出が大きいことが魅力であり、無駄を省いた上で魅力発信の努力をすべき。

スポーツに関わり実践することで各自の健康維持が可能となります。健康保険制度を守るために自身の兼行年齢を 高めることを目標としては如何ですか。

よりレベルの高い競技会を目指すとともに地域の発展の一端をスポーツが担っていくという意識が必要

果たすべき役割、目指す方向、位置づけについて共感できます。

国スポは、県のアスリートの育成・強化と指導者の養成が図られることで、地域スポーツの発展に寄与する。

地域の方々がスポーツを身近に感じられること。スポーツが社会にもたらす影響を明確化し、浸透させること

あらゆるスポーツがグローバル化している中で、国内の都道県対抗色を前面に押し出した大会のあり方は、世の中の価値観と乖離している印象があります。テニス競技では、トップ選手は国体よりも国際大会の方への関心が高まっています。

国体当初の目的とかなりのズレが生じている。特に運営資金の調達や、競技人口の偏りがあり、どうしても選手(トップアスリート) は地方ではなく、競技環境の良い中央へ集中してしまう。都道府県の総合成績で序列を作るのは 今のご時世に合っていない。

ジュニアやアマチュアスポーツ、マイナースポーツの普及・発展。またはトップアスリートによるフェスティバル要素の強い開催によるスポーツへの関心度アップ、各競技の普及。

サステナブル、多様性といった観点が織り込まれていて良い

果たす役割については、定義についてはよいと思います。示す方向では中長期的なアスリートの育成・強化に繋がっていいかないと思います。プロスポーツ化や各競技のクラブ化で国体に出場よりも、競技団体のトップの大会に目標を持ってくる。国体の前後にリーグや全国大会等があり参加しないチームも多い。

コロナ禍で非常に難しい。2大会中止、延期となっている。

1巡目~2巡目と次第に国体への熱量が冷えてきているように思う。開催地の人々との交流の場も少なくなってきているように思う。選手側も仕事が休み難い状況になってきており、国体で競技を楽しめる状況が減ってきている。

大会を契機に施設整備が図られるなど、地域振興の発展に寄与するような大会が望ましいと思われます。

国内トップレベルの選手が参加することで競技会も、開催する会場地も盛り上がるとは思うが、参加できる機会(人数)を増やすことで、できるだけ多くの人に国スポへむけた競技への取り組む意欲向上につなげてもらいたい。競技スポーツがより身近なものになると思う。

国内最高の大会であるといった認識が広がっていないと感じる。

都道府県におけるスポーツをはじめとした多様な文化との融合並びにスポーツ環境の醸成

学校教育をおえて、スポーツに親しむ方で競技選手としてやってみたいという目標を持つ方々の活躍の場であり、 より身近に感じられるものだとよいと思う。高校生や大学生は、インターハイ、インカレの一本化でよい。

約50年に一度国体が廻ってくることで、地方スポーツ振興に役立っている。現状の問題点を解決して、今後も続けていくべきだと考える。

「なぜ、スポーツの価値」を高めるのか再考していただきたい。1 巡目と 3 巡目では、時代背景が異なるため、役割、方向、位置付けは当然変わってくるが、少子高齢化社会、多様性等の中で、今までのようにスポーツの実施、運営が普通に成立しないことを認識する必要がある。

考え方はよいが、出場できる都道府県の数にもよる

全都道府県においてはすべての競技が普及し、各地域に応じた特色ある競技の育成強化が図られてきている。そん

な中ふるさとスポーツ力を競い合う国内最大・最高の大会での、地元選手の活躍に対しての関心は高く世代を超えた交流を生むきっかけに繋がっている。少子高齢化が進む現代において、郷土愛を育み地域の活性化を考える人材の育成にもつながるはずである。

「楽しいスポーツ」も役割のひとつ

賛同する。特に地方におけるスポーツ環境の確保は全国的な課題でもある。その点を考慮願いたい。

巨額の国費を投じてスポーツ大会を開催する意義は、国民が豊かな生活を送るために、大切なメッセージになると 思います。目指す方向は全ての国民が参加を目標とするような大会にすべきと思います。

生涯スポーツの観点や日本古来の伝統競技である武道の普及に鑑み、重視すべき競技を再検討すべきではないか。 オリンピック競技や国際的に普及している競技は大会等への参加機会も多く、目標も設定しやすい。また経済的に も恵まれており、協議環境にも恵まれている。むしろ陽の当たらない競技にこそ重点を置くべきではないか

別紙のとおりであると思います。

マイナー競技では国体が選手の一つの目標にもなっているので、選手強化・育成の面でアーチェリー競技については無くてはならない大会である。

目指す方向、位置づけについては、異議ありません。

言葉が上滑りしていて、よくわからない。

負担を減らすために、都道府県単位ではなくブロックで担当する。インターハイ、全中と同じにする。

①②の競技性を高め選手強化・育成の場としての役割は現状を維持しつつ、競技施設は仮設ではなく常設を基本とし、大会後は施設を利用してサステナブルに③交流や④体験の場とすることを位置づけてほしい。

新たに定義づけを行ったことについては賛成いたします。

「する、観る、支えるの重視」というスポーツの基本的な考え方が体現できるように、2巡目までの原則は踏襲しつつ、3巡目国スポが決して衰退・縮小していくことにならないように、新たな発想を用いて発展させていくことを望みます。スポーツの力、地域の力を発揮して、活気の溢れる明るい日本になっていくことを願います。

スポーツ競技人口の増加

高齢化社会となりつつある中、競技も高齢者年代別の団体戦大会もあってもいい。

国スポのはたす役割は大きいです。競技種目も増加傾向となってきており、開催県の意向が大事であり、たて・よこの連携強化を図り対応すべき。

2020 東京オリンピック・パラリンピックの開催により、新たなスポーツ種目も取り入れられスポーツの多様性が感じられた大会となった。若い可能性のある年代をターゲットに新種目に対する強化や日本人の持つ特性を生かした個人競技や団体競技に注目し世界に通用するアスリートを養成させるための取り組みを考えて行くべきだと思う。

地域活性はかなり進んできているので、全国大会へのアピールがあってほしい。

3巡目の開催については反対

アマチュアスポーツの祭典として、各競技において男女複合種目や各レベルでの種目等、新しい種目を取り入れた 祭典を希望する。また、アスリートにこだわるあまり、日本の最高峰の大会・祭典であることを忘れているように 見える。(世界大会・オリンピック等を見越した、国体が次のステップに繋がる大会のような感じるところがあり、

目指しているところが何なのか、別紙内容も幅が広く、つかめないところがある)

コロナで色々な制限はあるが、国体は開催県の地域の方々と触れ合える他にはない競技会だと思う

国民の健全なる心身を向上させることが出来、開催県は県づくりを見直せる

ふるさと選手は現状のままでジプシー選手は少し厳しくするべき

中長期的なアスリートの育成・強化について具体的にどのような案があるか聞きたいです。特に成年男女(社会人) になってからの育成・強化はどう考えているのか

国スポもオリンピック同様に肥大化しすぎている。 ⇒ 疲弊した地方に負担を負わせている。 ⇒ 国民の嗜好の変化に合わせた大胆な改革 (競技の入替等) を行う。固定観念や慣習にとらわれない改革を行う。

一部の競技者や団体のためでなく、一般国民のための大会にすべき。

国スポを通じて、社会をより豊かにすることに貢献するという意義に賛同致します。

47都道府県で開催する意味は理解できるが受け入れ可能でない地域での開催は如何なものか。

国民全体が競技の種目の内容を理解し参加することを積極的に希望すること

国民に対してスポーツの普及、関心を持っていただく為に重要な役目をしていると思う

世代間を超え、都道府県のスポーツ力を競い合うというのは、国スポでしか出来ないと思うので、位置づけとしては大事な部分だと思う。また、国スポをきっかけにし、「ふるさと」を想う心やスポーツ力を高めることは、より良い国にするためにも必要だと思う。

少子高齢化が今後ますますすすみ、地方は大都市圏よりも早く人口減少が加速していく。地方によっては選手や指導者確保が今後さらに難しくなることが予想されるため、サステナブル (持続可能) なスポーツ大会を強く望む。

開催地が一丸となって競技団体を応援する。

都道府県レベルで競い合う国内最大のスポーツ大会とて今後も伝統を引き継ぎ実施して頂きたい。

果たすべき役割、目指す方向等については概ね同意見ですが、勝利至上主義の面が前面に出すぎている感は否めない。国民スポーツ大会の意義、定義に沿っての選手資格、総合成績の決定の見直しを要望します。

国民に対するスポーツ意識の向上や、選手の都道府県代表という意識の向上がある。

競技認知度の拡大

地元開催の場合の注目度は高い。マイナー競技に関しては周知される機会になり普及につながる。多くの人がスポーツに触れ、関わるきっかけになる存在になってもらえればと思う。

会員にとっても一緒に応援や援助ができ、静岡県全体で意欲的にサポート出来ることは、楽しく国民全員に感動やモチベーションも上がる。このことを次世代の選手・監督を育成する上でも伝え、指導していく事が重要である。次世代の子供たちを暖かく見守る、精一杯の応援ができる、選手が十分に持っている力を、可能性をしっかり伸ばせて、実力を発揮できる環境を作り上げることが現在の私たちの役割であり目指すところと考える。そこには静岡県全体の弓道人、家族や弓友や地域の人が弓道という国体スポーツで力づけられたり、感動したり、勇気づけられたりとスポーツの持つ意義が生かせる。県民が一体となって取り組む姿勢は素晴らしい事と考える。国体競技で勝つということは、プレッシャーも大きいがそれ以上に勇気や感動を選手・監督・スタッフ・応援する人・地域の人と共に築けるものと考える。その為の環境をしっかりと構築することが現在の課題であると考える。

3 巡目国スポの果たすべき役割として、国民最大のスポーツイベントとしての在り方を根本的に見直す必要がある。 目指す方向として、経済面での負担になり過ぎず、国民県民の為の大会にすべき。位置付けとして、国民最大のスポーツイベントのはずが、甲子園高校野球や春冬高校生の全国大会、新春や大学駅伝、W カップサッカー・ラグビー・バレーの予選等の方が、国民の関心が高いようだ。

「スポーツ」としてとらえるのであれば、都道府県対抗で順位決定を行う必要があるのかから考慮すべきではないか集中的に選手強化を行い、資金を投入した数年間は競技力が向上するが、開催年が終了し、選手強化費が削減されるとすぐに成績が低下するのであれば、各県にとって得るものが少なく、負担ばかりが多くなっているように感じられる

先ず、コロナの影響も心配されるため、ますます開催の仕方について難しくなることが、予想される。そのため、大会自体の運営も考えるとすると、本来の目的が大会で十分に果たせるかは、難しい時代であることも含めて考えなければならない。しかし、国スポの示す最大の醍醐味として、競技性は残しつつ、都道府県の最大の力が発揮される場であり、自県の交流を通し、利益よりも自県のための名誉のため、より強固な繋がりで臨めるというところだと思う。選手にとっても、故郷を大切に思う気持ちが都道府県にとっても活性化することは確かではあるが、現在はブロック毎に出場制限があり、全部のエントリーとなることで、より都道府県で戦う意味はあるかもしれないが、プレミア感はなくなるように思う。限られているからこそ、そこにやりがいがあり、目指す目標が明確になると思われる。また、ふるさと登録という制度については、整備が必要と感じる。開催地に関しては、協会等の母体

が運営できる都道府県はいいが、種目によって、運営するスタッフが不足していたり、予算の都合上、十分な環境が選手への競技の支障となることもある。安定して開催できる開催地があることは、開催県としてはありがたいと思われる。国スポに関して、県の派遣というところに重きを置いて仕事や学校においても、配慮が欲しいところは多分にあるため、行政との調整(直前の練習や場所の優先確保)も必須である。会期についても、会期前だと今一つ盛り上がりに欠けるように感じるため、出来るだけ統一した時期として欲しい。(学校においては、この時期に重なると、教員のほとんどが不在となるなど、弊害はあるが、その時期限定で講師の補填など新たな対策も必要になる可能性がある)

あらゆる日知人の参加によるスポーツ大会の位置付けが必要であり、大会参加に誇りを持つ大会でありたい。

もっと参加可能人数を増やして、一人でも多く実際に参加できるようにするのが好ましいと思う。

スポーツが国民にもたらす影響は計り知れない。選手の他への影響や役割を十分に理解と自覚を持たせて大会に臨ませることが大切。役割=スポーツへの関心度を向上させる 目指す方向=競技力の向上と選手強化

位置づけ=他県選手で補強しない純粋な県出身者での争いとする。スポーツを通じて県民の体力向上、運動意識の向上を狙う。

国内で最も権威ある大会。地方選手なども国体を目指して切磋琢磨し、競技力の向上や選手の発掘を行う。

三巡目を控え、方向性は見えているが問題点は実施方法等をさらに充実すべき

サッカーに関しては当てはまらないものがあるが全体としては良いかと思う

開催県市町村実行委員会などにおいて、だれも過労死させない大会準備・運営が一番大切である。

県の競技力を向上させるためには、国体の存在は大きいと考える。しかし、過度な勝利への期待は指導者、協会へのプレッシャーとなってしまう。しかし、順位を競わなくなれば強化にかける予算の額が減ってしまうことは、スポーツの振興にはマイナスとなってしまう。

開催目的・開催意義の明確化

この別紙を読む限り、大きな変更なく続けていく方向性と感じた。ここ数年だけ見ても、オリンピックや世界規模の大会の価値がより一層高まり、トップアスリートが国スポに出場するとは思えない。そして、都道府県の人口がこれほど異なるのに、都道府県対抗のシステムは無理があると思われる。東京都と開催県のトップ争い、総合順位に何の意味があるのだろうか。各競技ごとの順位づけのみで十分である。オリンピックだって国ごとの順位など決めない。開催県も持ち回りだからしょうがなく引き受け、天皇杯を獲得できなければ恥ずかしい思いをするのである。膨大な税金を使い、総合開会式や閉会式を行うことについてやトップアスリートが出場するだけの魅力がない中で、開催地がスポーツ専門員を雇い、少しでも良い順位を目指そうとするのは、県民に理解を得られるとは思えない。もっと抜本的な改革をしなければ、今後開催していく中で開催予定の県の知事が「いっさい協力しない」となってもおかしくないレベルである。成年と少年で開催地を分けるとか、少年のみにするとか、各競技ごとに独立して開催し、国スポの冠のみを与えるとか、そのくらい考えないと絶対に盛り上がらない大会となっていく。また、各競技のトップ(中央競技団体)に運営方法や出場資格(ふるさと等)について決定権を持たせていくことも可能ではないだろうか。ここに記したいことはたくさんあるが、誰のための大会なのか何のためにやるのかが曖昧で、危機感が感じられないのでこれ以上は書きません。

当初国体の開催意義として、戦後の荒廃をスポーツの力で復興させ活気を取り戻したいと考えていたと思いますが、 現在は国体の役割としては変わったと思います。それが良いとも悪いとも判断できませんが、今後の目指す方向性 などは検討する時期が来たかもと思います。

勝利至上主義的な思想に偏らないように配慮されているが、これらが絵に描いた餅にならないよう、十分に周知・ 徹底されたい。

県単位による地域や郷土に対し深い理解と親しみを持って参加や応援する機会を提供できるような大会にする。

これまでのWGの検討内容は整理され簡潔にまとめられてると思います

中長期的な選手の育成及び強化。

- ・スポーツを通し国民に感動と希望を与える役割,国内最高峰の大会と位置づけ、トップアスリートが参加する大会添付資料で提示されたもので良い。
- ・スポーツの産業化の先端としての大会となってほしい。・国スポ開催後の施設の有効活用を図る。

現在の国体のあり方は地域の競技力のボトムアップ、選手育成に大きな役割を担っている。よって目指す方向、位置付けも3巡目に入っても現在の行い方で大きく変更する必要性はないと考えます。

競技別の全日本選手権とは一線を画して、国民的フェスティバルとしての位置づけをはっきりさせ、以下の点を考慮する見直しを進めてはいかがでしょうか。

- ・各県持ち回り開催する必要があるか、競技によっては必要施設のある特定場所での毎回開催で良いのではないか。
- ・競技種別も男女ミックスで参加可能な競技を大幅に加え、逆に女子選手が普及していない競技について女子種別 を設けることはしなくとも良いのではないか。
- ・競技見直しの伴い県単位の天皇杯皇后杯、総合表彰体系を続けず、少なくとも男女別の杯は無くすべき。
- ・競技の内容により分かれている本大会・大会、ファエスティバル競技、障害者スポーツ大会の壁なくし、全体を 一つの運営としては。
- ・予算・主要運営企画要員も開催市県負担ではなく、国予算、国単位企画要員で行う検討をしてはいかがでしょうか。(国体運営機構)

アマチュアスポーツを楽しむ県民が増えるようなコンセプトにするべき。有料入場、既存の施設利用などレガシーとして残る物がなく、県民に負担ばかりが印象に残る大会になっている。以前のように国体が終わったら施設が良 くなったと思える後生に残る物が欲しい

「果たすべき役割」「目指す方向」「位置づけ」について良いと思います。

コンセプトであるサステナブルなスポーツ大会を目指すのであれば、各県での各参加競技・団体の現状を理解しなくてはならない。

国民体育大会は日本一を決める大会ではないため、都道府県別対抗イベント(お祭り)の側面を残しつつ、(1)トップレベルの選手権大会等に出場できない選手ための機会を与える、(2)既存の都道府県対抗競技大会(例:駅伝、野球、サッカー等)を点数カウントの対象に加える、(3)その他ジュニア、インターハイ、マスターズも巻き込んだ全世代参加の大会と位置付ける。

特に開催地においては、世代別の総合スポーツ大会や各競技の全日本選手権大会にはない、選手・指導者・所属団体・競技団体・行政など関係者が一体となって、中長期で選手強化が出来るところに国スポの魅力がある。

●果たすべき役割

国スポを通じて、社会をより豊かにすることに貢献するとあるが国スポに関わる年代は限られている。人生 100 年時代に合った、健康寿命の延長に沿った中でのスポーツのかかわりがイメージできるとよい。「あらゆる人々」の定義が分かりつらい。

●目指す方向

①中長期的なアスリートの育成・強化は主に競技団体別に行われていているが、本来の選手の最適な種目選択の時期をどこに置くか、種目によって変わるかもしれないが、国の競技スポーツの在り方として考える必要があるのではないか。

●大会の位置付け

競技スポーツを軸とした、各都道府県のスポーツ振興を評価する最大の祭典。

民間委託にすべき

競技の普及と競技人口の確保そして強化の観点からぜひ続けてほしい。しかし、種目によっては標準記録なりブロック予選をせずに各都道府県定数で実施している種目がある。競技力向上とレベルの維持の観点と参加人数の制約からブロック大会の勝ち上がりと標準タイムを設けたほうがよいと考える。

都道府県対抗の国内トップレベルの総合スポーツ大会と位置づけ、国民スポーツの関心を高め、選手の育成やスポ

一ツ環境の醸成を目指していくべきと考える。

地域スポーツの活性化、経済効果、トップアスリートの育成

別紙1の方向性で良い。

国スポを開催することで、スポーツの価値を高め、広げることに貢献することは充分に考えられるが、都道府県対抗での実施では選手少子高齢化・過疎化が進む地方や、もともと競技人口の少ないマイナー競技において、ふるさと選手を育成することも現状厳しい状況の中、ますます競技成績を残すことが、厳しくなることを危惧している。

各都道府県におけるシビックプライドの醸成とスポーツを通しての人材育成、人間形成を目指すことを基本として 地方創生が図られるように魅力のある国体運営が必要である。

別紙の資料に記載されている内容に同意

開催地の負担や施設等の状況をふまえ、ブロック開催も視野に入れ検討が必要。

設問34:3巡目国スポの検討に向けての要望

●スポ協

- ・スポーツの普及・振興が促進されるように検討を進めて頂きたい。
- ・選手の負担軽減(選手への配慮)を考慮した大会づくりを検討に盛り込む。

他のスポーツ大会と比較しても人的・財政的な負担が非常に大きいのが、国スポだと思います。それらを見直さないと3巡目の実施は難しいと思います。

エリア開催で、順通り京都府から3巡目開催となると、少なくとも本県で実施する競技も含まれると思うので、早い情報共有をお願いします。

- ・冬季大会と本大会を分けて開催してもらいたい・ブロック格差の是正。全都道府県フルエントリーでの大会実施 最初から上位県が決まっているような状況が続き、国体(国スポ)に関する一般の方々の興味、関心が薄れている 現状を打開するためには大がかりな改革が必要である。今までの微調整のみでは、持続可能な大会は難しい。
- ・各都道府県独自のスポンサー等の広告宣伝(ユニホームなど)を認めていただき、支援企業等を巻き込んだ大会 のあり方を検討いただきたい。
- ・今後も同様の意見調査を実施いただき、3 巡目国スポの開催に向けて十分な準備検討を継続いただきたい。
- ・地方にとって国民スポーツ大会(国民体育大会)の意義は大きい。プラスの様々な要素があり、今後とも継続してほしい。・競技団体としては、県内の競技会場整備の問題があるため、その解決策があれば、開催する意義はある。 国体を最上位大会として、国を上げて開催することで、郷土愛や競技力向上などにつながるものと信じている。
- ・ブロック開催や複数県開催は、各種負担軽減につながるとは思うが、国スポの在り方がふるさと力を高めることであれば、特殊競技などを除き、これまで通り単独開催を前提に進めていただきたい。

主催者が決定する大会の位置付けや目的・実施競技に影響されるため、選手団を派遣する立場からの参考意見として記載させていただきます。魅力ある(盛り上がる)大会として、

次の2つを大会 の視点に位置付ける。

- ○国内最大規模の総合スポーツ大会
- 〇将来性豊かなアスリートの育成・強化を行う大会

その上で、本件で掲げられてる課題の一つ一つは、互いの課題が密接に連鎖することから、多角的からの視点で、実施競技の見直し(種別含む)や会期などの整理されることを望みます。3巡目国スポについては、トップアスリートが目指す大会となることで、魅せる大会・憧れる大会・誰もが認知する大会となり、名実ともに国内最大・最高のスポーツ大会を目指すことは重要である。その一方で、国体(国スポ)は、国内最大規模の総合スポーツ大会で、国内の競技力向上に大きく寄与している大会である事実を大会の位置付けとし、これまで各都道府県が、国体(国スポを通じた多様な競技力向上の取組みを、さらに継続・推進できる大会としていただきたい

少子高齢化、学校部活動離れ、学校部活動改革等、少年種別も課題が多く、成年種別においては、企業スポーツの 衰退、選手確保、トップアスリートの不参加などこちらも多く課題がある。国体改革を機に、開催県の負担軽減や、 選手の積極的な参加があり、競技会としても価値・評価の高く、開催県民からの応援・協力を募れる魅力ある国民 的行事として継続することを期待しております。

国民体育大会から国民スポーツ大会への名称変更に伴い、競技者のみの大会ではなく、より広く一般国民に対して もスポーツの魅力を発信し、多くの方々に夢と感動を与え、国民の一体感を高めるとともに、人と人、地域と地域 との交流を深め、活気あふれる社会につながる魅力ある大会になることを希望する。

ブロック間での第3代表戦によって本大会への出場を決める競技がある。代表権獲得についてはブロック内で完結 するようにして頂きたい。

・オリンピック競技を正式競技として積極的に導入していただきたい。オリンピックでは大会ごとにその時代のニーズに合った種目を新採用している。そのニーズに国体も合わせることができれば、大会の活発化や国民の認知度向上につながると考えられる。・オリンピックに伴った新規種目の導入等で、実施競技種目は増加しているが、大会

規模は変わっておらず、圧迫感のある大会になっていると考えられる。その影響を受け、本大会の参加枠が少ない 競技があるのではないか。開催地や開催期間等の課題改善が見込まれたうえで、大会の規模拡大及びブロック通過 枠の拡大を検討していただきたい。

少年種別については、未来のトップアスリートを目指す可能性を持った選手を出来る限り多く国体に参加できるようにしたい。日頃、活動をする所属と一むでの大会出場ではなく、都道府県の代表として個人の力を評価された選抜チームの活動には、相応の意味があり、選手としての成長に大きな影響があると考えられる。一方、成年種別においては、各々の競技種目の置かれている社会的な位置を考慮して、その種別に求められる大会を検討していくことが必要である。各競技団体で多種多様な取り組み方がある中で、成年種別の求める国体の在り方を熟慮する必要があると考える。

国スポは実施していくべきであると考えます。スポーツ基本法に定められ「国内最大・最高の総合スポーツ大会」に位置付けられており、大会への注目度や価値を高めていく必要があると思います。選手・監督や競技関係者以外の一般の方の興味関心は必ずしも高いとは言えませんが、多くの人が興味関心を持ち、国スポの観戦に足を運びたくなるような大会になるよう広報・マーケティング活動やメリットを考えていかなければならないと考えます。

各都道府県間の出場枠不平等の是正をしていただきたい。(ブロック予選の廃止/各都道府県フルエントリーなど)ドクターおよびアスレティックトレーナーが都道府県選手団本部役員に編成しなければならいない理由や必要性の明確にしていただきたい。参加条件にある「健康であること」とはどの程度の条件であるのか。また、「健康診断」はどの程度の内容が必要なのかを明確にしていただきたい。国スポの検討をするにあたっては、国スポの予選会として実施しているブロック大会も一体として考えていただきたい。国スポの検討にあたっては「日本のスポーツ振興」という主旨を見失わないように抜本的な改革と大きな志をもって、議論を進めていただきたい。

国スポも3巡目となるにあたり、スポーツの国民に与える意味も、当初の国体開催の意義から変化しており改革すべき点もあると思うが、都道府県持ち回りでの開催意義は変わっていないと思うので、決定方法はともかく開催方法は現行方式を維持すべき。

国体が果たしてきた役割は非常に大きく、国のスポーツ振興や国民の体力増進に一定の効果をもたらしてきた。しかし、国体に対する国民の関心が薄れているというのも事実であり、再び関心を持ってもらえる大会として生まれ変わる必要がある。過去に縛られることなく、新たな取り組みも導入することにより、都道府県のスポーツ振興の柱となるような抜本的な変革を求める。

隔年開催競技を増加し、各競技の競技人口やオリンピック種目にならって決定するなどしてはどうかと考える。

3 巡目を実施するにあたり、開催県の負担軽減の観点から、インターハイのようにブロック開催や、競技別に開催地 固定の導入について考えてもらいたい。

都道府県対抗戦であるかないかで多くの面で考え方が変わってくると思います。SDGs目標達成にスポーツの果たす役割を考え、国スポの役割・方向性に「サステナブル」を取り入れるのであれば、都道府県対抗戦である必要はないと思います。

戦後、国民生活に希望をもたらそうと、先人の甚大な努力によって国体が開催され、全国各地にハード・ソフト面でスポーツが普及・発展していったことは紛れもない事実であり、ここに国体の所期の目的は達成されたといえる。 ところが現在では多くの競技で全日本選手権等国内チャンピオンシップ大会が実施されており、そのような競技では国体は国内最高の試合ではなくなっている。この点は素直に認めざるを得ないところである。

しかしながら本来日本人は地域帰属意識が高く、いわゆる地区別対抗戦的な催しは盛り上がりを見せ、都道府県対抗形式の国体は日本人の嗜好に合致していると考える。都道府県持ち回り、都道府県対抗という現行の基本方式は維持したまま、より多くの国民が参加・観戦・サポートできる大会へと発展していくことを切に希望する。

国体を通して、国民がスポーツを「する」、「見る」、「支える」といった様々なかかわり方を持つことで、国内最大 規模のイベントとしての役割を担うとともに、国体が永久に存続し、都道府県体育協会と競技団体の存在意義をよ り感じることのできる大会になるよう検討を進めて頂きたい。 現状、国体は様々な問題を抱えているため、今一度現場の情報を吸い上げ、インターハイ等の主要な全国大会と比較したうえで検討を進めていただきたい。

現状のままで3巡目に入るのは絶対に避けたい。大幅な見直し(規模の縮小等)は必須である。ブロック開催や複数県開催も検討すべき。

3 巡目という概念ではなく新たなスポーツ振興のための大会として構築していただきたい。

2 巡目が終わろうしているが、時代に対応していくためにつぎはぎだらけでとにかく不合理、分かりにくい、事務的 負担も増している。継続するのではなく、しがらみを排除した新たな大会としていく必要があるのではないでしょ うか。この設問もどの立場からどういった意見をだせばいいか非常にぶれている印象を受けました。このことが 3 巡目の限界を表しているものであり、全く違う大会として構築していただきたい。

●国体部局

国内最大で最高の大会であるという価値を今後一層高めることで、大会自体の知名度のアップと選手が各都道府県 代表として純然たる勝者を求めて参加する大会として、より一層盛り上がることを期待します。

急激な人口減からくる財政難のため、本県スポーツ全体の予算の削減、とりわけ競技力向上についてはその必要性も問われている現状である。国体については、県民の関心が薄れているのが肌で感じられ、そういった中で指導者、選手のモチベーションは低下し、人口減のあおりも受け、競技人口の減少が加速し、球技等の団体競技種目においては、人数不足のためにチーム編成ができず、団員の募集を止め、解散を余儀なくされているスポーツ少年団や、小中学校では、取り組みたい競技の部活動等が機能している学校を求めて転住するなど、それによって児童生徒がいなくなり、学校そのものが廃校に追い込まれるといった事象は既にめずらしい事ではない。このような状況の中、国体では少年種別の獲得得点が最下位(独自集計)となり、天皇杯順位は低迷を極めているが、国体の成績を基に予算が決まる県の競技力向上のための強化費は年々削減を余儀なくされ、その結果競技人口の確保ができず、競技力の向上にもつながらないといった悪循環が生じている。このような本県の現状から3巡目国スポについては、もし従来と同じく都道府県対抗であるとすれば、選手の活躍が点数や総合成績に反映されるような仕組みになって、県民の関心もあがり、競技人口が増加し、競技力が向上し、その結果国際大会で活躍出来るようなレベルの高い選手が輩出され、日本の競技力向上につながるようになってくれればと考える。

WGにおいて出された持続可能性という視点が大変重要と考える。環境負荷の低減や少子高齢化、ポストコロナといった社会的課題とスポーツの意義を踏まえ、引き続き御検討願いたい。

冬季国体アンケートの際にもあったが、大会経費の確保のために大会参加負担金の増額分を都道府県に求めるのではなく、主催者である国及び日本スポーツ協会の負担を大幅に増やすべきであると考える。

国体が都道府県の競技スポーツ振興に一定の役割を果たすことは理解するが、一方で都道府県は、選手等の派遣費以外に選手強化費等も負担していることを踏まえると、参加者一人当たり多額の負担金を拠出してまで国体に参加することについて、議会や財政当局の理解を得ることは難しい。

- ・3巡目国スポとして、まずは、開催の意義、目的について議論し、方向性を明示したうえで検討を進めるべき。 (ベースとなる考え方等が共有できないと議論がかみ合わないため。)
- ・検討にあたっては、実態に応じて、聖域を作らず柔軟な対応を検討していくことは賛成できる。
- ・日程や参加条件等、選手を第一に考えた視点も必要。(アスリートファースト)
- ・開催都道府県では、開催の数年前から施設の整備や人員の加配など多くの費用を負担している。特に施設面では、 国体開催のための施設新設や、現有施設の整備等、維持管理の費用負担が大きいので、国や JSPO から開催都道府県 へのこれらに係る補助金制度等について検討して欲しい。
- ・冬季大会と本大会を分けての開催。・ブロックの格差の是正。
- ・大会自体の簡素化・簡略化は、開催県の負担の軽減を目指す上で、国の支援の強化も含めて、ぜひ議論を進めていただきたい。・大会を持続可能なものにしていくためにも、スポンサーの獲得や等も含めて、大会を魅力的なもの

にしていくことが望ましいと考える。・開催地決定方法については、開催県の意思を前提にした持ち回り制を維持しつつも、各自治体が自主的に開催を誘致できるよう、動機付けについても併せて検討して頂きたい。

付加価値を高める広報に全力を注ぎ、またそれがしやすい制度環境を整えてほしい。

こうした議論を十分に重ねた結果であれば、どのような形でも受け入れられると思います。

トップアスリートや競技団体など競技によっては、国体の位置付けに差が生じてきているように感じます。

日本のトップアスリートが集う大会になり、国体出場からオリンピックへとつながり国民が注目する大会になるよう期待しております。

開催県の重荷にならぬよう、意向を尊重し、柔軟なスポーツ大会を目指して欲しい。

「ふるさとスポーツカ」「柔軟性の追求」「サステナブルな大会」の3つの柱を主体とした国スポ開催を期待します。

本県において「国体」はどの競技、どの選手にとっても県の代表として競技する特別な大会となっている。「国体」 の良い部分を継承しつつ、新たな形での「国スポ」に変化していければ良いと考える。

国民体育大会から国民スポーツ大会への名称変更により、スポーツを通じて競技者のみならず多くの国民がスポーツに触れる機会となり「する・みる・ささえる」機会の創出へとつなげ、競技団体や競技者だけでなく国民の関心が示せる大会になることを望む。

障がい者スポーツ大会とマスターズ大会を含めた統合大会にするというコンセプトには賛成するが、メインとなる 国スポの縮小や、開催地負担の増大にならないような大会にしてほしい。

隔年開催競技を増加し、各競技の競技人口やオリンピック種目にならって決定するなどしてはどうかと考える。

3 巡目国スポの実施が前提でありますが、実施の検討を含めたあり方についての議論は自治体にとって非常に重要な事柄であるものの、今回のアンケートだけでは実情や真意が伝わりにくいと考えます。国スポを継続していくかどうか検討するプロセスの過程において、委員の方にはぜひとも各自治体に足を運んでいただき、実態把握に努めていただきたいと強く思います。また今後いずれかの段階で全国知事会を通じた意見聴取もされますでしょうか?サステナブルなスポーツ大会の在り方を検討する上で、簡素化や効率化の追求は重要であるが、これまでの国体の大会価値(郷土愛の醸成等)を継承したものとなることを切望する

現状では、競技毎に年代別大会の細分化や競技団体主催のクラブチーム大会などが開催されており、その傾向はさらに進むと考えられる。国体が選手や指導者にとって優先順位の高い大会、選ばれる大会となるよう競技団体と連携をしてほしい。(例)競技団体主催年代別全国大会を国体に組み入れるなど。

都道府県対抗戦であるかないかで多くの面で考え方が変わってくると思います。SDGs目標達成にスポーツの果たす役割を考え、国スポの役割・方向性に「サステナブル」を取り入れるのであれば、都道府県対抗戦である必要はないと思います。

設問2でお答えさせていただいたとおり、是非も含め、しっかり議論を深めていただきますよう、よろしくお願い します。

サステナブルな大会となるように、既存の大会に縛られず、今後の開催の是非も含めて議論をするべき。

- ・ゼロベースで議論すべき。継続するならば、これまでの大会の延長線上ではなく、新たな大会として生まれ変わるべき。25-①でも述べたが、きちんとこれまでの大会を総括すべき。オリンピックメダル獲得を目指すのか、 国民にスポーツの良さを浸透させるのが目的なのか、考える時期に来ている。
- ・見直しの作業は、競技力向上にかかる国内の資源分配に偏りがあり、地方においては開催地に選ばれることでしかスポーツの普及振興・競技力向上に対する施策が充実しにくい現状を踏まえて行う必要がある。大会のあり方だけでなく、競技力向上にかかる財源の地方への還流をセットで議論することこそが重要であると考える。(具体的には、地方交付税措置の充実や、スポーツ振興くじ財源の地方への交付金としての充当等を検討すべきと考える。)
- ・主催者の関係も見直すべき。例えば、日本スポーツ協会で国体開催のための職員を雇用し準備の母体となり、そ こにスポーツ庁、各競技団体、都道府県職員等からの派遣職員が共同で準備するようにしてはどうか。当然、開催 に係る経費についてはそれぞれが均等に負担すべき。特に、中央競技団体が一定割合を負担しないと、経費節減等

に自分事として取り組んでいただけない(オリンピック対策競技では、自分達も削減に取り組まれている)。

- ・国スポオリジナルのルール、競技種目、競技用具は、そのときだけで、今後につながるものでない。国体特有の 事項に対応できる業者が少なく、一部の業者に利益が回っている現状を変えて一般化して、もっと地元業者にも還 元されるよう改めるべき。
- ・コロナ対策等で開催県・市町が多大な人的・財政的負担を抱えていることや、両大会が荒天やコロナにより、中止・延期といったリスクを抱える大会となったことを踏まえ、従来の開催方法は、3巡目国スポのあり方検討を待つことなく、早急に見直されるべき。式典や施設基準の見直しなど、できることから着手願いたい。

大会の開催間隔や開催可否の検討が必要である。各競技の大規模大会が増え、国内トップ選手の参加 ができない状況 や地方では選手確保、施設整備等も課題となっている。福井国体のバドミントン競技に福井県出身の山口茜選手が凱旋出場した。地域のどこにでもあるような地区体育館に、地元の方が超満員で立ち見もでるほど盛り、山口選手のワンプレーに感動していた。本来の国体のあるべき姿ではないかと強く感じる。

NF

参加者数の拡大・縮小を含む適正化が必要と考える。

パラスポーツ大会との連携も必要と考えます. スポーツ振興、普及に貢献してきた国体が更に進展すること望みます。

国体は、個人種目~団体種目と多種目が行われる大会です。加えて、成年、少年のそれぞれ男女が存在し、それぞれに様々な規則、事情があります。その様な中このように国体を今後も永続させ、更によき大会とすべく検討することは簡単ではないと推察致します。一つ重要なことは、国体は国内で他にない都道府県対抗戦大会であることです。このような大会は継続の必要は多々ありと考えますので、開催方法(開催する年について等々)を更に継続議論した上で末永く継続する方法を探る必要があると考えます。

- ・国民の健康増進のため、また、日本のスポーツの普及、推進のためにも国スポ3巡目は行うべきである。
- ・肥大化した大会を簡素化し、開催都道府県の財政的・人的な負担を軽減する努力は必要である。
- ・トップアスリートが参加したくなるような魅力のある大会にする必要がある。
- ・大企業や大学を多く有する都道府県が必ず総合成績で上位となる現行得点システムを改める必要がある。
- ・選手の個人広告を認めるようにしてほしい。
- ・我々の種目では国スポ出場が選手にとって大きな目標である。この意識がいつまでも維持できるようなシステムを作って欲しい。・出場都道府県について、地域住民の理解が得づらいシステムはやめて欲しい。(生活実態のない選手の出場)・メディアに対して国スポをもっとアピールして、全国レベルで国スポを取り上げるようにして欲しい。SNSをもっと活用して国スポチャンネル等も作成して、タレント力を活用し、国スポの魅力発信を積極的に行って欲しい。・選手だけでなく都道府県を挙げて応援できるような大会環境づくりを検討して欲しい。

今回のアンケートを通じて、一つの項目の変更がその他の項目にも多かれ少なかれ付随的に影響を及ぼすことになることを感じる。各競技団体はもちろん、各都道府県スポーツ協会(体育協会)、開催地行政などにもアンケートを 実施していると思われるが、総合的、包括的に検討を進めて頂けることを期待する。

できるだけ多くの都道府県から出場できる、目指せる大会となってほしいが、経費、競技種目、参加者数の増大な ど課題が多いので、トップアスリートの育成というよりは、ジュニア層の育成、競技人口の拡大になるよう、普及 に力を注ぐような、地域の活性化につながるような国民スポーツ大会であって欲しい。

社会情勢等を考え変更が必要で検討点もあるが、当連盟としては感度化の見直しを実施し現在に至っていますので、まだ基本的には現状で良いと思います。

世界レベルの競技力向上か、生涯スポーツか、国スポは健康増進・生涯スポーツだろう。

JSPO の方針が見えてこない。競技団体としては、地域の普及・強化、役員の要請に活かしたいため毎年開催を希望。

特になし 開催地の負担を重視してほしい。

国体のレガシーが引き継がれ、3巡目がスムーズにできますようお願い致します。

- 1)対象者拡大のため、年齢下限の引き下げを希望します。
- 2)参加者数や資格において、男女及び外国籍差別などと誤解されない大会として欲しい。
- 3) ブロック開催も視野に入れ、コアスポーツとして限定地を多く設定しないことを基本とし、全国各地での開催 を望みます。
- 4) 3巡目の国体を地方スポーツの振興を目的とするか、競技レベルを求める大会にするのか。またはスポーツによる経済効果を求める大会にするのか。大会の在り方についてしっかりと検討して頂きたい。

このアンケートの集計結果を中央競技団体・都道府県競技団体・関係機関に情報提供して頂き、各競技団体で検討する時間を設けて頂ければ幸いです。国体のレガシーが引き継がれる巡目がスムーズに開催されることを願う。

様々の検討をされていることは、非常にありがたいと思います。

競技ごとの特性もあるので、すべて統一の基準は難しいと思われますので、柔軟に対応いただければありがたいと 思います。

- ・現状では、開催県における異常な強化費の投入(勝利至上主義)など、本来の「人を育む」スポーツとはかけ離れた実態がある。・弊協会競技のように、新参者は競技施設整備が「仮設」となり会場地でのレガシーづくりには程遠く、PFもその点、「力」が入りにくい。・国スポの意義とは何なのか。・会場地はともすれば国スポを利用し、余分な施設整備や経費支出を行っているような印象を受ける。新たな道路や付帯工事拡張なども国体関連経費となっている現実から、冷ややかに見られる面もぬぐえない。
- ・新種別としてというよりもジェンダー平等化として、「ミックス (ダブルス)」について検討してほしい。

2巡目でさえマンネリ化して盛り上がりに欠けることがあるため、地元民が盛り上がれるような方策が必要。

生涯スポーツの充実を図るためにも 40 歳以上の年齢別実施(マスターズも併用)

改革も必要なのだと思いますが、色々と手を加えすぎて、姿形だけでなく、本質や価値まで変わることがないよう、 古き良き伝統を守っていくことも大切だと思います。

これまでの基礎的配点が、全競技に統一された評価・配点方法になったことは非常に良いことと感じています。各競技により団体人数等が異なり、検討課題も多く統一すること難しいかと思いますが、各競技の特性を生かしていただく検討を進めていただければと考えております。

各都道府県の活性化のため継続することが望ましい。

ボウリング競技が国民体育(スポーツ)大会の正式競技であることは、日本国内における競技力向上に大きな意味を成している。それは、国民体育(スポーツ)大会の各都道府県における選手の発掘・育成・強化事業の結果のみならず、選手が大会への参加・入賞を目標とし、日頃のモチベーションとしていることが大きい。

3 巡目の国民スポーツ大会においても、大会としての権威・尊厳を維持しつつ、時代の要請に応じた検討・改革を 行い、選手が参加しやすい、よりよい大会であってほしい

隔年開催は、都道府県によっては強化費が非実施年は無くなったところもあり、ジュニア世代の育成・強化に思いのほか影響が出ました。国体正式種目であることは、競技の普及にとって非常に重要です。正式競技すべての競技が参加できる国スポになることを願っております。

日本のスポーツ界の現在は、国体の存在が支えてきたといっても過言では無いでしょう。夏季・冬季五輪や各競技 世界選手権で活躍する日本選手の殆どは、国体を経て躍進した選手ばかりと思います。

三巡目を迎え、見直しや検討を図る点はあると拝察しますが、長い間に培ってきたものも決して軽いものではありません。激的変化を求めず、可能な限り現状スタイルの維持に傾注下さるようお願いします。

3巡目開催が各都道府県希望していることなのか疑問。やらされている感が開催地とやり取りなどに出ている。

中長期的にアスリートの育成・強化となるような大会、都道府県におけるスポーツの価値を高める大会、競技間を 超えた交流を育む総合スポーツ大会とするべきではないか

昨今の新型コロナウィルス感染拡大による延期・中止を鑑み、同様のパンデミックが起こった場合に、準備に時間

を費やしてきた都道府県、市町村の努力が活かされる・報われるシステムがあると良い。

現状のまま実施継続を希望とし、さらに活性化する方法を検討願いたい。都道府県対抗である国スポは、特に企業スポーツが少ない地方にとっては、スポーツ振興、競技力向上、施設・設備整備には大きな意味がある、と強く思うところである。

●PF

山形県は平成3年開催から30年が経過し、本県での再度の開催を望みます。

経費の節減、大会の縮小化、セレモニーの簡素化など検討していただきたい。

開催都道府県の費用負担を抑え、国及び日本スポーツ協会の負担を多くすることが必要

本国体入賞以外の参加点の計算を見直して欲しい。ブロック予選通過県とそうでない県との参加点の算出に差をつけてほしい。

マスコミが放送権料を支払ってくれるような大会にしてもらいたい。

国体を開催する県には、県自体および県競技団体に費用面を含め相当な負担をかけることになる。県別対抗戦という意識を継続していくのであればどこの県でも開催が可能な大会にしていくことを中心に検討いただければと思います。

3 巡目の国スポになる段階で大きな改革がなされることを望む。今までも大きな変化があるものは少なく、スポーツの発展が「強化」中心となされたため、我々競技団体も「勝利と強化」のための「国体」をつくってきた。スポーツ人口をどう増やすかという点においては「国民スポーツ大会」はこのままでは役割はなくなり、競技団体のパワーバランスによって競技人口も左右されてしまう。楽しむスポーツの糸を残すためにも「育成年代の発表の場」「マイナースポーツの守る」といった視点はもっていってほしい。それによって我々も「国民スポーツ大会」を重要な位置づけとして今までと変わらず取り組んでいきたい。

2巡目を基本として開催をするのがよいと考える。

国スポの目的に則り、よりよい大会の在り方を検討されていることがよく分りました。3 巡目の国スポに期待することとして、若年層、シニア層の活躍の場を設けてもらいたいと思います。(シニアには、ねんりんピックもありますが)

障害者スポーツ大会と国体と合わせた大会になれば、真の国民スポーツ大会になるのではないかと思う。

可能であれは少年種別の開催時期の検討をお願いしたい

3 巡目の国スポに向けての要望は、現段階では意見することは困難であるが、是非とも継続して欲しいと考えます。今までは、国体と言えば全県民が盛り上がり、国体選手が合宿に来るとなると、地域の方々も見学に来たり、又、企業も協力してくれたり、選手たちも本当に一生懸命県代表として頑張っていた姿が多くの競技でみられました。しかし、近年では各県の財政難なのか、縮小、縮小と言われ、北信越国体や本国体に行ってもこれが国体か?という雰囲気で、盛り上がりはいまいちとなってしまった感があり、その背景には各競技団体の全国大会をビックなものにしたり、色々な競技がアマチュアを超えた企業協力のプロ化が拍車をかけ、国体そのものが薄れてきたように感じます。是非とも以前のような国スポにして欲しいと考えています。国体に関しては、各県のスポーツ協会だけが頑張って、苦労しているように思うので、日本スポーツ協会はもっと国からの補助金確保を行って欲しいことと、幼少期からのアマチュアスポーツの関係者の努力からプロスポーツが生まれてくることの意義を考え検討を重ねてほしいと思います。

競技団体ごとの実状に応じて競技団体の自主性に任せる

- 3巡目に入る事を機に開催種目、ブロック予選の見直しを行ってもらいたい。
- 1. 各競技団体の施設設備が遅れていると思います 人口差があればブロック単位でも見直し格差のない当初の目的 に向かって欲しい
- 2. 同じスポーツ競技をする中で隔年開催 毎年開催すべてが1年1回の大会に出場できるようにならないか

3.1年に1回各県を回り開催していく意味をしっかりと目標に定め実行して行くことが大事だと思う

簡素化できるところは簡素化を進めるべき。

個別の競技団体の意見聴取も含めて、対面での面談の上、検討を進めていただければと思います

国体参加にあたり、各県の競技団体は多大な労力をボランティアで提供している。この点を国体委員会の方々はよく理解していただき、より魅力のある大会、やりがいのある大会、選手の育て買いがある大会にしていただきたい。

他の競技団体も自身の競技を国体実施種目としてほしいと強く考えていると思いますが、相撲競技も国体実施種目として、継続できるよう強く要望します。

開催地の財政を考慮しないと開催出来ないですね。

卓球競技は全国区で選手を集める強豪私立校を擁する県が常勝する状態であり、現在の方法では国体をやることに意義を感じていない。対戦結果が各県や各県競技団体の努力・動向とはほとんど無関係であるため、都道府県対抗とされていても建前として対応しているにすぎない。育成・強化の面で努力して勝つことはほぼ不可能であり、負けたところで責任も感じない上に反省のしようもない。各県の戦力の均衡化を図る方向が望ましいと考える。また、小学生の参加区分が新設されれば、努力のいかんによってどの県でも得点できる種目になると考える。卓球競技に限れば中央競技団体や高体連主催で定着した全国規模の大会は複数あるので、国体が現在の方法を続けるだけならば実施競技から外れてしまってもいいと感じている。

輪番制の各県持ち回りを原則としながら、開催県の負担を減らす、隣県・ブロック開催も視野に入れた柔軟な対応 で、今後も継続していけるよう、充分検討を重ねていただきたい。

国体の始まった原点に立ち返っての見直し。今後人口減少に伴う競技人口の減少・地方経済の縮小が必至であり、 負担の少ない運営や、安心して競技に参加できる心理的環境・物理的環境の両面からのサポートが欲しい。

その意味で、判断基準のおおもとになる「理念」「スローガン」の見直しが必要である。

将来を見据えたジュニアの競技力向上や、選手のモチベーション向上、地域の支援体制の充実や、地域の活性化等、 長年に亘る継続開催の意義やメリットは非常に大きい。今後も継続して国体を開催していくためには、開催都道府 県の運営負担の削減についても並行して取り組むべき課題であり、開催近隣県やブロック内での分散開催や、特殊 競技については既に設備が充実している都道府県での分散開催等、運営側、参加側双方にメリットがある大会運営 を模索していくとともに、建設的なアイディアを出し合って後退することなく是非前へ進めていただきたい。

もっと国民スポーツ大会を開催していることの放送をしていただきたい。

ソフトテニス競技に補欠を導入して欲しい。

現行の実施方法を積極的に見直し、お金の掛からない国スにする。開催都道府県・市町村・都道府県競技団体の財政的負担を大幅に軽減する。各競技の分散開催を積極的に進める。新しい競技の採用、開催を積極的に進める。新しい種目・種別の開設を積極的に検討する。競技種目・種別に全都道府県が参加できるようにする。ふるさと選手の活用方法について検討する。外国籍の選手が参加できるようにする。幅広い年齢層が参加できるようにする。各競技が、市民との交流イベントなどを計画し実施する。

多様なスポーツの普及・振興、地方の活性化の観点からも是非とも3巡目国スポの開催をお願いしたい。

2巡して振興図れないのはおかしい。施設や経費を削減し、工夫しながら続けることが大切であると思う。

ブロック (4~5都道府県) 開催で行う

国体は青少年の育成に大きく寄与してきました、高齢化社会を迎えてシニアクラスも入れては如何でしょうか?

改善点はあるが、基本的にこのままの制度でお願いしたい

「しんどい開閉開式」「非常に遠い宿泊地」「各都道府県になじみのない選手出場」等、これまで思っていたことを全て回答した。

各競技が国民に興味を持ってもらえるような運営や工夫が必要ではないかと思います。

とにかく、都道府県持ち回りと総合成績の廃止、に尽きる。

現在、コロナウイルス感染症等拡大防止の影響により、多くの大会の開催が延期、中止の措置がとられているスポ

一ツがたくさんあり、実際に国体が巡転の変更や中止となった形が起きています。開催地のことも考え、決断する難しさもありますが、早めに方向修正ができるように、巡転の入れ替えや中止にするかの仕組みづくりを考え、これからの問題として取り組んでほしい。

地方の意見にも耳を傾けていただきたい。

地元開催、地元優勝が当然と考えられた時期は、高知国体から変化してきているようになっているが、まだまだ根強いものが残っていると思われます。しかし、国体開催によって様々な環境が良くなっているのも事実であり、競技力も上がっています。今後は、コスト減でスマートでなおかつ、現在の施設を有効に使用し大会を運営すればと考えます。しかし、環境整備等の資金及び人件費がかかるので簡単に出来るとは思いませんが、スポーツの力で国民に活気を与えることは続けて頂きたいと思います。

新しい時代に向けて競技毎の分散開催(開催場所・開催時期)を望む

大会開催県は立候補制ではなく、現行の持ち回り開催が最も望ましいが、経費節減や地方自治体負担の軽減等を考慮するとブロック開催方式を考えてよい時期が来ていると思われる。国民スポーツ大会は特定の選手にスポットをあてるものではなく、国民が努力すれば出場できる大会を目標にすることが重要であり、都市の論理で考えるのではなく地方の活性化を念頭に置いてこれからの大会内容を検討して欲しい。

競技団体との協議で開催時期や開催規模を考え、一つ一つの競技が発展していく基礎となる国民スポーツ大会になるよう期待する。

ブロック開催が、負担減には良いと考える。

以前、国体は世界に通じる国内トップの大会にすると聞いた。しかしながら都道府県対抗であり、地元指向が強く、 そのためにふるさと制度などがある。それを反対する訳ではないが、国体の基本概念として「世界に通じる国内トップ大会」にするのか、「国内地元色を生かした大会」にするのか明確に発信すべきと思う。

これからの国スポでは、競技会の要素が特化した形ではなく、スポーツの多様な価値を高めるために、「する」「見る」「支える」人々が対等に満足感を味わえ、その競技が見たくなる、その場所に行きたくなる、その仲間に入りたくなる、ような運営、施設、環境を整えられるよう、検討を重ねて頂きたい。

競技施設・設備の充実、選手強化の面からも実施していただける方が意識が高まっていいです。

自治体や競技団体を含めて財政事情がひっ迫しているところもあり、3巡目は立候補制が望ましい。

新しいスタイルを確立することは必要不可欠である。国体の意義・目的は、ふるさとスポーツカ、将来性豊かなアスリートの育成・強化、世代・競技間を超えた交流を育むことである。そこには勝敗以上に、地域の活力、スポーツカ、世代間・県域を超えた交流などが大きな目的である。ライフスタイルの変化、少子化、スポーツの種類の増加、さらには学校部活動の民間移行など、大きな変化が生じている。3巡目の国体を考えるとき、これらに対応しながら「日本最大・最高の大会」を目指さなければならない。①毎年開催 ②都道府県対抗 ③開催地のフルエントリー を継続して新たな時代に即応した大会スタイルを作り上げていくことになる。日本のスポーツを支えてきた学校部活動の行き先が最終的にどのような形になるのかまだ不透明であり、47 都道府県の財政状況や各競技団体の力量に大きな差異があるため、課題が山積している。

国民スポーツの振興・発展にこれからどのような役割を果たしていくのがよいか、位置づけの方針をしっかり作るべきだと思います。競技団体の主張をすべてを反映するは容易ではないと思います。一方で、開催地の実情をきき、サステイナブルなあり方を模索することが必要です。人口減少社会、財政縮減、マンパワー不足、オリンピック競技と国民的競技の整理など、方向性を示すことが必要と思います。

- ・時代の変化に合わせて、大会を存続させていってもらいたい。
- ・県が一つにまとまって取り組むイベントとして、とても意味があると思う。

国スポが持続可能でなおかつ、国全体の活力を生み出すような新たな仕組みを持ったイベントになってほしい。スポーツ選手がオリンピックを目標にするように、国スポに出ることがステータスになることや国スポに出ることがオリンピック出場につながるような仕組みはできないだろうか。

前述したが、新しい時代に向かっていく国民スポーツ大会として、既成概念を取り払い新しい発想で、新しい価値 観を持った大会を考えていただくことを強く望んでいる。総合ランキングをつけるとしても、都道府県という枠組 みでなくてもいいのではないか。今までとはひと味違った、新しい国民スポーツの在り方を考えていかれるのであ れば、今後検討を進めていかれる中で今の10代、20代を議論の仲間に加え、新しい風を吹き込んでもらう勇気が必 要だと考える。

都道府県単位の得点争いでなく、個人・チームの成績で、順位だけで良いのでは。

多くのスポーツ競技者にとって、より良い大会になることを期待しています。

今まで通りで進めて下さい。

可能な限り、実施競技数を減らさず継続して欲しい

競技団体の費用面、運用面の負担軽減を念頭に置いて欲しい。

国体の商業的利用を考えていただきスポンサー契約や競技の TV またはインターネット放映を認めていただきたい。

開催地域の財政負担の軽減となるよう過剰なおもてなしなどは見直すべき

広く国民がスポーツに対する関心が高まる方向で考えてほしい。

競技の普及・発展(維持)をテーマにした大会とし、得点を競う大会でない方がよい。各都道府県の競技人口の差 (激減)もあるので。生涯スポーツのためのものであってほしい。

国スポがあることで、マイナー競技は存続する機会を得られている。

招致により縁が結ばれた主管地と競技団体が協力して根付く拠点にしていく大会となってほしい。

社会情勢を考え変更が必要で検討点もあるが、当連盟としては何度かの見直しを実施し現在に至っておりますので、 基本的にはまだ現状でよいと考えます。

国体は継続してください。開催地の実情に合わせ柔軟な対応が必要です

現状では、コロナの関係もあり、平常時の検討が難しいが多項目にわたる膨大な課題について、確かに重要な課題ばかりと考えられる。大変な検討であるが、様々な意見を聞いて慎重に進めてほしい また、オリンピック同様に、人々に注目されるイベントにしていくべきである。縮小ばかりを気にしすぎて、盛り上がりを欠いては、開催自体の意味がなくなってしまうので気を付けてもらいたい。

弓道競技で、4種目のうち、毎年1種目は、47代表が出場できる大会にしてほしい。これはぜひとも。特に、少年には、本国体を経験させたい。

国体の開催地はブロック地区の開催地(1~2県)を要望するとともに 競技団体の参加数を増やせば参加できない競技団体の希望の光となる。

ブロック開催等の広域開催を前向きに検討してもらいたい。

2巡目までの国体の在り方を見直し、規模縮小や、経費削減など、まずは出来ること・容易に改善・修正できることの優先順位をつけて検討することが必要であると考える。無理やり改善することを前提に考えるのではなく、2 巡目までの経験値があるので、そこから「発展」なり「縮小」なりを検討すべきである。

国スポ専用チャンネルを作り全競技を配信できるようにして視聴者参加型イベントとしてはどうか。費用は各競技 団体が負担するものとする。より多くの国民に観戦してもらうために国スポの日など休日を増やしてはどうか。

開催県の場合、何年も前から県や市との会議・打合せなど、平日に作業することも含めて

運営を担当する競技団体の負担が大きい。県や市の担当者は業務としての作業だが、競技団体の担当者は自らの仕事以外の業務となる。もっと負担のかからないような大会のやり方ができないものか。

- ・行政・競技組織の広域を図るためにもブロック開催化を推進
- ・地方のスポーツ振興や国としてのレベルアップにつながるものであれば、続けるべき。

もしスポーツ大会が開催されるのであれば、新規の施設や現存の施設のリニューアルを積極的にできるよう、かな り前から計画的に進める体制を作ってほしい

フェンシングは、第1回のアテネオリンピックから実施されている伝統競技であるが、従来男子が3種目、女子は

1 種目が実施されていたところ、多様性の流れで従来の男子選手のみ実施されてきた種目の女子選手への普及が進み、アトランタオリンピック以降男女が同じ3種目を実施してきている。しかし、国スポにおいては、競技期間や人数の制約があり男女の均等化や少年では依然として1種目の実施に留まるなど、国際大会への対応が制約されている。国スポでの男女均等の出場機会、少年期から国際大会に対応できる競技実施され、本来の目的の一つである健全な競技の普及を促進する大会として改革されることを要望したい

よりよい大会にするために、各県の意見をしっかりと反映させてほしい。

どんな形でも良いので大会を続けてほしい。

いろいろな施策を考慮することには賛成。しかし制定する施策が競技者(選手)の不利益には成ってはならないと考える。

3巡目国体を開催するなら、かなり大きな改革を進めないと開催県民の賛同は得られないと思う。

運用施設の現行化への改善。建物その他のZEB可推進。(快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを目指す。) 先を見据え、ゼロカーボンへの取組み。ネット配信への挑戦 クラウドファンディングの挑戦

国スポが、国の各年代のトップアスリートを決める権威ある大会にしてほしい。

隔年開催種目を無くしてほしい。

国体が終わることなく長く続いて欲しいと思います

魅力の向上希望

天皇杯・皇后杯について。近年の国体を見ますと、開催県が天皇杯・皇后杯をとるのが通例となっています。そのために、優秀な選手を国体開催の時だけ自県の所属とするようなケースが見受けられます。 これは国スポの「目指す方向(コンセプト)」や「大会の位置付け」と合い入れない状況のように思います。開催県が天皇杯・皇后杯をとらなくてはならないような意識を改革することも必要だと思います。

検討については、出来るだけ現状の事は継続してほしい。参加登録を簡素化してほしい。個人情報はわかるがもう少しシンプルにわかりやすいものにしてほしい。参加申込に最低 4 日くらいかかる。指導者登録振込用紙発行に 2 週間かかり、指導者資格のカード発行送付に 2 週間かかる。計 1 か月かかっている。スポーツ協会の事務作業を見直してほしい。事務作業者の負担がかかり過ぎていないか対応してほしい。

現状のままでいい。

開催地における競技施設整備について、冬季競技の大会が開催できなくても、夏季、秋季のみの短円統治域であるとの見解と意識を払しょくして、準備に関しては、冬季競技も含めて支援することを明文化して担当地区へ指導して欲しい。九州内でも、福岡県、熊本県、沖縄県などは、プールとスケートリンクを併用させ、競技力向上につなげている。未成熟競技において、競技施設有無が、普及と競技人口の増加に直結する。よって、50年に一度、多額の血税を使用するなら、すべての競技に対し有効効果的に使用されるべきと考える。西日本で開催の際は、冬季競技について支援されることはない。東日本での開催は、夏季、秋季、冬季の強化ができる。

育成について〜公立中・高の各スポーツ指導者の確保が適材適所でないことが散見され、一部種目のスポーツ離れ及び県外転出にも繋がっていると思われ、スポーツ協会からの改善への働きかけを希望致します。少年の部を全都道府県出場できるようにし、成年の部での出場のモチベーッションに繋げてほしい。

従来の開催地を巡りながらスポーツの価値を高め広めることに特化して欲しい

規模縮小

国体→国スポと名称は変わっても内容は継続してほしい

少子高齢化に伴って、競技人口の減少が今後も大きな問題になってくるので、スポーツに対する意識高揚を目指す ためにも国スポは重要な役割を果たすと思うので、毎年開催を含めて発展してほしい。

・国体は多くの選手が活躍でき、行政が関わることで注目も高い試合であるため、今後もしっかり継続して開催してほしい。・既存の施設利用も含め、経費がなるべくかからないような基準の設定を考えてほしい。

・オリンピック選手など世界で活躍している選手の出場ができる開催をお願いしたい。(開催時期などの考慮)

どんどん、少子高齢化が進むなか人員の確保もたいへん

3巡目国スポ大会は是非とも継続していただきたい。

3巡目国スポは是非行う事が良いと感じます。

多くの選手、指導者、関係者はもちろん、多くの地元の方々のプラスになるような大会を継続して頂きたいです。

国スポに関しては社会状況が変わり、必要か不要かの論争も行われているがぜひ3巡目も行っていてもらいたい。

国スポの中にはマイナー競技も多数あるが、マイナー競技にとってこの大会は大きな目標であり、選手、監督、スタッフ、地元民が一致団結して戦っていきたいと思う大会である。その上で、より良いものにしていくためには特に下記の3つが重要であると考える。

- ①開催を県ではなく、地区にして財源的にも人的収容にも余裕をもって行う。
- ②ブロック割を適正なものにして、不公平感をなくす。
- ③メディアを活用し、全ての競技をもっと放映して多くの人に見てもらうようにする。

以上である。①②に関しては今までのアンケートでも述べたが、②に関しては下記の35で詳しくさらに後述する。

- 3巡目から、分割・分散での開催等、開催地の選定方法を改めるべきだと思います。
- ・現行の持ち回り開催に「どちらかといえば賛成」にしたが、特殊な事情においては、配慮してほしい。具体的には、三重県は国体が中止になり、3巡目の早い時期に開催できるようにしてほしい。
- ・国体は素晴らしい大会ですが、開催地の負担が大きいのも確かで、できる限り負担を軽減できる大会になるよう 検討いただきたい。

国体簡素化により軟式野球は3種別から1種別になった。以前のように3種別開催してもらいたい。

参加人数も16名では無く、他の軟式野球の大会と同じように20名にしてもらいたい

3巡目国スポも第1回は京都府で開催して欲しい。

できるだけ既存施設を活用し、開催地の特に経済的負担が軽減できるような大会運営ができればいいのではないか。

既に国体の目的は達成できてきていると思います。実施の方法、何ための国体なのか、十分検討が必要と思います。 また、成年種目は、競技力の差が確立しており、競技力の高い者はプロとなっていることから、その価値が薄れて きている気がします。

各スポーツが普及発展できるように、国スポがうまい潤滑油になってほしい。

開催県のスポーツの振興と選手が参加しやすい国体にしていただきたい。

ブロック開催、複数都道府県合同開催、立候補制の導入については検討して欲しい。

みるスポーツとしての価値向上については是非良い方へ進めてほしい。

- 1)人口減少時代の中で、DX(デジタルトランスフォーメーション)で、コンピューターに任せられるものは任せて、国スポにかける人的労力の減少を望みます。
- 2) 対象者拡大のため、年齢下限の引き下げを望みます。
- 3)参加者数や資格において、男女及び外国籍差別などと誤解されない大会であることを望みます。
- 4)毎年実施ではなく、複数年に1回の開催とされ、目指すべき大会として価値を高められることを望みます。
- 5) ブロック開催を中心に考え、コア競技として限定地を多く設定しないことを基本とされ、全国各地での開催を望みます。
- 6) ご苦労いただいた開催地の選手が必ず出場できる大会となることを望みます。

1巡目を経験していないので過去は理解できないが、3巡目にむけていろいろと模索することは重要と考える。

新しい国民体育大会を是非実現して頂きたいと思います。開催地、各競技団体のご意見が反映された大会で、普及 と育成に重心を置いた大会になればいいと思います。

国スポの恩恵は多大である。カヌーは特に国際競技力の向上の為にも国スポの強化費頼みの強化である。また、開催地で体験教室を行い、普及に努めている団体も多い。その地がカヌー体験の町になっている所もあり、国スポの

威力を感じている。選手団だけが満足する国スポでは意味が無く、競技団体側も開催地への還元などを真剣に考え 無ければならないと思う。

①宿泊本部に見直し、宿泊料金を実態に即したものと改訂するべきです。②標準食の廃止、レシピの提供だけでいいのではないですか。③輸送本部の見直し、大型バスで会場周辺での交通渋滞を招くのを避ける。タクシーチケットで対応が可能。

中高年世代にとっては、国体に関わることはとても名誉なことという意識であるが、時代が変わり、特にメジャーな競技については国際大会で活躍する選手も増加し、国体の位置づけが難しい。今後、人口減少に伴って各競技、競技人口が減ることは明確である。3巡目に入るに際し、国体の意義について論じれば自ずと競技の規模や参加者の制限などが決定していくと考える。

競技の種目を検討してほしい。バレーボールは六人制、九人制があります。国体では教員の部、九人制の部がなくなり、教員の採用も少なくなり指導者不足に繋がっています。また九人制バレーボールのチーム、選手が激減し、日本独自のバレーボールの技術、理論の歴史的に発展し、普及の根源であると考えています。現在もママさんバレーボールが日本中、普及し多くの選手が地域で活動し楽しく生涯スポーツとして根付いています。是非九人制バレーボールの復活お願いしたい宜しくお願い致します。

競技種目によっては必要がない場合があるので義務化には反対。

国民全体のスポーツ活動の活性化を標榜するのであれば、競技の普及振興のため仮設での会場設営は止めて、新設 を優先して欲しい。難しければ既存の施設の改修等で対応して欲しい。

コンセプトが抽象的。具体的なコンセプトが必要と考える。

開催を望む。

国体(国スポ)が、いままでのような大会の存在価値を持続できるかの確認を、時代背景を含めて行っていただきたい。そのためには、今後、国体に限らずスポーツ協会、アマチュアスポーツ団体が現状の体制で持続できるのかを把握した上で議論をする必要があると思います。

縮小傾向にあるが、できるだけ多くの選手が参加して戦えるような大会にしていただきたい

地域が活性化するための本大会になるよう、皆で検討を進めてほしい。行政が参加しないと前進はあり得ない。

選手育成も指導者育成も費用がかかるのでG補助金制度の拡大が必要施設の使いやすさや利用料金の軽減や減免率 を挙げて欲しい

国体は継続開催すべき

スポーツの良さ・楽しさを伝えること。また参加選手は郷土の誇りをもって戦えるような大会にしていければ良い。 色々意見が分かれるところですが、継続を前提に改革するのが望ましい。

日本の国内最大のスポーツ大会(日本国内でのオリンピック)として大体的にし、マスコミやメディアの協力を得ながら、スポーツを通じて、人として成長することができ、オリンピックのように国民に希望と元気と感動などを与えてくれるような大会にしてほしい。そのために国として予算を大幅に確保し、スポーツをする選手たちになるべく受益者負担がないようにし、スポーツの魅力を見出せればと思う。

引き続き、今の体制を維持しつつ、最小限の改革に努めていただきたい。

三重国体が中止になる等、開催県の負担軽減等で多県共同開催を目指してもいいのではないか。

国体出場・入賞を目標にこれまで多くの選手が育ち、地方でも競技が普及してきた。国民スポーツ大会は今後も発展・継続して開催してほしい。ただし、開催地の多くの予算とスタッフを動員しながら仮設の施設で競技を実施し、終われば何も残らないという大会は、開催地にとっても競技団体にとっても負担を強いるだけである。また、多額の強化費で強い選手を集めて、開催地が天皇杯・皇后杯を獲得するという悪しき伝統も正常化が必要だと考える。

今の日本は、人口減少問題や環境問題等に直面しており、官民問わず無駄や悪を省くという傾向が強く、「わくわく感」に欠けています。スポーツは、このような一方向に流されるのではなく、独自のスタイルを構築して、バランスを維持する姿勢が必要だと思います。その中で、3巡目国スポは『発展』を目標に掲げることも重要ではないか

と考えます。現状の問題点を、小手先で解決するような方向性ではなく、国スポを発展させることで、スポーツの 力が日本に良い影響を及ぼせるようなればよいと切に願うものである。

大会の実施方法について

- 1. ブロック予選大会(廃止 OR ブロック県の区分け)については検討されないのでしょうか。
- 2. 人口の少ない県では、競技役員・応援者(ボランティア)を集めることも大きな課題です。

人口減少の中、経済の変化等予想されます10年後にもう一度見直し必要ではと思います。

今までにも述べたような方向で検討していただければ幸いかと思います。人口減少とともに過疎県では、人材を確保することが容易ではないと思います。是非とも再考をお願いします。

いろいろな問題があると思いますが、国民スポーツ大会ですのでそれぞれの選手のふるさともあり、もう少し全国 的に放送があればと感じます。オリンピックと比較はできませんが、寂しいです。

マスコミも含め、盛り上げが必要。国体の情報が掲載されないスポーツ紙もある。

今国体を機に新事業内容に切り替わることを望む。一度にすべてとはいかないものであるが、粘り強く変化させて いくことを期待しています。

国体の開催自体は賛成だが、施設の改善や普及に対して必ずしも効果的とはいえず、長期的な選手育成にもつながっていないように思うので、これまでの設問にあったような運営方法の見直しは進めていってもらいたい。

指導者(教員)採用を優遇してほしい

新型コロナウィルス感染症等、今後もどのようなパンデミックがあるかもわからない状態ですが、現代に沿った形でスポーツ大会は開催され続けてほしいと思います。固まった概念ではなく、その時に応じた状況判断で継続されることを望みます。

人口減少社会に突入した日本で持続可能な大会とするためにも、競技ごとの開催地固定が望ましい。気候などのコンディションがそれぞれの競技の特性に合ったところで開催するのが望ましい。

開催を希望する都道府県で開催する。会場、宿泊施設等の受け入れ態勢が整わないところで開催をして欲しくない。

国スポは、継続して行うべきかとは思う。国スポは、都道府県代表として戦うことが出来る大きな大会の一つ。ここを目標にやっている選手が多数いるのは事実。それを無くしてしまうのは、あってはならないと思う。

使用を見込まれる施設の整備

競技得点の見直し。(個人競技と団体競技の格差がありすぎる。)

現在は新型コロナウイルス感染拡大 第6波の最中であり、蔓延防止重点措置が発出されるところである。令和4年度の国体は実施できるのだろうか?という過去2年間を考えると今の時点を展望するしかない。国体強化がいつまでやれるか、いつ停止になるか、順調に今年度はできるのか?の方が先にあり…はっきりした答えは今は考えられない。調査の時期が悪かったのかなと思う。

実施をするかどうかについてまずは検討するべきで、費用を度外視して「良かったか」「悪かったか」だけで調査すると「良かった」「継続」となることが考えられるが、県としてかけた費用(箱モノ等・強化費・準備段階からかけた人件費・ボランティアに適正な自給を支払った際の賃金負担等も含む)に対して得られた効果を考えると、開催を希望する県は決して多くないと思う。開催ありきの調査をすると、何とか開催するための理由を見つけるが、実情を調査したほうが良い

魅力ある国スポにするためには、プレミア感もそうだが、各所属チームで戦うだけではなく、都道府県として戦うことへの誇りという観点で、強化費の増額や他競技の同じ出身の選手達(実績のある代表選手など)との交流会などが醍醐味であるように思う。また、国体の時は、『お祭り』的なイメージがあり、自身が出場した時は、楽しかった思い出がある。そこにいる者しか味わえない、楽しく、やりがいのある大会として欲しい。若者に興味を持ってもらうのであれば、プレゼンターなど、オリンピック同様に、各競技、各会場にアイドルや歌手などのパフォーマンス等があっても盛り上がるのではないか?

・各競技の中央競技団体の意見を反映した大会方法を検討してほしい。

・剣道成年男子・女子の部の選手兼任監督を専任監督にしてほしい。

スポーツ関係者以外からも意見の聴衆をしたら如何でしょうか?いわゆる有識者だけではなく一般からの意見も必要と思う。

大都市有利な国体にならないようによく考えて開催してもらいたい。

監督資格の廃止。オリンピック種目は必ず毎年実施。総合得点の計上方法の変更。選手数の削減。開催費用の削減 (新規設備は作らない)。宿泊等での国体料金の見直し。

各競技団体のコキミンスポーツ大会開催という考え方はないでしょうか?

競技団体にとっては、国体に出場することに対し非常にプレッシャーが感じられる。

開催意義・目的の明確化

開催の在り方の検討に賛成します。低成長・人口減少の国内事情を考慮すると変革の時期だと思います。

検討していただいたことはありがたいです。

・都道府県対抗戦 (得点制) を続けるのか?それともフェスティバル化するのか?明確なビジョンをもって検討するべき。

3巡目になる国スポも今の実施方法は大きく変更することなく続けて頂きたいと思います。

競技選手ばかりが大切にされ、優遇されているのに対し、運営側(競技団体)は何も優遇されず、本来の仕事との掛け持ちで準備をしていることに何も配慮がない。県民として何のために国体があるのか分からない中での準備となっている。競技団体、市町は県に振り回されている状況で県からの予算は少なく、市町、競技団体の負担が増え、国体を歓迎できないのが現状。関わっているものが気持ちよく一般の市民や県民にPR出来る環境を作って欲しい。歓迎モードにない県の中で仕事をしていくことは大変しんどい。仕事の多さについては、国体の意義、歓迎モードにある県民の雰囲気があれば、特に問題はない。経済的効果については未知数である。

大会の目的を達成するために、各競技団体が普及、強化・育成をバランスよく行うことができるよう大会のあり方 を検討してほしい

まず国体の目的と成果物は何かを簡潔明瞭に示すべきで、アンケートのような各論はその後でもよいと思います。

開催県を経験した者として、あの感動をできるだけ多くの人に経験して欲しいと思います。縮小方向の改革とならないことを望みます。

検討会では、しっかりとした根拠(エビデンス)を示して、そのうえで議論して結論をだしてほしい。3巡目国スポの果たす役割、目指す方向、位置付けが今一つしっかりしていない感じがします。目的から目標、具体的な方法を 簡潔に示して、言葉の羅列にならないようにしてほしい。

全てをシンプルに!

自転車競技のようにメジャーでない競技は普及と競技人口の確保や選手強化の観点から国スポは続けていただきたいと考えます。

何事にも自県の支援が重要です。選手強化には行政と各団体が密になって同じ目標を持って取り組む事が大事です

全当道府県の全競技全種目全種別が本大会に参加できるようにしてほしい。(ブロック大会の廃止)

数十年前とは違い、各競技大会数も増え、さまざまな大会が開催されており、選手の国体への参加優先度が低下しているように感じる。開催地の負担低減とあわせ、大会そのものの改革も必要と感じる。

3巡目はなくてもよい。

- 国体の輪番制は、都道府県の規模の違い等を考慮して廃止すべきだと考える。
- ・新しい施設を開催するために建設するような風潮はなくす方向を打ち出すべき。
- ・あり方検討員会が設けられ、委員だけで決められないほど難しい状況なら、なくてもよい大会ということではないかと考える。

2順目国体で、その役割は終わった。3巡目国スポの実施検討を行うのならば、大きく改革変更が必要である。

国体も3巡目となり、大会規模や開催頻度等の見直し検討もさることながら、昨今の選手の将来的な目標も鑑み、

それとの関係性において、国体自体の開催意義も改めて問うことも必要かと考えます。

3巡目国スポは実施しなくても良いのでは。

- ・基本的には3巡目は無くてよいと思います。
- ・中学生, 高校生の全国大会は8月, 国体は9月, 10月と大会が続く中で競技力を維持していくことは厳しい。どの大会に重点を置くかは指導者の判断にもよりますが, 多数の指導者は勤務先(学校)を優先しているのが現状である。今後もこの状況が続くならば開催時期を検討すべきではないでしょうか?

3巡目は、大会を要望しない。

これまでと変わらない方法(マイナーチェンジレベル)ならいっそのこと国スポを廃止しても良いかと思います。世界規模の大会がこれだけ行われている以上、トップアスリートの大会にはならないし、行政との板挟みになる選手を産むだけです。極端に言えば、世界規模の大会のない競技だけとか、競技ごとに参加するかどうか競技団体に預けてみるのも良いかと思います。私見ですが、都道府県対抗の総合の順位づけをやめて、ブロックごとに出場チームや選手を減らし、「選抜大会」風に各競技ごとに行った方が、末永く続いていくのではないでしょうか。そして、競技ごとに国スポの位置付けは変わって良いかと思います。少年種別のバスケットボールとサッカーは 16 歳以下という括りですが、これもよく考えるとおかしな話です。トップアスリートの戦いを想定しているのに、出ていく選手は下級生です。こういうねじれ現象がこの先どんどん出てくると思います。開催方式を変えていくことで、開催県が選手強化や開会式等の運営準備に無理にお金を使わなくて済み、国民に理解をすこしでも得られるのではないでしょうか。

設問35:全体を通しての意見

●スポ協

・ふるさと制度で出身小学校の都道府県からの出場が可能であるが、システム上の管理がなされていないのが現状であるので、整備する必要がある。(実質的に確認する方法がなく、処理が煩雑になっている。)

国スポの価値を高めるには、各競技において日本代表を選出するような場として用意されなければならないと思います。

競技によっては、実業団チームが参加している。人口の多い都会はその例が多いが、地方はそもそも実業団チームが少ないので、日本リーグやトップリーグに参加する競技選手の制約が必要ではないか。

東京 2020 オリパラを開催した国として、レガシーが国スポに引き継がれる仕組みが必要ではないか。

視聴率の取れるライブ配信、一般参加やマスターズ部門などオープン競技の開催や東京オリパラで成功したボランティア活用などのアイデアは、開催自治体のみに負担させるのでは無く、中央競技団体の努力も必要と感じる。中央競技団体がお客様では開催地の負担が大きいため、国スポが日本のスポーツ振興に重要な役割を果たしているという自覚の元に、中央競技団体、開催自治体、JSPOなどトップ選手の参加も可能であるスケジュール調整な

どの努力が必要ではないか。障害者スポーツ大会の認知度も上げる必要がある。そのために、統合する案もあるが、 国スポ本大会の改革のもとに開催地の負担が増大しないことが必要。各自治体で、スポーツ所管課と福祉系所管課がそれぞれで担当していると思われるが、共同できる道も国が示していただければ有り難い。国スポでは、視聴者がお茶の間でも参加できるようなライブ配信も可能にならないかなどの道も探りながら進めていただきたい。開催地のメリットを創出しなければ立候補する都道府県は限られると思う。

国スポという観点から見ると、地域スポーツの推進、スポーツを通じて競技力の向上と競技役員の養成とともに、 地域の活性化などその与える効果は様々なところに波及する。抜本的な改革を進めて行くうえで、国スポとは何か、 持ち回り開催する意義は何かを改めて問う必要があるのではないか。選手の参加資格など、シンプルな制度設計で 誰にでもわかり良い制度の制定を望むとともに、煩雑とならないシステム入力や事務作業の軽減をお願いする。

国体運営について、関連した連絡、調査等が五月雨式に入ってくる。そこに訂正連絡等も入ってくるなど、連絡の 整理に非常に労力を取られるように感じている。(コロナ関係で不確かな部分が多いのは理解できるが)

- ・国体開催に伴い、施設が充実することもあるため、国の予算の増額も検討いただきたい。
- ・競技団体の大会運営と職務との両立の負担は大変大きい。各開催県も今後、競技団体がもう少し大会開催に専念できる環境を整えることは必要であると思う。・こうしたアンケート調査は全国の意見を聞く意味から今後も定期的に実施してほしい。・国体を開催する目的を明確にし、それを各地域に重々説明し、目的に沿った育成、強化、開催後のレガシーにつなげていく大会としてください。・国体参加申込み関する事務は年々増加し、事務が膨大となっているため、効率的な事務手続きを図ってもらいたい。選手自身が参加申込手続きを行い、参加資格違反がすぐに判明するようなシステム作りを行うなど、競技団体を含め事務の簡素化を早急に進めてもらいたい。

添付の「3巡目国民スポーツ大会在り方事前WGにおけるこれまでの検討内容」は要約されたものとなっており、各課題の背景(なぜ課題となっているのか)について、丁寧な説明を求めます。その理由として、設問事項の各課題は密接な関係であり、何が要因でそれが課題となっているのか不明確のため、私どもも含め各団体は、単体での設問では回答することが難しいと思料します。繰り返して恐縮ですが、是非とも課題の背景などご教示願います。

3巡目国スポの在り方について、WG での検討内容が提示されているが、記載されている内容からは今後国スポ大会の目指すべき姿が明確に見えてこない。例えば社会課題解決への貢献とはどのような課題に対しどのように解決に貢献するのか抽象的な部分が多く曖昧であるように感じる。最適で柔軟な大会運営とはどのようなものなのか、国スポの位置づけに「国内最大・最高の総合スポーツ大会」と記載されている。競技大会としての大会の意義を踏まえたうえで検討頂きたい。これまでの国体とは何が変わるのかも含め、何を通して何を目指すのか、具体的に示して頂きたい。

国体 3 巡目にあたり、スポーツを取り巻く環境が時代の移り変わりの中で大きく変化してきている。スポーツを取

り巻く環境も変わり、スポーツに対する価値観も多種多様化している。その状況にあった「国体」のあり方を競技 種目ごとに熟慮して、方向性を出す必要がある。競技種目ごとに社会的な背景を考えつつ、少年種別で求めるもの、 成年種別で求めるものを明確にして、取り組む必要がある。

① 現在のブロック予選について、沖縄県が九州ブロック大会に参加して、北海道は単独でエントリーし、総合得点順位をつけるのは見直せないか。②大会規模の縮小については、全競技で、①によって北海道が予選を経ることや育成の観点から少年種別はそのままで、成年種別の縮小によりある程度の検討ができるのでないか。

参加資格については特に抜本的に見直していただきたい。不合理、分かりにくい不作為の参加資格違反が毎年のように発生している。なくならないのはわかりにくいシステムに問題があり、参加資格自体をシンプルにし誰でも参加できるようしていくことが必要ではないか。予選で参加資格を得たものが所属先の人事異動により出場できないなど規制ありきでアスリートファーストではない。どうすれば参加しやすい大会となるかをベースに大会構築をお願いする。本来の主催者である国、日本スポーツ協会が相応の費用負担を担保するべきで、確保できる費用に相応した大会としていくべき。競技団体が主催している都道府県駅伝など既存の都道府県対抗方式の大会との統一化または差別化など競技団体主催大会との位置づけを整理し連携できるものは連携していくことで一つの総合大会とすることも検討してはいかがか。

具体的なアイデアや数値設定等は難しい。

その時々の状況により、国体開催に係る費用がをさまざまであることは理解するが、都道府県や都道府県スポーツ (体育)協会としての負担は、コロナ前が上限だと考える。新たな取組を行うのであれば、監督・選手を盾にとっ て派遣母体に負担を求めるのではなく、主催者である国や日本スポーツ協会、開催自治体で完結する大会運営とし てほしい。

・大学生の参加はふるさと登録の選手のみとする。・北海道のフルエントリー制の廃止。・ある程度のエントリー人員削減は必要であるが、他の競技会と比較して大幅な人員の削減は避けるべきでは無いか。(ソフトボールやアイスホッケーの登録選手数や、今後復活する男子新体操のインターハイと国体の人数の違い等)

今後の検討のスケジュール。これまでの国体においてその役割は終了。発展解消⇒中央競技団体の主体性を最大限引き出すことも大切ではないか。

国内最大・最高の総合スポーツ大会を目指すために、マスコミ、メディアやSNS等に発信をしていただき、国民にさらに周知するとともに、選手にとって価値ある大会にしていただきたい。世界大会では「オリンピック」、国内では「国スポ」となるくらい価値を高めていただきたい。

問いかけが唐突で、質問の趣旨を捉えにくい問いばかりであったので、求めている回答が出来ていない箇所があることをご理解いただきたい。また、今後の日本のスポーツを考えた時には、公的扶助やアスリート年金等々、他国の取組み、成果も十分参考に出来るものがあるのではないかと考える。いずれにしても、国とJSPOがスポーツを通じて何をどうしたいかが肝要であり、ボトムアップも大切ではあるが、しっかりとイニシアティブを持って取り組んでいただきたい。

●国体部局

・これまでの国体開催により、各都道府県のスポーツ施設の整備、競技力の強化、企業がスポーツに協力する機運 醸成など多くの成果があったものと理解している。一方で、地方の財政状況は年々厳しさを増しており、近年にお いては新型コロナウイルス感染症の影響により、新たな行政需要が発生し、人員面でも大変厳しい状況となってい る。また、国体開催についても、感染対策による追加費用や人件費の高騰、運営そのものの肥大化などにより運営 に書かる経費が年々増加する傾向にある。こうした中、国体(国スポ)の開催目的も含め、持続可能な大会につい て改めて検討いただくことは大変意義のあることと考える。・国体(国スポ)開催にかかる費用の大部分は開催県が 負担している実情であり、同じ主催者であるスポーツ庁、日本スポーツ協会も相応の負担をしていただきたい。

自身は高校生の時に初めて国体に参加し、入賞を経験し、それを機に教員になることを決意し指導者として今日に

至っている。自身にとって全国大会での入賞はたった一度しかなく、その大会が国体であったため、今でも、国体に対する思いは強い。そんな思いとは逆に、周りでは国体に対する思いや関心が薄れており、国体への出場や国体での活躍を目標とするジュニア選手も少なくなっていると感じる。昔のように、選手は県の代表として、県のユニフォームを着たいがために、自己を研鑽し、ライバルと競い、県民は自県の選手の国体での活躍に歓喜する・・・そんな国体にはもう戻れないと思う。時代の変化もあって仕方のないことではあるが、とても残念だ。このような思いの中、この度、この意向調査については、完全に個人の考えを書かせていただいた。職場の上司も含めて、誰にも話さずに回答させていただくことをご了承願いたい。

・オリンピック等、日本代表選手が自ら進んで出場を希望する大会の一つになる必要がある。・各競技団体が代表候補を選定する際の重要な大会と位置づける。・各都道府県1名程度の参加となれば、都市部に集中しがちな選手も地方へ流れるのではないか。そのためには現在の競技方法を変更する必要がある(個人戦メイン)。団体種目(チーム)もセレクションの一つに位置づける。

現行では、参加得点は一律 10 点だが、ブロック大会を突破した都道府県には、参加得点を加算することを検討してはどうか。【競技式典課】国体チャンネルによる映像配信の拡大を行い、国体への関心や開催地、競技団体の盛り上げにつなげて欲しい。【競技式典課】競技運営に必要な施設・人員だけでなく、開催県のインフラ(宿泊施設、輸送手段、医療従事者等)に見合った実施規模を検討していく必要がある【施設調整課】

○新型コロナウイルス感染拡大による大会中止や延期は、国体開催に向けて何年も前から準備をしてきた開催県に大きな影響を及ぼしたことからも、今後は開催中止や延期も想定して、開催地への影響をなるべく小さくするため、規模の縮小や年間をとおした分散開催等の検討が必要であると考える。○冬季大会について、設備や気候の関係で開催できる県が限られていることや、開催地がなかなか決まらないことなどから、その在り方について、冬季大会自体の開催の有無も含めて検討すべきと考える。

・県や市町では、行革が進み、職員数が激減している。財政状況も厳しく、都道府県間の規模等にも違いがある中、全ての都道府県で同じ規模の大会を実施し続けることは不可能。・三重県が延期ではなく中止となったのは、市町が財政や人員等の問題から継続させることが困難と判断されたことが理由の一つ。市町村合併で市町数も減少し、多くの競技を開催することは難しい。小規模県では全ての競技を各市町村に振り分けられない。・現在、コロナ対応に多くの職員が動員されており、準備に影響を与えている。国スポを継続するのであれば、日本スポーツ協会が職員を雇用し中心となって準備を進めるか、これまでどおり開催県・市町にさせるのであれば、無理なく運営できる規模に改めるべき。・競技以外にも宿泊や輸送、警備、感染症対策など様々な課題がある。そうした点も検証すべき。・リハーサル大会は、既存の大会を振り替えているだけなのに、何故、行政が経費負担しなければならないのか疑

問であり、見直すべき。・「3巡目国スポのあり方検討」ではなく、2巡目国スポのあり方も含めた国スポのあり方 見直しとして議論いただきたい。・「3巡目国スポ在り方事前検討ワーキンググループ」の参加している県は1県(茨城県)のみ。開催準備の大部分を担う当事者を欠いた議論とならないよう、開催予定県をメンバーに加えられたい。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、2大会が延期又は中止となった。大会準備に向け、諸会議運営や施設整備、PR活動等に多額の予算を費やしている。大会参加負担金は、地震、風水害、感染症およびその他主催者の責によらない事由により大会を中止した場合、返金は行わないとなっている。受益者負担だけの補償ではなく、大会主催の公益財団法人 日本スポーツ協会や文部科学省(国)、競技会主催の日本スポーツ協会加盟競技団体(NF)も、それぞれの立場から経費面の補償を行うべきである。

こういった検討が全国的に行われることはありがたい。より良い方向へ進めるためにも、日本スポーツ協会様を中心に議論をし、一定の方向性を共有できるようお願いしたい。

- ・大会の意義や都道府県対抗を行う趣旨等、目指すべき国体の趣旨や意義をはっきりさせた上で、それぞれの議論を進めていくことが望まれる。・SDGs の観点からも多様性のメッセージを発信していくことは必要と考える。
- ・多様性を目指す上で、男女混合競技の実施や障害者スポーツ競技との融合などを取組の一つとして検討していく ことも手ではないか。

不易流行の精神を持ちながら、スポーツ文化の価値を高められるよう協力してまいりたいと思います。改革への先導を何卒よろしくお願いいたします。

見直し等、よい機会だと思います。十分な議論により導かれた結果であれば、どのような形でも良いと思うので、 引き続きの検討をお願いします。

第77回冬季大会はコロナ禍の中、関係者のご尽力で無事開催され、選手にとっても非常にありがたかったです。ただ、コロナ対策等については日々状況が変わる中で、JSPO、開催県実行委員会、中央競技団体へ問い合わせた時の対応が統一されていない場面もあり、選手団としての対応に苦慮することもありました。コロナ禍という非常事態の中ではやむを得ないところもあるかと思いますが、選手の安全安心を第一とした運営をするためにも、関係団体のさらなる連携強化や情報の一本化が必要であり、大会規模の縮小も選択肢の一つとして検討すべきかと考えます。

全体的なアンケートでは県としての回答が難しく、以下のとおり意見としてまとめた。

- ・大会の位置付けでは、国内最大・最高の総合スポーツ大会として、トップスアスリートも参加し、都道府県のスポーツカを競う場であって欲しい。しかし、トップアスリートの参加が少ないのが現状である。トップアスリートも参加する価値が見い出せる大会となって欲しい。
- ・総合成績は、種別順位を得点化し、その合計を競えば、全競技平等になるのではないかと考える。・ブロック大会の枠基準を明確にしてもらいたい。・大会の様子を映像配信することで、リアルタイムに遠隔地から選手の活躍をみることができる。

人口減少が著しく、また県の財政基盤も脆弱な島根県にとって、都会地と同じようなスポーツ施設を設置して維持していくことや、都会地と同じ規模の大会を運営していくことは非常に大変であり、今後もより一層厳しくなることが予想されます。そのような状況において8年後に2回目の国体開催に向けた準備をして言いますが、今後、さらなる人口減、自治体の職員数減少や財政力の低下、民間企業の事業継承問題など、課題の深刻さが増すことが明白であり、現在同様のやり方で3回目の国体を島根県単独で開催することはかなり難しいと考えます。

開催地決定については、冬季国体開催地も含めて考える視点も必要ではないか。

・今回の設問22、23にあります式典の簡素化、式典の屋内開催については、2巡目国体を7年後に控える本県において、大会運営における重要課題の一つとなっております。・この件については、昨年度からご相談させていただいておりますが、3巡目にとらわれず、是非、2巡目の課題として捉えていただき、柔軟な実施に向けて、引き続きご相談させていただきますので、よろしくお願いいたします。・重ねてになりますが、全都道府県から大勢の選手が参加する大会として、より大きな意義を持つ大会となるよう、議論を深めていただくことを切にお願いいたします。

●NF

現状、ボクシング競技は隔年開催に繰り下げになっていますが、正直、このダメージはかなり大きいです。同様に感じる競技団体を少なくするためにも、可能な限り多くの競技に毎年開催で参加してもらっていける体制づくりが必要だと思います。具体的なアイディアがなくて恐縮ですが、開催地や時期をずらして各所の負担を減らすと言うのは一つのアイディアかもしれません。

「スポーツは儲かる」を実現してほしい。

日本ボート協会の 100 周年記念プロジェクトで 2020 ビジョンを策定しました。

https://www/jara/or/info/2021/vision2020.pdf

3巡目国民スポーツ大会の役割、目指す方向、位置付けと連携させて進めたいと思います。

当アンケートのフリーアンサーの中に記載した「当協会の方針」とは、この「2020 ビジョン」を指し、さまざまな 検討を推進すべきというその根拠が、次の項目の文言となります。

- 1. ローイングの普及と安全なローイング環境の整備を通じて人々の心身の健全な発展と地域の振興に貢献する
 - (1) 都道府県協会や全国ボート場所在市町村協議会と連携しローイングを振興する

- (2) ローイングを中心とした総合型地域スポーツクラブを創設・拡充する
- (3) 一般市民参加の地域・市民レガッタなどを振興し、アーバンスポーツの涵養を図る
- (4) パラローイングを振興する
- 2. ローイングをより身近なものとし、オアーズパーソンシップの涵養を図る
 - '(4)マスターズ層の協会・地域活動や地域スポーツクラブ活動への参加を促進する

以上、引き続きよろしくお願い致します。

・国体においては、「国民体育大会企業協賛に関するガイドライン」で、国体協賛社等の広告以外の広告等の掲出(露出)は原則として禁止されているが、トップアスリートの多くは個人スポンサーの経済的支援により競技に取り組む環境を得ている現状があるので、国体をトップアスリートが参加する大会にするには、こうした現状を考慮して、国体においても、個人(チーム)広告を認めるべきではないか。・大会の簡素化やIT 化などの課題に取り組みながら、国民にとっても魅力的な大会として、国民の理解と共感を得られるスポーツの祭典としていかなければならない。・より多くの国民が参加出来る(観客も含めて)大会、少年やジュニア選手が是非参加したいと目標になる大会にしてほしい。・オリンピック等でのメダルの獲得数を増やすためには、スポーツを愛好する人口を増やし、すそ野を広げることが不可欠であり、国スポの果たす役割は大きい。

・国スポに出場する選手は国スポの「役割、方向、位置づけ」についてあまり理解していない。アスリートファーストが叫ばれる今日、まずは国スポの主役となるアスリート(特に我が国を代表するようなトップ選手、プロも含めて)に、JSPO が考える国スポの理念について理解してもらい、今回のアンケート項目等について意見を聞くのが必要ではないかと思う。いくら関係者で合意してもアスリートが受け入れてくれなければ、国スポの狙いは達成できないと思う。・昨今は TV や SNS で気軽に我が国のみならず、世界のトップクラスのスポーツ選手のプレーを目にすることができる時代である。スポーツに対する国民の目は肥えている。国民の皆さんの期待にこたえられるようにするにはアスリートの協力は必要不可欠である。

国スポとして果たすべく役割として目指す方向に沿った形の総合スポーツ大会を実現すべく参加する選手はもちろんであるが参加する関係者も含めて開催都道府県および自治体の方々から協力を得られる体制づくりを要望する。

メジャー競技とマイナー競技では差がある。少数を切り捨てることがないように考えていくべきである。

現行通りという選択肢のない設問に疑問。

体は、競技者にとって目標とする大会であり、全国から一人でも多くの選手が参加し、技術レベルの向上や選手間の交流を図る場として重要な大会である。開催経費を節約し、選手ファーストの大会運営を願う。

参加県、参加選手が継続的に大会に参加できる運営を願う。

実施競技団体からの要望等も加味し、3巡目国体について検討見直しをお願いたい。

- ・国スポもJOCも含めてスポーツ界全体を一貫した施策をしていくことが重要と考えます。
- ・設問内容が多岐にわたり、「総合開会式」「会期」の設問よりも、身近な「競技日程」であれば容易に考えられるが 意図するところがつかみきれない。

多様化、柔軟性という観点で新たな視点で開催される3巡目に大いに期待します。

競技によって監督と選手が別であったり一緒だったり統一して頂きたい

大会としての検討内容については今回の別紙資料にて把握したところだが、おそらく、競技会単位で見れば、各競技においても時代の流れ・要請に基づいた競技運営や改革を行っているものと思う。ボウリング競技の国民体育(スポーツ)大会担当者としては、その他の競技がどのような競技運営を行い、どのような改革を行っているかが気になるものの、なかなかそれらの情報を得る機会がないことを残念に感じている。そのため、その他競技の競技運営や改革内容を見たり、聞いたりする機会があるといいなと思う。

- ・正式種目でありながら、男子と女子の参加人数に大きな差があることから、出場の機会が得られていない。
- ・現状参加人数、女子参加人数を増員したい。

隔年開催は、都道府県によっては強化費が非実施年は無くなったところもあり、ジュニア世代の育成・強化に思い

のほか影響が出ました。国体正式種目であることは、競技の普及にとって非常に重要です。正式競技すべての競技が参加できる国スポになることを願っております。

ユニフォームについてのガイドラインの改訂

●PF

国体は、開催県の活性化にもつながるので、継続開催を望みます。

国体は国内最高のスポーツの祭典であり、有意義な大会であることはだれもが認めるところです。今後も長きにわたって開催されることを望みます。

都道府県対抗は維持しつつ、得点制度を早急に見直すことが必要。得点は、団体も個人も同じとし、団体も登録選 手によって差をつけない得点配分とすることが必要

国体不要論もある。ただし、子供たちには都道府県代表選手として活躍したいとの夢もある。インターハイ、国体、 全国選抜大会の三大タイトルの獲得に頑張っている。やはり、国体は魅力ある大会である。国民のだれもが楽しめ るスポーツイベントでありたい。

各競技団体の全国大会に変えていくのが良い。総合大会である必要はないと考える。

北海道に自転車競技場の設立を望む

国スポの商品価値を上げる視点での改革が進められるよう期待します。

今回のアンケートの内容の中には、県競技団体では答えるのに窮するものもあった。「わからない」「無関心」の選択があってもよかったのではないか。

これから2巡目が来る本県です。(2030年) 今この取り組みをしっかり行うことが今一番の課題です。県もしっかり取り組んでいます。回答にならないところもあったことでしょうが、3巡目のイメージがすごく浮かばなく、まず2巡目の大会を成功しなければならないことが今の課題です。意見が各都道府県によって異なるでしょうが(2巡目を終えた県が多数ある中、考えてみる立場が異なると思います。将来、視点が変わったところで又、ご意見を述べたいと思います。

可能であれは少年種別の開催時期の検討をお願いしたい

北信越国体、本国体延べ38年間、スタッフや役員として参加してきた。体育協会の強化指示、日本協会からの指導 教本の作成依頼、各種別スタッフ配置、国体に向けた中央及び、実業団監督、大学監督等々の招へい事業等、多く の国体に向けた強化策、又、「ドリーム便り」を毎月作成し、国体の合宿や遠征、成果等を各郡市協会及び連盟へ配 布、協会役員の強化対策に関する一泊二日の役員合等々、多く実施してきた。他県も同様にそれぞれの強化に取り 組んでいる。色々な状況が変化しても国として国民体育大会をオリンピックと同様の視点で国民のために国民最高 峰の大会として欲しいと願っています。是非継続、発展させていただきたい。

新型コロナウイルスの拡大等により大会開催が難しくなっている。大会前後におけるいろいろなチェックも必要となり本当に大変になってきた。地方で開催される統一大会なのでしっかりとしたガイドライン等を定めなければいけないと思う。国民スポーツ大会は中止にしてはいけない大会だと思う。

先ずは選手の事を第一に考えて物事を進めてもらいたい。

国民体育大会が各競技の大会である日本選手権が日本を代表とする選手の決定する大会に近い位置にあると思われる 現在国体の在り方の位置をしっかりと位置ずける必要があります 国際選手が国民体育大会に1回も出場しなくても国の代表として活躍できる状況であればだれが見ても国民体育大会は国の体育祭でしか無くなると考えても仕方ないと思う だからと言って国体にアスリートをすべて出場させる場とすることができるか難しい問題ですまたアマチアスポーツとしても疑問を感じることもないとは言えない 職業が会社委員でもスポーツか仕事これもありかもしれないが国体選手には少ない。こうしたすべての事を協議するには大変な作業だと考えます 今後の課題の中で男女の協議の事でも女子参加での協議にしていく混合種目 単独出の種目などこの先は沢山あります 現状では国民体育祭としても無理はないと思いますが

もう一度国スポの趣旨をよく考える時。このような膨大なアンケートはいかがなものか

好きなように思うままに書かせていただきましたが、日本のスポーツ、また日本の未来についてのご検討ありがとうございます。ライフル射撃の高校生の全国大会は、ここ数年ずっと広島県(の山奥)で行っています。初めの頃はいろいろと不平不満はあった(他県に行きたい、宿泊場所がない)のですが、現在では、「全国大会に行きたい」が「広島に行きたい」という言葉になるなど、生徒の間でも「射撃の聖地」の位置づけになってきました。毎年同じ場所で行うと、移動・宿泊の段取りもしやすく、気持ち的にも負担が少ないように思います。競技毎に場所が決まると、毎年移動が大変になる(北海道から沖縄へ、など)競技があると思うので、47都道府県に個人・団体競技をうまく割り振れたらよいと思います。そして、各競技の負担が均等になるように、県などから助成が出るとよいと思います(そもそも国体は自治体もち?)スポーツの力は大きいので、今後もさまざまな競技が発展していくこと、また競技力が向上できることを祈りますし、自分としてもできるだけのことをしたいと思います。

一競技団体の役員の立場では、国体の全体像が見えづらく、回答に苦しみました。

開催県の負担が少なくなるようにしていただきたい。

日本のスポーツは学校期の部活動を中心に普及・発展してきた側面が大きいと思います。今その部活動が勝利至上主義に偏っているとか過剰な練習時間になっているなどの指摘から、活動が制限される傾向にあります。今後地域総合型クラブへの移行が更に進んでいくと思われます。このような状況で、陸上競技は県全体として選手を強化し、県選手団を組むことはまだ可能な競技だと思います。球技などのチームスポーツは難しくなっていくのではないかと予想します。今後、競技によってとりまく状況が変化していく可能性がある中で、一つの県で同じ会期に都道府県対抗の大会を実施していくことが可能であるのか。それならば、「国民スポーツ大会」という名称と都道府県対抗という形は残しつつ、競技によって開催県(開催地)や会期など弾力的に運営できるようなことを考えていった方がよいのではないかと思います。具体的にはブロック開催として、8,9年毎に数種目を受け持つ形で、計画的に施設の充実を図っていく方式が良いのではないかと思います。大会は毎年開催されるので、普及・強化は今まで通りに継続していく方向です。3巡目まであと13年ある中で、今後日本のスポーツを取り巻く状況がどのように変化していくか不確定ではありますが、競技運営に携わる者として、スポーツ文化が発展していくことを願っています。

- ・国民のスポーツ文化の意識を良い意味で高める機会となる国スポになればと考える。
- ・高体連、中体連の競技会も含め、参加方法、参加枠、学校単位など大きく見直す時期に来ている。
- ・第1回当時とは時代背景が全く異なり、また現在は様々な全国大会があり、国体のそのものの目的は達成されたかと思う。よって3巡目は"無し"で良いのでは。ただ1点気になるのは、国体が決まると施設の建替えなどを行うキッカケにはなっているため、次は何をキッカケにするかが課題です。
- ・ 国体は、二巡して、各都道府県のインフラは拡充されたと思う。各県の選手普及・育成・強化は、国体と言う手段を使わずにそれぞれが努力する課題である。国体を引き受ける自治体にとっては大きな負担(迷惑)になっているので、この機会に廃止を検討したらどうかと考える。

WGで検討されだされている意見がほとんど網羅しているように感じられる。まとめた感想だが、多くの項目で賛 否両論となっている。観点としては、開催地の費用負担、競技団体ごとの活発化、各県の施設の更新が大きな点だ と感じた。何より参加競技者優先が配慮されることは言うまでもないが、オリンピック種目を見てもわかるように、 ニーズの多様化に拍車がかかっている。正に、SDGs がキーワードか。

検討委員会で社会情勢、スポーツ界の現状を認識していただき結論を出していただきたい。

インターネッと配信など、全国に国体の魅力を伝える方法を検討いただきたい。

今回のアンケートの結果は、公表されるのでしょうか。公表されるとしたら、時期は、いつになるのでしょうか。

時代の流れとともに、国体の本来の目的とは異なってきているのはやむを得ないと思う。開催県と参加選手だけの盛り上がりではなく、国民全体の盛り上がりにするのは難しい状況になっており、国体選手に選ばれても職場からの支援も得られにくくなっている。職場等の理解が得られるための広報活動をしていただけないでしょうか。競技によって、メジャーなものとマイナーなものに分かれてきているので、マイナーな競技にも国体を通して広く国民

に周知させる場を作ってほしい。

- 1. WGでは分かりません。ワーキンググループ(WG)と初めに断っておくこと。(自分達だけが分かるような文章では、アンケートとは言えない) 2. 現在は、新型コロナ感染により、大会も無観客や定員の何割まで等の制限があります。このことから選手・観客・役員などのモチベーションの低下が見受けられる。
- 3. 経済的に厳しい時代であり、エコや質素な大会を実施すべきである。

総合開会式・閉会式の簡素化

卓球の競技団体としては、選手を育成して強化すればするほど早い段階で県外へ流出する状況にある。本会にも昨年の4年以下男子の部と2年以下男子の部で全日本選手権優勝者がいるが、当然ながら小学校卒業とともにハイレベルな強化拠点のある県外に行くこととなる。本会としても育成・強化にはそれなりの経費援助やトレーナー派遣等で協力しているが、中学・高校で強化インフラのない富山県に残ったのでは更なる強化は困難である。将来的に日の丸をつける選手を目指すためにも、選手側が希望するケースでは県外の拠点に行くことを妨害する立場はとらない。もちろん選手の進路は本人・保護者・指導者が考えることであり、競技団体が縛る道理も存在しない。この様な状況において、国体で成年の部・少年の部という参加区分で都道府県対抗を競ったところで勝負にもならない。本会は他県競技団体に比べて小学生選手の育成・強化に注力しており経費や労力をかけてきたかいもあって、ここ数年は小・中での全国的成績が上がってきている。しかしながら、国体で勝つためには強豪私立校の存在が必要になるわけで、それを本会が設立するのは別次元の夢物語である。特定の県以外にも勝つチャンスがある国体にするためには、ふるさと制度の拡大により戦力の均衡化を図ったり、小学生の参加区分を新設する必要があると考える。

WGのメンバーがどういう構成であるのか気になります。国民健康や国民体育、生涯体育などの理念をもととし、スポーツの文化性やスポーツが個人の権利であること、種目間の公平性・平等性など配慮すべき観点が、どう扱われているのか気になりました。

現状の社会情勢を踏まえたうえで、参加しやすい国体になるとよいと思う。

今後も国体を継続して意義ある大会とするためには、全項目で述べた通り、開催都道府県の運営負担の削減について積極的に進める必要があるが、ボート競技においては依然「配艇制度」(開催県で国体使用する規格艇を購入し出場選手は同条件の規格艇を共用)が存続しており、規格艇の購入に多額の予算を投入しなくてはならない状況となっている。(高校総体も同様)「配艇制度」については、同条件の規格艇を使用するという公平の原則に沿う事、また大会後は開催都道府県の備品として競技力向上事業に活用できるというメリットもあるが購入価格を下げるためグレードの低い中国製の規格艇を購入するケースが多く、各規格艇自体にバラツキがあったり、耐久性に欠けているものが多く、多くの開催地が国体終了後に艇庫に眠ったままとなり、普及には繋がっていない現状がある。また、各出場クルーはレース前に規格艇の調整作業にかなりの時間と労力を費やしており、炎天下や雨天等での作業でレース前の疲労の蓄積や体調を崩すリスクも生じている。近年では規格艇に合致しない大きな体格の選手が、規格艇が合わずレースで実力を発揮できないというケースもあり、アスリートファーストの観点から、全日本選手権や他のローカルレースと同様、極力早いタイミングで自艇参加(各チームが通常使用している艇を持ち込む)に切り替える必要がある。なお、自艇参加による艇運搬費が出場する各都道府県の負担となるが、ブロック内で混載し運搬費を折半したり、レンタル艇を活用する等の工夫を行えば、自艇参加による運営は充分可能と考える。既に、馬術やヨットも自馬自艇で国体運営を行っており、ボート競技も早期に実現いただくようお力添えをいただきたい。

国体を支える側の事情等もわからないまま、選手や指導者(監督等)からの目線で、国体の深い理解のない者の意見を書かせてもらいました。考えが浅く、乱暴な意見の箇所もあるかと思いますが、よろしくお願い致します。

国民スポーツ大会を盛り上げて戴きたい

色々と課題はあると思うので十分に検討して下さい。出場選手の規模の縮小には反対である。

バドミントン競技の試合形式を、成年・少年の種別の枠を取り払い、1都道府県で男女それぞれ1チームの対抗戦 も考えられる。例えば、男子で成年複・成年単・少年複・少年単・少年単で試合をするなど。また、男女合わせて各 都道府県1チームという方法もある。1対抗戦の試合数は多くなる。男女混合複の試合も含めることができる。(試

合種目の精選が必要かもしれない)

国体のおかげでスポーツに親しみ、選手として県他表となり活躍する選手は多い。国内でのスポーツ行政の目的にかなう現状とみる。又、支えることの重要性もオリンピックで見えたし観ることによるスポーツの感動は多々国民を励ましてきたこの大会をより時代にあった形に推進して欲しい所である。

該当団体しか回答できない設問があり、競技団体として回答不可となる項目があり現状の内容自体がわからない場合は回答できませんでした。アンケート対象団体別のアンケートにする必要があったのではないでしょうか。

経験不足で運営詳細等分かりませんが、分かる範囲で整理をしました。基本現行通りでいいのかなと思います。

毎年、国体を目標に強化、練習に励み、代表権獲得に向けて頑張っているところです。よろしくお願いいたします。

国体は日本の競技力向上に大きく寄与しました。国民から更に関心を示されるよう展開されることを期待します。

国スポは国内におけるスポーツの祭典である。オリンピック同様、今後も長く継続していただきたい。

具体的な方策があまり思いつかないが、オリンピックや箱根駅伝、都道府県対抗駅伝のようにたくさんの人に興味・ 関心を持ってもらえるような国民スポーツ大会にしてほしい。

2 巡目初回の京都国体(1988年)から30年以上経過している。国体開催の意義は認めつつ、3 巡目となる約20年後を考える上で、現状(2022年)の社会をベースにせざるを得ないとしても、これまで(30年間)や現状(2022年)に縛られた発想は避けたいものです。3 巡目国体はやらない、もう役割は終わった、くらいのつもりで新たな議論をしていただきたいと考えます。ネクタイを締め、グレーの服を着た男性年配者のみが集まって議論、検討しても新しい発想は出てきません。これからの50年を議論検討するのですから、なるべく若い方が参加され、意見が汲み取れるような「会議構成」としていただきたいと思います。

このアンケートを通じて、いろいろな方向から国スポ開催に向けての取り組み方が理解できたように思います。前述したように、コロナウイルス感染症等に変わる新しいタイプの感染症も発生することも考えられることから、国スポのみならず、各行事や催しものの開催に向けてしっかりと考えていかなくてはならないと思います。

大会を開催するだけでなく総合優勝というのが大きな課題となっている。身の丈に合った成績でよいと思うのだが。 様々なスポーツや地域毎に問題点があるので、難しいとは思いますが、少しでも多くの人が関わりあいをもつ大会 になっていけばいいのではないかと思います。

この度、3巡目国スポの検討ということで、アンケート調査が行われましたが、回答者の国体に対する認識や立場の違いにより、それなりの回答内容になったことをお許しいただきたいと思います。

今後さらに国スポが充実、発展を遂げ継続できますよう期待申し上げます。

アスリートファーストの視点で国スポの新たなトライを検討頂けますよう期待します。

今更言っても不可能とは思いますが、長年親しんできた「国民体育大会」への名称変更を希望します。外国語をカタカナで表示できる日本語は素晴らしいと思いますが、必要以上に使用するべきではないと思います。大会名称変更が発表された時には、多くの会員からこの声を聞きましたので、お伝えしておきます。このアンケートは分科会の提案した内容に導くための意見聴取の傾向が強いと思われる。広く意見を求めるのであれば、先に現行の国民スポーツ大会の問題点を探すアンケートを実施し、その問題点を分科会で検討し、再度、詳細なアンケートを取るのが望ましい。また、アンケートの回答に「現行のままでよい」が存在しなく、分科会が提案した質問に対して基本的に良いか悪いかの2択になっており、現行を否定している感が強い。

見直す点は多いが、国民体育大会がスポーツを各県に普及させてきた力は大きい。今後、国民に力と勇気を与えるスポーツの普及発展を支えるためにも、国民スポーツ大会が、もっと大きくなるよう発展することを望む。

開催を県単位からブロック単位に変更. 総合開会式の廃止. プロ選手の参加は中止。成績点の廃止、選手の1-3位の表彰のみ。競技種目の見直し、競技人口が少ない種目は中止

*国体は毎年開催が良い。*種目は競技団体にある程度選択権を持たせる。*参加人数(参加チーム)は増やす。*開催は一都道府県に拘らない。ブロック開催など工夫し経費負担を軽減する。*総合成績の廃止或いは得点方法を見直しする。*固定地開催と公募開催地を組み合わせる。*国体は、行政と競技団体が一緒になって行う唯一の特別大会

である。改善は必要だが継続していくことを考える。

是非、スポーツの価値を高め、スポーツ宣言日本が目指す社会像の実現に向け、国スポでは「ふるさとの活性化」 「ふるさと力の競い合い」が実現できる大会にしていただきたい。

新型コロナウイルス感染症拡大による対応に自治体、各種目団体等で大会運営等をはじめ苦慮されていることが多いと思います。全国的にスポーツイベントが安心安全に開催される、観覧できる日が早く来ること祈るばかりです。

国体は戦後の疲弊した日本にスポーツによって元気をもたらし、あらゆる面において大きな発展を成し遂げた。スポーツの持つポテンシャルを最大限に活用した成果と考える。国体開催の意義は大きく、その役割を十分に果たしたと考える。日本のスポーツを支えてきた学校部活動が今後、民間移行となり、大きな変革期を迎えている。国体の在り方も WG によって十分協議、検討されてきたと推察するが、各県によってまた各競技団体によってその考え方に差がある。また、東京五輪においてニュースポーツ、アーバンスポーツ、また E スポーツなどの若者に人気のある新たなタイプの競技?導入で新しい潮流が見えてきた。賛否は別にして、一般の人の興味関心を引き寄せることは大会成功に大きく影響すると考えられる。スポーツがライフスタイルの一つとなり、そのかかわり方が多様化している現代において、新たな国体の在り方を考えるのは当然である。新たな意義と役割、目指す方向をまず、周知させなければならない。「ふるさとスポーツカ」「柔軟性の追求」「サステナブルな大会」の3本柱はそれらに合致したものと考える、「する」「見る」「支える」「調べる」等のスポーツに対するかかわり方があり、それらにどう対応しいくかが課題解決への一つの切り口と考える。また、競技者、観客・ファン、開催地県民、運営する人々すべてが満足いく大会にしなければならない。残念ながら、コロナ対応でここ2年目の前の事業の対応で3巡目国体の事についてじっくりと考える時間もなく、協会としての要望としてまとめることができていない。また、陸上競技を中心にした意見しか述べることができないので、的外れな回答があると思うがお許しいただきたい。

- ・特にコロナ禍の今現在、3巡目国スポの事は現実として考えられないところがある。
- ・国内最大のイベントとして毎年開催する意義は十分にある。途絶えることがないよう協力していきたい。

このアンケートは、賛成か反対かだけでは答えにくい設問がほとんどで、回答に困りました。国力の行方を左右しかねない大イベントの検討になるので、持続可能であることと同時に、国全体が活性化するために、今後の国の方針や方向性に沿って、大きな道筋を示してほしい。その際には、アンケートの結果は結果として、アンケート結果すべてを重視しなくてもよいのではないかと考えます。

国民の健康増進、体力向上を図り、スポーツを通じ国民生活を豊かなものにして全国都道府県で持ち回り開催し地域の復興や整備や活性化にも大きな成果が出るよう大都市に集結しつつ有るトップアスリートのふるさと選手制度の必要性の検討をお願いします。

プロ競技の種目の開催の必要性、又は参加資格の明確化を検討する必要がある。また、マスターズ大会(シニア) と合併し一つの大会とすることも検討する必要がある。アマチュアリズムの昂揚、施設整備の使命は終わったと考えられる。パラダイムシフト的な発想の転換が必要。

良い悪いは置いておいて、国体がまわってくると、いい施設が整備される。運営は大変だが、一流の選手、試合が間近で見られるのでうれしいし達成感もある。競技団体により国体に対して温度差がある。すべての選手が出る、真の一番の大会であるべきである。(それは競技団体が判断すべきで、心の中では反対です。)スポーツ庁が出来たのだから、すべてのスポーツ選手の肖像権を一元管理し、テレビ雑誌 SNS インターネット等、国体を中継しなければならないようにする。

国スポも3巡目を向かえるにあたり、時代背景も大きく変わり一般の方々の意識は国内最高のスポーツ大会という感覚はないと感じます。又、いろんなメディア等で最高峰スポーツ競技を視聴する機会も多く、競技に対する見る目も肥えてきておりそこで比較すると国スポの大会(国内トップ選手の出場なしが多い)はの位置付けは低く成らざるを得ないと思います。そこで、3巡目以降の国スポについては目指す方向性を大きく変えて、時代に受け入れられる大会として行く機会でもあると思いますので、今までの枠にとらわれずに思いきったものにしていただければ、幸いと思います。

多くのスポーツ競技者にとって、より良い大会になることを期待しています。

学校クラブの監督・顧問の先生方の参加が難しくなっています。

広く一般の方にも意見を聞き、良い意見を取り入れるとともに、地域と競技団体が連携した開催を望む。

変化すべきこともあれば、不変なこともあります。いい方向に向かっていただきたいです。

現状、国体は商業利用が認められていないため、各自治体の財政負担でしかない厄介イベントです。ただし、その 魅力は計り知れず、多くの国民が観戦したいという欲求を持つイベントでもあります。多くのスポーツイベントが 同時期に開催されることは国体以外ありえません。国民体育大会をより、国民のものにするためにも行政の慣例を こえた判断を行っていただきたいと思います。

持続可能な大会運営ができるよう検討よろしくお願いします

国体は、社会の激変の中において、各競技団体が消滅しないためのイベントとして存在すべきである。スポーツを通じて、多くの競技者、運営関係者、地元開催者、地元産業界の人々が集まり、国民の交流、地域交流、文化交流の場になってほしい。

お疲れ様でした。歴史と伝統のある国スポ継続に様々のご意見がありますが?スポーツ宣言日本が目指す社会を目指し長期的に国民により一層愛される大会が継続して末永く運営できることを望みます。

大会が今後も存続していくことを強く望みます。

国家が少子高齢、財政難といった課題がある中でも国体を継続していただけるような規模や方式に改める時期に来ていると考えます。参加する選手だけが楽しめるだけでなく観て楽しめる競技方法への移行も早期に行うことが重要です

競技毎に全国レベルの大会を実施しているという実態等から、国体の意義や必要性などを改めて見直し、各競技の 更なる普及に向けた手法を検討することは必要不可欠で、特に、肥大化傾向の大会を簡素化したり、経費節減する ことは、開催地などの負担軽減につながることから、必ず改革するという強い意志を持つことが必要と考える。

各種課題は、簡単に解決できないものばかりだが、慎重に審議していただき、選手ファーストを念頭に置いた工夫 された実施、方策を期待したい。

継続することは、大変なエネルギーが必要だと思います。しかし、こうして国スポ、障害スポも継続できて、すばらしいことです。県代表の制服をきて、行進できるあの喜びのために拡大はあっても縮小はしないようにしてほしいと思います。

この度の検討にかかる資料の中で「サステナブル」と「ポジショニング」というカタカナ語は、それぞれ「持続可能」と「地位(または立ち位置など)」に直すべき。カタカナ語の不必要な使用は、資料を共有する者同士の意思疎通を阻害する恐れがある。

千葉県ラグビーフットボール協会として、国体について今一番要望したいのは、ラグビーの成年、女子 7 人制の選手登録についてです。現在、監督 1 人(選手兼任可)、選手 10 人となっているが、これで戦うのはかなり選手の負担が大きく、安全性にも問題がある。7 人制競技では一般的な選手 12 人登録にしていただきたい。

上記34より、考えられる内容を以下にまとめます。なお、水泳競技を中心に考えたものになります。

- ・総合開閉会式の規模縮小/経費削減(簡素な方法で既存の屋内施設を利用して実施)自治体により、新設する計画があるのであれば、自治体の意向に沿う。
- ・各競技団体による運営の検討(競技ごとに同時の開閉会式の実施)
- ・ブロックごとの開催(インターハイ方式を採用し、自治体によっては負担を減らす方法が採れる)
- ・3 巡目の基本方針を念頭に置き、永年開催できるような国体簡素化方針を策定する。
- ・多くの選手に大会参加の機会が与えられることが望ましいが、現状では厳しい部分も多いかと考える。よって、3 巡目も、現行通りの内容を踏まえた競技会要綱の作成を考える。

これまで国体に関心が向かなかった一般のスポーツ愛好者等にも、関心を持って貰えて魅力ある国スポとなるような施策の検討を期待しています。

3巡目ありきでのアンケートではあった。コロナ禍で2年連続中止をなった特に今年度三重についてはブロック大会後直前の中止で混乱した。来年栃木国体も開催が心配される。

2巡目までで、国スポの役割はおおよそ果たせたのではないかと思うので、3巡目は実施しなくても良いと思う。

・「国体」情報は「全日本大会」よりマスコミが大きく取り上げるので社会の関心が高く、スポーツ振興に大きな役割を果たしているので毎年実施を希望・地域間格差を少しでも減らす方法を模索して欲しい。

国スポを参加する側として、国スポをこれまで以上に権威ある大会として 3 巡目へ継続的に発展させていくために 英知をしぼる必要があると強く感じている。また、国スポは広く地域のスポーツの普及発展を図る上で極めて大事 な大会であり、開催地と競技団体が共通の理解の下で大会の規模や運営方法についてさらに充実した大会とすべく 努力する必要がある。地方財政は総じて厳しくなっており、また地方格差も大きくなっており、これまで以上にコスト掛けない大会とする工夫が必要である。国スポの意義が年々薄らいできており、我々競技団体は、これまで以上に国民に対してスポーツの持つ力、意義、健全な青少年の育成など明るい社会の構築など、国民に対して今まで 以上にスポーツへの理解を深める努力をする必要がある。オリンピックにおいては、大会ごとに新しい競技種目が 実施されてきており、国スポも世界の流れ、ニュースポーツに対応した大会として、国民の支持を得られる大会としていく必要がある。

弓道競技では、出場チームすべてに監督が認められなくて成年男女・少年男女複数チーム出場の場合、監督代行の申請となってしまう。出場チーム全てに監督を認めて頂くか、入賞賞状は、正監督のみの記載では無く各種別ごとの監督代行名を記載できるようにして欲しい。

この調査で意見を集約していただき、3 巡目国体に反映させていただきたい。ただし、当調査に関しては、幾つか同様な質問が見られ、また質問数が以上に多い。競技団体の担当等は、通常の職務に併せ、自宅や空いた時間等で回答をしないといけない状況がほとんどであると思うが、当調査の回答にかなりの時間を要される。もし、次回があるのであれば、かなり中身を精査したうえで調査を行っていただきたい。

京都での開催にむけては現状況下での既存のテニスコートでは無理ではないかと思われます。

国体はチーム作りが大事、勝負に拘らず良いチーム作り、良い社会人作り、良いパフォーマンスを目的とした大会 にしてほしい。

日本がオリンピックでも通用する選手を一人でも多く輩出するには日本国内でも相応の大きな大会=国体(国スポ)を毎年開催する必要がある。たとえオリンピックに届かなくとも各選手の競技力向上を図る目標として、国体(国スポ)は必要な大会である。

選手ファーストであり、開催地の地域振興になる大会にしたい。

現行の冬季国体に満足しています。

- ・サッカー競技でいえば、少年(U-16)は選手育成に意義があるが、成年種別(男女とも)はトップクラスの選手の出る大会ではない現状で、都道府県対抗を求められることに意義が見いだせない。
- ・サッカー競技はどのカテゴリーもリーグ戦 (県規模) を実施するようになり、カップ戦との並行開催で公式戦のスケジュールが込み合い、選手の負担が増大している。そのため、国体が選手の負担なってきており、特に成年種別の国体はプロ選手が出ないこともあり不必要だという考え方が主流になりつつある。

継続的な選手の育成・強化につながり、国民の関心度の高いものにしていくべき

国体は現状維持で良いと思います。

役目は果たしたので3巡目は必要ないように感じる。各競技団体で実施すればよいのではないか。

競技種目によって現状が違うので、日本スポーツ協会と中央競技団体で十分な話し合いを行う必要があるのではないでしょうか。国民スポーツ大会の意義が多くの人に理解されなければならないと思います。現在では運動の二極化、女子の運動離れと言われています。一部の競技種目は学校外での施設で選手強化がされています。しかし、まだまだ学校教育の中の部活動で成り立っています。学校の部活動はブラックとか言われ、部活動は学校外ですすめるとか聞いたことがありますが、日本の現状からすると、とても無理があると個人的には考えます。あくまでも個

人的にですが、今の現状でいいと思っています。

国体は強化の成果として順位を決めるだけではなく、各地域のスポーツ振興・推進の成果がはかられる絶好の機会 だと思います。部活動の問題ともリンクして、各地域の選手を各地域で育て、強化することができるシステムにな るよう改革してほしい。

- ・国民皆スポーツの精神の基、多くの競技種目が参加するスポーツの祭典に相応しい大会となるような改革を期待 します。
- ・国民の健康増進と体力の向上を図るために作られた体育館が多いが、今は見せるための体育館が必要とされる時代であると思います。競技領域及び観覧席数を含めた施設の充実が必要と思われます。
- ・選手の参加料・負担金等を含めて、参加選手や競技団体の負担の軽減を考慮願います。
- ・スポーツにお金をかけている国として、他国に負けない先進国となることを期待したい。

今回のアンケート調査の集計結果を一個人の選手までわかりやすく閲覧できる場を作って頂き、日本スポーツ協会がスポーツをより良くしていくための働きかけのプロセスを公にすることにより、各選手のモチベーション及びスキルアップ計画向上に繋がるものと考えます。国体3巡目に向けて現在のコロナウイルス感染症により各種大会が中止等になり、今後の事をしっかり考えて検討する必要がある。国体は開催地生まれる笑顔スポーツの魅力を広く発信し、地元の経済波及効果は計り知れず、地域の活性化にも影響を与えるのでより良い大会になるよう検討が必要である。

開催地への負担軽減を図りながらスポーツの価値を高め広め社会をより豊かにすること

国体はとても良い事業だと思うが、人が中央に集まる中、地方では、開催が難しくなることもありやめてほしくなることもある。

国スポ大会は国内最大の大会であり、国民スポーツの振興及びスポーツ文化の発展において、国民スポーツの普及、競技者・指導者の育成、スポーツ施設の整備、スポーツ組織の充実など、スポーツ振興体制の確立とスポーツ文化の形成に総合的に大きく寄与してきました。「継続は力なり」という言葉がありますように、各競技とも目標を持って更に発展するよう努力していくことが必要不可欠であると考えるところです。時代に添った総合的なスポーツ大会に修正しながらスポーツ文化の発展させていくことが、将来の我が国に求められるものと位置づけたい。

名称や内容は時代と共に変化して当然だが、今大会を継続することによりこの度整理した「果たすべき役割」「目指す方向」「位置づけ」を定期的に検討しても良いと思います。

国体を改めて考える機会を頂いたことに感謝しています。

現在のブロック形式であると、強豪地区とそうでない地区との不公平感が強い。私はアーチェリー競技であるが、成年女子に関しては現在静岡県が全国 1 位の力を持っている。そして、全国 2 位は岐阜県である。この地区が同じ地区、しかも東海は 4 県のため枠が 1 つの時は全国 1 、2 位の力を持ちながらどちらかの県が出られないことになる。同じ 4 県の四国があるが、四国の成年女子が東海で戦ったらどうなるかというと、四国で 1 番強い県でも東海地区の 4 県どこにも敵わないだろう。なのに、四国ブロックで勝てば国体に出られる。こういう不公平感が現状のルールでは起こってしまう。「仕方ない」と思っていても、やり切れない思いを抱えている選手も多い。実力ではなく、ルールで出られないからである。そのため、本国体出場に関してはブロック割を見直してもらいたい。本当はブロック関係無しに全国一律で競い、上位の都道府県だけ出られるのが良いが、競技的にその方法ができない競技も多いと思う。ならば、ブロック割を拡大してもらいたい。「中国十四国」「東海+北信越」「東北+北海道」などにして、なるべくブロックを大きく。そうすればそのブロックの本国体出場の枠は多ければ 4 などになるため、しっかりと力のある都道府県が参加できることになる。また、北海道が現在単独 1 枠となっているが、北海道もしっかりとブロックに入れることにより、各競技の本国体出場枠も適正に見直すことができるのではないかと考える。

全体的に現在のベースを崩さずに、不都合部分を改善していければいいと思います。

国体について、ご検討いただきありがとうございます。国体は開催地にとっても、参加する各都道府県の選手にとっても、他の大会にない素晴らしい思い出になる大会だと思っています。今後、更に魅力ある国体になることを楽

しみにしています。

アスリートは競技会で十分です。過度な演出、おもてなしは要りません。逆にひきます。時代に合わせ、良い意味でそこに労力とお金を使わず、競技会の充実につながる事を期待します。国体の関心度の低さ → メディア露出低 → 魅力がない → 採点方法見直し 開催地負担軽減 → 最大の課題 → 理想像は聖地化 → 固定化国民体育大会(以下、国体)は昭和21年(1946年)に「広く国民のあいだにスポーツを普及し、アマチュアリズムとスポーツ精神を高揚して、国民の健康増進と体力の向上を図り、併せて地方スポーツの振興と地方文化の発展に寄与するとともに、国民生活を明るく豊かにする。」ことを目的に、「スポーツ振興法」において、法令に唯一明記(第6条)された大会として発展してきました。国体は、これまで歴史的・文化的に国民スポーツの振興及びスポーツ文化の発展において、国民スポーツの普及、競技者・指導者の育成、スポーツ施設の整備、スポーツ組織の充実など、スポーツ振興体制の確立とスポーツ文化の形成に総合的に寄与してきました。しかしながら、スポーツを取り巻く環境は年々変化をしており、世代別の総合スポーツ大会や各競技団体主催の全日本選手権などの全国規模のスポーツイベントが多く開催されている現状を踏まえ、3巡目の国民スポーツ大会(以下、国スポ)の在り方を検討し、スポーツイベントとしての国体(国スポ)の位置付けをより明確にする必要があるとは思いますが、原点に帰るべきと思います。オリンピックの予選大会とすることやトップアスリートが必ずしも参加する必要は無いと思う。そうで無ければ、大会自体を辞めるべきである。

たくさんの質問事項、理由等もありましたが、現時点で回答できる範囲で記入しました。あとまだ、2巡目も開催していませんし、50年以上先のことで、社会の状況も変化するものと思われます。以上も回答でお願いいたします。

国スポの意義が高まり各都道府県代表選手が誇りを持てるようなアピールをもっとして欲しい。

競争にこだわるのでなく、共にスポーツを楽しもう、友情を深めよう、というような方向性が望まれます。

3 巡目は必要ないと思います。内容を検討し、立候補制でやる気のある所がやるようにしたほうが、大会の充実度が向上するものと考えます。

国体は地方で活動している競技団体、選手にとって目標となる重要なスポーツイベントですが、開催地の実情にあった開催方法など柔軟な対応が必要であると思います。

国体での得点が、都道府県内の競技間格差の原因でもある。ご承知のとおり、都道府県はこの結果から強化費の配分指標としているからである。国体は、競技ごとに種目数や参加人数が異なるため、最大取得可能得点がまちまちであることは致しかたない。単に規模縮小すると総取得得点の減少につながるため、競技団体は縮小変更に反対する傾向が強くあると思う。3巡目国スポを継続するのであれば、国体得点に乗ずる係数制度を設けていただきたい。この係数は、中央競技団体と協議のうえ、参加人数や種目を減らしたり、短期間や複数会場開催など国スポの持続可能な大会運営を工夫した場合、比率を上げるインセンティブを与えていただければ、各競技本気で、総論の持続可能なコンパクトな大会を目指すのではないでしょうか。

開催地の方々には、いつも感謝でいっぱいであり、恩返ししたいとさえ思わせていただくおもてなしに、人との繋がりを感じたり、スポーツの持つ魅力を再確認できるのが国体、国スポである。競技をする当事者が、受け身ばかりでは無く、自分の競技の発展のためにすべきことをしっかり自覚することが大切。ただ、現在は、国体の度に開催地が相当な無理をしてスポーツ活動、振興事業などを行っている。その負担を競技団体がもっと協力して自分の競技を守っていく努力をすべきだと思う。国体をライブ配信して、もっと一般の方が楽しめたら良いと思います。

国体と通常大会との違いを思いついた形で記入します。

① 天皇皇后両陛下のご来臨② 実行委員会の立ち上げ③ 宿泊本部において配宿センターを設置する。④ 輸送本部において輸送計画の作成⑤ 国体食の公募を行い試作やレシピの作成⑥ 総合開会式の式典構成の検討。この中には演出者・演奏者・音楽多々公募⑦ 市町村においても各競技会で上記と同様の検討を行っている。また宮家のご来臨対応を地元警察署と警備計画などを作成。

オリンピックも含めスポーツの多様性に合わせた変化は必要だと思います。国スポの果たすべき役割、目指す方向、 一図家がぶれることなく存続することを望みます。 ・今まで国体は、地域の活性化やスポーツ施設への投資があり、開催県を活性化させる目的もあったかと思いますが、2巡目大会ではその効果が薄れている。例えば既存の施設を利用し、施設を改修して大会を行うなど当初の目的と変わってきており、県民の関心も低くなっている。・学校対抗の中学校、高等学校の全国大会と、都道府県対抗の国民体育大会では指導者のモチベーションを考えると学校対抗の方が結果に重点を置いている。(指導者は死活問題だから)学校対抗がある以上、都道府県としての競技力は向上しないと思う。特に地方の場合は公立学校の運動部の加入率が減少している。

現状は少年・社会人とも選手権に重きが置かれている。少年は時期的なものから、学業・高校部活動プラス国体強化を達成しても進学の保障もないため、高校3年生での参加が減少傾向にある。社会人はマイナー競技のため実業団も無く、通常勤務と練習、さらに家庭とのバランスが大変難しく競技寿命も短い。国体自体をもっと活性化させ、魅力有る大会作りを切に願います。競技団体単位で考えられる課題は今後も検討・改善していきたいと思います。

スポーツ界はプロスポーツ化していく中で、国体の在り方等を考えていかなければならない時期だと思います。現存の考えを押し通すことよりも、県民が地域で楽しみながらスポーツに取り組んだ結果が国体選手になり、県代表として県民からお応援され、活躍の場が国体になることがとても大切だと思います。これからは、トップアスリートの養成育成するのは競技団体にまかせ、全国民が何らかのスポーツを生涯スポーツとし継続でき発表の場が国体になってほしいと思います。

- ・コロナ禍で2大会が延期、中止となり、開催県の準備等を考慮した形で何とか開催できないものか。
- ・参加人数が競技種目の正規人数よりも少ない。競技特性から見て怪我等も発生しやすく戦力維持が難しくなるため、規定人数にしていただきたい。・種目により参加チーム数が異なるため、『国民スポーツ大会』となっているため、本来ならば各県1チーム参加が望ましい。・開催県の負担が大きく、施設等もままならない場合もあるためブロック開催も必要。・スポーツを取り巻く環境が厳しくなっていく中で、今一度、スポーツの社会における必要性等をもっと発信していただきたい。テレビ放映など費用面もあるが、目に触れることが大切である。

国スポをミニオリンピック化、オリンピックの予備軍化することのないようにお願いしたい。オリンピック競技優先の傾向が強くなっていることに危惧を感じている、国スポでは、日本ならではの競技にも等しく普及振興の機会をあたえるべきです。

国民スポーツ大会の現状は、イベント的な要素が大変多いと感じています。イベント的から、競技中心の大会に意向すべき時期に来ている。そのことが、膨大な諸経費の削減になり、スリムな国民スポーツ大会になると考えます。 競技スポーツに関わっているものが、努力しなければならないことがたくさんあると思い、連盟としても努力しているつもりだが、それに対し、行政は多忙なためか厳しい対応が多い。地域の特性を生かした種目に特化して力を入れて協力していただけるとありがたいと思っている。

このアンケートも含めてですが、非常に労力を要する雑務が多すぎます。この膨大なアンケートを作成された方には敬意を称しますが、これだけの時間と労力を費やした結果が、我々に果たしてどのような結果として反映されるかという点は疑問に感じます。こういった点からも、選手、指導者は各競技団体から遠のいていくのが現状です。サステナブル、ふるさとスポーツ力という言葉が出てきましたが、それの具体的な定義を示さずにアンケートを進めるのは、回答する側にとっても非常に困難です。また、対象も曖昧で本当に回答してよいかも迷いました。スポーツの次なるステージに向けた、新しい取り組みに期待します。

競技によっては、常連の県だけが出場しているような大会ではよくないように思います。今後の在り方をしっかり と考えていただき、より良い大会としてください。

1. 各競技団体は近年の国際的な競技方法、形式等の変化にさらされそれへの対応が競技力向上へ大きな影響を与えていることは見逃せない事実である。その変化に対応していくことが国際的地位確保につながっていくはずであるが、国体での様々な制約により対応しきれていない。数十年も前の競技方法、形式を踏襲していては競技力向上につながらないし、国体の価値も低下してしまう。開催地の居住増は分かるが、様々な負担軽減策により、より競技団体の要望に応えられるようにすべきではないか。

2. 国体の意義は強化かと普及の 2 つの側面があろう、しかしその 2 つの即名を追求することで肥大化し開催県の負担増大につながっている面もある。強化と普及を分けて考えてみるのも 1 つではないか。例えば、強化の面では公式協議の実に集中開催し、公開競技は時期をずらして(または年をずらす)開催するなど分けて開催すべきではないか。そうすることにより負担軽減につながると思う。

3巡目をより良い大会になるようにお祈りしております。

クレー競技においては、国スポが目標であるので、予算的に見直してでも毎年開催に戻してほしい。全国的にクレー射撃に入る若者・女性が増えている現状国スポの果たす役割は大きい銃の所持の問題をクリアーした者しかできないスポーツではあるが、所持の時の講習及び、所持していても3年毎の更新時には、厳格な講習及び実銃講習会を受ける。その関門を通ったものが、目指すオリンピックは目標が大きいが、国スポ達成出来うる目標である為。

1 今後、パリ・オリンピックパラリンピックで実施されようとする新競技も多く出てくる、実施者が少いからと国スポの競技としては考えなくてよいのだろうか?e-スポーツをどう扱うのか、これを実施しようとすると開催県の負担は大きいかもしれない。

2 アンケート調査についてのお願いですが、極めて分量が多く負担を考慮していただき、選択枝を多くして〇×でのアンケートにしていただければとおもいます。大部分の意見は WG の意見に集約されるていると思います。

選手にとっても開催地にとってもそれぞれの立場で目標になる国民スポーツ大会であってほしいと望みます。

国民体育大会から国民スポーツ大会へと発展し日本のスポーツも世界と戦える環境は整っていると思われます。 2021 年の東京オリンピックをみても、どのスポーツにおいても金メダルに手の届くところまでレベルは上がっていると思われるので、今後も 47 都道府県の人材を幼少期から発掘し、スポーツ奨学金制度によって、強化策を図り才能を寄り伸ばすために各県で特徴のあるスポーツとして推進し、良き指導者の育成とともに能力を発揮できる体制を整える。

3 巡目の開催が前提でアンケートを採っているようだが、反対の意見を言ってはいけないような内容だった。最初から開催ありきで進んでいるのなら、広く意見を求めなくても良いので、開催地の負担が少なく済む、順番をつけない、持ち回らず開催したい自治体が開催する、出たいプレイヤーが出たい自治体で出場する、年齢制限のない、バリアフリーで性別も関係のない新たな種目で3巡目の大会を開催すれば良いと思う。好きなことを述べましたが、他に反対される競技団体や、都道府県はないのですか?発展のためなら良いですが、疲弊した県もあります。必ずしも県の発展に寄与するとは限らないと思います。東京オリンピックの目的である復興五輪は、本当に復興のためになったのでしょうか。物心共にという観点から見れば、多くの問題をかかえた被災地は、もっと多くの復興資金が必要だったのではないでしょうか。予算に関してもオリンピックだけではなく、国体(国スポ)にも多くの税金が使われているならば、もう少し、被災地の事を考えてあげた方が良いのではないでしょうか。

国体の位置づけ・役割・方向を再度検討し、実りある国民の祭典を期待しています。

現在のような都道府県対抗/硬直化した運営方法の大会は見直した方が良いと思う。予算が限られるのであれば、 競技に直結した部分への集中的な費用配分をすべきかと(大会パンフレットの冒頭に掲載される膨大な数のスタッ フや広報にかかる費用はかなり削減できると感じている)。

国体の形式ではなく、スポーツ振興策を考えるべきである。

より良い国民スポーツ大会になるようにご検討の程宜しくお願い致します。

本人の意思を尊重しなければならないが支援制度を設ける必要があると思う県内企業各団体に生涯スポーツ (健康 増進) の重要性を知らしめチーム大分としての意識を高め県民皆スポーツを奨め医療費の軽減を図る体制を整えて いければよいと思います。

出来ない、縮小、制限など現状を考えれば必要だとはわかるが、出来る方法、する方法にももっと力を注ぐように 考えていただきたい

県連単位で答えるのが難しいところもいくつかあった。

競技団体間の交流

早く新型コロナ感染拡大が収束し、普通の練習や大会が出来ることを切に望むのみです。今年の栃木国体が無事に 開催出来ることを願っています。

2 巡目国体の競技責任者を担当したが、国レベルの大会開催基準が多く、その対応に苦慮した。各県毎に、もう少し 柔軟な対応が必要であると考える。時代が変わり、興味・関心・協力体制を強め、大会を維持していくことの難し さを強く感じている。

開催について慎重に検討していただきたいし、スポーツ大会に変革していくのであれば本来のスポーツの意義に立 ち返るべきと考える

本県の最終的に目指す強化は、国体(国スポ)への出場ならびに入賞である。そのため、長年強化してきた選手達が競技によっては、県外へ流出してしまうのは、県内に師事を仰ぐ指導者がいないなど、ジュニア関係者からは不満の声などが上がることもある。その中で、地元に残って頑張っている選手達が輝ける瞬間を作り出してあげたい面と、県外で活躍している強い選手を呼び戻すことは、本来であれば競技性を取れば、望ましい。しかし、国スポの目指す目的に沿うため、様々な考え方や取組があってもいいとは思うが、体操に関しては、競技人口の減少、また、指導者の不足、さらには、帰ってきたくても、就職先がないなどの絶対的条件がクリアできていない。そのため、本県のアスリート雇用など、大変ありがたいシステムを使用することで、地元に残る機会を与えてもらっているが、企業の積極的参加により、多くのアスリートがそこで終わらず、環境が整う中で指導者として次の世代を繋げていけるような流れを、この大会に出ることによって何かしら利益を得ることが出来ると、考え方がかあるのではないかと思う。

現行の良い点、見直す点を整理して各方面の意見を伺うことで、より良い国民スポーツ大会を目指して検討をお願い致します。

県内に核となる学校・企業スポーツの拠点になるところがあると、比較的選手確保には有利になるが、成年は非常に難しい状況である。

このようなアンケートをとった以上、結果を公開してほしいです。結論ありきのアンケートだとしたら、意味がないと思います。

ほとんどの競技者や競技関係者は、国体の目的に準じて純粋に技を競い合い、純粋に競技を楽しんでいるように思います。そんな中で、勝利至上主義になっておられる一部の報道等を見ると心が痛みます。また、選手の国体への出場の有無や勝敗は選手のその後の人生にとって影響が大きくなるという事実があることも分かります。しかし、国体の真の目的を達成することが何よりも優先させるべきことだとするならば、今回のこのアンケートの大部分の課題は大きな課題にはなりえないのではないでしょうか。また、時代、環境、開催地域の事情等、さまざまな要因で開催方法が変化するのは必然ですから、必ずしもこれまでの方法が正だとは限りませんし、その時その時に合わせた柔軟な考え方で運営できればと思っています。ほとんどの選手は、ただ国体を目指し、ただ国体をとおして純粋に技を磨きたいという気持ちが大きな原動力となって競技しているものと信じています。なお、本回答は福島県野球連盟 軟式野球競技 国体強化委員会としての見解ですので、軟式野球競技に限った回答箇所もあることを申し添えます。

競技(馬術)会場について国体規模の競技会場を常時確保している都道府県はあまり多くないと推察されます。建設に係るコストと建設後の維持管理の観点から、県外の複数定点開催に賛成します。

特にスキー国体であるが、使用施設のあるところが限られておりそれらの開催地で輪番制で回しているが経費が掛かるため現行の開催地輪番制をそのままに冬季スキー国体の出来ない都府県で共同開催を考えたらどうか。

固定観念にとらわれず、様々な意見を吸い上げ検討していただきたい。

国体はジュニア世代から成年クラスの競技選手にとって出場することが目標となっている大会だと思います。県の 代表選手に選ばれることを名誉なことと考え日々の練習を積み重ね競技力を高め県代表選手に選ばれれば他競技の 代表選手と同じ県のユニフォームを着て開催県に赴き実力を発揮して全国レベルでの自身の実力を計ることがで き、次のステージでの新たな目標を持つことができる貴重な大会です。国体がわが国の競技選手育成に多大な貢献 をしている現状を考えると無くてはならない大会です。今一度原点に立ち戻り競技力向上に資する大会にするため 競技種目をオリンピック種目に絞り見直すことも考えてはいかがでしょうか、普及振興も世界で活躍する選手が出 てきて成せることだと思います。

都道府県対抗が本当に必要なのか再検討してもらいたい、人口が多く経済的にも潤っている都道府県が強いのは当たり前。それに勝とうとして無理に予算化し、国体後にその地に残らない選手を呼んでくるぐらいなら、地域のスポーツ環境を整えることに予算を付けてもらいたい。また、競技の強化を目的とするのか、普及を目的としていくのか、再検討が必要と考える。

例えば全国都道府県対抗駅伝、全国高校野球選手権、全国高校サッカー選手権等、現有の都道府県対抗競技会を国体の点数対象として最大限組み入れる。これらは日本一を決める競技会であり国民やマスコミの関心が高い。既存の大会であるため、国体としての新たな競技施設や運営費用が不要である。国体競技と重複している場合は国体側の競技を削減する。権益を巡り選手権大会開催側との調整は難航すると思われるが、改善案として提案します。

国体会場での地元の方のおもてなしが、選手・役員すべての方に楽しんでいただける憩いの広場であり、宿舎も含め親睦を深める場所でもあると考えます。(感動を共有できる場所)開催県としても大変ご苦労をおかけすることは十分承知しておりますが、縮小とならないことを願っております。

県の競技力向上対策班も予算を獲得して、力を入れて育成強化の指導をしている。県内の陸上競技の立場でいえば、小中高一貫指導体制の下で選手の育成強化を実施しており、その先に国体(国スポ)がある。また、育成強化のためには、小中高生を指導する指導者育成も行われている。理想的な流れだと感じている。小中校一貫指導の流れは、20数年前に文科省から各県に降りてきた事業だと聞いている。やはり、国(スポーツ庁)が、特に青少年の健全育成の点から見ても、日本のスポーツの在り方のイニシアチブをとっていくことが大事である。各競技団体任せでは、青少年の健全育成はできないと考える。また、国スポは、選手たちが居住する、または居住したふるさとの代表選手として戦う場となる。都道府県関係者や指導者も居住している都道府県でどのような選手育成強化をしたかが問われる場所である。まずは、それがきちんと評価される場であってほしい。トップ選手は国際大会と国スポの開催時期が重なれば国スポには出場しません。その場合でも、国スポの評価基準が天皇杯競技順位だけでなく、スポーツ振興の要の指標を取り入れた評価となれば、盛り上がり方も違ってくると思う。

アンケート調査で同じような質問が多かった。開催する側や派遣する側などで質疑が異なるので、もっと的を絞って調査すべきでは?

国スポとして競技を開催する事の意味をよく検討して頂きたいと思います。正直なところ公からの補助金の基準が国体に偏っており、逆にこれがないと補助金を貰えないとの懸念がスポーツ競技団体における縛りとなっている気がします。特に、弓道の場合、競技人口は大変多い(高校生だけで 6 万人超)のですが、柔道における企業、剣道における警察といった競技を強力に支援する組織がなく、また、選手がプロとして弓道で食べていける訳でもないことから、地方の連盟は公からの補助金だよりという側面が否めません。また、競技の特殊性から弓道場がないと競技ができないこともあり、道場自体の設置・運営が自治体頼みとならざるを得ないところもあります。ただ、愛好者数は武道としては最も多く、それが地域に密着していることも事実です。競技の特性として年齢や性別の影響が少なく、様々なアンケートで「やってみたいスポーツ」では必ず上位に入ります。今日ではある意味、「国民」の「スポーツ大会」として実施する上で最適の競技と言っても過言ではありません。今後も厚いご支援を期待します。

資 料 編

1. 調査用紙

3巡目国民スポーツ大会の在り方検討に関するアンケート調査

【はじめに】

国民体育大会(以下、国体)は昭和21年(1946年)に京都地方を中心とした京阪地区で開催した第1回大会以降、「広く国民のあいだにスポーツを普及し、アマチュアリズムとスポーツ精神を高揚して、国民の健康増進と体力の向上を図り、併せて地方スポーツの振興と地方文化の発展に寄与するとともに、国民生活を明るく豊かにする。」ことを目的に、「スポーツ振興法」において、法令に唯一明記(第6条)された大会として発展してきました。

国体は、これまで歴史的・文化的に国民スポーツの振興及びスポーツ文化の発展において、国民スポーツの普及、競技者・指導者の育成、スポーツ施設の整備、スポーツ組織の充実など、スポーツ振興体制の確立とスポーツ文化の形成に総合的に寄与してきました。

しかしながら、スポーツを取り巻く環境は年々変化をしており、世代別の総合スポーツ大会や各競技団体主催の全日本選手権などの全国規模のスポーツイベントが多く開催されている現状を踏まえ、3 巡目の国民スポーツ大会(以下、国スポ)の在り方を検討し、スポーツイベントとしての国体(国スポ)の位置付けをより明確にする必要があります。

国スポは、2035年から3巡目の大会が始まる予定となっており、開催地の準備期間を考慮した際、10年前の2024年には大会の在り方を決定する必要があります。

そこで、当協会では、令和元年8月29日開催の「令和元年度第2回国民体育大会委員会」において、 国スポの3巡目開催に向け、プロジェクトにおいて検討すべき課題の整理や、プロジェクトの構成の協議・決定等を担うWGとして、国体委員会のもとに設置することを決定しました。

WG の目的は、「プロジェクトにおいて検討すべき課題等の整理」や、「プロジェクトの構成等を検討する」ことであり、これまで約10回にわたり、3巡目国スポのあり方(果たすべき役割、目指す方向、位置付け)や今後検討すべき事項の整理等を主に協議してまいりました。

つきましては、今後のさらなる検討を進めてまいりたいと考えておりますので、WG においてこれまで検討してきた各種事項に対するみなさまからのご意見や、WG では捉え切れていないその他課題に関しご指摘いただきたく、別紙「3 巡目国民スポーツ大会在り方事前検討 WG におけるこれまでの検討内容」をご確認の上、ご回答をお願いいたします。

公益財団法人日本スポーツ協会 国民体育大会委員会 3巡目国スポ在り方事前検討ワーキンググループ 座長 山本 浩

○回答期限:令和4年2月8日(火)17時

○回答先:日本スポーツ協会国体課

【凡例】

- ・国民体育大会(国体):第1回から2023年開催の特別国民体育大会までの大会を指す。
- ・国民スポーツ大会(国スポ):2024年開催の第78回国民スポーツ大会以降に開催する大会を指す。

3巡目国民スポーツ大会のあり方検討に関するアンケート調査回答用紙

機関・団体名:								
問合せ先:担当者		電話						
【設問:大項目全35問】								
<これまでの国体>								
1-①. 以下の各項目につ	いて、現状の国体の原		まる箇所へ	、 ○を	ご記入	くださ	い。ま	きた、
特に大きな成果と考える	上位3項目の記号をこ	ご記入いただき、	その理由に	つい	てご記	入くだ	きさい。	
				ま	当	ど	当	大
				った	て	ち		٧١
				たく当て	は	らと	て	に
				当て	ま	E	は	当
				は	5	言	,	て
				はまらな	な	え	ま	はま
				ない	\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	ない	る	まる
A. スポーツ施設整備の充				*		`	۵	2
A. スホーノ旭設整備の元 B. 選手の育成	<u>.</u> 夫							
C. 選手の強化								
D. 指導者の養成								
E. スポーツ組織の強化 (
F. 地方スポーツの振興	, Д. П. Ш./							
G. 競技スポーツの普及								
H. 開催地の PR								
I. 開催による経済波及効	J果							
J. 地域振興・活性化								
K. 地域住民のスポーツへ	の関心向上							
L. 郷土意識の高揚								
M. 強化費の確保								
N. スポーツ関係者のネッ	·							
0. スポーツ実施率の向上								
<上位3項目>※該当	する記号をご記入くた	ごさい。						
第1位	第2位		第3位					
21. I 	21 1		21 1					
TII 4.								
理由:								

1-②. 以下の各項目について、現状の国体の課題として当てはまる箇所へ〇をご記入ください。また、特に課題と考える上位3項目の記号をご記入いただき、その理由についてご記入ください。

13. Time and a second s			- •		
	まっゃ	当て	どち	当	大い
	ったく当てはまらない	は	らと	て	に
	当て	ま	ŧ	は	当
	はま	6	も言え	يات.	ては
	5	な	ス な	ま	ま
	い	V	٧١	る	る
A. 選手の確保					
B. 監督の確保					
C. 実施競技の多さ					
D. 実施競技の少なさ					
E. 参加人数の多さ					
F. 参加人数の少なさ					
G. 競技施設整備(大会施設基準)					
H. 宿泊施設の確保					
I. 開催地の経費負担					
J. みるスポーツとしての魅力					
K. トップアスリートの参加					
L. スポンサー確保					
M. 大会のレガシー					
N. 参加資格					
0. 地域振興・活性化					
P. 選手の育成・強化					
Q. 持ち回り開催					
R. 開催地選定					
S. 総合成績決定方法					
T. 開催時期・期間					
U. ブロック割					
V. 開催頻度					
W. 冬季大会の在り方					
X. 大会の魅力度					
Y. 開催地の PR					
<上位3項目>※該当する記号をご記入ください。					
<u>第1位</u> <u>第2位</u> <u>第3位</u>					
理由:					

<3巡目国スポのあり方> 2.3 巡目国スポの果たすべき役割、目指す方向、位置付けについてご意見をご記入ください(別紙: 「1.3巡目国スポの果たすべき役割、目指す方向、位置付け」参照)。 <大会実施方法> (別紙:「2. 大会実施方法」参照)以下設問の3. から5. はここまでのWGの議論で、現状維持の意見 が大勢を占める項目です。 3. 毎年開催の継続(ひとつに〇印をつけ、その理由をお示しください) <WGでの主な意見> ● 毎年の目標となり、日々のモチベーションにつながる。 ● 4年に1回、隔年開催となると、特に少年種別では年代によっては出られないケースや、ピー ク時に大会が開催されないなどのケースが生じる。 どちらかといえば反対どちらかといえば賛成 反 対 賛 成 理由: 4. 都道府県対抗戦の継続(ひとつに〇印をつけ、その理由をお示しください) <WGでの主な意見> ● 各都道府県における選手の育成・強化と、強化費の獲得にも大きく関わってくる。 ● 中長期的な視点での育成・強化をしていった結果として1年に1回対抗戦を行うことが重要。 反対 ・ どちらかといえば反対 ・ どちらかといえば賛成 ・ 賛 成 理由: 5. 開催地フルエントリー制の継続(ひとつに〇印をつけ、その理由をお示しください) <WGでの主な意見> ● 開催地にとってデメリットも少ないので、フルエントリー制を継続するのはいい。 ● 開催地でもブロック大会に参加した場合、フルエントリーできるとしてはどうか。 反 対 どちらかといえば反対 ・ どちらかといえば賛成 ・ 賛 成 理由:

【各種検討事項】

<大会規模>(別紙:「3. 各種検討事項①大会規模(1)」参照)

6-① 大会規模の見直し(ひとつにO印をつけ、その理由をお示しください)

(現行:40競技、選手·監督約25,000人)

<WGでの主な意見>

- 大会規模については、活性化させていくことを前提に議論してはどうか。
- 会期の分散、開催地域の分散などを組み合わせることで、出来るだけ通常のルールやレギュレーションに則った形でのやり方を模索する必要がある。
- 開催地の実情を考慮した場合、規模の縮小も選択肢の一つとしてある。

反対	•	どちらかといえば反対	•	どちらかといえば賛成	•	賛 成
理由:						

6-② ①で「賛成」または「どちらかと言えば賛成」と回答の方にお尋ねします。

大会規模(1つに〇印をご記入の上、適正規模とその理由をご記入ください)

縮小すべき	•	どちらかといえば縮小すべき	•	どちらかといえば拡大すべき ・ 拡大すぐ	べき
適正規模					
		競技			
		人			
理由:					

7. 各競技会の参加人員の適正化(ひとつに〇印をつけ、その理由をお示しください)

<WGでの主な意見>

- 各競技会の参加人員については、選手の負担を考慮し、競技ルールにて定められた正規の人数 や他の全国大会と同人数の参加とするよう調整すべき。
- 開催地の実情を踏まえると、参加人員を適正化する方法を検討する必要がある。

反対	•	どちらかといえば反対	•	どちらかといえば賛成	•	賛 成
理由:						

< 美	尾施競技>	(別紙:「3.	各種検討事項 ①大会規模(2)(3)」参照)
8.	開催地選打	沢競技の導入	(ひとつに〇印をつけ、その理由をお示しください)

- サステナブルな大会を目指すうえで、「柔軟性」が重要となってくる。そのうえで、柔軟に開催 地が競技を選択する権利を持つことは賛成である。
- ある程度コア競技を作り、その他競技から開催地が選択する仕組みを作れば可能。
- 開催地選択競技についても必ず数年に1回は開催されるなどの配慮が必要。
- 開催地選択競技を導入する場合、明確なルールと仕組みを作る必要がある。

反 対	•	どちらかといえば反対	•	どちらかといえば賛成	•	賛 成
理由:						

9. 競技の固定地 (定点) 開催 (ひとつに〇印をつけ、その理由をお示しください)

<WGでの主な意見>

<WGでの主な意見>

● 全ての都道府県が開催することが難しい競技などは、固定開催をしたい都道府県を事前に募る 方法や、数年間定点開催するなどの柔軟性も必要。

反対	•	どちらかといえば反対	•	どちらかといえば賛成	•	賛 成
理由:						

10. 一部競技の県外開催(ひとつに〇印をつけ、その理由をお示しください)

反 対	•	どちらかといえば反対	•	どちらかといえば賛成	•	賛 成
理由:						

11-①. 現行の実施競技選定(ひとつに〇印をつけ、その理由をお示しください)

変更すべき	•	どちらかといえば変更すべき	•	どちらかといえば継続すべき	•	継続すべき
理由:						

11-② ①で「変更すべき」または「どちらかと言えば変更すべき」と回答の方にお尋ねします。具体的にどのような変更をすべきとお考えでしょうか。

_			

12.	隔年実施競技の選定	(ひとつに〇印をつけ、	その理由をお示し	ください)
-----	-----------	-------------	----------	-------

<WG での主な意見>

- 競技団体の立場からすると、国体の競技・種目になるかどうかがその後の競技の発展や、普及にかかわってくるケースもある。
- 参加する側の選手にとっても出られない年が生じる。
- 競技団体間での競争が起きる仕組みとしては必要。

反 対	•	どちらかといえば反対	•	どちらかといえば賛成	•	賛 成
理由:						

13. 規模を維持または縮小するために隔年実施競技を増やす(ひとつに〇印をつけ、その理由をお示しください)

<WGでの主な意見>

● 開催地の実情を考慮すると、競技数を減らすことも選択肢としてある。

 反対
 ・ どちらかといえば反対
 ・ 登成

 理由:

<開催時期>(別紙:「3. 各種検討事項 ②大会の開催時期(1)(2)」参照)

14-①. 大会会期の見直し(ひとつに〇印をつけ、その理由をお示しください)

(現行:本大会11日間、冬季大会5日間)

<WG の主な意見>

- 競技毎の競技カレンダーを考慮した会期設定をすることでトップアスリートの参加促進につ ながる。
- 会期の延長・分散をすることで、盛り上がりが長続きすること、宿泊等の問題低減、より多く の人が観戦する機会を提供・確保することにもつながる。
- 現行の集中開催の方が負担は少ない。
- 都道府県県予選やブロック予選などがあるため、年度の後半以外の本大会設定は難しい。
- サステナブルな大会を目指す上で、ある程度、開催地の実情に応じて柔軟な対応をしてもよい。

反 対	•	どちらかといえば反対	•	どちらかといえば賛成	•	賛 成
理由:						

その理由をお示しください)	
短縮すべき ・ どちらかといえば短縮すべき ・ どちらかといえば延長す~	べき ・ 延長すべき
理由:	
5-①. 一定の範囲内で開催地が柔軟に設定できる対応	
(ひとつにO印をつけ、その理由をお示しください) (例) 今大会は 11 日間、次大会は 15 日間 など	
反対 · どちらかといえば反対 · どちらかといえに	ず替成・一替点
理由:	ば 賛成・ 賛成
 5-② ①で「賛成」または「どちらかと言えば賛成」と回答の方にお尋ねしま	: d
具体的にどの程度の会期期間であれば対応可能でしょうか。	. 7 0
共産的できる性質の名別が同じの利のの別が可能できます。	
	日間
6. 各競技会の分散(グループ)開催(国スポの通年開催) (ひとつに〇印をつけ、その理由をお示しください) (例)毎週土日を中心に開催など。春季・夏季(初夏季/晩夏季)・秋季・戦	始秋季わ り
反対・ どちらかといえば反対・ どちらかといえに	
理由:	
<競技施設>(別紙:「3.各種検討事項 ③」参照)	
7-① 施設(競技会場)の弾力的運用を促進するための方策の策定	
(ひとつに〇印をつけ、その理由をお示しください)	
<wg での主な意見=""></wg>	
重要な点は都道府県にとって不利益な施設を作るきっかけを作る大会	こなってはいけない。
反対 ・ どちらかといえば反対 ・ どちらかといえに	ず賛成 ・ 賛成
理由:	
	

14-②. ①で「賛成」または「どちらかと言えば賛成」と回答の方にお尋ねします。(ひとつに〇印をつけ、

	成」または「どちらかと言えば賛成」と回答の方にお尋ねします。 な方策に関するアイデアやご意見があればご記入ください。	
2. C H.1.1 2<	- アンストのストーンンでに応光が成立のないには、これでは、	
_	川紙:「3.各種検討事項 ④」参照)	
18-① 総合成績		
	つけ、その理由をお示しください)	
<wgでの主な< td=""><td></td><td></td></wgでの主な<>		
● 各都道府	守県の中長期的な選手強化を評価するような仕組みは作れないか。	
● 戦力が均	均衡化される仕組みを作る必要がある。どこが勝つか分からない大会にす	⁻ ることで、メ
ディアも	ら盛り上がり、世の中の関心につながる。	
● 算出方法	去として、現在は競技人数にウエイトをかけているが、競技登録者にかけ	ける。
● 競技得点	に加え、個人の所属歴(育った都道府県)に応じ、得点を配分する。	
反対 ・	どちらかといえば反対 ・ どちらかといえば賛成	賛成
理由:		
18-② ①で「賛	成」または「どちらかと言えば賛成」と回答の方にお尋ねします。	
	なアイデアやご意見があればご記入ください。	
7(11 = 7)		
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		
© 77.17.41.11.11	点差の是正検討	
	つけ、その理由をお示しください)	
<wg td="" での主なi<=""><td></td><td></td></wg>		
● 競技間の	り得点を比較すると団体競技が重視される傾向もある。その点では競技間]の得点格差を
是正する	る必要がある。	
反対 •	どちらかといえば反対 ・ どちらかといえば賛成	賛成
理由:		

19-2	_					と言えば賛 ればご記 <i>)</i>			方に	お尋ね	ょします	す。		
				, , <u> </u>	2.52.6	71000 = 1107	.,,,_							
			性の担信		<i>t</i> . In - 1									
				その埋田	をお示し	ください)								
			意見> ! かたで	マーマ	ジリフィ	h /) ~ ~ T	क्र ३त २० ५	ナ. ナ. ム 、	> 1	. 1 ∄⊞	日本一、ル	-40104	11 7	1 <i>5</i> /)
•						/タイムで研 直府県対抗戦							。 リ ノ ·	ルタイム
P	対					ば反対							•	 賛 成
-	 由:			-5 74	_				-5 74		/C 16	. д <i>г</i> у		<u> </u>
						で通り取扱	う							
_	対 対					ノださい) ば 反 対		12 +	۲ ۸	دادا	、コバ	* ** 十:		 賛 成
	<u>対</u> 由:		<u> </u>	9 N3 0	2 V · Z	(4 汉 刘	•	C 5	5 /J	V	' /L (J	. 須	•	負
	開閉会の主			₹:「3.	各種検討	対事項 ⑤」	参照)							
•				ついて	は賛成。	1番の盛り	上がり	りが開 :	会式だ	と思	うが、	施設の	後利用	なども考
						る必要があ			,		•	, - 1,2 ,		
	さ典の			その細点	た むこし	,ください)								
	カこし 対					<u> </u>		ビた	こ か	レル	、 ラ バ	〉	•	賛 成
-	<u>刈</u> 由:	-	C 5	りか	_ v · ⁄~	以以入	-	C 5	りか	_ V	· / / /	. 貝	-	貝队
	ч.													

23. 式典の屋内開催

(ひとつにO印をつけ、その理由をお示しください)

 反対・ どちらかといえば反対・ どちらかといえば賛成・ 賛成

 理由:

<大会経費> (別紙:「3. 各種検討事項 ⑥」参照)

24. 入場料金の設定

(ひとつに〇印をつけ、その理由をお示しください)

<WGでの主な意見>

- 入場料を取ること自体は悪いことではない。より魅力的な大会づくりの経費に繋がるので有れ ばそれは、積極的に考えた方がいい。
- コンテンツとして魅力があるとすれば、それは正当な対価としてお金を頂くという形にもって いくべき
- 入場料をとることで観客が減る競技もある。
- 国スポの魅力度を高めて、なるべくチケット・放映権・スポンサー収入を獲得していく方向で 検討していきたい。

反対	•	どちらかといえば反対	•	どちらかといえば賛成	•	賛 成
理由:						

<大会評価指標> (別紙:「3. 各種検討事項 ⑦」参照)

25-① 各大会を評価する指標の作成

(ひとつにO印をつけ、その理由をお示しください)

また、現時点で、国体に関する評価(選手強化、経済効果算出、施設整備、式典構想、国体レガシー等)を行っている場合は、その評価指標や評価に関する資料を添付にてご提出ください。

<WGでの主な意見>

● 持続可能性のある大会を作っていくうえで、大会評価指標を作成することがカギになる。

反対	•	どちらかといえば反対	•	どちらかといえば賛成	•	賛 成
理由:						

25-② ①で「賛成」または「どちらかと言えば賛成」と回答の方にお尋ねします。	
現時点で評価すべき指標等があればご記入ください。	
	-
<開催地選定>(別紙:「3. 各種検討事項 ⑧」参照)	
26-① 新たな立候補制 (完全立候補制) の導入	
(ひとつに〇印をつけ、その理由をお示しください)	
<wgでの主な意見></wgでの主な意見>	
▼ 施設を更新したいなどの思いがある都道府県は国体開催というモメンタムを活用して、意	分よ
● 施設を更新したいなどの恋いかめる都道州県は国体開催というモブングムを宿用して、息 もって立候補するという選択肢を取ることもできる。	八と
● どのような大会の在り方であれば立候補制を実現できるか検討する必要がある。	3 <i>2</i>
● 大会の魅力度を高めていくためには、ホスト都道府県、NF 間で競争が起きるような仕組み	つく
りが必要。	
 ● 立候補制とする場合、複数年連続開催というのも選択肢としてある。	
● ある程度、順番を担保する仕組みも必要。	
反対 ・ どちらかといえば反対 ・ どちらかといえば賛成 ・ 賛	成
理由:	
26-② ①で「賛成」または「どちらかと言えば賛成」と回答の方にお尋ねします。	
新たな立候補制(完全立候補制)を導入するうえでの条件があればご記入ください。	
26-③ 新たな立候補制 (完全立候補制) を導入する場合に考えられる課題についてご記入	
ください。	
L	

27. 現行の持ち回り開催

(ひとつに〇印をつけ、その理由をお示しください)

<WGでの主な意見>

- ふるさとスポーツ力を高めるという位置付けを踏まえると、持ち回り開催が望ましい。
- ある程度、幹事都道府県を決めて、コア競技は近隣開催、特殊競技は立候補制として数年間は 聖地化するなど柔軟な対応が必要になる。

反対 ・ どちらかといえば反対 ・ どちらかといえば賛成 ・ 賛成 理由:

28-①. 複数都道府県合同開催

(ひとつに〇印をつけ、その理由をお示しください)

(例) A県とB県で合同開催

<WGでの主な意見>

- 合同開催、ブロック開催を行うことで、各競技会を本来の基準に則った規模で実施できる可能性がある。
- 競技会場整備、配宿問題の解決につながる。

反対 ・ どちらかといえば反対 ・ どちらかといえば賛成 ・ 賛成 理由:

28-②. ブロック開催

(ひとつにO印をつけ、その理由をお示しください)

(例) 南関東ブロックで開催など (インターハイ方式)

<WGでの主な意見>

- 合同開催、ブロック開催を行うことで、各競技会を本来の基準に則った規模で実施できる可能 性がある。
- 競技会場整備、配宿問題の解決につながる。

反対 ・ どちらかといえば反対 ・ どちらかといえば賛成 ・ 賛成 理由:

_	大会参加 つに〇印を				_	+111										
			ちらか				•	どを	5 6	かと	: V)	えば		<u></u>	•	賛 成
-	由:															
29-②	①で「賛	養成」~	, 「どち	らかとし	ヽえば賛	成」と	: 回答	の方	にお	尋ね	しま	す。				
	具体的	な下限	年齢につ	いてご	記入くか	どさい。	· _									
														厉	裁	
30-①.	外国籍	選手の	参加機会	₹の拡大												
(ひと	つに〇印	をつけ、	その理日	自をお示	しくださ	さい)										
<W	Gでの主	な意見と	*													
•	成年に とも検		は、その	地域で	仕事をし	してい	て、え	定住し	てい	るの	つであ	っれば	参加	でき	ると	広めるこ
•	少年に	ついて	はより慎	〔重な議	論が必要	要。										
反	対 •	ど	ちらか	といえ	- ば反	対	•	どち	らら	かと	こい	えば	賛质	戈	•	賛 成
理	由:															
_	①で「賛な拡大条						回答	の方	にお	尋ね	しま	す。				
	·各加八木	11 & C	3 001010		1200	, · · o										
31-①.	国内移つに〇印		の見直し その理師		しくだる	さい)										
反	対 •	ど	ちらか	といえ	ば反	対	•	どす	5 6	かと	- V	えば	賛质		•	賛 成
理	由:															

<参加資格>(別紙:「3. 各種検討事項 ⑨」参照)

妥当人	と考え	る具体の	的な制限	大会数	について	てご記え	入 <u>く</u>	ださし	۰,۱						
													大会		
2-① 新た															
(ひとつにC			の理由を	お示し	んださい	(۱,									
<wgでの< th=""><th></th><th></th><th>د سماست</th><th>) - (A L</th><th>. </th><th>on alan</th><th>,</th><th></th><th>\</th><th>- 10 1</th><th>-lw+[-</th><th></th><th></th><th>- 1</th><th>> ~!!)</th></wgでの<>			د سماست) - (A L	. 	on alan	,		\ 	- 10 1	-lw+[-			- 1	> ~!!)
		フフな	ど、新た	な参加	区分の記	没定に 。	よつ	ては、	選手	ニカシブ	が付	に集	き甲し`	てしま	り恐れ
反対		 ビ ナ	らかと	いら	<u> </u>			じた	i A	. しı	ハラ	げま		•	賛 卮
		<u> </u>	5 M E	マ・え (は以刈		(<u> </u>	り //·		ハ <u>た</u>	1より	1 以		質 凡
理由:															
!-② ①で	「賛」	戓」~「	どちられ	いといえ	えば賛成	⊒اح ز]答0	り方に	お尋	ねし	ます	0			
。 .体的な参加		_													
ではなる。	<u> </u>	本口なり	_ /3・0/)1 0	14 C BL	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	20.0									
<i>•</i> • • •		== 4.1-4		(5 .1 1	// N/ 	14									
-① ふる			-	-			討								
ひとつにC)印を [·]	つけ、そ	の理由を	お示し	んださい	,1)									
<wgでの< td=""><td>)主な</td><td>意見></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></wgでの<>)主な	意見>													
	るさと	制度を	さらに活	用する	ことで、	・地元に	こは	こうレ	いった	選手	ミがい	るの	だとい	いう地	元の関
₽Ē	引き出	せる。													
● 現場	犬 15%	6強とな	っている	5利用率	∞を、50°	%から	100	%に近	íづけ	けてい	くと	いう	考え	方で設	計して
< 0	のもい	\ \ \ \ _													
反対	•		らかと	レノラ	<u> </u>			どち	らか	ا ل	ハラ	/げ オ		•	賛 厉
				· /L i			-	,	.) 14		, , <u>,</u>	10 5	2 ///		兵 凡
理由:															

31-② ①で「賛成」または「どちらかといえば賛成」と回答の方にお尋ねします。

33-② 成年選手におけるふるさと選手制度の義務化
(ひとつに〇印をつけ、その理由をお示しください)
<wgでの主な意見> ■ 自都道府県で育てた選手が成年になっても自都道府県で出るということを義務化すると、ジュ</wgでの主な意見>
● 自制道的祭で育でた選子が成年になっても自制道的祭で山るということを義務化すると、シュニアの育成にも力が入ってくる。
反対 ・ どちらかといえば反対 ・ どちらかといえば賛成 ・ 賛成
理由:
在用:
33-③ ふるさと選手制度の少年種別年齢域への導入
(ひとつに〇印をつけ、その理由をお示しください)
<wgでの主な意見></wgでの主な意見>
● 義務化もそうだが、若い年代から育った都道府県から他都道府県へ転出していく選手が増えて
きていることを踏まえると、少年種別への適用なども検討していい。
反対 ・ どちらかといえば反対 ・ どちらかといえば賛成 ・ 賛成
理由:
33-④ ①で「賛成」または「どちらかといえば賛成」と回答の方にお尋ねします。
②・③以外で示された方策以外に具体的な方策などがあればご記入ください。 「
34. 3巡目国スポの検討に向けての要望(是非も含め)があればご記入ください。

全体を通し	て> があればご記.	えください		
□ 思兄守 <i>i</i>	<i>がめ</i> りれいみ <u></u> 品じ.	人へたるい。 		

ご協力ありがとうございました。

2.3 巡目国民スポーツ大会在り方事前検討 WG におけるこれまでの検討内容

2021, 12, 17

本検討内容はアンケート実施前にWGにおいて検討した内容となります。本報告書記載のアンケート結果を踏まえ、今後さらなる検討を進めて参ります。

1. 3巡目国スポの果たすべき役割、目指す方向、位置付け

これまでの目的・性格・コンセプト・位置付けという枠組みが非常に分かりづらく、また 各項目に重複した記載内容などもあったことから、3 巡目に向けて新たな枠組みとして整 理をしながらも、これまで定めてきた「スポーツ宣言日本」や「21 世紀の国体像」を念頭 に置き、3 巡目の国スポについて、以下の通り整理することとした。

▶ 果たすべき役割

これまでの目的と性格を統合した形で、国スポそのものの存在意義として定義。

- ●国スポを通じて、社会をより豊かにすることに貢献する
 - ・ 国スポは、あらゆる人々のスポーツとの多様な関りを推進し、スポーツの価値

を高め広めることに貢献します。

・ 国スポは、「スポーツ宣言日本」が目指す社会像を実現することに貢献します。

▶ 目指す方向(コンセプト)

これまでのコンセプトと同様の項目となり、これからの中長期的な目標と定義。 様々な観点からの持続可能性を目指すといった観点、ふるさとの活性化の観点から新たなコンセプトとして次の2点を提示。

- ① 国スポは、サステナブル (持続可能) なスポーツ大会を目指します
 - ・中長期的なアスリートの育成・強化
 - ・多様で豊かなスポーツ享受の促進
 - ・最適にして柔軟な大会運営と国スポレガシーの創出
 - ・ 社会課題解決への貢献
- ② 国スポはふるさとスポーツ力の発展を目指します
 - ・ふるさと(都道府県)のアスリートの育成・強化と指導者・競技役員等の養成
 - ・ふるさと(都道府県)におけるスポーツをはじめとした多様な文化との融和
 - ・ふるさと(都道府県)のスポーツ環境の醸成

> 大会の位置付け

大会そのものの位置付け、他の大会に対する国スポのポジショニングを示すものと定義。 3 巡目国スポの「果たすべき役割」と「目指す方向(コンセプト)」を踏まえ、次の 4 点を 提示。

- ① 都道府県のふるさとスポーツ力を競い合う国内最大・最高の総合スポーツ大会
- ② 将来性豊かなアスリートの育成・強化を行う大会
- ③ 世代・競技間を超えた交流を育む大会
- ④ 地域課題解決のきっかけとなる大会

2. 大会実施方法

3巡目国スポの「果たすべき役割」と「目指す方向(コンセプト)」及び「大会の位置付け」を踏まえるとともに、これまで国体が毎年継続して開催され、我が国のスポーツ推進に大きく寄与してきたことを考慮し、以下の3点については継続して実施。

- ① 毎年開催
- ② 都道府県対抗
- ③ 開催地のフルエントリー

以下の3点については、サステナブルな大会の実現に向け、方式の変更も視野に入れ 検討を行う。

- ④ 開催期間
 - ✓開催期間の延長・開催期間の分散
- ⑤ 開催地域
 - ✓ 単一都道府県開催・ブロック開催・複数都道府県合同開催
- ⑥ 開催地決定方法
 - ✓ 都道府県持ち回り開催の継続・新たな立候補制の導入

3. 各種検討事項

3巡目国スポの柱

3 巡目国スポでは、「**ふるさとスポーツ力」「柔軟性の追求」「サステナブルな大会」**を改革の柱として掲げながら、以下に記載の項目について検討を進める。

a. 大会規模

- (2) 大会規模の見直し
 - ・ 国体改革 2003 で示されている「大会規模の適正化」を考慮しつつ、各競技の特性を 踏まえるとともに、競技会の充実・活性化の観点から、開催地の実情を踏まえ、<u>各</u> **競技会の適正規模にて実施**をできるよう改めて見直しを行う。

(3) 実施競技

- ・ 国スポ実施競技は、これまで同様に「正式競技」、「公開競技」、「特別競技」、「デモンストレーション」を前提に検討を進める。
- ・ 「正式競技」、「公開競技」については、都道府県対抗とする。
- 実施競技数、選定方法については、大会規模と併せ引き続き検討を進める。
- ・ 開催地選択競技の導入について検討を進める。
- ・ 競技によっては固定(定点)開催を視野に検討を進める。

(4) 正式競技の実施形態

・ 「正式競技」はこれまで同様に「実施競技選定」に基づき「毎年実施競技」及び「隔 年実施競技」とし実施することを前提に検討を進める。

b. 大会の開催時期

- (1) 大会の会期
 - ・ 現行、本大会 11 日間、冬季大会 5 日間と定めている大会会期の期間について、会期 の延長や短縮、また開催地が競技会場や宿泊施設等の実情に応じて柔軟に会期を設 定できるようにするなどについて検討を進める。

- (2) 各競技会の開催時期
 - ・ 施設の状況等によっては、開催都道府県と当該競技団体の協議により、大会会期内 で柔軟に実施することや、各競技会の実情に合わせて分散して開催をするなどにつ いて検討を進める。

c. 各競技の施設等

- (1) 施設(競技会場)の弾力的運用
 - ・ 既存施設の有効活用に努め、施設の新設等を行う場合は大会開催後の有効活用を考慮し、必要最小限にとどめるべく、既存施設の弾力的運用を促進するための方策や ルール等の検討を進める。
- (2) 特殊競技に関する施設活用
 - ・ 開催都道府県に既存施設がない特殊競技については、近県又はブロック内の既存施 設の活用や固定開催等を含め検討を進める。

d. 総合成績

- (1) 総合成績決定方法
 - ・ 最後まで優勝都道府県が分からない、新たな成績決定方法の検討と競技間得点格差 の是正の検討を進める。
- (2) 順位の速報性
 - リアルタイムでの順位の可視化が可能となるよう、方策の検討を進める。
- (3) 冬季大会と本大会の成績の取扱い
 - ・ 冬季大会と本大会の合算による総合成績の取扱いについて検討を進める。

e. 総合開閉会式

総合開閉会式の実施規模(簡素化)や屋内開催等について検討を進める。

f. 大会経費の確保

- (1) 大会参加負担金
 - ・ 適正な受益者負担に基づき、大会参加負担金の適正金額について検討を進める。
- (2) 中央競技団体負担金
 - ・ 冬季大会で導入している中央競技団体負担金について、本大会への導入を含め検 討を進める。
- (3) 入場料金
 - ・ 各競技会における入場料金の設定について検討を進める。

g. 大会評価指標の策定

・ 各大会を客観的に評価し、継続的な大会運営を目指すための指標の作成を検討する。

h. 開催地の選定

- (1) 新たな立候補制の展開
 - ・ 持ち回り開催を廃止し、開催を希望する都道府県の「立候補制」の導入について検 討を進める。また、立候補制を導入する場合、開催インセンティブについて併せて 検討を進める。

(2) 広域開催

・ 開催都道府県において当該競技会を行うための十分な施設・設備等の確保が困難な場合を想定し、単一都道府県開催のみならず、複数都道府県合同開催やブロック開催とすること、また複数都道府県合同開催やブロック開催とする場合、そのルールや仕組みについて検討を進める。

i. 参加資格

- (1) 大会参加選手の年齢
 - ・ 参加下限年齢の設定について、関係団体等も交え検討を進める。
- (2) 外国籍選手の参加
 - ・ 外国籍選手の参加機会の確保について検討を進める。
- (3) 国内移動制限
 - ・ 現行の2大会の移動制限期間が適正であるかを含め検討を進める。
- (4) 新たな参加区分の検討
 - ・ 大学の所在地や所属クラブの所在地等といった新たな参加区分の制定可否について検討を進める。
- (5) ふるさと選手制度の拡大
 - ・ 少年種別年齢域への導入や成年選手はふるさと選手制度の活用義務化といった、 ふるさと選手制度の活用促進策について検討を進める。

j. 広報・マーケティング活動の展開

- (1) みるスポーツとしての価値向上
 - ・ 都道府県対抗という郷土性等を活かし、「みるスポーツ」としての、国スポのブランド価値向上策について検討を行う。
- (2) 競技日程の編成
 - 入場料徴収を念頭において、観戦好適時間を設定するなど競技日程の編成や運営について検討する。

公開日/2022年9月8日

3巡目国スポ在り方に関するアンケート調査報告書

公益財団法人日本スポーツ協会

国民体育大会委員会 3 巡目国スポ在り方事前検討ワーキンググループ

